SEPTEMBER 2025 ISSN 0389-5874

コンサルタンツ北海道 No.167



[巻頭言]
事業委員会活動を通じて思うこと ―― 齋藤　克矢
[特集]
海と歴史、食の魅力が交差する道南の交流拠点
道の駅　上ノ国もんじゅ ―― 野崎　真丈
[報告]
日本技術士会北海道本部
第 60 回　年次大会・講演会 ―― 小澤　達也
日本技術士会北海道本部　地方委員会（道南技術士委員会）
令和 6 年度　第 5 回 CPD 研修会
「新年技術発表会について」 ―― 渡邊　拓也
日本技術士会北海道本部　社会活動委員会
（リージョナルステート研究委員会）
令和 7 年度総会・第 1 回研修会の報告 ―― 工藤　得正
日本技術士会北海道本部　社会活動委員会
（リージョナルステート研究委員会）
令和 7 年度　第 3 回定例会の報告
ミニ見学会「エア・ウォーターの森」 ―― 市川　浩樹
日本技術士会北海道本部 倫理委員会
第 15 回 技術者倫理フォーラム ―― 庭田　博
日本技術士会北海道本部　社会活動委員会
（リージョナルステート研究委員会）
令和 7 年度　第 4 回定例会の報告
ミニ見学会「エア・ウォーター水素ステーション札幌大通東」
―― 滝澤　嘉史・市川　浩樹
[私のプロジェクト X] ―― 飯野　良枝
[会員のひろば]
私のお薦めコーナー　美味しいものにこだわりたい！
[コーヒーと鉄瓶] ―― 十鳥　恭一

公益社団法人 日本技術士会
The Institution of Professional Engineers, Japan
北 海 道 本 部
CONSULTANTS HOKKAIDO
www.ipej-hokkaido.jp/

目　次

巻頭言

1　事業委員会活動を通じて思うこと
技術士（建設／総合技術監理部門）／日本技術士会北海道本部　幹事　事業委員長　齋藤克矢

特　集

2　海と歴史、食の魅力が交差する道南の交流拠点
道の駅　上ノ国もんじゅ
上ノ国町　水産商工課統括主幹（商工観光担当）　野崎真丈

報　告

6　日本技術士会北海道本部　第 60 回　年次大会・講演会
技術士（建設部門）／日本技術士会北海道本部　事務局次長　小澤達也

8　日本技術士会北海道本部　地方委員会（道南技術士委員会）
令和 6 年度　第 5 回 CPD 研修会「新年技術発表会について」
技術士補（建設部門）／日本技術士会北海道本部　地方委員会（道南技術士委員会）　幹事　渡邊拓也

12　日本技術士会北海道本部　社会活動委員会（リージョナルステート研究委員会）
令和 7 年度総会・第 1 回研修会の報告～水素ストーブ開発への挑戦～
技術士（建設部門）／日本技術士会北海道本部　社会活動委員会（リージョナルステート研究委員会）　副代表　工藤得正

16　日本技術士会北海道本部　社会活動委員会（リージョナルステート研究委員会）
令和 7 年度　第 3 回定例会の報告
ミニ見学会「エア・ウォーターの森」
技術士（上下水道／衛生工学／総合技術監理部門）／日本技術士会北海道本部　社会活動委員会（リージョナルステート研究委員会）　幹事長　市川浩樹

20　日本技術士会北海道本部　倫理委員会
第 15 回 技術者倫理フォーラム～公衆から信頼される技術者になろう～
技術士（建設部門）／日本技術士会北海道本部　倫理委員会　幹事　庭田　博

24　日本技術士会北海道本部　社会活動委員会（リージョナルステート研究委員会）
令和 7 年度　第 4 回定例会の報告
ミニ見学会「エア・ウォーター水素ステーション札幌大通東」
技術士（建設／総合技術監理部門）／日本技術士会北海道本部幹事　社会活動委員会（リージョナルステート研究委員会）　代表　滝澤嘉史
技術士（上下水道／衛生工学／総合技術監理部門）／日本技術士会北海道本部　社会活動委員会（リージョナルステート研究委員会）　幹事長　市川浩樹

私のプロジェクト X

28
技術士（農業部門）　飯野良枝

会員のひろば

33　私のお薦めコーナー　美味しいものにこだわりたい！［コーヒーと鉄瓶］
技術士（応用理学部門）　十鳥恭一

エンジニアパーク

35　澤田裕介（建設部門）　藤井　真（建設部門／水産部門）
36　黒澤　亘（建設部門）　沼田　寛（建設部門／森林部門）
37　髙橋正名（建設部門）　玉田祐介（建設部門）
38　石田十羽完（建設部門）　西山貴久（機械部門）

39　活動レポート
75　年次大会資料
104　公益社団法人日本技術士会北海道本部 委員会・研究委員会等委員名簿
106　統括本部報告
114　行事予定
115　編集後記

表紙写真：○タイトル
「キクイモの花」
○場所
（札幌市）
○写真提供：熊谷幹也

日本技術士会北海道本部

第 60 回　年次大会・講演会

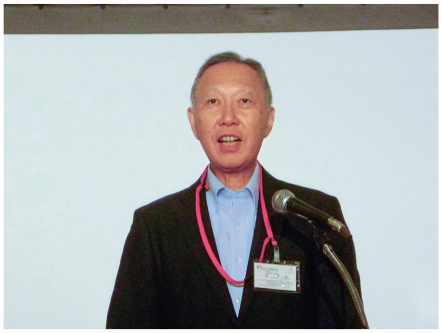
開催日：2025（令和 7）年 7 月 15 日（火）　　会場：札幌パークホテル



会場の様子



壇上左から、金本部長、
谷村副本部長、羽二生副本部長



金本部長の開会挨拶



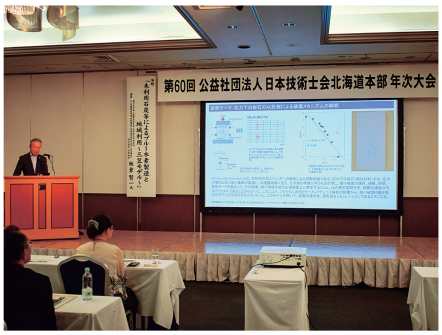
寺島会計幹事による監査報告



報告する長井事務局長



講演講師　板倉 賢一　氏
室蘭工業大学大学院工学研究科 特任教授・名誉教授



講演会の様子



懇親会の様子

特集　道の駅
海と歴史、食の魅力が交差する道南の交流拠点

道の駅 上ノ国もんじゅ



施設外観



もんじゅ岩



もんじゅからの眺望（夕日）



ドッグラン



てっくい天丼



てっくい美味伝説



あわび[もんじゅ提供]



道の駅イベントでのふわふわ遊具



道の駅イベントでのフリーマケット



勝山館跡



勝山館ガイダンス施設



上國寺本堂



旧笹浪家住宅



夷王山キャンプ場



花沢温泉

日本技術士会北海道本部　地方委員会（道南技術士委員会）　令和６年度活動報告

第５回 CPD 研修会　新年技術発表会

開催日：2025 年（令和７年）２月７日（金）　　会場：サン・リフレ函館　中会議室



司会進行を務められた金澤技術士


技術士のコンピテンシーについて発表された金谷技術士


レインボーブリッジの施工計画について発表された澤村技術士


海藻資源と地域振興の取組みを発表された木下技術士補


新たな海藻の役割ブルーカーボンを発表された布村技術士


中谷技術士の閉会挨拶と会場の様子

日本技術士会北海道本部　社会活動委員会（リージョナルステート研究委員会）

令和７年度総会・第１回研修会の報告

～水素ストーブ開発への挑戦～

開催日：2025 年（令和 7 年）5 月 16 日（金）　会場：エルプラザ札幌環境研修室 1、2



写真-1　総会開催状況



写真-2　説明する講演者のお二人



写真-3　総会に参加する参加者



写真-4　講演会に聴講する参加者



写真-5　RS 活動の方針を説明する滝澤代表



写真-6　質疑応答の状況

日本技術士会北海道本部　社会活動委員会（北方海域技術研究委員会）

令和７年度　総会・特別講演会

開催日：2025 年（令和７年）5 月 21 日（水）　　会場：札幌エルプラザ　ホール



特別講演会　遠藤　講師



特別講演会　桑原　講師



特別講演会の様子①（盛況となった会場）



特別講演会の様子②（熱心に聞き入る参加者）



特別講演会の様子③（質疑応答）



特別講演会の様子④（質疑応答）

日本技術士会北海道本部　社会活動委員会（リージョナルステート研究委員会）

令和７年度　第３回定例会の報告

ミニ見学会「エア・ウォーターの森」

開催日：2025 年（令和７年）6 月 2 日（月）　　会場：桑園エア・ウォーターの森



写真-1　エア・ウォーターの森の入口エンブレム



写真-4　２階　電気・水道設備有りの研修室

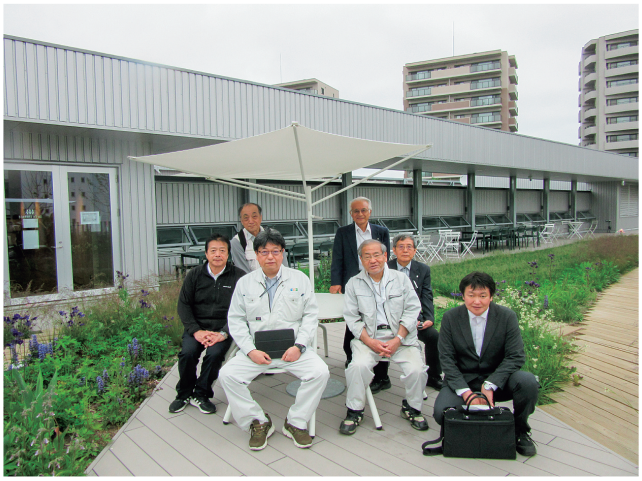


写真-2　屋上ガーデンにて集合写真



写真-5　１階　水素燃料電池掲示板

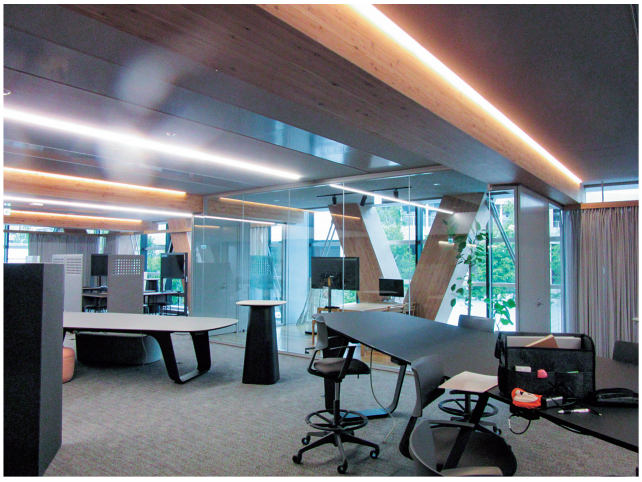


写真-3　３階　コワーキングスペース



写真-6　１階　会社経営理念掲示前集合写真

日本技術士会北海道本部　倫理委員会

第 15 回　技術者倫理フォーラム

～公衆から信頼される技術者になろう～

開催日：2025 年（令和 7 年）7 月 2 日（水）　　会場：ホテルポールスター札幌



開会挨拶　佐々木技術士（倫理委員会　委員長）



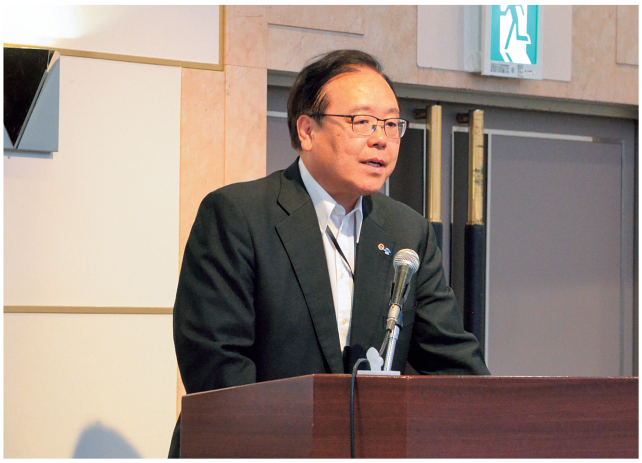
基調講演　板倉　賢一　氏
（室蘭工業大学大学院工学研究科　特任教授［名誉教授］）



WG 活動報告 1　冨澤技術士（倫理委員会　相談役）



WG 活動報告 2　高橋技術士（倫理委員会　幹事）



閉会挨拶　池田技術士（倫理委員会　相談役）



閉会後の集合写真

日本技術士会北海道本部　社会活動委員会（リージョナルステート研究委員会）

令和７年度　第４回定例会の報告

ミニ見学会「エア・ウォーター水素ステーション札幌大通東」

開催日時：2025 年（令和７年）７月７日（月）　　15：30 ～ 17：00
見 学 先：エア・ウォーター水素ステーション札幌大通東



写真-1．水素ステーションを囲う壁について説明を受ける参加者の面々



写真-4．冷却機の前で説明を聞く参加者の面々、排気口の上に網が設置され、積雪防止が施されています



写真-2．受入用配管上に設けられた雪除け用の「庇」について説明を受ける参加者の面々



写真-5．水素充填エリアにて記念写真、屋根を支える太い柱は、市道への爆風防止壁を兼ねています



写真-3．まるで「魚雷」です、日本製鋼所 M&E 社製の水素蓄圧器（φ＝406.4mm、L＝4364mm）



写真-6．水素ガス蓄圧器の前でも記念写真、下のコンクリート側溝内が地下配管スペースになっています

名誉会員・会長表彰

【会長表彰】青　木　信　成　（機械部門）



1. 略歴

技術士登録（H26）
日本技術士会入会（H22：準会員、H26：正会員）
北海道本部事業委員会委員（H27 ～現在）
北海道本部幹事（R1 ～現在）
統括本部機械部会地域幹事（R1 ～現在）
統括本部機械部会副部会長（R3 ～ R6）
統括本部総務委員会委員（R5 ～ R6）

2. 会長表彰を受賞して

このたび、「思いもよらず」日本技術士会の会長表彰に推挙いただきました。

大変光栄な事でありうれしく思うところですが、これも技術士諸兄の支えがあってのことと感謝するとともに、改めて関係各位に厚く御礼申し上げます。

日本技術士会とは一次試験に合格し、準会員登録した 2009 年以来の縁です。

50 代半ばにして技術士を目指したものの当時の職場に技術士はおらず、情報収集とモチベーション維持を兼ねて（技術士補の立場で）北海道本部主催の CPD 行事に顔を出しておりました。（当時意見交換会でご指導くださった諸先輩方その節はありがとうございました。）

そのご縁（？）なのか二次試験合格後に事業委員会に参加することとなり、その後北海道本部幹事や機械部会の地域幹事も仰せつかることにもなりました。おかげさまで、部門や専門、更には地域をまたいで多くの方々と知り合い、語らうことができています。技術士になってよかったと思うことの一つです。

これからも技術士会活動を通じ会員各位に技術士になってよかったと感じていただけるよう、微力ながらお手伝いができればと思っております。引き続きよろしくお願いします。

【会長表彰】荒　木　雅　紀　（建設部門）



1. 略歴

技術士登録（H22）
日本技術士会入会（H23）
北海道本部広報委員会委員（H23 ～ H30）
北海道本部広報委員長（R1 ～ R6）
北海道本部総務委員会委員（R1 ～ R6）
北海道本部幹事（R1 ～現在）
統括本部総務委員（R3 ～ R5）

2. 会長表彰を受賞して

この度、北海道本部からのご推薦を受け、栄えある日本技術士会会長表彰を受賞させていただきました。これもひとえに北海道本部および関係者の皆様からのご支援の賜であり、心より感謝申し上げます

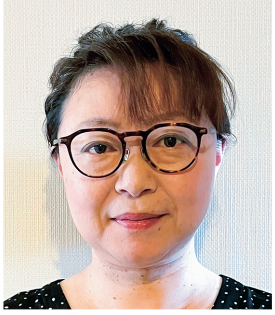
私の技術士会活動ですが、2011 年（平成 23 年）に広報委員会委員として参画したことが始まりでした。当時の広報委員長の金様（現北海道本部長）からお誘いを受け、委員として 8 年間務めた後、広報委員長を引き継がせて頂き、3 期 6 年間務めました。

広報委員会の主な活動は広報誌（コンサルタンツ北海道）の編集作業なのですが、2013 年（平成 25 年）と 2024 年（令和 6 年）に札幌で開催された技術士全国大会では大会記念誌やポスター作成なども経験してきました。その都度委員会メンバー、北海道本部関係者の皆様からの力強い支援や協力により委員会としての任務を全うできたことに感謝しております。

その他の活動としては北海道本部幹事、統括本部総務委員会委員なども兼任させて頂ました。技術士会入会以前は自身の専門分野に近い人達との交流が主だったのですが、入会後はこれまで繋がる機会がほとんど無い分野の方達との交流も増え、視野を広げることが出来ました。

今後も微力ながら日本技術士会及び北海道本部の活動に貢献できるよう尽力していきたいと思いますので、引き続きよろしくお願い申し上げます。

【会長表彰】飯　野　良　枝　（農業部門）



1. 略歴

技術士登録（H22）
日本技術士会入会（H22）
北海道本部広報委員会委員（H25 ～ R6）
北海道本部事務局次長（H27 ～ R6）
北海道本部総務委員会委員（H27 ～ R6）
統括本部選挙管理委員会委員（H29 ～ R2）
北海道本部幹事（R3 ～ R6）

2. 会長表彰を受賞して

この度は、会長表彰に推薦していただきありがとうございます。今年の任期満了をもってすべての役職を退任させていただきました。まだまだ頑張っていらっしゃる諸先輩方がいらっしゃる中で恐縮ではございますが、この度、会長表彰という栄誉に浴することができました。身に余る光栄です。

技術者としての適性や素養は十分に持ち合わせていない私でしたが、技術士になることができて、ご縁があって第40回技術士全国大会の分科会メンバーとして誘っていただき、前後して、広報委員会を皮切りに、事務局、総務委員会、選挙管理委員会の各委員を歴任致しました。その後幹事も務めさせていただきました。どれほどお役に立てたかわかりませんが、会員ならびに役員の皆様に暖かく受け入れてくださり、それぞれの役職を全うできました。今回の受賞は、日々奮闘している皆様を代表して私が賞状を受け取りに行ったと思っております。

昨年の退職ならびに第50回技術士全国大会の参加をもって技術者として区切りをつけて、只今人生模索中ですが、今後は皆さまから頂いたご厚情に恩返しするつもりで、何かの形で後進の育成に携わることができたら幸いです。


表彰状
荒木雅紀殿
あなたは長年にわたり
北海道本部における活動を
通して本会の発展に貢献
されました
その功を称えここに表彰
します
令和七年六月十六日
公益社団法人日本技術士会
会長 黒﨑靖介
表彰状
飯野良枝殿
あなたは長年にわたり
北海道本部における活動を
通して本会の発展に貢献
されました
その功を称えここに表彰
します
令和七年六月十六日
公益社団法人日本技術士会
会長 黒﨑靖介
表彰状
青木信成殿
あなたは長年にわたり
北海道本部における活動を
通して本会の発展に貢献
されました
その功を称えここに表彰
します
令和七年六月十六日
公益社団法人日本技術士会
会長 黒﨑靖介

会員・会友名簿の変更・修正のお願い

時下、会員・会友諸兄におかれましては益々御清祥のことと御慶び申し上げます。

会員・会友名簿は、ご承知のとおり皆様から送られましたデータに基づき、新たなデータベースの手法を用いてお届けしておりますが、変更・修正等がありましたら、当用紙（「会員・会友名簿変更届」（以下「名簿変更」と称する）を用いて事務局宛に FAX、電子メール、または郵送にてご連絡下さいますようお願い申し上げます。

なお、北海道本部のホームページの「会員・会友のページ」に「会員・会友名簿変更届」（EXCEL ファイル版）を掲載しておりますので、そちらをご利用いただいても結構です。

北海道本部のホームページ　→　http://www.ipej-hokkaido.jp/

【公益社団法人日本技術士会会員の方】

公益社団法人日本技術士会に入会されている方で登録内容に変更が生じた方は、本部のホームページで WEB 更新登録のうえ、当用紙（「名簿変更」）を用いて北海道本部事務局宛にもご連絡をお願い申し上げます。

北海道本部では、本部名簿の更新情報の入手が困難な状況にありますので、二度手間をおかけしますが、ご理解を頂ければと思います。

【会友（旧協賛会員）の方】※1

北海道本部会友（旧協賛会員）の方は、当用紙（「名簿変更」）により本部事務局までご連絡ください。

北海道本部事務局では、当用紙（「名簿変更」）による連絡が更新情報を掌握する唯一の手段となっておりますので、ご協力をお願い申し上げます。

また、同じ職場やお知り合いに転入された方がいらっしゃいましたら、当用紙（「名簿変更」）にて北海道本部に登録されるよう、お勧め下さい。

なお、会員・会友名簿への掲載につきましては、掲載を希望しない場合を除き、名簿掲載に承諾頂いた項目（全項目または部分）※2 のみを掲載いたします。

※1　会友とは、公益社団法人日本技術士会の会員ではないが、技術士または技術士補と同等の資格を有し、北海道本部の趣旨に賛同し、北海道本部会誌「コンサルタンツ北海道」を年間購読する方（旧北海道支部協賛会員を含む）

※2　全項目掲載を承諾いただいた場合は、以下の項目を会員・会友名簿に掲載します。氏名、会員の種類、登録番号、技術部門、選択科目、誕生年、勤務先（名称、所属、住所、電話番号、FAX 番号、e-mail）、自宅（住所、電話番号、FAX 番号、e-mail）、最終学校、最終学科

部分項目掲載を承諾いただいた場合は、自宅情報、最終学校情報を除いた以下の項目を会員名簿に掲載します。
氏名、会員の種類、登録番号、技術部門、選択科目、誕生年、勤務先（名称、所属、住所、電話番号、FAX 番号、e-mail）

公益社団法人日本技術士会北海道本部　事務局宛

〒004-8585 札幌市厚別区厚別中央１条５丁目
４番１号
FAX：011－801－1618
e-mail：hkd-eng@ipej-hokkaido.jp

会員・会友名簿*変更届

（「北海道本部会員」名簿変更届兼「会友」名簿変更届）

会員・会友名簿*への掲載項目（1～3のいずれかを選択）	1. 全項目掲載希望 A)
	2. 部分項目掲載希望 B)
	3. 掲載を希望しない

北海道本部会員*	1. 会員（技術士登録者）	←どちらか１つに○印	登録番号	
	2. 準会員 A（二次試験合格者で技術士未登録）			
	3. 準会員 B（一次試験合格者、JABEE 認定課程修了者）			
会友*	A－1. 技術士 / A－2. 二次試験合格者で技術士未登録		性別	1．男性
	B－1. 技術士補			
	B－2. 修習技術者（一次試験合格者で技術士補未登録）			2．女性
	B－3. 修習技術者（JABEE 認定課程修了者で技術士補未登録）			
氏名	フリガナ		生年月日（西暦）	
			最終学校	
			最終学科	
自宅（現住所）(2)	〒		電話番号	
			FAX	
			e-mail	
勤務先(1)	名称		電話番号	
	所属		FAX	
勤務先住所	〒		e-mail	

↓技術部門の登録は４部門までとさせていただきます↓

技術部門１	合格年度（西暦）		専門とする事項（キーワードを記入願います）	
	部門		1.	4.
			2.	5.
	選択科目		3.	
技術部門２	合格年度（西暦）		専門とする事項（キーワードを記入願います）	
	部門		1.	4.
			2.	5.
	選択科目		3.	
技術部門３	合格年度（西暦）		専門とする事項（キーワードを記入願います）	
	部門		1.	4.
			2.	5.
	選択科目		3.	
技術部門４	合格年度（西暦）		専門とする事項（キーワードを記入願います）	
	部門		1.	4.
			2.	5.
	選択科目		3.	

会誌の送付先（どちらかを選択）	□ (1)勤務先
	□ (2)自宅（現住所）を希望する場合は、アパート・マンション名、部屋番号も記入して下さい

注）会誌送付先の選択がない場合は、勤務先に送らせて頂きます。

※ 北海道本部会員とは公益社団法人日本技術士会会員の方で北海道在住の方
※ 会友とは公益社団法人日本技術士会の会員ではないが、技術士または技術士補と同等の資格を有し、北海道本部の趣旨に賛同し、北海道本部会誌「コンサルタンツ北海道」を年間購読する方（旧北海道支部協賛会員を含む）
※ 会員・会友名簿（北海道本部会員の情報と会友の情報から構成される名簿）への掲載項目

A)	全項目掲載を承諾いただいた場合は、次の項目を会員・会友名簿に掲載します。	氏名、性別、会員の種類、登録番号、技術部門、選択科目、誕生年、勤務先（名称、所属、住所、電話番号、FAX 番号、e-mail）、自宅（住所、電話番号、FAX 番号、e-mail）、最終学校、最終学科
B)	部分項目掲載を承諾いただいた場合は、自宅情報、最終学校情報を除いた次の項目を会員・会友名簿に掲載します。	氏名、会員の種類、登録番号、技術部門、選択科目、誕生年、勤務先（名称、所属、住所、電話番号、FAX 番号、e-mail）

巻・頭・言

事業委員会活動を通じて思うこと

齋藤　克矢(さいとう　かつや)
技術士(建設／総合技術監理部門)

日本技術士会北海道本部
幹事　事業委員長
株式会社ドーコン　水工部　部長



1. はじめに

本年度の北海道本部年次大会において、吉田透前委員長に代わり事業委員長として選任頂きました。2 年間の任期となります。宜しくお願い致します。

事業委員会では主に、講演会や研修会の計画・実施を通じて技術士の継続研鑽(CPD)の機会を提供する活動をしております。講演会では、主に北海道が直面している様々な課題や、動き出した新しい取組み分野の中からホットな話題を抽出し、その話題に関し、産学官及び技術士それぞれの立場の方にご講演を頂いております。研修会では、工事中の建設現場や、供用中の公共施設や民間施設の見学を、日帰り研修と宿泊研修という形で開催しております。

2. 講演会の計画・実施を通じて思うこと

講演会の計画・実施が当委員会のメインイベントです。毎年 2 月の開催に向けて前年 4 月から取組みがスタートします。まずは「どんな話題とするか」について各委員から活発な提案が行われ、議論の末 1 つの話題に決定します。その後は「どなたにご講演いただくか」について、その話題の分野でご活躍されている方や団体を候補として設定します。その後は各委員の有する人脈を最大限活用し、候補者への講演依頼に移ります。講演者が無事に決まった後は、講演者との調整や打合せを適宜進めます。

ここで、委員会での話題決め会議では、各委員それぞれが当事者意識を持ち、活発な意見・提案が行われます。今年で幹事歴 17 年目となるベテランの鈴木智之幹事長の効果的ファシリテーションもあり、委員皆の合意の元に話題が決定します。手前味噌ではありますが、事業委員会メンバーの取組み姿勢と能力には毎度敬意を感じております。

なお、講演者の皆様にはご多忙にも関わらず我々の依頼を快くお引き受け頂き、大変有難く思っております。改めて感謝申し上げます。

3. 研修会の計画・実施を通じて思うこと

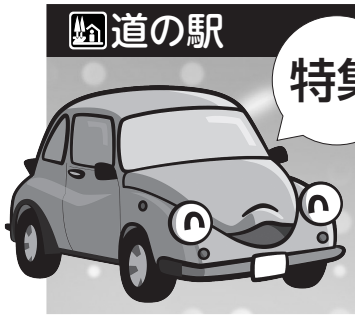
研修会は、夏の日帰り研修と秋の宿泊研修の年 2 回開催しております。日帰り研修は札幌近郊を、宿泊研修は道内地方技術士会との共同開催であり毎年地方を見学地としております。なお、研修会が参加者同士の人脈形成の機会になることを願い、研修後に懇親会を催しております。

しかしながら近年､参加者は減少傾向にあります。令和 2 ～ 4 年の 3 年間、コロナ禍の影響で研修会を休止した期間を経て令和 5 年に再開しましたが、特に宿泊研修では以前のような参加者数まで回復しておりません。宿泊費やバス代の高騰に伴う会費の上昇等も参加者数低迷の理由と思われますが、外的要因だけを理由にしてはならず、魅力ある研修会とするには？札幌近郊在住者だけでなく、地方在住の方も参加し易くするには？若い技術者により多く参加してもらうには？等々、工夫を凝らし、多くの方に参加してもらう研修会としていく必要があると思っています。なお、宿泊研修開催にあたり、地方技術士会の皆様には毎度多大なるご支援・ご協力を頂いております。改めて御礼申し上げます。

4. おわりに

これからも講演会や研修会を通じ、参加された皆様に新たな知見、気付き等を得て頂き、皆様の充実した業務・社会活動のお役に立てればという思いで活動をして参りますので宜しくお願い致します。

道の駅　海と歴史、食の魅力が交差する道南の交流拠点



道の駅　上ノ国もんじゅ

野　崎　真　丈

1. はじめに

北海道南西部、日本海を望む美しい町・上ノ国町。そのシンボル的存在が、海沿いに建つ「日本海情報交流館 文珠」を中核とした道の駅「上ノ国もんじゅ」です。観光客はもちろん、地元住民にとっても憩いの場であり、地場産品の発信拠点として、町の“今”と“未来”をつなぐ重要な役割を担っています。

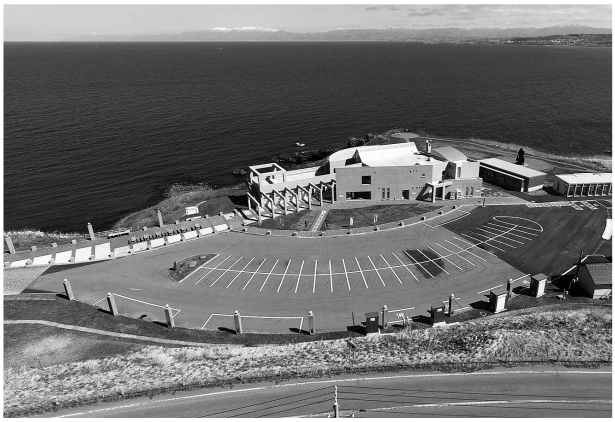


写真-1　施設外観

2. 名称の由来

「上ノ国もんじゅ」周辺の海岸一帯は、かつて「文珠浜」と呼ばれていました。漁師が船上から眺めると、浜辺の岩が「文珠菩薩」に似て見えたことや、古記録には岩陰に文珠菩薩像が祀られていたことが記されています。知恵の象徴である文珠菩薩にちなみ、「その知恵にあやかり地域の発展を願う」という思いが込められているほか、上ノ国の歴史・文化・自然の恵みを広く発信する拠点としての意味も重ねられています。



写真-2　もんじゅ岩

3. 施設の概要

「上ノ国もんじゅ」は町の中心部から 2.5 キロほど離れた原歌地区の国道 228 号線沿い、日本海を望む高台に位置し、夕陽の絶景を楽しめるロケーションが魅力です。館内には特産品を扱う物産コーナー、地元食材を活かしたレストランなどを備え、観光・休憩・食事・買い物に対応する複合施設となっています。館外には展望スペースもあり、四季折々に表情を変える景色を堪能できるほか、ドッグランなども併設されております。



写真-3　もんじゅからの眺望（夕日）



写真-4　ドッグラン

表-1　施設概要

名　　称	上ノ国もんじゅ
所　在　地	北海道檜山郡上ノ国町原歌 3 番地
休　館　日	年末年始（12 月 31 日～ 1 月 5 日） 都合により臨時休業や時間短縮する場合があります
本　　館	9：00 ～ 17：00 都合により時間が短縮する場合があります
特産品販売所	【4 月～ 10 月】9：00 ～ 17：00、定休日なし 【11 月～ 3 月】10：00 ～ 17：00、月曜定休日 （月曜祝日の場合は翌平日）
レストラン	【4 月～ 10 月】11：00 ～ 15：00、定休日なし 【11 月～ 3 月】11：00 ～ 15：00、月曜定休日 （月曜祝日の場合は翌平日）
駐　車　場	普通 163 台、障害者用 4 台、大型バス 3 台、バイク 10 台
主な施設	物産販売所、レストラン、観光体験室、24 時間トイレ、ワンちゃん広場

4. 建設の経緯

中核施設「日本海情報交流館 文珠」は、道の駅指定に先立つ 1992 年（平成 4 年）に開館し、日本海に関する図書スペースとレストランを併設していました。1996 年（平成 8 年）に道の駅として登録され、2009 年（平成 21 年）には図書スペースを物産スペースに改装、さらに 2017 年（平成 29 年）夏から翌春にかけ大規模改修が行われ、現在の形での運営となりました。

5. 名物「てっくい天丼」をはじめとしたグルメ

「上ノ国もんじゅ」の大きな魅力は、「てっくい」を使った地元グルメです。「てっくい」とはこの地方の方言でヒラメのことで、由来は、漁師が釣り針を外す際に鋭い歯で「手を食われる（噛まれる）」ことから「手喰い」→「てくい」→「てっくい」となったという伝承があります。

上ノ国沿岸は古くから良質なヒラメ漁場として知られ、町を代表する海産物です。「てっくい」を使ったメニューは訪れた人に大人気で、北海道「道の駅」スタンプラリー 2023 の完走者が選んだ「道の駅」ランキングの「いちおしの“おいしいもの”」ランキング第 7 位に選ばれています。看板メニューである「てっくい天丼」は『北海道じゃらん 2023 道の駅グルメランキング』第 3 位となっています。「てっくい天丼」のほか、白身を生かした「てっくい丼」、特製だれで味わう「てっくい漬け丼」もあり、この 3 種類を一度に楽しめる「てっくい美味伝説」は観光客に人気があり、写真映えする一品で好評を得ています。

また、物産販売コーナーでは、町内の養殖された活アワビや山海の幸を使った加工品、工芸品、新鮮な野菜などを販売され、旬の味覚が揃う「地産地消」の場として地元住民にも親しまれています。近年では、町内で生産されたワインの取り扱いもあります。



写真-5　てっくい天丼



写真-6　てっくい美味伝説



写真-7　あわび【もんじゅ提供】

6. 道の駅の賑わい創出のため

道の駅の賑わい創出のため年数回イベントを実施しています。このうち、5 月に開催している GW イベントは、町内の事業者が出店し自慢の逸品を販売するほか、ふわふわ遊具の設置、フリーマーケットなどを行い、町内外から道の駅を訪れる人に楽しんでもらえるように取り組んでいます。

また、最近では、ディナーショーを開催するなどの取り組みを実施しています。



写真-8　道の駅イベントでのふわふわ遊具



写真-9　道の駅イベントでのフリーマーケット

7. 道の駅周辺の見どころ

道の駅周辺には、松前藩祖となった武田信廣が 15 世紀後半に築いたとされる勝山館跡や北海道最古の寺社建築である上國寺本堂、北海道最古の民家で、鰊番屋の原型ともいわれる旧笹浪家住宅など「上ノ国もんじゅ」周辺には中世から近世にかけた歴史的多くの見どころがあるほか、無料で利用できる夷王山キャンプ場や大人 200 円で入浴できる花沢温泉もあります。



写真-10　勝山館跡

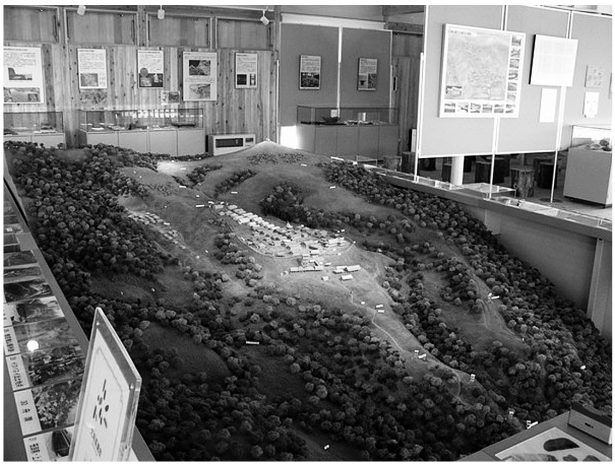


写真-11　勝山館ガイダンス施設



写真-14　夷王山キャンプ場



写真-12　上國寺本堂



写真-15　花沢温泉



写真-13　旧笹浪家住宅

8. 地域の未来とともに

「上ノ国もんじゅ」は単なる観光施設ではなく、町の歴史や文化、食を未来へ伝える“語り部”のような存在です。子どもたちが校外学習で訪れ、食や漁業を学び、観光客や移住者が地元の人と語らう場所でもあります。

海と歴史に育まれた上ノ国町。その中心で人と地域を結び続ける「上ノ国もんじゅ」は、訪れる人の心を温かく迎え入れ、町の力強さを伝えてくれるでしょう。

野　崎　真　丈(のざき　まさひろ)

上ノ国町　水産商工課
統括主幹(商工観光担当)



報告

日本技術士会北海道本部

第 60 回　年次大会・講演会

小　澤　達　也

1. はじめに

公益社団法人日本技術士会北海道本部の第 60 回年次大会が 2025 年 7 月 15 日(火)札幌パークホテルで開催されました。会議の概要と講演会、懇親会について報告いたします。

2. 年次大会(15：30 ～ 16：30)

年次大会では、定期報告として 4 つの報告がありました。

《出席者 73 名》



写真-1　会場の様子

(1)開会挨拶

金本部長より、就任後 2 年間の多大なるご指導ご鞭撻、定款変更の成立へのご協力に感謝を述べられるとともに、昨年の全国大会に携わった実行委員会及び分科会担当の皆様、協賛をいただいた各社の皆様に、あらためて感謝を述べられました。



写真-2　金本部長

続いて、統括本部の活動状況として、IPD、CPD、DEI の 3 点についてお話されました。

① IPD は、技術士を目指す若手技術者に対し、日本技術士会として組織的に教育支援を行うプロセスが必要と考え、統括本部で制度設計の段階からスモールスタートしている状況である。

② CPD 登録は、北海道は全国と比べ登録率は高い方だが、それでも進んでいない状況である。技術士の資質向上は、技術士法第 47 条の 2 に定められた、技術士の責務である。日本技術士会では、会員・非会員問わず CPD 登録が可能なシステムを構築している。技術士に合格したことに驕らず、常に研鑽に取り組み自分を磨き、それを客観的に証明できる記録として残すことを、より一層進めていただきたい。

③ DEI については、今年、男女共同参画推進委員会を DEI 委員会に名称変更した。多様・多彩な技術者、技術をつなぐプラットフォームとして、誰もが公平に活躍できる社会の実現に貢献できるよう活動していくことを目的に、再出発したところである。今後の活動に注目していただきたい。

最後に、IPD、CPD、DEI のキーワードを念頭に置きながら、北海道本部での活動をさらに活発に進めていただくとともに、ご支援と協力をお願いしたいと結ばれました。

(2)報告事項と質疑応答

①第 1 号報告(2024 年度事業報告及び決算報告)

長井事務局長より、2024 年度の事業及び決算報告が行われ、寺島会計幹事より適正かつ問題の無い旨の監査報告がありました。

②第 2 号報告(2025 年度事業計画及び予算)

前号に続いて、2025 年度の事業計画と予算についての説明が行われました。

今年度は技術士全国大会が終わり、ほぼ通常期の事業活動となるとした上で、コロナの影響により増加した繰越額と、全国大会の決算余裕から得られた繰越額により、2026 年度も安定的な財務体質での運営が可能と予想されることから、マイナス収支の予算計画を許容したことが報告されました。ただし、2026 年度の予算策定までに、北海道本部の資産状況を把握した上で、健全かつ持続可能な収支での活動予算の運営に移行できるよう、各委員会・研究委員会と予算調整を十分に行うとの説明がありま

した。（詳しい予算内訳等は、本会誌後ろに掲載の大会資料を参照願います。）

③第 3 号報告（役員の選任について）

2025 年度の北海道本部役員交代について報告と紹介がありました。なお、今年 4 月に日本技術士会の地域組織幹事選出選挙が行われ、北海道本部の立候補者は皆さん信任されています。

④第 4 号報告（日本技術士会会長表彰者）

2025 年度日本技術士会会長表彰の受賞者について事務局より報告がありました。北海道本部から、青木信成氏、荒木雅紀氏、飯野良枝氏が受賞されました。会長表彰受賞者の略歴等は本会誌グラビアをご覧ください。

3. 講演会（16：30 ～ 17：30）

今回は、室蘭工業大学大学院工学研究科 しくみ解明系領域 寄附講座「未利用資源エネルギー工学講座」特任教授・名誉教授の板倉賢一氏をお迎えし、「未利用石炭等によるブルー水素製造と地域利用～三笠モデル～」と題してご講演いただきました。

（1）講師のご経歴



写真-3　板倉 賢一 氏

板倉様は、2002 年から室蘭工業大学情報工学科教授、2019 年からは特任教授として、石炭地下ガス化（UCG: Underground Coal Gasification）の技術などの開発・普及に取り組まれております。2021 年度には、「カーボンニュートラルな水素製造による産炭地域創生モデルの構築」について、水素活用の実現への道を拓いた功績により、北海道科学技術賞を受賞されております。

（2）講演について

ご講演では、これまでの研究歴として、AE（破壊音、破壊振動）計測によるガス突出の予知に関する研究、岩石・岩盤破壊の可視化やモデル化に関する研究のほか、地下空間開発支援システム（デジタルツイン）の構築、画家の作風のコード化に関する研究（感性情報処理）など、幅広い研究テーマについてご紹介されました。

次に、日本の石炭事情と三笠モデルの概要についてお話されました。産炭地域には「未利用石炭を地域のために活用したい」というニーズがあるため石炭を何とかして使いたい、そのための方法の一つとして、UCG を発展させたハイブリッド UCG（木質バイオマスとの混焼）、水素製造技術、炭鉱の地下採掘跡地に CO_2を固定する技術を合わせた「産炭地創生モデル（三笠モデル）」を提案したとのことです。

AE 計測を用いた破壊活動の可視化、炭層に空気を送るパイプを引きながら移動させる後退式水平同軸 UCG 技術、大気、地表、地下、地下水の監視システムの構築、これらを三笠地下ガス化炭鉱 UCG 実験で検証し、安全かつ高効率な UCG が可能であることを確認できたことが、三笠モデル実現への最も大きな成果であったと述べられました。

今後は、UCG に加えて空知地域の露天掘炭鉱における地表石炭ガス化を活用することにより、水素製造コストを低減し、三笠モデルを世界に展開していきたいと展望を語られました。

4. 懇親会（17：45 ～ 19：30）

講演会終了後、会場を隣の部屋に移して懇親会が開催されました。《出席者：会員他 49 名》

谷村副本部長の開会挨拶と乾杯の音頭で開宴となり、懇親会がスタートしました。開宴後は、ご講演いただいた板倉様からのご挨拶、会長表彰受賞者の青木氏、荒木氏、飯野氏からのご挨拶があり、続いて地方技術士委員会からのご挨拶、新任委員長からのご挨拶がありました。宴もたけなわでしたが、最後に羽二生副本部長の乾杯により閉会しました。

5. おわりに

7 月の技術者倫理フォーラムに引き続き、今回のご講演を快くお引き受けいただいた板倉様に心からお礼申し上げます。

今年度の活動は既に始まっていますが、今後とも技術士会に対する会員・会友の皆様の積極的なご支援・ご協力を何卒よろしくお願い致します。

小　澤　達　也（おざわ　たつや）
技術士（建設部門）
日本技術士会北海道本部
事務局次長
株式会社ドーコン



報告

日本技術士会北海道本部　地方委員会（道南技術士委員会）

令和６年度　第５回 CPD 研修会「新年技術発表会について」

渡　邊　拓　也

1. はじめに

道南技術士委員会では、1 年を通じて様々な技術情報の提供やセミナーや技術発表会の開催を通じて、相互技術の研鑽と地域ネットワークの成長に取り組んでおります。

本報告では「新年技術発表会」をテーマに、当年中の技術的な取り組みについて技術発表会を開催しましたので、内容について紹介いたします。

年度末の忙しい時期にもかかわらず、研修会には 29 名が参加しました。

[第 5 回 CPD 研修会「新年技術発表会」]

日時　2025 年 2 月 7 日（金）14：00 ～ 17：00

場所　サン・リフレ函館　1F　中会議室

発表資格　技術士、技術士補

CPD 付与ポイント　3.0 ポイント



写真-1　司会進行役の金澤技術士（建設部門）

2. 技術研修会内容

本研修会では、4 名のかたに習得技術の内容や、研究、話題についてご提供頂きました。

1.『技術士のコンピテンシーについて』

発表者：金谷　英俊　技術士（建設部門）

はじめに、金谷氏は技術士のコンピテンシーについて発表を行い、技術士に求められる 8 つの資質能力について詳しく説明しました。特に、国際的に通用するエンジニアとなるためにコンピテンシーが重要であることを強調して発表されました。

1）技術士試験方法の変遷

技術士に求められるコンピテンシーとは資質能力。つまり一定の技術士の資質を身につける必要があること。平成 30 年度までの試験は必須科目が技術部門全般にわたる専門知識、選択科目が専門知識および応用能力、課題解決能力が問われていました。令和元年度からは専門知識、応用能力、問題解決能力、課題遂行能力などが必要となったことをご説明されました。

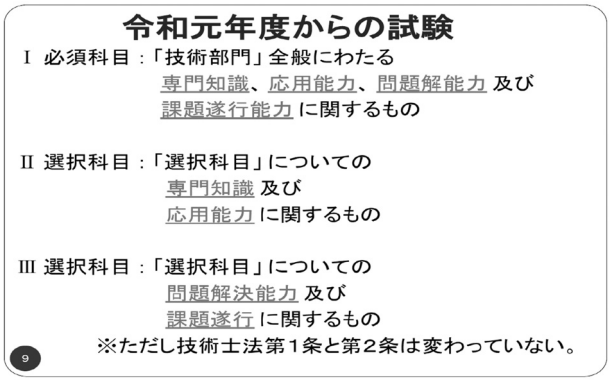


図-1　令和元年度からの試験

2）コンピテンシーとは？その重要性

コンピテンシーには専門的学識、課題解決能力、マネジメント評価、コミュニケーション、リーダーシップ、技術者倫理、継続的な研鑽の 8 項目にくわえ、これらを満たすことが技術士の試験に合格し、国際的に通用するエンジニアとしての地位を確立するために必要であるとご説明されました。

また、コンピテンシーは、日常の業務の中で継続的に身につけるべき能力であり、普段の業務においてコンピテンシーを意識し、実践することで、真の専門家へと成長できるとお話されていました。



図-2　コンピテンシー 8 項目



写真-2　金谷技術士（建設部門）

2.『私は若い頃これで技術士を頂きました　―レインボーブリッジのお話―』

発表者：澤村　秀治　技術士（建設部門）

はじめに、澤村氏はゼネコン時代にお関りになられたレインボーブリッジの壮大な建設プロジェクトについて、技術者の視点から生き生きと描き出し発表されました。

1）建設の概要・現場周辺の環境と制約

首都高速道路網の一部として多くの技術的挑戦を含む巨大な橋梁で、ご自身が所属されたチームが担当した世界最大級のニューマチックケーソン工法を用いてその基礎部分のお話しにくわえ、設計上の留意点などご説明されました



写真-3　澤村技術士（建設部門）

2）ニューマチックケーソンについて

主塔とアンカレッジの基礎に世界最大級のニューマチックケーソンを使用し、ニューマチックケーソン工法は圧縮空気とケーソンの重さを利用し、場合によっては内部に水を入れて沈下を進める技術であるとご説明されました。施工箇所の海底地盤が軟弱なため、ピンパイルを挿入し、ジャケット桟橋を設置しました。掘削作業はケーソンショベルで行われ、潜函病を防ぐため圧力管理が徹底されました。

マスコンクリートの温度ひび割れ防止対策は、低発熱セメントとパイプクーリングが採用され、鉄筋工事には特別なネジ式機械継ぎ手と D51 鉄筋が使用されました。ケーソンはコンクリートと水で満たされ、主塔の立ち上げには高精度なフローティングクレーンが使用されました。作業従事者の安全と精確な施工管理のもとで進められたことをご説明されました。

3）技術士試験について

技術者としての情熱、イノベーションへの挑戦、インフラ整備における使命感が感じられる内容でした。若手時代の経験を通じて、技術の本質、技術者の矜持をお話されました。

3.『海藻資源を活用した地域振興の取組事例』

発表者：木下 康宣　技術士補（水産部門）

はじめに、木下氏は函館の昆布とダルスの特性を

科学的に解明し、うま味の持続性や熱耐性、栄養価の高さを明らかにした。海外展開を見据え、地域の海藻資源の付加価値向上と後継者育成を目指す研究ついて発表されました。

1) 地域産業の概要

地域振興を考える上で、地域の産業構造を理解することが極めて重要です。函館市では、水産業が盛んで、多くの観光業や食料品製造業が発展しています。特に昆布やスルメイカが主要な資源となっていますが、近年ではイカの漁獲量が減少する一方、ブリの漁獲量が増加しているとご説明されました。



写真-4　木下技術士補（水産部門）

2) 昆布の生産とその特性

函館市は日本一の昆布生産地ですが、その認知度は意外に低いようです。これは歴史的背景があり、函館の昆布が「昆布」と呼ばれる反面、「函館昆布」とは通称されないからです。函館地区の昆布生産の最大の特徴は、栽培により安定した供給量を保っていることです。天然資源が減少している中、栽培昆布の供給は重要な役割を果たしています。さらに、欧米では健康志向の高まりから海藻が新しい資源として認識され、昆布の利用価値が再確認されているとご説明されました。

3) 昆布の特性と新しい資源「ダルス」

昆布のヌメヌメした成分は、旨味を長時間感じさせる効果があります。注目すべき海藻として「ダルス」が取り上げられました。ダルスは栄養価が高く、「海のパセリ」とも呼ばれています。乾燥させたダルスはサラダやビールのおつまみとして利用できます。

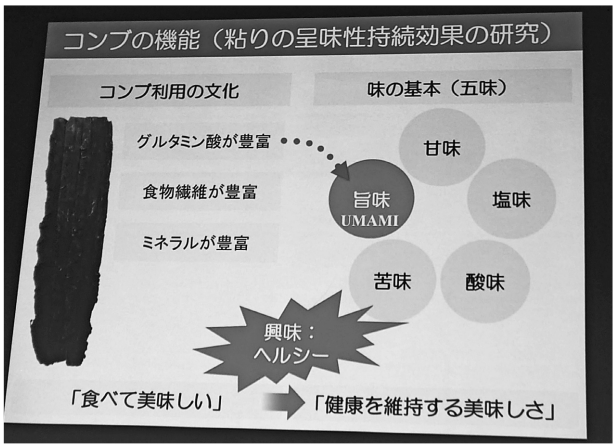


図-3　コンブの機能

日本では産業利用の例が少なく、新しい利用方法を模索する必要があります。レトルト食品への利用可能性もありますが、紫外線に弱いという課題があることをご説明されました。

ダルスのような新しい資源を活用することで、地域産業の幅を広げ、より多くの市場に対応することができるようになります。これにより、地域の持続可能な発展が促進され、グローバルな視点からの経済成長にも繋がることが期待されることをお話されました。

4.『新たな海藻の役割ブルーカーボン』

発表者：布村　重樹　技術士（建設部門）

布村氏はブルーカーボンについて発表し、海藻による二酸化炭素固定化の可能性と、奥尻町での具体的な取り組みについて発表されました。J ブルークレジット制度の利用方法と地域振興について詳しく解説されました。

1) 日本におけるブルーカーボンの現状

ブルーカーボンとは、海藻類やマングローブなどの海洋生物が二酸化炭素を固定するプロセスのことです。グリーンカーボンは木材や森林による二酸化炭素の固定を指し、ブルーカーボンは海洋生物によるもので、日本の海藻藻場は、二酸化炭素の貯留において重要であります。豊富な海藻藻場はブルーカーボン吸収に大きく貢献しています。「J ブルー

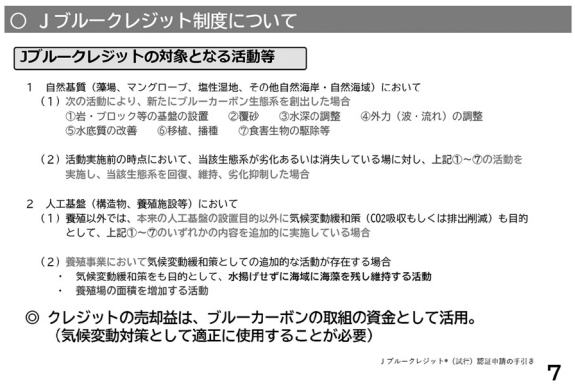
クレジット」は港湾局が始めた制度で、昆布養殖事業などを認定していることをご説明されました。



写真-5　布村技術士（建設・森林・上下水道・総監）

2) J ブルークレジット制度の詳細

ブルークレジットは令和 2 年に開始され、JP ブルークレジット機関が審査・認証を行います。自然の藻場の再生や昆布養殖が対象活動として認定されています。北海道では、日本製鉄と北海道沿岸がクレジットを取得していることをご説明されました。


○ Ｊブルークレジット制度について

Jブルークレジットの対象となる活動等

1　自然基質（藻場、マングローブ、塩性湿地、その他自然海岸・自然海域）において
（1）次の活動により、新たにブルーカーボン生態系を創出した場合
①岩・ブロック等の基盤の設置　②覆砂　③水深の調整　④外力（波・流れ）の調整
⑤水底質の改善　⑥移植、播種　⑦食害生物の駆除等

（2）活動実施前の時点において、当該生態系が劣化あるいは消失している場に対し、上記①～⑦の活動を実施し、当該生態系を回復、維持、劣化抑制した場合

2　人工基盤（構造物、養殖施設等）において
（1）養殖以外では、本来の人工基盤の設置目的以外に気候変動緩和策（CO2吸収もしくは排出削減）も目的として、上記①～⑦のいずれかの内容を追加的に実施している場合

（2）養殖事業において気候変動緩和策としての追加的な活動が存在する場合
・　気候変動緩和策をも目的として、水揚げせずに海域に海藻を残し維持する活動
・　養殖場の面積を増加する活動

◎ クレジットの売却益は、ブルーカーボンの取組の資金として活用。
（気候変動対策として適正に使用することが必要）

Ｊブルークレジット®（試行）認証申請の手引き　7

図-4　Ｊクレジット制度概要

3) 奥尻島でのブルーカーボン活動

奥尻島は脱炭素先行地域として認定され、サステナブルアイランドとしてブルーカーボン活動が進められています。細目昆布の養殖試験やブランド化を通じて、ブルーカーボンの認定を目指した取り組みが行われていることをご説明されました。

ブルーカーボン活動には測定方法の改善や藻場の再生が必要であり、種苗生産や昆布養殖の観光活用などが計画されています。また、ブルーエコノミー実現のプロジェクトも進行中とお話されました。



図-5　海藻を活用した“OKUSHIRI BLUE”



図-6　商品販売の様子

2023.7.16 にっぽん丸寄港時、特設ブースを設け大盛況で、ホソメ昆布製品のほか、岩ノリがよく売れていたとお話されました。

3. おわりに

イノベーションと技術の進歩により、新しいアプローチで地域振興や持続可能な発展が促進されます。技術者の役割は、技術的課題だけでなく、社会的課題にも対応することとメッセージを頂いたように思えます。

最後に、ご多忙のなか、発表頂いた方々と研修会の企画・準備を担当された皆様に、深くお礼を申し上げます。

渡　邊　拓　也(わたなべ　たくや)
技術士補（建設部門）
日本技術士会北海道本部　地方委員会
道南技術士委員会　幹事
株式会社エジソンブレイン



報告

日本技術士会北海道本部　社会活動委員会（リージョナルステート研究委員会）

令和７年度総会・第１回研修会の報告

～水素ストーブ開発への挑戦～

工　藤　得　正

1. はじめに

リージョナルステート研究委員会（以下 RS 研究委員会と略称する）は、1999 年 8 月に発足し今年で 26 年目となります。会員数は 66 人で、水素・循環システム研究分会、地域主権分科会の 2 つの分科会で継続的に活動しております。

2025 年 5 月 16 日（金）18：30 ～ 20：00、令和 7 年度総会及び第 1 回研修会をエルプラザ札幌環境研修室 1・2 で開催しました。参加者は 14 名です。以下、関係状況を報告いたします。

2. 総会報告

総会は RS 研究委員会の活動方針、令和 6 年度活動報告及び令和 7 年度活動計画、各分科会の活動報告及び令和 7 年度活動計画、会計報告等を行い、会場の承認を得ることができました。



写真-1　滝澤代表による総会の開催

(1) RS 研究委員会の活動方針

リージョナルステート研究委員会では北海道を地方（Regional）の国（State）として自立し、地域特有の価値観・信条・理念・哲学等をもって独り立ちする意味合いを込めて、活動目的に「自律」を使用しています。「北海道の自律と活性化へ向けた提言と技術士の役割の研究」を目的として、活動をしています。

(2) R6 活動報告・R7 活動計画

令和 6 年度の活動報告、令和 7 年度の活動計画については下記のように報告が行われました。

主な活動（CPD 行事）として、下記のとおりです。

1）R6 年 5 月 10 日：第 1 回研修会、札幌エルプラザ
　環境研修室 1・2「ブルーカーボンに関する取り組みの推進方向」について（参加者 21 名）
2）7 月 26 日：第 2 回研修会・施設見学会
　石狩市「水素を活用した石狩市厚田マイクログリッドシステム」・増毛町「北海道ブルーカーボン先進モデル―増毛モデル―」について（参加者 23 名）
3）8 月 23 日：第 3 回研修会、札幌エルプラザ
　環境研修室 1・2「再生エネルギーを活かした地域づくり」について（参加者 11 名）
4）R7 年 1 月 30 日：第 4 回研修会、札幌エルプラザ
　環境研修室 1・2「GX 金融・資産運用特区」で変わる札幌・北海道の未来について（参加者 12 名）

本年度は、全国大会への対応もあり、その他の活動として以下を実施しました。

1）R6 年 3 月 14 日：第 1 回幹事会、WEB 会議
　令和 6 年度の活動方針、総会及び第 1 回研修会の準備（参加者 6 名）
2）4 月 25 日：第 2 回幹事会、北電総合設計（株）会議室
　総会、第 1 回研修会の準備、第 2 回研修会の計画（参加者 6 名）
3）6 月 5 日：第 3 回幹事会、北電総合設計（株）会議室
　第 2 回研修会・施設見学会準備（参加者 9 名）

4) 7 月 9 日：臨時幹事会、北電総合設計（株）会議室
岩本新幹事長の就任に伴う臨時総会開催について
第 3 回研修会の計画準備、
技術士全国大会、第 3 分科会、テクニカルツアー進捗説明（参加者 6 名）
5) 10 月 5 日～ 7 日：第 50 回技術士全国大会への参画
第 3 分科会、テクニカルツアー引率
6) 11 月 15 日：第 4 回幹事会、北電総合設計（株）打合せ室　中間報告の取りまとめについて
第 4 回研修会の計画（日程、講師、役割分担）（参加者 5 名）
令和 7 年度の活動計画は、下記のとおりです。
1) R7 年 4 月：第 1 回幹事会
2025 年度の活動方針、総会及び第 1 回研修会の準備、第 2 回研修会・施設見学会の計画、令和 7 年度第 1 回定例会（水素・循環研主催）、令和 7 年度第 1 回定例会（地域主権主催）
2) 5 月：令和 7 年度総会及び第 1 回研修会
2024 年活動報告及び 2025 年度事業計画
第 1 回研修会
3) 6 月：第 2 回定例会（水素・循環研主催）
第 2 回幹事会、
第 2 回研修会・施設見学会準備
4) 7 月：第 3 回定例会（地域主権主催）
5) 8 月：第 2 回研修会・施設見学会
6) 9 月：第 3 回定例会（水素・循環研主催）
7) 10 月：第 4 回定例会（地域主権主催）
第 3 回幹事会 中間報告取りまとめ
8) 11 月：第 5 回定例会（地域主権主催）
9) 12 月：第 4 回定例会（水素・循環研主催）
第 4 回幹事会・第 3 回研修会準備
10) 1 月：第 3 回研修会
11) 2 月：第 4 回幹事会
決算報告取りまとめ
R8 総会・第 1 回研修会計画

(3) 水素・循環システム研究分科会 R6 活動/R7 計画

水素・循環システム研究分科会では、これまでに「自然エネルギーを有効活用した豊かな地域社会の実現」を取りまとめてきました。

今後はこのコンセプトは変えずに、「ゼロカーボン北海道の実現に向けた技術士の提言」を取りまとめさらに掘り下げていきます。昨今、変化が著しい水素や自然エネルギー関連の情報収集を積極的に行い、現状に合致した提言書を目指します。提言書は、RS の活動期間の 4 年間（R5 ～ R8）で取りまとめ、公開したいと考えています。

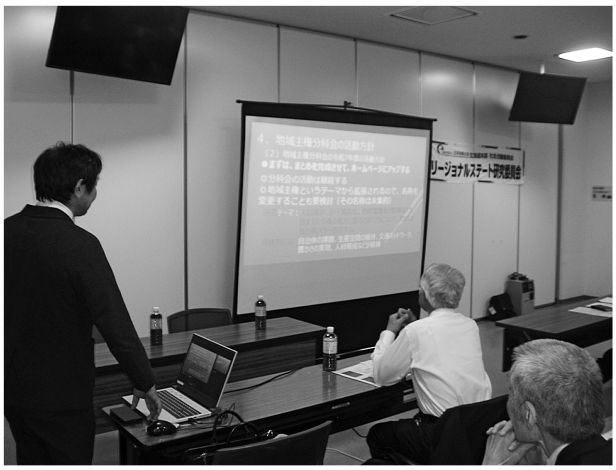


写真-2　総会開催中の写真

(4) 地域主権分科会 R6 活動/R7 計画

地域主権分科会では R6 には下記の通り定例会を実施し、地域行政のあり方を研究しました。

1) 令和 6 年 7 月 4 日（木）第 3 回定例会
演題「北海道の広域行政について」
2) 令和 6 年 8 月 30 日（金）第 4 回定例会
演題「北海道における人口減少と市町村の対応について」
3) 令和 6 年 11 月 1 日（金）第 6 回定例会
演題「地域活性化のあり方について」
4) 令和 6 年 12 月 13 日（金）第 7 回定例会
演題「北海道における集落対策の現状と課題、今後の集落対策のあり方」
5) 令和 7 年 1 月 24 日（金）第 8 回定例会
演題「地域主権分科会のまとめについて」
6) 令和 7 年 2 月 14 日（金）第 9 回定例会
演題「地域主権分科会のまとめについて」

令和 7 年度の研究テーマとして「人口減少、少子高齢化、地球温暖化の影響などを踏まえた今後の地域と都市のあり方（具体的には、自治体の課題、生産空間の維持、交通ネットワーク、豊かさの実現、人材育成など）について、地域主権の視点から研究する計画でおります。

(5)役員改選

幹事長および副代表の新任の改選が行われ、市川新幹事長と工藤副代表の新任が承認されました。

3. 研修会(講演)の内容

第 1 回研修会では、(株)土谷製作所猪子純一様と清水 光様を招き、「水素ストーブへの挑戦」と題してご講演頂きました。

本講演会は道内企業の土谷製作所において、先駆的に開発している「水素ストーブ」の情報を得たことに端を発します。「水素に炎を、人の心へ暖かさを、自然環境へ温かさを」の理念に基づいてホットな講演会を準備しました。



写真-3　研修会開催の状況

(1)水素ストーブ開発への挑戦

1)(株)土谷製作所の事業概要

(株)土谷製作所は、昭和 2 年創業、令和 7 年で 98 年の歴史をもつ道内有数の企業です。全道に数多くの販売ネットワークをもち、酪農機械器具や牛舎牧場施設、一般機械の製作販売、長府製作所(サンポット)の暖房用石油ストーブや避難器具部品等の製作を行っています(図-1、図-2 参照)。

2)水素ストーブの開発

石油ストーブの製作技術を駆使して、CO_2排出量の削減に貢献するため、「水素ストーブの開発」に着手しました。現行の最新式モデルは 3 代目です(写真-4 参照)。

製品の特長は、民生利用向けで、「安全で、環境にやさしく、そしてなにより温かい」ものです。

また、CO、CO_2等の排出がないため、煙突や吸/排気筒が必要ありません。さらに、燃焼熱を無駄なく使いきることができ、水蒸気が発生するので室内の保湿効果にも期待できます。

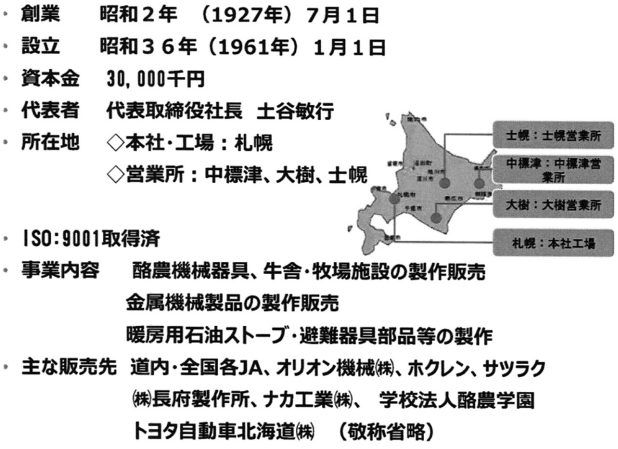


図-1　(株)土谷製作所の事業概要



図-2　(株)土谷製作所の製作品概要



写真-4　3 代目水素ストーブ(最新式モデル)

猪子様と清水様は水素ストーブの製品開発で日々熱心に研究に打ち込んでおり、モチベーションは「道民への豊かで暖かい生活」の提供と「2015 年に採択

されたパリ協定（国連気候変動枠組条約締結国会議（COP21））に基づく温室効果ガス（2030 年度）46%削減（2013 年度比）の目標への挑戦」と承りました。

「水素の炎」と「研究開発の熱いハート」の両面を本研修会で感じました。特に充分な安全性と快適性に軸足をおいて水素ストーブの研究開発を行っていることが把握できました。

3）水素サプライチェーンの構築が課題

水素ストーブは、昨年の雪まつり会場にて来場者へ暖をとってもらうために出品しました。その際の水素ガスの供給に日本製鋼所 M&E 株式会社製の水素吸蔵合金（HM）小型タンクを使用しました。小型で軽量、ポータブルなタンク（宅配業者による運搬が可）ですが、水素ストーブへ使用するには供給が間に合わないことがわかりました。

これを踏まえ、今年の雪まつりでは容量が大きい水素カードルを用いることとしました。十分な量の水素ガスを賄うことができましたが、大型車両での運搬を伴うことから運搬費が嵩みました。

水素を利用して環境負荷を低減してゆくには、安価供給が可能な水素サプライチェーンの早期構築が課題と認識しました。

4. 昨今の国際エネルギー機関（IEA）の提言

日本は国連気候変動枠組条約事務局へ 2030 年度に温室効果ガス 46%削減、2035 年には 60%削減そして 2050 年にカーボンニュートラルの目標値を提出しています。

同時に、IEA は世界各国へ地球温暖化対策のため再生エネルギーの設備容量を 2030 年までに 3 倍に拡大するように提言しました。

また、IEA は日本へ水素関連のコア技術（水素製造・運搬・水素市場の創出等）を要望しております。理由は「パリ協定」に基づき、地球の気温上昇を産業革命以前から 1.5℃以内に抑えるためです。

これにより、中国の電力部門で排出している二酸化炭素総量（約 70 億 CO_2 トン）が削減できるものとなります。ただし、化石燃料の需要が 2030 年までに 25%低減できることが前提となります。

惜しくも日本の総体的再生エネの導入量は欧州や中国に遅れをとり、普及が今一歩の様です。環境配慮先進国である日本は、IEA が懸念している新興国や途上国での再生エネルギー導入の協力者になって欲しいところです。（株）土谷製作所の取組みは国連（UN）関係機関や IEA が提唱する「Global Hydrogen Review 2024」―低炭素水素（Green/Blue Hydrogen）の生産拡大、投資の増加、需要創出の強化等―に包含されたものと解釈しております。先日、IEA の知人（英国・オランダ・アフリカ諸国出身）と話すことができました。IEA は日本が「自然享受/環境配慮型の先進国」と認めており、水素社会の実現に向けたモデルケースを世界へ広めるリーダーとなることを期待しているそうです。

最近は、地球温暖化の原因となっている温室効果ガス CO_2 等の Zero Emission の重要性が高まっています。特に北海道は、冬季の暖房で化石燃料を大量に消費しており、エネルギー基本計画の 40%を再生エ（水素・太陽光・風力・地熱等）でまかなう顕在的な地産地消の改革者になるべきではないでしょうか。

5. むすびとして

この度の講演を拝聴し、本研究委員会は「北海道の自立と活性化へ向けた提言と技術士の役割の研究」を活動目的にしておりますので、社会経済的・環境的な両分野で社会的貢献度の高く、画期的な開発研究を積極的に支援してまいりたいと思います。貴重で挑戦的なご講演を提供いただきました、（株）土谷製作所の猪子様、清水様にお礼を申し上げます。

結びとなりましたが、このたび役員の改選で副代表となりました。前任の中田副代表そして柴田副代表におかれましては、長い間第一線で RS の運営、他分野の技術者とのプラットフォームづくりそして知的好奇心の増幅にご尽力を頂きましたことにお礼申し上げます。引き続き、ご支援をお願いします。

工　藤　得　正（くどう　とくまさ）
技術士（建設部門）
日本技術士会北海道本部　社会活動委員会
リージョナルステート研究委員会副代表
石塚建設興業株式会社　常務取締役



報告

日本技術士会北海道本部　社会活動委員会（リージョナルステート研究委員会）

令和７年度　第３回定例会の報告

ミニ見学会「エア・ウォーターの森」

市　川　浩　樹

1. はじめに

リージョナルステート研究委員会は、令和７年度第３回定例会（水素・循環システム研究分科会主催）として、令和７年６月２日（月）16：00 ～ 17：00の日程で、昨年 12 月に開業した４階建ての「エア・ウォーターの森」へ訪問し、１時間程度の短時間で案内して頂くミニ見学会を開催しました。

参加者は会員７名です。



写真-1　桑園の「エア・ウォーターの森」

今回、「エア・ウォーターの森」を見学先とした理由は、下記の①～③によります。

①北海道が直面する少子・高齢化、人口減少、過疎化や限界集落等の社会課題を解決するため、北海道に豊富に賦存する自然エネルギーや循環資源を有効活用することで、新たなイノベーションを創出し、事業化することを施設のコンセプトとしていること。

②建物には、道産木材が豊富に採用され、国土交通省の「サステナブル建築物等先導事業（木造先導型）」の採択を受けており、カーボンニュートラルの実現に貢献していること。

③１階のインナーガーデンには「水素燃料電池」が備えられており、エア・ウォーター北海道株式会社（以下「エア・ウォーター北海道」という。）が取り進めている水素サプライチェーンを象徴する施設であること。

以下、ミニ見学会の状況を報告します。

2.「エア・ウォーターの森」について

見学会では、エア・ウォーター北海道事業企画部インキュベーショングループの佐々木美結様に案内して頂きました。２階の会議室にて DVD による施設概要の視聴を受けた後に、建物の屋上から１階までの各フロアーの主な機能や特徴、設備等の説明を受けました。



写真-2　案内説明者：佐々木美結様

(1) 設立の経緯[1)]

「エア・ウォーターの森」は、JR 桑園駅近くにあります。設立の背景には、エア・ウォーター北海道の事業環境が設立時と大きく異なってきたことが挙げられます。

現在の事業環境は、物事の不確実が高く、社会の

仕組み等の急激な変化、複雑化、不透明等が露呈した VUCA 時代（変動性（Volatility）、不確実性（Uncertainty）、複雑性（Complexity）、曖昧性（Ambiguity））と言われています。

このような環境下でも、我々には、直面する多くの社会的課題を解決していくことが求められますが、一事業者のみでの解決は困難な状況です。

そこで、エア・ウォーター北海道は、多種多様なバックグラウンドを持つステークホルダーと知恵を出し合って解決していく方がより多くの複雑な社会課題を解決することができると思い、「エア・ウォーターの森」を建設されました。（図-1 参照）

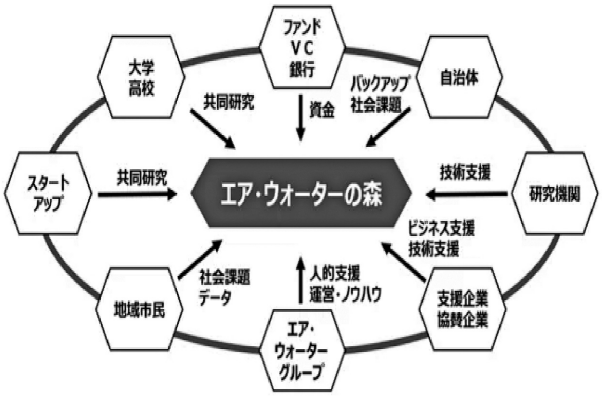


図-1　エア・ウォーターの森のイメージ図

(2) 施設の概要[1) 2)]

エア・ウォーター北海道は、2022 年 9 月に北海道と包括連携協定を締結し、道産木材の利用促進や木育の活動を進めていたこともあり、「エア・ウォーターの森」は道産木材を構造材等に利用し、緑豊かでシンボリックな空間を設け、市民が立ち寄り集まる施設を目指しました。

敷地面積 5,190m^2、延床面積 8,444m^2、木造建築の一部鉄骨造の 4 階建（主要構造体に木造を使った 4 階建ての建物）です。

設計・施工は、株式会社竹中工務店が担い、2023 年 9 月～ 2024 年 10 月に施工しています。

主要部材には、図-2 に示す耐火集成材「燃エンウッド ®」[※1]が構造体として採用されています。主原料は 100%北海道産カラマツです。

※ 1　燃エンウッド ® は、竹中工務店㈱の登録商標で、国土交通大臣より耐火構造の認定を受けた耐火集成材。

製材時の CO_2 排出量が少なく、木材の特徴である炭素の貯蔵という観点から、一般的な鉄骨構造よりもカーボンニュートラルへの貢献度が高まります。

また、当地の豊富な地下水を冷却用水やトイレ用水等の設備システムに用いる等、地域特性に応じた省エネルギー技術を積極的に採用しています。

さらに、外面のガラスには断熱効果の高いトリプルガラスを採用、ガラスとガラスの間にはアルゴンガスを注入し、断熱効果を 52%高めています。

その結果、エネルギー消費量が 50%以上削減され、BELS 認証最高位[※2]となる「★★★★★（星 5 つ）」相当の環境性能を有しています。

※ 2　BELS（「Building-Housing Energy-efficiency Labeling System」の略称）とは、建築物省エネ法第 7 条に基づき建築物の省エネ性能を表示する第三者認証制度の 1 つ。

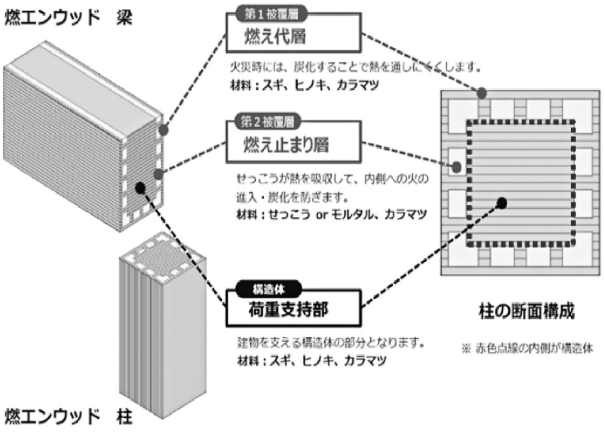


図-2　燃エンウッド ® 仕様

省エネルギーや環境負荷の少ない資機材の使用や室内の快適性、景観への配慮等も含めた建物の品質を総合的に評価したシステムである「CASBEE」の認証を受け、S ランクに評価されています。

また、北海道には、道産木材を活用して、道内に建てられた建物を登録する「HOKKAIDO WOOD BUILDING」制度があり、この建物が、登録されています。

(3) 各階の具体的特徴

① RF（屋上ガーデン）[3)]

屋上は、北海道に生育している 30 ～ 40 種類の植物に囲まれた庭園として、一般公開されています。

芝生広場やデッキ空間があり、エア・ウォーターの森における交流・イノベーションを促進する屋上ガーデン（「So-En TERRACE」となっています。デザイン・監修は、佐藤末季氏によるものです。

佐藤氏は、英国で 100 年以上の歴史をもつ世界最高峰とされるガーデンショー「チェルシー・フラワー・ショー」において、2019 年に金賞を受賞された方です。北海道幕別町出身で、北海道ボールパーク F ヴィレッジガーデンもデザインされています。

屋上には、中心部に室外機や待機室等があるものの、外壁で囲われているため景観を損なうことはありません。

屋上を一回りすることで、様々な植栽を見ることができます。トマト、ナス、ケール等の野菜も育てられています。

施設見学日には、ルピナス、サルビア、アジュガレプタンス等が咲いていました。

先月には、チューリップ等が咲いていたようです。4 月から 10 月頃まで、四季折々の花を楽しむことができます。



写真-3　屋上ガーデンテラス

② 4 階（エア・ウォーターオフィスフロア）

4 階は、一般公開されていません。顔認証システムで入場管理され関係者以外は立入禁止になっています。エア・ウォーターオフィスとして、エア・ウォーター北海道本社やエアーウォーターグループ各社が入居するオフィスフロアーとなっています

オフィスでは、多様なコミュニュケーションを通じて生まれたアイデアの事業化すること、特にエネルギーや農業・食品分野を中心として、新事業の創出に取り組んでいます。[1)]

③ 3 階（オープンイノベーションエリア）

3 階は、オープンイノベーションエリアとして、共創の場、コワーキングエリアとなっています。

個人用デスクを始め、打合せスペースや Web 会議用のスペース、休憩ラウンジが配置されています。

様々な利用者が集まることで、多様な議論が生まれ、交流を深めて、お互いに刺激を与え合う場となることを目指しています。



写真-4　3 階　オフィスエリア

事前に入居登録を行うことで、月額 16,500 円から誰もが利用できます。

フロア内の好きなエリアをランダムに選べ、デスクの高さを自分の使い勝手の良い位置に調整できる等、快適性や作業効率性等に配慮されています。

壁に、コワーキングの皆様やパトナー企業の顔写真等を掲載し、利用者がお互いに認識・理解できる様にしています。

④ 2 階（企業等向けオープンイノベーションエリア）

2 階は、3 階と同様に、オープンイノベーションエリアですが、大学や企業向けに、個室やラボエリア、会議室が設置されています。

1 時間単位で貸し出され、大学のサテライトオフィス、各企業のプロジェクト事業の分室、打合せ、セミナー会場等として利用されています。

また、遺伝子組み換え等の生物実験を P1 レベル

(通常の実験室でドア・窓の閉鎖による拡散防止)の研究室も入居しており、単相と三相の電源や水道が完備されています。

空調設備は地下水のヒートポンプを利用しています。気温と風速を測定し、外気の取り入れを推進する仕組みも整備しています(写真-5 参照)。

外窓は手動での開閉が可能で、外気温に近い室内環境を創出することができます。

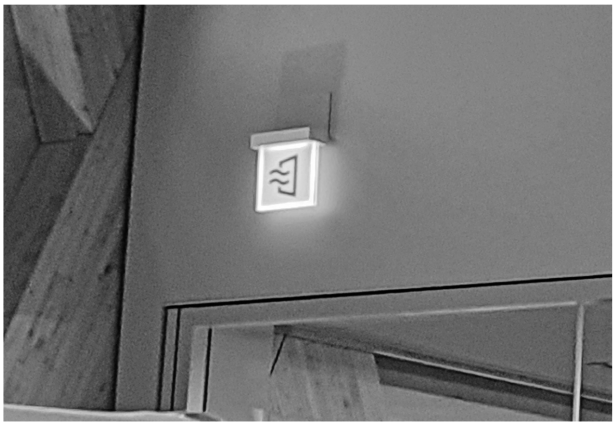


写真-5　外気を取り入れ推進の視覚設備

⑤ 1 階(イベントホール、インナーガーデン他)

1 階には、150 名収容できるイベントホール、北海道産の食材を活用したメニューを提供するエア・ウォーターグループのレストラン・カフェ、シェフがお客さんの手前で調理をするキッチンラボ等があります。また、来客者が休憩する椅子やテーブルを配置しています。

さらに、正面玄関入り口のインナーガーデンには、鹿追町の家畜ふん尿から精製された水素が 7m^{3}ボンベを 20 本単位として、10 日～ 2 週間程度の間隔で供給・運搬され、酸素との化学反応によって発電する設備があります。これにより、生じた電気や熱を、施設内の照明や椅子暖房及び給湯等に活用し、CO_2が生じないクリーンなエネルギーとして、稼働しています。(写真-6 参照)

なお、インナーガーデンには、エア・ウォーター北海道の経営理念として、地球の貴重な資源である空気や水を暮らしや産業に役立てるとした「空気」、「水」、「地球」をガラスで、デザインしたオブジェも掲示されています。

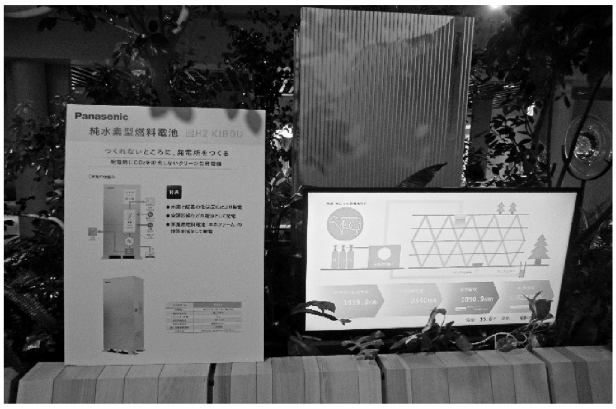


写真-6　純水素型燃料電池及び水素利用量等の掲示版

3. おわりに

今回の見学会では、省エネルギー対策や、水素のサプライチェーン構築等を実践し、社会課題を解決していく仕組みづくりを目指す「エア・ウォーターの森」について、理解を深めることができました。

また、エア・ウォーターグループでは 2023 年度から社会課題解決に貢献する事業や地球環境、ウェルネスに関連する事業に取り組んでいる市町村に対しての寄付制度も実施し、2024 年度実績で 19 の自治体が交付対象となっています。

この様に、北海道の一つの企業が他の様々な企業を始め、行政と連携しながら、新たな企業価値を創造し、社会貢献することの意義を改めて再認識させて頂きました。

最後に、ご多忙の中で、案内説明をして頂いたエア・ウォーター北海道事業企画部インキュベーショングループの佐々木美結様にお礼を申し上げます。

(参考文献)

1)エア・ウォーターの森のご案内　配布資料
2)札幌・桑園にオープンイノベーション推進施設「エア・ウォーターの森」を建設　～北海道の地域課題の解決につながる新事業創出へ～｜ニュースリリース｜最新情報｜エア・ウォーター株式会社
3)屋上・1F ガーデン｜エア・ウォーターの森

市　川　浩　樹(いちかわ　ひろき)
技術士(上下水道／衛生工学／総合技術監理部門)
日本技術士会北海道本部　社会活動委員会
リージョナルステート研究委員会幹事長
グローバル設計株式会社　技術顧問



報告

日本技術士会北海道本部 倫理委員会

第 15 回 技術者倫理フォーラム

～公衆から信頼される技術者になろう～

庭　田　　博

まえがき

令和 7 年 7 月 2 日（水曜日）、第 15 回技術者倫理フォーラムがホテルポールスター札幌を主会場として開催され、多くの参加者にご来場いただきました。本フォーラムは、平成 22 年の第 1 回以降「公衆から信頼される技術者になろう」というテーマを主軸に据え、技術者に求められる役割や価値観等が多様化する時代背景の中で、己の人生と向き合い、根幹を担う技術者としての責務を考える貴重な場となるように、内容の充実に努めてまいりました。



写真-1　フォーラム会場の様子



写真-2　函館サテライト会場の様子

今回のフォーラムは、ホテル会場と遠方参加を可能とするためのウェブ視聴によるハイブリッド開催のほか、昨年の旭川に苫小牧および函館を加えた 3 か所のサテライト会場への同時配信も行いました。

また、当倫理委員会の役員体制が今年の 6 月より新委員長を筆頭とする新体制となり、本フォーラムは新体制での初イベントでありました。本フォーラムでは技術者倫理に関する基調講演を経て、新体制による当倫理委員会の活動報告が発表されました。

1．基調講演

今回の基調講演では、室蘭工業大学 大学院工学研究科 しくみ解明系領域特任教授（名誉教授）の板倉賢一氏をお招きし、「突然の技術者倫理教育から二十数年～情報倫理と情報工学倫理を例として～」というテーマでご講演いただきました。板倉教授の講演は、JABEE 認定との関連による技術者倫理教育への流れや「オムニバス技術者倫理」の出版など、突然の技術者倫理教育で経験された教育基盤の説明から始まり、本題の内容へと進みました。



写真-3　基調講演 板倉教授

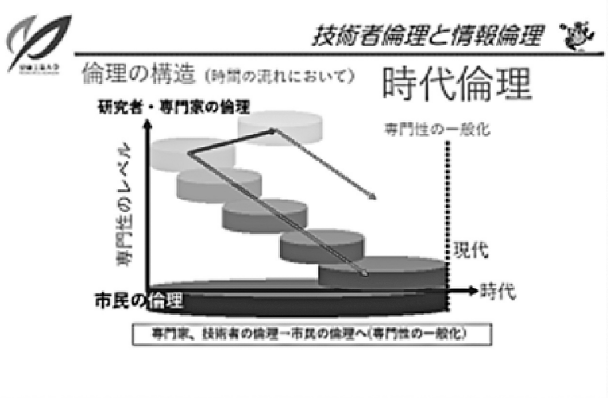
板倉教授は、本題の前に「情報倫理と情報系技術者倫理の違い、技術者倫理の論点となるジレンマの解消策、情報系技術者倫理の特異性とジレンマの解決指針」などの理解が技術者倫理教育の学習目標であると述べられました。そして我が国の高度情報化社会の進展へと導いたコンピューターとネットワーク社会の発達に伴い、高度情報通信社会が抱える問題点についての説明から本題が始まりました。

(1) 高度情報通信社会と問題点

高度情報通信社会では、インターネットの発展に追従した家庭用ゲーム機やクレジットカード決済等の進化により、人々の生活が豊かになった一方で、その便利さを悪用するウイルスの拡散や不正アクセス等のコンピューター犯罪などの問題も同時に抱えていると述べられました。また、コンピューター犯罪の例として Rootkit 事件と Winny 事件を挙げ、特に後者はネットの法整備の遅れから、善意で開発したソフト開発者が犯罪者扱いされかねなかった事例として紹介されました。その他、著作権や個人情報の取り扱い、法律の不備の補完としてモラル教育や情報倫理の啓蒙活動の重要性などが示されました。

(2) 技術者倫理と情報倫理

人々の便利な暮らしに寄与するために、情報技術者は高い専門性と倫理観を持って研究開発にあたる。しかし、その技術や製品等の人々への普及と共に専門性の一般化が生じ、技術そのものの専門性が低くなる。いまや保育園の児童でもスマートフォンを扱う時代になり、専門家や技術者に求められる倫理は「時代倫理（＝市民の倫理）」として、世間一般に求められる倫理へと広がりつつある、と説明されました。



具体的には新たな技術と時代倫理として、SNS の発達による利用者の情報倫理、生成 AI の利用における AI 活用倫理（法律に先行して倫理が必要）や技術者が生成 AI を利用する倫理、サイバー空間の利用における予防倫理の必要性などが示されました。さらに、情報化社会に振り回されないための対策として、「SNS から発信される情報や Web 上の情報を鵜呑みにしない、不審なサイトにアクセスしない、身体的・精神的な影響にも配慮する」などのことが大切であると説かれました。

(3) 情報工学技術者倫理

情報工学技術に関し、①アプリ作成はエンジニアとは限らないことやバグの存在を前提にするなど特異性があること、②ソフトウェアとハードウェアの不適合性のほか様々なコンピュータ・システムにおけるエラーと欠陥の要因があること、③情報の機密性・完全性・可用性等の情報セキュリティの実現方法などの説明があり、情報工学技術者が社会の一員として、専門家として、組織の責任者として、どうあるべきかを定めた情報処理学会倫理綱領について紹介されました。ここで、技術者倫理の論点となるジレンマの解消に触れ、「決して、あなた一人じゃない！一人で悩まず同じ会社の中で協力し合い倫理問題を解決することが大切」であると集団での倫理活動の重要性を強調されました。

(4) これからは

講演の結びとして、板倉教授は、①今日の「情報工学技術者倫理」は明日の「情報倫理」（時代倫理）となる、②「自律した技術者」から「自律した技術者の集団活動」へのシフトが重要（ダイナミック技術者倫理）、③技術士の地位向上（医師、弁護士）＝高給取りも大事だが企業からの独立＝市民のための技術者という倫理的視点も大切、④技術者倫理だけでなく最高位のエンジニアとして技術士の倫理を高めてステータスを上げてほしい、という 4 項目について提言されました。

今回の基調講演では、資源開発工学を専門とする板倉教授が突然の技術者倫理教育の始まりと称される「室蘭工業大学技術者倫理研究会」を出発点とした技術者倫理に関する経験を基に、今日に至る情報化

社会を観点として、さまざまな倫理的問題点やジレンマの対処方法を紹介いただきました。そして、講演の結びで示された「ダイナミック技術者倫理」は、集団力によるジレンマ問題の解消を目指すものとして紹介され、倫理委員会の活動とも重なるところがあり、集団社会で活躍されている参加者の皆様にとっても、活力を注入されたような最も印象深いフレーズとして受け止められるものでありました。

2. WG 活動報告

本フォーラムでは、当倫理委員会の新幹事団より、前半には WG 活動報告 1 として、技術者倫理動向に関する①統括本部倫理委員会での「骨太な取組・活動」、②北海道本部倫理委員会での「これまで・現在・これからの活動」について紹介されました。また、後半には WG 活動報告 2 として、「辞書が定義づける倫理と、エンジニアに必要な倫理」と題し、昨年度北海道にて開催された全国大会以降に取り組んでいる研究 WG の一例が報告されました。

(1) 統括本部倫理委員会での取組・活動紹介

約 70 年の歴史を持つ日本技術士会には 21 の常設委員会と 19 の常設部会があり、①統括本部倫理委員会は前者の常設委員会に属して技術士及び技術者の倫理の啓発に関する事項を活動の所掌としていること、②地域 8 本部が Web 活用等で連携していること、③北海道の当倫理委員会は綱領・啓発・情報に 3 区分された小委員会のうち綱領小委員会に属し活動していることなどが紹介されました。

また、2023 年 3 月に 12 年ぶりに改定された技術士倫理綱領は専門者協議において自律・志向性・尊重・人材育成等の観点で議論され改定に至ったこと、統括本部倫理委員会は生成 AI 等の新技術への倫理的対峙などの懸案事項を抱えつつ事例集の策定等にも取り組んでいることなどの紹介もありました。

そして統括本部での骨子を踏襲しつつ、北海道本部倫理委員会が取り組んでいる活動と研究 WG の報告要旨が説明され、発表のバトンが「北海道本部倫理委員会の活動紹介」へと渡されました。



写真-4　WG 活動報告 1　冨澤技術士 新相談役

(2) 北海道本部倫理委員会の活動紹介

始めに、これまでの取組として、当倫理委員会の沿革は、2008 年 4 月に準備会を立ち上げ、4 年間の研究会活動を経て 2013 年 4 月より委員会が発足されて現在に至ると紹介されました。そして、委員会発足時の 3 つの活動目的（講演会の開催、大学等における技術者倫理教育（講師）の実施、テキストの作成）とその実施状況や、研究 WG メンバーの推移（準備会開始 13 名、研究会開始 21 名、委員会開始 27 名）などが紹介されました。

次に、現在の活動について、近年の主な活動内容（幹事会、研究 WG 活動、講演会活動、教育活動、その他）、昨年度の全国大会における第 1 分科会としての講演概要、今後の課題（高齢化、普及・啓発への取組強化）などの報告がありました。

最後に、これからの取組として、①これまでの取組を継続、②メンバーの確保に努める、③新しく啓発 WG を立上げるなど、新委員長として牽引する決意を込めて力強く述べられました。



写真-5　WG 活動報告 1　佐々木技術士 新委員長

(3) 研究 WG の一例紹介

研究 WG の取組については、技術者倫理に馴染みの薄い技術者等を含め、幅広く多方面から技術者倫理を考え実践へと導くことをねらいとして、以下の 3 つの視点で視座を変えながら発表されました。

○**倫理という単語**：技術者倫理に馴染みの薄い人は、入口として倫理の意味を辞書で調べ、道徳やコンプライアンスとの違いを考えるだろう、という着眼点を基に、Goo 辞書など様々な辞書で解説される単語の意味や漢字の意味についての考察が述べられました。また、倫理という単語の意味を理解したうえで、技術士会が提示する倫理は「法と補完し合って、人としての行動規範（あるべき姿）」を指しているとの理解が示され、併せて技術士倫理綱領の前文が紹介されました。

○**倫理綱領**：技術士倫理綱領に示される 10 項目それぞれについて、容易に理解できる考え方の例が示されました。加えて異業種（弁護士、医師、建築士）の倫理綱領を調べ、その特徴を考察して技術士倫理綱領と対比してみることで、技術士に求められる倫理がより明快になると説かれました。

○**エンジニアに必要な倫理の考察事例**：技術者倫理エピソードとして幅広く知られているチャレンジャー号爆発事故の事例を再考し、組織的・個人的問題点と倫理綱領 10 項目との対比、現時点での反省点と求められる対応、現在に継がれる見解として Wikipedia や ChatGPT の引用例などについて説明されました。そして、「判断ミスの防止には、公衆優先（安全）プラス技術力の両輪が大切です」と強調され WG 活動報告のまとめとなりました。



写真-6　WG 活動報告 2　高橋技術士 新幹事

最後に、コマーシャルとして委員募集と入会方法を案内し、本フォーラムが閉幕となりました。

3. 情報交換会

フォーラム終了後には、恒例の情報交換会が開催され、参加者同士が活発に意見交換を行いました。技術者倫理に関する多様な視点と展望が飛び交い、これからの技術者に求められる倫理観と、その対応についての議論が深まりました。



写真-7　情報交換会

情報交換会の最後には、参加者全員で記念写真を撮影し、更なる技術士の活躍と技術者倫理の発展を祈念して、会はお開きとなりました。

あとがき

第 15 回を迎えた技術者倫理フォーラムですが、参加者の皆様からのフィードバックを基に、これからもフォーラムの内容の向上に努めていくとともに、技術者倫理の重要性を広めていく活動を続けてまいります。倫理委員会では、今後も技術者が社会に貢献できるような倫理的な考え方や行動を学び、広める場を提供し続けます。また、新しいメンバーの参加も歓迎しておりますので、技術者倫理に興味をお持ちの方はぜひご参加ください。皆様のご協力を心よりお待ちしております。

庭　田　　博（にわた　ひろし）
技術士（建設部門）
日本技術士会北海道本部
倫理委員会　幹事
北開工営株式会社



報告

日本技術士会北海道本部　社会活動委員会（リージョナルステート研究委員会）

令和７年度　第４回定例会の報告

ミニ見学会「エア・ウォーター水素ステーション札幌大通東」

滝　澤　嘉　史、市　川　浩　樹

1. はじめに

令和７年７月７日（月）、15 時 30 分～ 17 時の日程で、リージョナルステート研究委員会令和７年度第４回定例会（水素・循環システム研究分科会主催）として、ミニ見学会を実施しました。ミニ見学会は一昨年より開催しており、今回で３回目となります。札幌市内には、低炭素関連、水素関連施設が多くありますが、ミニ見学会では、これらの施設を対象とし、恒例行事の施設見学会とは区分して開催しています。今回は、本年４月にオープンしましたエア・ウォーター株式会社様が運営する「エア・ウォーター水素ステーション札幌大通東」（写真-1 参照）へ伺いました。参加者は７名です。開催状況を以下に報告します。



写真-1　エア・ウォーター水素ステーション札幌大通東

2. エア・ウォーター水素ステーション札幌大通東について

本ステーションは、キャッチフレーズを「北海道初の大規模商用水素ステーション」とした札幌市内初の定置式水素ステーションです。札幌市が進める「水素モデル街区」として水素ステーション整備事業の公募に、エア・ウォーター株式会社様の提案が採用され実現した施設です。北海道にある既存の水素ステーションは、移動式のものが札幌市豊平区月寒と室蘭市にあり、定置式が鹿追町の「鹿追町環境保全センター」内にあります。一般販売向けの定置式水素ステーションとしては、鹿追町に続いて道内２か所目になります。

当日は、エア・ウォーター株式会社、エネルギーソリューショングループグリーンイノベーションユニット水素ステーション企画部の近田佳介様、丸山悟様より説明を頂きました（写真-2 参照）。



写真-2　水素ガス貯蔵エリアにて近田佳介様（一番右側）の説明を受ける参加者の面々

本ステーションでの水素の販売価格は 2,000 円／kg（税抜き）、営業日時は平日の９：30 ～ 17：30、土曜日の９：30 ～ 12：30 です。

設備配置は、①水素ガス貯蔵エリア、②水素ガス圧縮機・冷凍機、③水素ガス蓄圧器、④冷却機、⑤水素ガス充填エリア、⑥事務所棟（制御室・機械室など）、⑦地下配管スペース・排水溝（トレンチ）の７つに区分されます（図-1 参照）。以下、各施設について説明します。

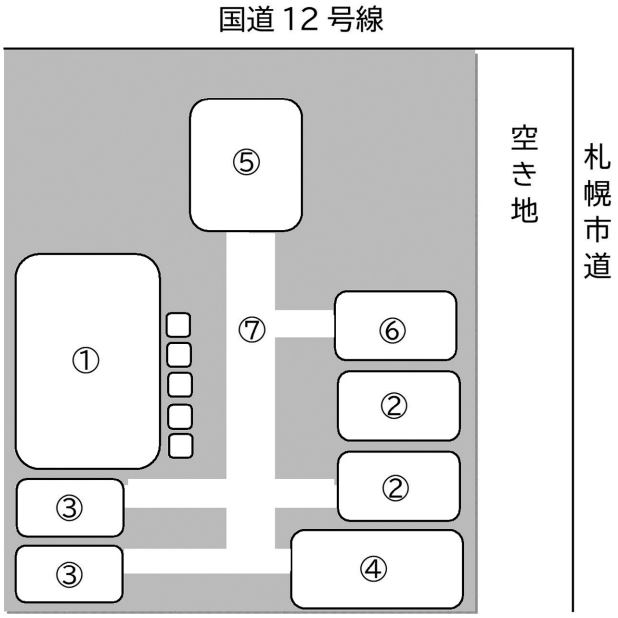


図-1　水素水ステーション内の施設配置図

(1)水素ガス貯蔵エリアについて

水素ガス貯蔵エリアは、トレーラー庫と水素カードル置き場になっています。自社製造の水素ガス及び苫小牧市からの再生可能エネルギー由来の水素ガスを受け入れています。

トレーラー庫は、幅：10m×奥行き：15m×高さ：5.5m、壁面は防火壁で障壁構造になっています。水素を積んだ大型水素トレーラ（最大 3,000Nm^3/台）の荷卸し場で、同時に 2 台入る広さです。また､西側に隣接するマンションへ配慮し、高さ 2m の離隔が確保されています。

トレーラー庫の東側の外では、水素カードル（19.6MPa（200 気圧）、250m^3/基、写真-3 参照）による受け入れが可能で、同時に 5 基を受け入れることができます。水素カードルは 25 本の水素ガス容器（10m^3/本）を 1 ユニットとして運搬時の荷積み・荷卸しの効率を高めたものです。



写真-3　水素カードル（19.6MPa、250m^3/基）
手前：側溝のコンクリート蓋、グレーチング蓋

(2)水素ガス圧縮機・冷凍機について

水素ガス貯蔵エリアへ搬入・貯蔵された水素ガスを 82MPa（820 気圧）に昇圧する「圧縮機」と、車両へ充填する際に昇圧した水素ガスを－ 40℃に冷却するために必要な冷熱を供給する「冷凍機」が格納された施設です。常に稼働していることから、水素ステーションの「心臓」部となります。2 棟あるので定期メンテナンス等で片方を停止させても水素ステーションの営業は可能となります。

(3)水素ガス蓄圧器について

水素ガス蓄圧器は、超高圧（82MPa（820 気圧））にした水素ガスを蓄える施設です。蓄圧タンクには、サムテック社製 Type Ⅲ蓄圧器と日本製鋼所 M & E 社製 Type Ⅰ蓄圧器の 2 種を採用しています。Type Ⅲ蓄圧器は炭素繊維強化プラスチック（CFRP）製で、径：φ＝416.8mm、長さ：L＝4964mm、耐用年数 20 年です。Type Ⅰ蓄圧器は高耐久鋼製で、径：φ＝406.4mm、長さ：L＝4364mm、半永久的に使用可能です。タンク容量は双方ともに 300ℓ/本です。

将来、周辺に集客交流施設（カフェや宿泊施設等）が増えた場合を想定して、Type Ⅲ蓄圧器で 3 本、Type Ⅰ蓄圧器で 1 本の増設が可能になっています。なお、日本製鋼所 M & E 社製 Type Ⅰ蓄圧器については、コンサルタンツ北海道 141 号（水素利用状況及び水素関連施設見学会開催報告、H29.2.17 発行）に紹介されています。バスやトラック等の大型水素車両への水素ガスの充填を可能とするため、3 つのバンク（3 本、2 本、2 本）に分けて配置し、車両タンクとの圧力差を利用して充填する「差圧充填方式」を採用しています。

(4)冷却機について

冷却機は、水素ガスを圧縮機で昇圧する際に発生する高温を、一定温度（24℃）に保つために必要な冷熱を圧縮機に供給する設備です。1 系統 4 基のシステムを 2 系統とし、予備 1 基を備えるため、メ

ンテナンス等で一部停止した状態でも営業を続けることができます。

(5)水素ガス充填エリアについて

水素ガスを車両へ充填するエリアです。本ステーションは、水素バス、水素トラック、水素自動車等の様々な水素燃料電池車両への充填が可能です。

本ステーションの充填能力は、5kg／3 分以上です。10 分間に 15kg 以上、ピーク時には 1 時間に最大 45kg 以上(500Nm^3/h 以上)が可能です。水素自動車はタンク容量が約 5kg ですので 3 分間での充填が可能です。タンク容量は、水素バスで約 25kg、水素トラックで約 60kg のため、充填時間はそれぞれ 15 分、36 分となります。

水素ガスは 70MPa 程度で充填する際に熱を発するため、充填時には－40℃まで冷却する必要があます。前述の水素ガス圧縮機・冷却機にて、圧縮された水素ガスと－40℃の冷熱は、本エリア内のディスペンサーに送られ、充填時に水素ガスが冷却されるシステムになっています。ディスペンサーとはガソリンスタンドでいう給油装置となります。

(6)事務所棟(制御室・機械室)について

事務所棟は、水素ステーション内にある設備全体を制御、管理する「頭脳」にあたります。事務所棟内の統合制御盤にて安全な稼働が管理されています。

また、水素ステーション内の各所に設置された制御弁の動力となるコンプレッサーや散水用ポンプ、地下貯水槽が設けられています。

(7)地下配管スペース・排水路について

水素ステーション内の各施設へ繋がる配管類は、地下埋設管方式となっています。本ステーションの「大動脈」です。コンクリート二次製品の側溝内に配管され、側溝は凍結深度を考慮して深さ 1.6m に設置されています。側溝には幅 1m 厚さ 23cm のコンクリート蓋(写真-3 手前参照)が設置されています。蓋の開閉にはクレーンを使用します。

また、配管メンテナンスや地震後等の緊急点検が必要な管接合部にはグレーチング蓋が採用されており、人力での開閉が可能となっています。

水素ガス圧縮機、冷凍機棟、蓄圧器棟で機器の搬入搬出、その際の屋根脱着には、120t 吊ラフタークレーンの使用が前提とされています。クレーンや大型車両の走行やアウトリガーの張り出しを考慮して、厚さ 23cm のコンクリート蓋が採用され、荷重に耐える側溝構造、舗装路盤構成となっています。

3. 諸所にこめられた思いと工夫

(1)止まらない水素ステーション！！をつくる

水素自動車の所有者にとって、本ステーションはかけがえのない施設となります。同時に、本ステーションの開業を理由に水素自動車の所有者の増加、水素供給頻度の増も想定されます。

この期待に応えるためにも、設備システムの不具合による休止回避を最重要課題と考え、全ての設備を 2 系統用意し、代替性を確保したとのことです。

これに伴い、水素ステーションの建設費は、通常の 1 系統約 5 億円に対し、本ステーションは 2 系統準備しているため、約 10 億円に嵩みました。社内調整を繰り返し行い、高額な建設費にも対応されたそうです。

(2)本州仕様の基準を積雪寒冷地へ摘要

水素ステーションの設備基準は、経済産業省によるもので、記載事項の全てが本州仕様です。積雪寒冷地の自然条件に合致する仕様にはなっていません。

例えば屋根です。事務所棟等は、特徴ある「かまくら型」になっています(写真-4 参照)。これは、屋根の部材にシールドトンネル用のセグメント(二次製品)を使用しているためです。建屋内の設備メンテナンスはクレーンを使用して行う必要があり、①容易に脱着復旧が可能でること、②雪が積もらない形状として雪下ろし作業をなくしてスタッフの安全を確保すること、③厚いコンクリート部材を用いて防音効果を期待したこと、等の要求性能に対応しています。また、汎用建設資材を用いることでコスト縮減を達成しました。

消火基準では、敷地内に消火用水池を設ける必要がありますが、設置スペースがないこと、積雪寒冷地の屋外に設置するには凍結防止対策が必要なことを踏まえ、事務所棟の地下に設置し、地下貯水槽としています。



写真-4　特徴的な「かまくら型」の屋根



写真-5　市道への爆風を防ぐ壁の機能も兼ねる太い柱、奥には市道が見えます

この他に、雪対策として施された工夫は、水素ガス受入用配管上に設置した庇（巻頭グラビア写真-2 参照）、冷却機上に設置した積雪防止用の網（巻頭グラビア写真-4 参照）があります。

(3) 周辺の街区整備により求められ仕様変更

本ステーションの近傍には、中央小学校があり、学童の通学路となっている市道が隣接しています。市道への影響に配慮し、市道側の敷地に空き地を設けています（図-1 参照）。

しかし、市の街区整備により市道の直線化が行われ、空き地の部分が市道となることになりました。これにより、水素ガス充填エリアの市道側前面に、厚さ 45cm 以上、爆風が防げる高さの擁壁を設置してはならなくなりました。しかし、現在の敷地に余裕もなく、建設費も嵩み、設置が困難な状況に陥ったとのことです。

そこで、ディスペンサーの横には、水素ガス充填エリアの屋根を支える柱を配置されています。この柱の幅をディスペンサーの幅より大きくとり、厚さを 45cm とすることで、柱と防火壁を兼用することで対応することとしたそうです（写真-5 参照）。

4. おわりに

今回のミニ見学会を開催するにあたり、エア・ウォーター株式会社の近田佳介様、丸山悟様に多大なご協力を頂きました。この場をお借りしてお礼申し上げます。本ステーションを構築するにあたり、各種基準等に適合させるため、様々なご苦労をされ、施設内の各所へ様々な工夫を施されたとのことで、当日は、大変わかりやすく、心のこもったご説明を賜りました。

利用者へ水素ガスを供給する観点からも水素ステーションは重要となります。札幌市内は基より道内全域に多く設置され、水素サプライチェーンを早期に構築することが望ましいと考えます。今後とも自然エネルギー関連分野の各施設の建設や運営を通じて、地域の新産業や地域雇用を創出しつつ、「ゼロカーボン北海道」を実現するとともに「豊かな北海道の実現」に期待したいと考えます。

滝　澤　嘉　史（たきざわ　よしふみ）
技術士（建設／総合技術監理部門）
日本技術士会北海道本部幹事
社会活動委員会
リージョナルステート研究委員会　代表
北電総合設計株式会社
土木部建設技術室



市　川　浩　樹（いちかわ　ひろき）
技術士（上下水道／衛生工学／総合技術監理部門）
日本技術士会北海道本部　社会活動委員会
リージョナルステート研究委員会　幹事長
グローバル設計株式会社　技術顧問



私のプロジェクトX

飯野良枝

1. はじめに

今年、任期満了に伴い、技術士会の幹事ならびに役員を退任しました。このようなタイミングで本コーナーの執筆を依頼されることは、広報委員の経験から知っておりましたが、私に依頼が来るとは感慨深いものがあります。めったにない機会ですので、僭越ではありますが 30 年余りの技術者人生を振り返ってみたいと思います。退職のたびに、断捨離をしたので手元資料に乏しく、記憶に頼った記述となりますので、「思い出補正」や正確性に欠ける表現がありますが、ご容赦いただきたく存じます。

2. 農業の技術者になるまで

出身は北海道空知管内滝川市で、高校卒業まで過ごしました。実家は父方の祖父母と同居をしており、祖父母は昭和 30 年代終わりごろまで農業を営んでいた時のことを、折にふれて話してくれました。家に農耕馬がいたこと、田植えは腰まで田んぼの冷たい水に浸かりながらの重労働だったこと、祖父母のしわがれた声と手が思い出されます。

小学 2 年生に転校した新設校では、クラスごとに学級園が割り当てられ農作業が授業の一環としてあり、通学路にはソバ畑や玉ねぎ畑が広がっていましたので農業は身近な存在でした。

中学生の時分に、24 時間テレビでいわゆる発展途上国の内戦や気象災害に伴う飢餓問題を知り、人が生きていくには水と食料を確保することが大切だと知りました。それがきっかけで、発展途上国の農村開発に興味を持ち、東京農業大学農業拓殖学科（当時）を志望し、入学、卒業をしました。大学生活は、サークルとバイトに明け暮れ、大いに都会生活を満喫しました。入学当初の高い志とはうらはらに、勉強は最低限の単位を取得する程度でした。

就職は、北海道に戻り何か農業に関する仕事を、と考えて、深川市に本社がある財団法人北海道農業近代化コンサルタント（当時）に 1993 年（平成 5 年）に入社しました。そんな程度の認識ですので、業界研究をするでもなく、建設コンサルタントが何をするのか、よくわからない状態で私の農業技術者人生が始まりました。

3. 思い出深い仕事

(1) 水稲の直播栽培検証業務

配属先では、農業農村整備事業にかかる水文調査や動植物調査を担当したほか、空知管内某市で先駆的な取り組みとして展開されていた、水稲の直播栽培（ちょくはんさいばい：田んぼに直接種もみをまくことで、育苗過程を省略して、水稲の生産コストを低減する営農技術）の検証業務を担当しました。

何を見ても初めてのことで、ついていくのがやっと・・・というのか、理数系にうとくて、ついていけてないので何をしても苦労しました。業務経験も人生経験も浅い自分がコンサルティングとは、おこがましい！この仕事に向いていない！と思いながら仕事をしていました。当時、女性技術者は本当に数少なく、私を指導した上司にとって女性を部下に持つのは初めてだったと思いますし、さぞご苦労されたことと思います。

社会状況もめまぐるしく変化していて、農業農村整備事業の予算（当初予算）を調べたところ[1)]、入社当時の 1993 年は 1 兆 1,543 億円、退職した 2024 年（令和 6 年）は 3,771 億円。おそらく業務量は予算規模に応じて昔は多かったのでしょう。業務量の多さに加えて、資料作成が手書きから PC へと変わり、OS も数年おきにバージョンアップして操作方法の習得に難儀したものです。

そんな中、様々な現場で、川に入り、山を歩き、田畑に入り、北海道内のさまざまな農村風景や営農

形態に触れることができました。夏でも冷涼な道北、道東の酪農地帯、どこまでも平坦な畑地が続く十勝の景色。いわゆる北海道らしさとは一線を画した叙情豊かな道南の水田地帯、そして私の原風景であるピンネシリを借景とした石狩平野に広がる空知の水田地帯。業務を通じた農家さんとの会話の中で、水田地帯の方々は、水田の水利用や防除作業など地域一体で日程調整を要することを背景として、調和を重んじる気質を感じる一方で、畑作地帯や酪農地帯では強い独立心を感じました。



流量観測



コムギ生育調査

写真-1　現地調査の様子

入社以来 7 年ほど、ほ場（田畑）の大区画化と水稲の直播栽培導入による水稲の生産コスト低減効果検証調査の一環として、水稲の生育状況を計測したり、パーシャルフリュームで水田の用排水量を計測しました。加えて、農作業時間を実測しました。調査対象ほ場の近くに車を停めて、トラクターやコンバインの作業時間を、車中からストップウォッチ片手に計測しました。これらの機械作業は、機械の旋回時に走行速度が下がり作業効率の低下に直結するので、ほ場形状はできるだけ直進する時間を最大化するのが望ましいのです。もっとも苦労したのが農家さんとのやりとりで、携帯電話がない時代でしたから、自宅に電話して、奥様やお子様が電話に出ると要件を説明するのに苦労しました。検証調査の初年度 1993 年は、コメの作況指数が 74 と大不作で、「平成の米騒動」と呼ばれた年でした。その年の生育データや収量データは、異常値としてのちに棄却対象になったことは残念なことでした。

調査日程は農家さんの営農の都合に合わせるので時間も曜日も関係なく設定され大変でしたが、実際の営農作業を間近で見ることができて、作物の生育ステージや営農作業時期に関する感覚を養えたことは得難い経験でした。

(2) イラストのようなものを描いてみた

1999 年に株式会社ルーラルエンジニア（以下、ル社）に転籍し、国営農地再編整備事業における事業効果検証業務を主に担当し、作物の生育調査などを行い相変わらず忙しくしていました。

現地調査の業務と併行して、農業や農村のもつ多面的機能を広く一般市民に向けて説明するパンフレットや、事業説明を目的としたパネルを作成する業務も担当しました。上司や同僚の説明を理解するために書いたポンチ絵というのかイラストのようなものを書いたら、それを上司が認めてくださり業務成果に使っていただきました。

この原稿を書くにあたり、手元資料の中から 1 枚の絵を見つけました。大きさは A4 判で、何を目的に書いたのか思い出せないのですが、「畑地かんがい」、「ほ場整備」などの文字が書いてあります。

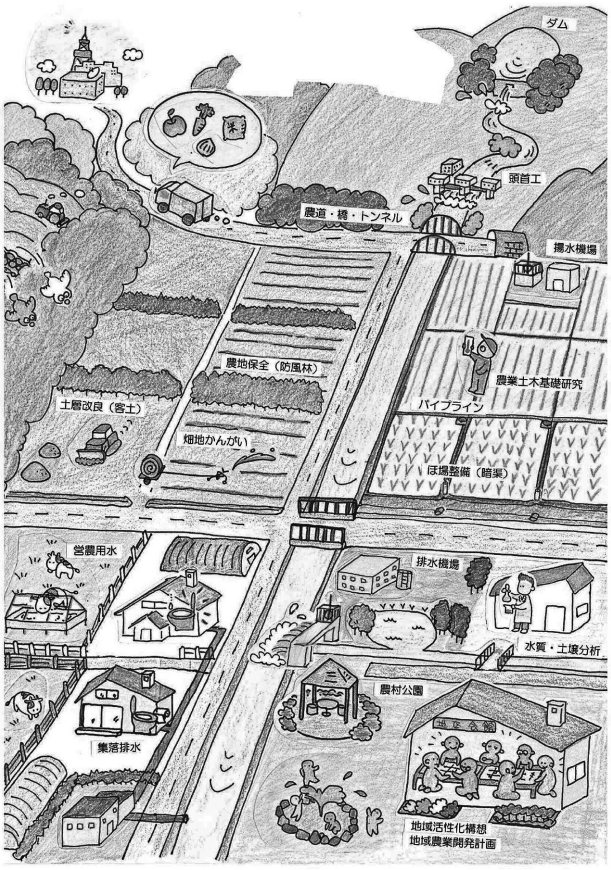


図-1　農業農村整備事業の説明図と思われる

絵の右上にダムが描かれており、ダムの水は頭首工を流下して用水路から水田へ配られる様子が表現されていました。また絵の右から左へと道路が伸びて、田畑で作られた農産物がトラックに積まれてテレビ塔のある都会へ運ばれています。

農村は農家さんの生活の場であるので、暮らしを豊かにするための地域づくりを検討している様子や農村公園も描かれています。

おそらく農業農村整備事業の説明を目的としたものでしょう。絵は水性ペンと色鉛筆で書かれており、裏面に切り貼りした箇所がいくつもあって試行錯誤の跡が伺えました。

数年後に空知管内某町において国営農地再編整備事業の完了にあたり、事業で基盤整備された水田をフィールドとした各種調査結果を 1 冊の冊子としてまとめる企画があがりました。

原稿執筆者は試験場、農業改良普及センター、研究所など多岐にわたり、原稿取りまとめをル社が担当しました。当時、私はル社を退職しており、上記企画のうち文書編集、イラストの作成を個人で受託して作業にあたりました。

冊子やパンフレットは、配布対象者によって表現方法を変える必要があります。上記の冊子は配布対象者が事業に参加した地元の農家さんということで、発注者様から「柔らかい表現」を要望されました。できる範囲で言葉遣いやフォントを工夫して、図や写真を多用することを心掛けました。そこで目次に 1 枚のイラストを添えることにしました。絵の上半分を基盤整備前のイメージ図として、狭い水田区画とそこで走行に難儀するトラクターを書き、下半分を整備後のイメージ図として、大区画化した水田区画をスムーズに走行するトラクターを書きました。さらにそこに生産コストが下がってうれしいと、笑う農家さんの笑顔を書きました[2)]。

発注者様には冊子の完成を喜んでいただき、私も今までの知識・経験の集大成のようなこの冊子の完成を達成感とともに大変うれしく思いました。

(3)もうやり残したことはない

2017 年に内外エンジニアリング北海道株式会社に転職し、農業農村整備事業の事業計画や事業効果算定業務のほか、農業水利施設の機能保全計画策定業務などを担当しました。未経験の業務で、知識の習得にまた苦労しましたが、いずれの業務においても現在から 30 年～ 40 年先を見据えた計画をすることから、これらの業務を通じて、事業を俯瞰する経験になり、社会資本のあり方を考える機会になりました。親会社は本州にあり、会社行事や業務連絡などを通じて情報交換をする中で、常に府県の農業事情に触れる環境にあり、改めて北海道農業の規模や経営形態の特性を意識することになりました。

グループ会社全社が参加する技術会議において「ほ場の大区画化」をテーマとした分科会を主宰した際、「自動走行農機等に対応した農地整備に係る技術検討会」の委員である本社の方を講師にお願いしました。分科会の開催に先立ち資料収集をする中で、「自動走行農機等に対応した農地整備の手引き」[3)]に、先述した冊子の目次に使ったイラストをもとに加筆された絵が使われていました。

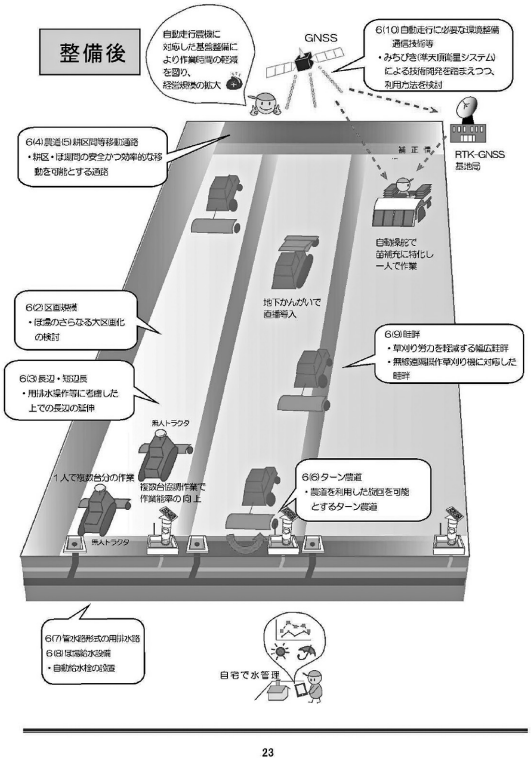


図-2 「手引き」23 ページをみて驚いた

このことは、大きな驚きとともに私の技術者人生の中でもっともうれしく、自分の絵で言いたいことが伝わるんだ、と誇りに思いました。と同時に、今まで取り組んできたことが国の手引きという形で実を結び、もうやり残したことはないとさえ思った出来事でした。

4. 技術士会活動

(1)技術士会は別世界

日本技術士会には、二次試験合格・登録と同時期に入会しました。会社から入会を強く推奨され入会したものの、せっかくの日本技術士会北海道本部(以下、技術士会)や農業部会からの合格祝賀会のお誘いには乗り気になれず出席しませんでした。本誌コンサルタンツ北海道のエンジニアパークの原稿を書いたことがありますが、技術士会はキラキラしたリア充の方々が集う別世界だと思っていました。仕事に疲れた当時の私に、仕事以外の場所で技術に携わるのは、とうてい理解しがたいことでした。

(2)活動のきっかけ

技術士会での活動のきっかけは、不確かな記憶ですが、第 40 回技術士全国大会の分科会「技術者のワーク・ライフ・バランス」の企画・運営を有志の女性技術士が担うということで、お誘いをいただいたことでした。

私を含め数名の女性の技術士の方々が集められ、説明会と懇親会が催されました。突然にキラキラした世界に足を踏み入れることになりました。その当時ル社は退職していましたが、会社員時代の私の「ワーク・ライフ・バランス」はワークに全振り、社外の人脈は皆無、仕事が生活の主軸で、仕事をするために生きていました。きっと私以外の方々は、ワークとライフのバランスが取れていて、会社の外の世界も持っていて、知性と教養もあって充実した毎日を過ごしているんだろうな〜、こんな所に私が来ていいんだろうか、と尻込みしました。懇親会の帰りに「えらいところに来ちゃったな」とパンプスを引きずって帰ったのを覚えています。

今思えば、なぜ分科会メンバーのお誘いを受けたのか。退職をして時間に余裕ができたからなのか、それとも知らない世界への好奇心が勝ったのか。

分科会では、ワークショップ形式で参加者の意見の取りまとめをしました。業務でも経験して慣れていましたが、みなさんのレベルについていくのがやっとでした。大会交流パーティーは規模の大きさに圧倒され、全国各地から様々な部門の技術士の方々にお会いすることができ、緊張と興奮の中で初めての全国大会が終わりました。

(3)技術士会での活動

第 40 回技術士全国大会への参加に前後して、広報委員会に加入させていただき、その後、事務局、総務委員会、選挙管理委員会の各委員を歴任致しました。その後幹事も務めさせていただきました。

いずれも重責でございましたが、会員ならびに役員の皆様に暖かく受け入れてくださり、それぞれの役職を全うできました。

技術士会での活動でもっとも思い出深いのは、事務局に入って年次大会や合格祝賀会で司会進行役を務めたことです。そこで話す内容や進行は、事務局の方々に入念な準備をしていただき、私は前日に原稿の読み上げ練習をして当日を迎えるだけの状態にまでしていただきました。司会進行の仕事は、技術的な素養を求められず、安心して努めることができたと今は胸をなでおろしています。



年次大会での司会



アトラクションの司会

写真-2　技術士会での活動のヒトコマ

合格祝賀会では、毎回合格者の方々の様子を拝見するたび、技術士に合格したころの初心に帰って身が引き締まる思いで司会をしていました。

委員会活動では、会議や情報交換会を通じて、業

種・業界の異なる技術士の方々と交流する中で、たくさんの学びの機会をいただきました。競う間柄でもなく、なれ合う相手でもない、心地よい緊張感の中で、自宅と職場の往復では得られない知見や人脈、自部門以外の方々に向けた説明方法、メールのやりとりを最小限にする言葉の選び方、立ち振る舞い、などなど数え上げればきりがないほどです。

懇親の場においても、会員の皆さまの話題の多さに舌を巻くとともに、仕事や技術のことさえも、楽しく、時には誇らしく話す姿をまぶしく、うらやましく見ていました。自分にはそこまで誇らしく話せる話題がないと思っていたからです。時折、ここに私が来ていいんだろうかと思いながら、むしろこの場にふさわしくありたいと思ったものです。ここ数年は年齢を重ねて、図々しくなったのでしょう、最初の尻込みした気持ちは薄れて、技術士会が自分らしくいられる居場所になり、自宅、職場に続く、サードプレイスになっていきました。

昨年の退職や第 50 回技術士全国大会をもって、技術者として区切りをつけたいと考え、今年の任期満了をもってすべての役職を退任させていただきました。まだまだ頑張っていらっしゃる諸先輩方がいらっしゃる中で恐縮ではございますが、この度、会長表彰という栄誉に浴することができました。身に余る光栄です。



写真-3　会長表彰をいただきました

5. おわりに

本稿を通じて今までの出来事を振り返ると、何かに導かれるように、「ほ場の大区画化」、「水稲の直播栽培」による水稲の生産コスト低減効果の検証が私の主軸だったように思います。これが私のプロジェクト X だったのかもしれません。

もうやり残したことはないと思えるほどのテーマに携わることができて、幸せな農業技術者人生だったと思います。

奇しくも、本稿を書いているこの時期に、政府はコメ増産へと舵を切り、国の農業政策は歴史的転換を迎えましたのは因縁めいたものを感じます。

技術者としての適性や素養は十分に持ち合わせていない私でしたが、立場と役割が人を作る、と言いますとおり、技術の世界に身を置いて、現場での様々な経験や、業務や技術士会を通じて多くの方々と出会い、受け入れていただき、認めてくださったことの積み重ねが、血肉となり技術者としての私を形作ったのだと思います。

農業技術者として 30 年余り頑張ることができましたのは、心身丈夫に生んで育ててくれた親と、私を指導してくださった諸先輩方、いつでも励ましてくれた同僚、家族のおかげです。今後は、皆さまから頂いたご厚情を恩返しするつもりで、何かの形で後進の育成に携わることができたら幸いです。

終わりになりますが、日ごろの便利で安全安心な暮らしは、技術者の皆さまの努力、奮闘のおかげです。感謝を申し上げ筆をおきます。

参考文献

1）農林水産省年報
2）国営農地再編整備事業の効果―はじめよう！小さな町の大きな営農―，株式会社ルーラルエンジニア堀真史，技術協 98 号，一般社団法人北海道土地改良設計技術協会
3）自動走行農機等に対応した農地整備の手引き，農林水産省，令和 2 年 2 月策定　令和 5 年 3 月改定

飯　野　良　枝(いいの　よしえ)
技術士(農業部門)



会員のひろば

私のお薦めコーナー

美味しいものにこだわりたい！［コーヒーと鉄瓶］

十　鳥　恭　一

1. はじめに

美味しいものは、時としてその満足感だけではなく、安らぎやゆとりを与えてくれるものではないでしょうか。一般的に「おいしい」と言われるものは、その食材の鮮度や種類、調理をする器具、提供する人の技量など様々な要件が重なり合って、誰かの「おいしい」を満足させるものが出来上がると考えています。

私の場合、自分でいかに自分好みのものを作ることができるか？ということを食べ物に限らず探し求めており、今回はその中でも「コーヒー」と「鉄瓶」についてご紹介したいと思います。

2. コーヒー

コーヒーは全世界的に嗜好品の代名詞ともいえる飲み物で、数えきれないほどの豆の種類（産地）や焙煎方法、抽出方法が出回っています。朝起きてコーヒーを飲む習慣がある我が家では、これを如何に自分好みにできるか、というところから考えてみました。

コーヒーは個人の好みがはっきりと出ます。例えば酸味の強いものが好きという方もいれば、苦みがはっきりしているものが好きという方もいらっしゃいます。これは主に豆の種類や産地、焙煎度合いによってその味付けが大きく変化してきます。我が家では南米あるいはアフリカ原産の豆を中～深煎りで焙煎したものが現段階でとても気に入っています。

コーヒー豆は焙煎前の生豆を小ロットで取り寄せています。いろいろなものを試してみたいので 2 ～ 3 種類を少しずつ購入するようにしています。

今回は南米コロンビア産の「ブリサスセレクション」とアフリカエチオピア産の「ムリマニ・ンガラシ組合」という 2 種の豆を仕入れてみました。



写真-1　生豆と抽出した欠点豆

仕入れた豆はこのまま焙煎はしません。この状態からいわゆる「欠点豆」を取り出します。通称「ハンドピック」と言われる作業です。「虫食い」「未成熟」「欠け」「カビ」の豆を取り除きます。

この「ハンドピック」の作業はコーヒーの風味を実は大きく左右します。言葉で言うのは簡単なのですが、「えぐみ」が顕著に表れます。苦みに近い感覚ですが、実際に欠点豆のみを集めて焙煎したコーヒーは正直飲めません。おそろしく不味いです。

自家焙煎を行っているコーヒー店の多くはハンドピックを最低でも焙煎前と焙煎後に実施しているそうです。我が家でも焙煎前後で 2 度ハンドピックを行い、これらを除去しています。これだけでとてもクリアな味になります。

欠点豆の除去が完了しましたら、焙煎を行います。焙煎の機械はこれも様々なものがありますが、自宅で飲むだけの量ということで我が家では小型の電動焙煎機を使用しています。焙煎の時間を大まかに設

定し、その後は豆の裂ける音「1 ハゼ」「2 ハゼ」（パチパチと音がします）で焙煎状態を調整しています。このあたりが豆の状態により様々ですので、焙煎をしていて楽しいところでもあります。

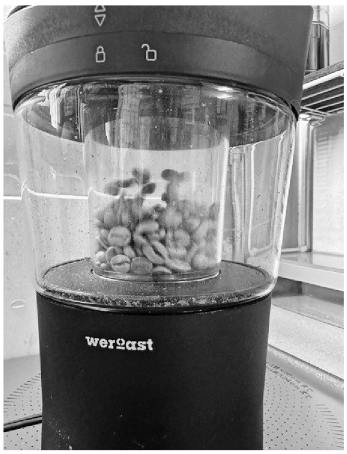


写真-2　ロースター焙煎中

焙煎も浅めですと酸味が強めに、深めですと苦みが強めに出る傾向があります。ただ、これも豆によって異なりますので、都度調整をしています。あと、どのような焙煎機であっても結構な匂いがしますので、換気が必須です。

焙煎後は少しなじむまで時間をおきます。ここまで出来た時点で、コーヒー専門店等で売っている「焙煎後の豆」と同じ状態になります。



写真-3　電動コーヒーミル

ここから先はいわゆる豆を挽いてコーヒーを抽出するという作業になりますが、コーヒーはコーヒー豆と水（お湯）で構成される飲み物です。次はお湯のこだわりです。

3. お湯（鉄瓶）

コーヒーを抽出するためにお湯を沸かすのですが、我が家では岩手県の南部鉄器を使用しています。抽象的な表現として「お湯がまるくなる」等の表現があり、これについては鉄瓶で沸かしたお湯と普通の水との差について学術論文レベルで多くの事例が紹介されていますので、ここでは割愛します。

鉄瓶は鉄分が多く摂取できるだけでなく、角がとれたようなやさしい口当たりの水（お湯）となるため、非常に飲みやすい印象を受けていました。このため、南部鉄器を求めて岩手県へ飛び、及源鋳造直販の工場からお気に入りの鉄瓶を購入してきました。

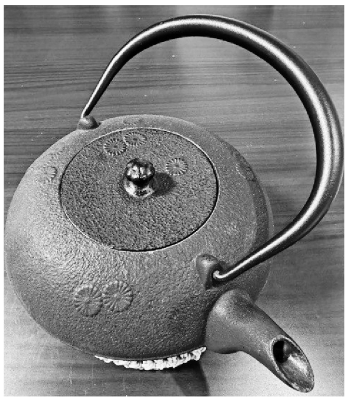


写真-4　及源鋳造の鉄瓶

夏はアイスコーヒー、冬はホットコーヒーにするのですが、アイスとホットでは豆の量と挽き方が異なるので、このあたりも工夫をしています。ホットの場合はドリップ、サイフォンなどいろいろな抽出方法がありますが、我が家は基本的にドリップで抽出しています。

鉄瓶で沸かしたお湯を 87 ～ 90℃まで落とし、ゆっくり抽出するのがちょうど良い感じになります。





写真-5　アイスとホットの抽出器具

アイスの場合は豆の量を増やし、挽き方を少し細かくした上で一晩滴下抽出します。

4. おわりに

どちらも美味しいコーヒーが飲めますが、ここまでの手間を「面倒だ！」と思うか「面白い！」と思うかは人それぞれだと思います。ただ、やはり何事でも面白がって興味を持ってやってみることは楽しいことなのではないかな？と思っていますので、ぜひ興味のある方はコーヒーに限らず、とことんこだわってみるのはいかがでしょうか？

十　鳥　恭　一（とっとり　きょういち）
技術士（応用理学部門）
株式会社地圏総合コンサルタント



エンジニアパーク Engineer Ring Park



澤田　裕介（さわだ　ゆうすけ）

●建設部門（港湾及び空港）

勤務先

北日本港湾コンサルタント株式会社

➡次号は、新谷ひかるさん（水産部門）

私は函館市出身で、岩手大学にて土木工学を学びました。土木施設に興味を抱いたのは、高校生の時に学校行事で訪れた笹流ダムがきっかけです。全国的にも珍しいバットレス式の構造を間近に見て、その独特の姿に強い印象を受けました。先日、タモリさんがブラリとするテレビ番組の中でこの笹流ダムが紹介され、タモリさんが構造の面白さに感心されている場面を拝見し、当時の感動がよみがえるとともに、少し誇らしい気持ちになりました。社会人となってからは、建設コンサルタントとして港湾施設の設計に携わってきました。初めの頃は日々の業務に追いつくのが精一杯でしたが、今でも BIM/CIM の活用やカーボンニュートラルへの取り組み、さらには気候変動を踏まえた設計など、新しい課題が次々と現れ、常に学びの連続です。大変さを感じることもありますが、自身を成長させる貴重な機会と捉え、前向きに研鑽を重ねています。このたび技術士資格を取得できたことは、これまでご指導くださった上司や同僚、そして支えてくれた家族のおかげであり、その期待に応えられるよう専門性を磨き、社会に還元していくことが新たな使命だと感じています。最近では、自分が設計に携わった施設で、小学生の子どもと一緒に釣りを楽しむ機会がありました。かつて図面上で検討していたものが実際に地域の暮らしに役立ち、自分の生活にも喜びをもたらしてくれる瞬間は、技術者として何よりのやりがいを感じる場面です。子どもはまだ設計という仕事を十分理解してはいませんが、いつか「父が携わった施設なんだ」と気付いてもらえる日が来れば嬉しいと感じています。これからも初心を忘れず、地域に根ざしたインフラづくりを通じて社会に貢献していきたいと思います。



藤井　真（ふじい　まこと）

●建設部門／水産部門

勤務先

公益社団法人北海道栽培漁業振興公社

➡次号は、菅原勇気さん（水産部門）

私は、潮風香る港町小樽で生まれ育ちました。幼少期は、近所の港へ行っては釣りをして、山へ行っては昆虫、ザリガニ採りに興じる生物大好き少年でした。生物への愛が止まらないまま成長し、1994 年（平成 6 年）に北海道大学水産学部に入学し、その後、1998 年（平成 10 年）に同じ北海道大学の大学院地球環境科学研究科生態環境科学専攻修士課程へ進みました。大学時代の研究テーマは、底生動物の個体群動態や種多様性であり、この頃から生物を扱う仕事ができたら幸せだなと思っていたところ、水産学部時代の恩師が私を推薦してくれるという良縁に恵まれ、修士課程修了後の 2000 年（平成 12 年）に北海道栽培漁業振興公社に入職しました。

入職後しばらくは、全道津々浦々、現地調査で出張三昧、まるで住所不定状態で目まぐるしくすごしていましたが、自身のスキルアップのため一念発起し、技術士二次試験受験を 2010 年（平成 22 年）から始めました。七転八倒の末、2016 年（平成 28 年）に建設部門（建設環境）、2017 年（平成 29 年）に水産部門（水産水域環境）に合格しました。

社内では、えりも以西海域・河川のシシャモ関連調査やサロマ湖のホタテ養殖許容量関連調査を主に担当しています。調査対象種は、いずれも北海道を代表する重要な水産有用種であり、現地調査を通じて、これらの動向をつぶさに知ることができるので、仕事のやりがいをひしひしと感じます。

最近、わが家では令和生まれの子ども達が「SDGs！」と叫びながら走り回っています。この情景を見るなり、技術士として、人の親として次世代の人材育成に最大限の力を注がなければなりません！！

エンジニアパーク Engineer Ring Park



黒澤　亘（くろさわ　わたる）

●建設部門（鋼構造及びコンクリート）

勤務先

太平洋総合コンサルタント株式会社

➡次号は、釣谷竜一さん（建設部門）

1985 年（昭和 60 年）、帯広市に生まれ、5 歳の時にオホーツクの美幌町へ移り住みました。小・中学校時代は、豊かな自然に囲まれ、のびのびと育ちました。その後、北見の高校へ進学。当時は特に将来の夢もなかったため、「近場で行ける大学」というなんとも言えない理由で北見工業大学に進学しました。

ゼミの教授のご縁で釧路市に本社を置く太平洋総合コンサルタント株式会社を知り、大学卒業後 2008 年（平成 20 年）に入社。上司や先輩方の叱咤激励を受けながら業務に励む一方、業務の合間を縫って挑戦し続けた技術士試験に、2018 年（平成 30 年）に念願の合格を果たしました。合格番号を確認した瞬間、思わずガッツポーズと「ヨシッ」という声が出たあの感覚は、今でも鮮明に覚えています。

やっとのことで技術者としてのスタートラインに立ってから早 7 年。現在は主に橋梁、トンネル、附属物等の点検・補修設計業務に従事し、立場も「THE 中堅」となりました。最近は若手社員も増え、後進の指導にあたることも多くなっています。日々育成や指導に頭を悩ませると共に、業務では、急速に進化する ICT や AI 技術の活用についても格闘しているところです。

休日はというと、小学生の息子と娘のサッカー観戦がなによりの楽しみです。子どもたちの一生懸命な姿はとても眩しく、前回できなかったことを次はできるようになっている姿には、毎回感動させられます。そんな彼等の成長を見守る中で、自分自身もまた常に成長し続ける向上心を忘れず、「初心忘るべからず」の心を胸に、今後も精進していく所存です。



沼田　寛（ぬまた　ひろし）

●建設部門／森林部門

勤務先

株式会社ノース技研　札幌支店

➡次号は、坂下正幸さん（建設部門／総監）

私が、この様な場で執筆するのは相応しいのか、もっとフレッシュな経験をお持ちの方の方が良いのではないかと、私自身の中でも葛藤は有りましたが、経験を伝えてゆくのがこれからの私の使命ではないのかと思い直して執筆することと致しました。私は、2016 年（平成 28 年）に建設部門、翌 2017 年（平成 29 年）に森林部門の技術士資格を取得しました。北海道庁の土木職員だったころから受験していたのですが、合格したのは、現在の会社に入ってからです。技術士資格に対する考え方を変えたことで合格出来ました。それまでは、現在の自分の技術的レベルが技術士に相応しいレベルに達していないから合格しないのだと考えており、合格のための勉強は特にしておりませんでした。ですが、現在の会社に貢献するためにも何としても合格しようと思い、試験のための勉強を始めたのでした。そして、合格したのです。勉強は、過去問題を解いてゆくのもそうですが、とにかく、国土交通白書、森林・林業白書を読みました。役人時代は、黙って座っているだけで、国の施策等、現在国が考えていることは、毎日情報として入ってきますが、民間会社ではそうは行きません。自ら情報を取りに行かねばなりません。ですから、白書は重要な情報源です。それから、業界紙も役に立ちました。

さて、私はこれまで主に有珠山、十勝岳という火山地帯の砂防関係事業に携わってきました。'90 ～ '93 年には、南米ヴェネズエラで技術協力の仕事もさせて貰いました。会社では、林道橋梁の点検診断業務で地すべり運動による損傷を指摘したりしています。これからも、嫌われない程度に、これまでに培ったものを後輩達に伝えてゆきたいと思っています。

エンジニアパーク Engineer Ring Park

髙橋　正名（たかはし　まさな）

●建設部門（道路）

勤務先

株式会社北未来技研



➡次号は、煤田昌也さん（建設部門）

札幌で生まれ育った私は、幼少期から建築物や構造物に興味を持ち、特に橋梁を見ることが好きな少年で、将来はこのようなものを造ってみたいなぁと漠然と思っていました。思い返すとそれが土木科へ進学した理由だったかもしれません。

しかし、大学卒業時は就職氷河期であり志望通りにとはなりませんでしたが、維持管理や自転車関連の分野を経て、現在は道路設計の業務に従事しています。主に担当したのは道路概略・予備設計であり、インターチェンジ設計や交差点改良設計なども経験してきました。特に道路概略設計は道路設計の上流であるため、様々な制約条件の中から選定したルートが道路網となることには達成感があります。また、自己の業務対応領域を広げるため、道路詳細設計や事業計画検討の経験を積んでいるところであります。

技術士という資格を知ったのは学生の頃ですが、挑戦を試みたのは道路設計業務に従事してからであり、そのきっかけとしては技術者である以上、科学技術分野の最上位資格を目指すべきと考えたからです。さらに資格取得に向けた勉強は、同時に道路分野における自身の知識の底上げに繋がることにもなります。道路施策を学んでいくうちに点で知っていたことが線で結びつき、道路事業のプロセスがより理解できるようになりました。

資格取得後は、三義務二責務を念頭に置き、日々進化する科学技術の情報を収集して自己研鑽に努めつつ、社会基盤整備に寄与すべく業務に取り組んでいます。また、次世代を担う後進技術者の育成に励み、自身が得た経験知、暗黙知の伝承に注力しています。

玉田　祐介（たまだ　ゆうすけ）

●建設部門（建設環境）

勤務先

北海道立総合研究機構
林業試験場

➡次号は、栗原絢子さん（建設部門）

私は北海道生まれ北海道育ちで、2017 年（平成 29 年）4 月に株式会社長大に入社し、札幌支社にて建設事業における環境調査業務に従事しました。その後、2025 年（令和 7 年）4 月より北海道立総合研究機構 林業試験場（美唄市）に勤務しております。

株式会社長大では、主に動植物の自然環境調査や保全対策検討に携わり、自然環境保全と建設事業との両立を目指して業務に取り組んできました。自然環境は不確実性が高く、対応が難しい場面も多くありましたが、AI や 3D データなどの最新の知見を取り入れて工夫を重ねたり、発注者や工事業者、有識者と連携したりする中で、大きなやりがいを感じることができました。そうしたやりがいを実感できたのは、技術士取得に向けて培ってきた専門性やコンサルタントとしての総合的な能力が大いに役立ったためだと感じています。もちろん、これまで業務を共に進めてくださった前職の上司や先輩、同僚の支えがあってこそのやりがいでもあったと感じます。

現職では、森林の多面的機能発揮のための研究開発の一環として、生物多様性の評価や管理技術の開発に取り組んでいます。現在は建設コンサルタント業界からは少し離れた立場にありますが、建設コンサルタント業界の方々とは現在も交流させていただいております。北海道の約 7 割を占める森林は、建設事業や日常生活と切っても切れない関係かと思います。そのため、林業分野に限らず、建設コンサルタント業界や一般の方々にとっても、少しでもお役に立てる知見を蓄積・発信し、社会に貢献していきたいと思います。

エンジニアパーク Engineer Ring Park



石田　十羽完（いしだ　そうがん）

●建設部門（道路）

勤務先

株式会社三洋コンサルタント（名寄市）

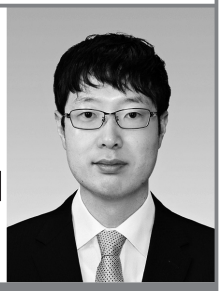
➡次号は、加藤裕之さん（建設部門）

40 代最後の年に技術士 2 次試験に合格し、約 2 年半が過ぎました。いま振り返ると、私が合格出来たのは 2 人の「師」の存在があったからだと感謝しています。最初の「師」は、4 歳から 17 歳までの間、バイオリンを教えて頂いた H.M 氏です。まわりと比較して不器用だった私に、“反復練習で完成度を高めていく大切さ”を教えて頂きました。2 次試験の勉強の時もこの教えが生かされたと感じています。先生は 95 歳になります。ご健在で時々お会いしてお話が出来ることがとても嬉しく思います。現在、私はボランティアで名寄市ジュニアオーケストラのバイオリン講師として、今でも街の子たちと楽しく音楽活動に携わることが出来ています。

もう一人の「師」は、大学ゼミの担当教授だった、M.M 氏【北海道工業大学（現：北海道科学大学）名誉教授】です。在学当時は熱意ある指導を受けました。卒業後は気さくに接してくださり、仕事や人生の悩みについても色々と話を聞いて頂きました。

2 次試験にむけた勉強の際も、先生からの一言二言が、試験勉強に向かう私の“姿勢”に大きく影響しました。また 2 次試験に合格した時は自分自身も大変嬉しかったのですが、先生には他の誰よりも喜んで頂き「必死に勉強してよかった！」と心底思いました。

私は 50 代になり“次の世代の人”を育てて行かなくてはならない年齢になりました。いつか私自身も「師」となれるように、継続研鑽と人材育成を続けながら、今後は総合技術監理部門にもチャレンジしていきたいと思います。



西山　貴久（にしやま　たかひさ）

●機械部門（機構・ダイナミクス制御）

勤務先

NTT アノードエナジー株式会社

➡次号は、吉田ちあきさん（建設部門）

私は、函館近郊で生まれ、小学校以降は札幌で暮らしました。札幌暮らしが長いですが、道外暮らしも経験済みです。大学・大学院は早稲田大学で、応用数理を専攻しておりました。数学の産業への応用を学ぶ場として新設された学科であり、数学が好きな私にとっては楽しく、また東京生活は推し活イベントに気軽に行くことができ、とても充実していました。もともと数学系ですが、機械の勉強をし、今はエネルギー業界で電気の勉強をし、エネルギー管理士（電気）、第 3 種電気主任技術者を取得しました。転職を経験したことにより、エンジンの故障調査、電気回路設計、電気主任技術者業務など、幅広い専門性を習得できたと思います。

私が技術士取得を目指したきっかけについて話そうと思います。今も同じ傾向かはわかりませんが、就職活動においては数学系の専攻の人は不利であり、とある人気企業を受験した際に面接官に「数学系の人は文系と同じ技術力だ」と言われたのが今も脳裏に残っています。私は、数学系の人が技術士や電気主任技術者を取得すれば、その資格を持っていない機械系や電気系の人よりは技術力があると言えるだろうと考えました。反骨精神が難関資格へのチャレンジに繋がったといえます。この文章を人事権のある方がもし読んでおりましたら、決して数学系の人が技術力がないのではなく、継続研鑽ができるか否かが技術力の有無につながるということを念頭に入れ、数学系の人への固定観念を捨てて頂けたら幸いです。これから技術士を目指す方、問題難易度は高いですが、諦めずに継続することが合格の近道だと思いますので、頑張っていただけたらと思います。

活動レポート

日本技術士会北海道本部
事業委員会

文責：事業委員会　委員　**鎌田　昌行**

日本技術士会北海道本部　事業委員会主催
技術研修会（日帰りコース）報告

1．はじめに

事業委員会では、令和 7 年 7 月 18 日（金）に、今年度の技術研修会（日帰りコース）として、①札幌市水道記念館と②北海道新幹線札樽トンネル（札幌工区）工事現場の見学会を開催しました。

当日は気温 30℃の雨予報と非常に蒸し暑い中でしたが、定員 20 名の方々にご参加頂き、研修終了まで雨に当たらずに、無事終了いたしました。

2．見学先概要（札幌市水道記念館）

札幌市水道記念館は、藻岩山山麓の中央区伏見の札幌の市街地を見渡せる位置にあり、昭和 52 年の札幌市水道創設 40 周年に設立されました。

建物自体は札幌市で最初に作られた「藻岩浄水場」を利用していて、随所に浄水場だった名残が見受けられます。平成 19 年度には土木学会「土木遺産」に選奨、平成 21 年 3 月には札幌市「札幌景観資産」に指定されています。

現在は、南区の「白川浄水場」が札幌市で最大の浄水場ですが、それ以前は藻岩浄水場がメインの浄水場でした。今は記念館の隣に新しい藻岩浄水場が建設され、中央区一帯に給水しています。



写真-1　札幌市水道記念館

館内は大きく「アクアミュージアム」と「水道記念室」に分かれています。アクアミュージアムは、水の流れに沿って 5 つのゾーンを設け、自然・水・くらしとの関わりが紹介されています。水道記念室は、札幌市の水道の歩み、過去に使われていた機器類等が展示されていました。

また、藻岩浄水場の見学ツアーにも参加し、水道水が作られる過程の濾過実験を体験し、案内員の方から説明を聞きながら、稼働している浄水場内部の見学をさせて頂きました。



写真-2　藻岩浄水場



写真-3　藻岩浄水場内部（沈殿池）

3. 見学先概要（北海道新幹線札樽トンネル）

北海道新幹線札樽トンネル（札幌工区）は、札樽トンネル約 26.2km のうち札幌市街地区間が対象で、密閉型シールド工法によるシールドトンネルです。札幌市手稲区西宮の沢にシールド機の発進立坑が構築され、発進立坑から小樽方に約 1.5km、札幌方に約 6.9km の約 8.4km のトンネルで、7 月 1 日時点の進捗率は約 25%とのことでした。

現場では、地上にてシールドトンネルの施工概要をご説明頂いた後、工事用エレベータにて発進立坑の地下深部（トンネル部）まで下り、構築されたトンネルの状況を見学させて頂きました。

約 50m の大深度の発進立坑は圧巻で、現在、資機材運搬や掘削土搬出のために、地上からトンネル部まで大きな開口が設けられていますが、完成後は開口に床版を設置して、維持管理用スペースとして活用する計画とのことで、トンネル工事技術の高さに感銘を受けました。



写真-4　発進立坑周辺（地上）での概要説明状況

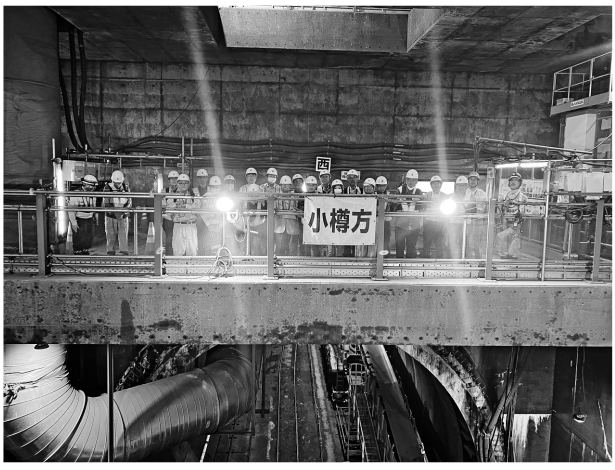


写真-5　発進立坑地下での見学状況

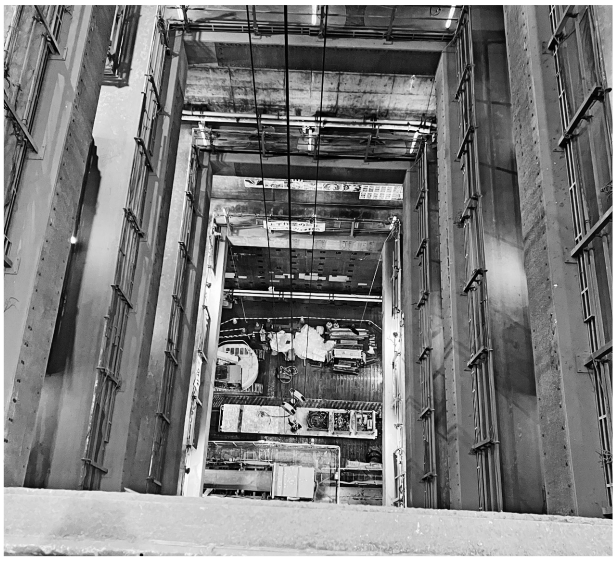


写真-6　発進立坑を地上から見た状況

また、工事現場では安全・環境対策が徹底されており、発進立坑ヤードは防音ハウスで覆われ周辺地域への配慮がなされ、掘削による発生土は立坑ヤード内に仮置きしたのち、石狩湾新港の判定ヤードに運搬し、対策の有無を判定しているとのことで、大変な工事であることを改めて感じました。

4. おわりに

今回の研修会を通じて、我々の生活に密着した水道水について改めて知るとともに、北海道新幹線という一大事業のトンネル工事現場を見学でき、大変貴重な体験をさせて頂きました。札幌市水道局の皆様、鉄道・運輸機構の皆様をはじめ、現場に従事される皆様の多大なるご厚意のもとに実現いたしました。この紙面を借りてお礼申し上げます。

研修会後は、恒例のサッポロビール園での懇親会を行い、参加された皆様と交流させて頂きました。



写真-7　研修会後の懇親会の状況

活動レポート

日本技術士会北海道本部　社会活動委員会

北方海域技術研究委員会

文責：北方海域技術研究委員会　顧問　**福田　裕毅**

令和 7 年度　総会・特別講演会の報告

1. はじめに

北方海域技術研究委員会では、2025 年（令和 7 年）5 月 21 日（水）、「令和 7 年度 総会・特別講演会」を開催しました。会場は札幌市の札幌エルプラザホールで、今回は 48 名（日本技術士会会員 15 名、北海道本部会友 5 名、一般 28 名）の参加を得、当研究委員会の島倉幹事の司会により進められました。

2. 総会

総会は、小川幹事を議長として選出し「議案 1：令和 6 年度 事業・収支状況報告」、「議案 2：令和 7 年度 役員変更」、「議案 3：令和 7 年度 事業計画・予算案」について議案別に討議され、すべての議案について承認されました。

ここでは、昨年度の活動報告、役員変更及び今年度の活動計画についてご報告します。

(1)　令和 6 年度の活動報告

令和 6 年度は 4 回の講演会を開催し、計 9 件のご講演をいただきました。この場をお借りして、改めて講師の方々にお礼申し上げます。

(2)　役員の変更

表-1 に令和 7 年度役員を示します。昨年度に引き続き、櫻井泉氏が代表を、石川浩希氏が幹事長を務めます。副代表・幹事につきましては、異動等の事情により 3 名の方が退任され、新任の方が 3 名、留任が 7 名となっています。退任された役員の方には、当研究委員会の活動を支えてこられたことに感謝の意を表したいと思います。

(3)　令和 7 年度の活動計画

当研究委員会では、昨年度と同様に活発な活動を行っていくこととし、本年度は計 4 回の講演会の開催を中心に、会員ならび一般参加者との交流を活発にしながら、活動を進めて参ります。

表-1　令和 7 年度 役員一覧（敬称略）

役　職	氏　　名	備　考
代　表	櫻井　泉	留　任
幹事長	石川　浩希	留　任
副代表・幹事	留任 7 名、新任 3 名	

3. 特別講演会

今回の特別講演会では、（一社）寒地港湾空港技術研究センターの遠藤仁彦氏より「能登半島地震発生に対応した半年間の取組」、株式会社東京久栄の桑原久実氏より「これまでの磯焼け対策を確認し、これからを考えよう！」と題し、貴重なご講演をいただきました。以下にその内容をご報告します。



写真-1　講演を行う遠藤仁彦講師



写真-2　講演を行う桑原久実講師

(1)　講演　「能登半島地震発生に対応した半年間の取組」

令和 6 年に発生した能登半島地震では、半島の中部以北は震度 6 以上となり甚大な被害に見舞われ

ました。主要なインフラも被害を受け、災害復旧のための物資や人員の輸送に大きな問題が生じました。このような状況の中、各機関が連携して災害対策にあたりましたが、その際、固定観念にとらわれずに何でもやるというスタンスで支援に取り組まれたそうです。

災害対応は TEC-FORCE（緊急災害対策派遣隊）が中心となって被災状況調査や各種支援活動を担い、現地に常駐して情報収集や連絡調整を行うリエゾン（災害対策現地情報連絡員）や首長や所長と直接連絡が取れるホットラインが震災発生直後に早急に整備され、支援に必要な人員や資材は全国から集められたそうです。電源支援では照明提供用車両の電力を施設の配電盤に供給して停電を復旧されたそうで、これは本邦初の取り組みとのことです。物資支援ではホットラインとリエゾンの活用により迅速なニーズ把握と支援が行われ、その一例として仮設トイレの整備についてお話いただきました。また砕石を提供する支援は各種の復旧において重宝されたとのことです。これらのほかにも様々な被災状況とその復旧支援について説明していただきました。

大災害はどこでも起こる可能性があり、インフラの強靭化など事前防災が重要とのことでした。また災害復旧に建設業界から多大な支援がありましたが、認知度が低いため、これらの支援を社会に示すように取り組まれたそうです。このような取り組みに加え、建設業界の多様な課題に対して技術士が問題意識を持ち、主体的に対処することが建設業界全体の向上に資すると提案いただきました。

(2)　講演　「これまでの磯焼け対策を確認し、これからを考えよう！」

ウニの食害は現在では磯焼けの原因の一つとして知られていますが、以前はそのような認識がありませんでした。磯焼け対策研究を進めるにあたり、まず漁業者にウニの食害を認知してもらう必要があり、そのために小樽の忍路湾でウニ除去により藻場が回復することを実証したそうです。ウニの食害を抑制できれば海藻が生えることから、その方法について研究に取り組まれ、底面流速とウニの食害との関係から食害が生じにくい施設を設計し、藻場を回復させたそうです。

磯焼けの研究を進める中で「磯焼け対策ガイドライン」の作成に取り組まれ、そこで作成した対策フローについて説明していただきました。磯焼け対策には順応的管理が重要であり、それには磯焼けの現状を把握し、適した対策を選定することが必要とのことでした。また藻場形成を阻害する要因の特定に有効な調査や試験の方法について紹介いただきました。たとえば本州では魚の食害が問題となっていますが、海藻に残る歯形から魚種を特定できるそうです。

次に、完成した「磯焼け対策ガイドライン」に基づいて実施された藻場造成事業について、お話がありました。全国各地の磯焼け問題に取り組み、地域の方々の協力もあり、多くの成功事例が得られたそうです。その後は、温暖化やブルーカーボンなど新たな状況変化に対応するため「磯焼け対策ガイドライン」の改定版が 3 版まで出版されたそうです。

磯焼け対策の成功事例について振り返ると、「磯焼け対策ガイドライン」を活用して事業を動かすための新たなアイデアや支援があったそうで、これからの磯焼け対策にはそのような駆動力が必要になるだろうとのことでした。



写真-3　ほぼ満席となった会場

4. おわりに

今回の特別講演会では、地震災害復旧と磯焼け対策についてご講演いただきました。北海道では日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震を想定した防災対策が進められています。また磯焼けは道南日本海側で大きな問題となっています。このような背景もあってか参加者から活発な質疑をいただき、問題をより深く考える良い機会なったと思います。

最後にお忙しい中、快くご講演をお引き受け頂いた遠藤講師、桑原講師ならびに参加者の皆さまに心からお礼申し上げます。

活動レポート

日本技術士会北海道本部　社会活動委員会

北海道スタンダード研究委員会

文責：北海道スタンダード研究委員会　幹事長　**奈良　照一**

北海道スタンダード研究委員会の活動紹介

今号では当会としての講演会の開催等の報告がないため、活動紹介をさせていただきます。

1. 当研究委員会の目的

当研究委員会は、北海道に住む我々“北海道人”が、北海道らしさ・北海道人の考え方・気質など北海道そのものを探求し、その上で“北海道のあるべき姿”“北海道の自立”“北海道の役割”などについて幅広い分野で議論を交わしながら“北海道が元気になる”様々な提案を道内外に、そして未来に向けて発信していくことを目指しています（図-1）。

同時に、この活動を通じて北海道の明日を担う人材を育成していきたいと考えています。

2. 当研究委員会の活動方針

当研究委員会の活動方針は、大きく次の 2 つです。

○北海道らしい考え方や提案を研究するために有識者を招いた勉強会、講演会、WS の開催

○北海道を元気にする提案をまとめた「（仮）北海道スタンダード提言書」を成果報告として発行

3. 当研究委員会の運営体制

当研究委員会の運営体制は次のとおりです。また現在の会員数は 119 名です。

○現在の運営体制（令和 4 年～）

代　表	**大槻 政哉**	特別顧問	**天沼 宇雄**
副代表	**樋詰 透**	顧　問	**正岡 久明**
副代表	**米川 康**	顧　問	**丹治 和博**
幹事長	**奈良 照一**		
副幹事長	**市橋 加代**		

4. これまでの活動紹介

当研究委員会では平成 23 年 6 月 27 日の発足以降、毎年 1 ～ 3 回程度の講演会/勉強会やワークショップ等を延べ 36 回、多彩な講師をお招きして開催しています。令和元年度以降の講演会等の活動を参考としてご紹介します。

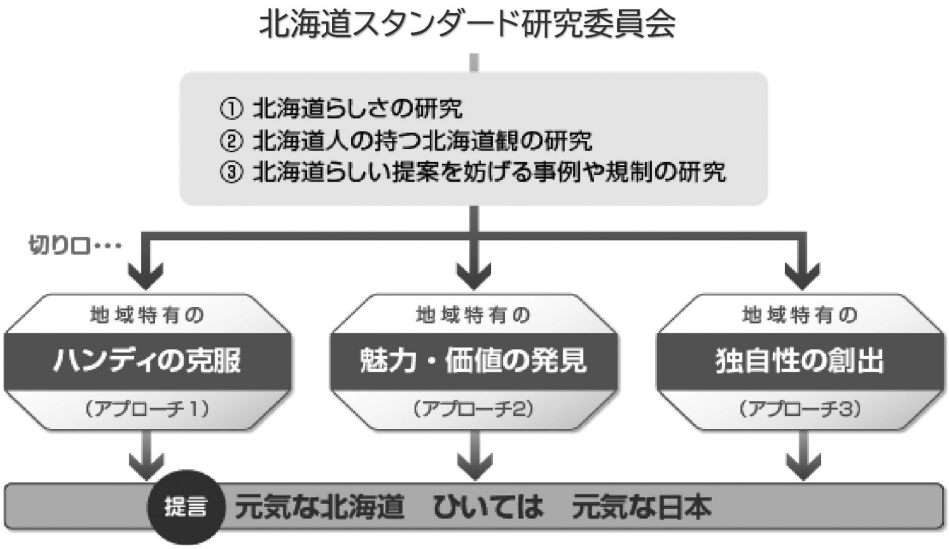


図-1　当研究委員会の活動フレーム

表-1　当研究委員会の最近の活動状況

年度	講演内容・講演者
R1	講演「北の文化の可能性」 河﨑 秋子 様（羊飼い・作家（三浦綾子賞・大藪春彦賞などを受賞）） 講演「北の芸術」 吉崎 元章 様（札幌文化芸術交流センター SCARTS プログラムディレクター） 講演「北海道のモビリティ ～試される危機突破力～」 後 正武 様（株式会社 東京マネジメントコンサルタンツ 代表取締役、BBT 大学院教授） WS「本気でベトナムの学生を北海道に呼ぼう！」※ WS（ワークショップの略記）
R2	講演「日本そして北海道のあり方と役割」 第一部　海からみた領土問題（北方領土問題を含む）　第二部　海を守る日本 山田 吉彦 様（東海大学 海洋学部教授、東海大学 静岡キャンパス長（学長補佐））
R3	講演「心に火をつけるセッション ～隊長の登山録～」 神保 拓也 様（株式会社 トーチリレー 代表取締役（隊長））
R4	講演「教育の今と北海道の未来 ～「ほっかいどう学」の目指すもの～」 新保 元康 様（認定 NPO 法人ほっかいどう学推進フォーラム 理事長） 講演「認識力の強化で組織の問題解決を考える」～道内企業の組織力強化に必要なスキルを学ぶ！～ 三城 雄児 様（株式会社 JIN-G 代表取締役・BBT 大学 准教授）
R5	講演「次の一歩を踏み出すためのマーケティング・アプローチ“自社の価値”を基軸に考える持続可能な経営」 吉田 聡子 様（北海道クリエイティブ株式会社 代表取締役）
R6	講演「永遠に終わらない会社を目指して ～北海道の魅力と可能性～」 南雲 二郎 様（八海醸造株式会社 代表取締役） 講演「もうけを生み出す知財戦略 ～北海道の魅力を知的財産に～ 中島 拓 様（アクシス国際弁理士法人 代表弁理士） 講演「北海道を守った男の生涯 ～陸軍中将 樋口季一郎の決断と行動～ 樋口 隆一 様（明治学院大学 名誉教授）
R7（予定）	講演「北前船と北海道　『海の道』による人・モノ・文化のネットワーク」 高野 宏康 様（小樽商科大学客員研究員、地域レジリエンス株式会社 代表取締役）

5. 当研究委員会の今後について

当研究委員会では発足来、技術を中心に物事を考える“技術オリエンテッド”ではなく“北海道オリエンテッド”にこだわって活動をしています。北海道オリエンテッドなヒト・モノ・コト・コンセプト・技術（わざ）を組み合わせて、当研究委員会が目指している“元気な北海道”の実現に向けて勉強を重ねています。

今後とも、北海道が元気になるために必要なテーマで講演会や勉強会、ワークショップ等を開催し、当研究委員会会員の皆様と共に学びながら、そこで得た知見を道内外に発信し、この活動を通じて北海道の明日を担う人材育成にも寄与していきたいと考えています。

引き続き“北海道を元気にする”提案を行うための活動をして参りますので、ぜひ当研究委員会の活動にご参加いただければと思います。

【ホームページアドレス】
https://www.ipej-hokkaido.jp/hokkaido-std/

活動レポート

日本技術士会北海道本部
防災委員会

文責：防災委員会　幹事長　**前田　研治**

「2025 年度総会及び講演会」　報告

1. はじめに

防災委員会では、毎年 5 月に総会と合わせて講演会を開催しております。今年度も TKP ガーデンシティー札幌駅前にて総会および講演会を開催いたしました。

総会では、昨年度の事業内容と決算、今年度の事業計画と予算の説明が行われ、今年度の活動について承認が得られました。また、組織体制として、今年度より谷村委員長、皆川幹事長が退任され、あらたに小林委員長、安達副委員長、前田幹事長が就任することが発表されました。

続いて行われた講演会では、気象防災アドバイザーの橋本勲氏をお迎えし、「自然災害から人の命を守るために」というテーマでご講演いただきました。日頃の備えの大切さや、災害時に命を守るために私たちができることについて、実体験を交えながら分かりやすくお話しいただき、参加者の皆さまからも大変好評をいただきました。

～　総会・講演会　開催概要　～
開催日：令和 7 年 5 月 20 日(火)
会　場：TKP ガーデンシティー札幌駅前
参加数：42 名
次　第：
1. 開会
2. 委員長挨拶(委員長　谷村　昌史)
3. 議事(幹事長　皆川　佳之)
   (1) 2024 年度事業内容及び決算
   (2) 2025 年度事業計画及び予算
   (3) 2025 年度組織体制
4. 部会活動報告
5. 講演「自然災害から人の命を守るために」
   気象防災アドバイザー　橋本　勲　氏
6. 質疑
7. 閉会



写真-1　谷村委員長による開会挨拶



写真-2　皆川幹事長による議事報告



写真-3　気象防災アドバイザー　橋本氏

2. 講演概要

気象防災アドバイザーとは、気象や災害に関する専門知識を活かし、自治体や地域住民に対して防災に関する助言や情報提供を行う専門家です。

今回の講演では、気象防災アドバイザーとしてご活躍中の橋本勲氏をお招きし、「自然災害から人の命を守るために」と題してご講演いただきました。

講演では、行政に頼りすぎる「災害過保護」の状態から、住民自身が自然と、無意識に安全な場所へ避難する「中動態的防災」へと、防災意識を転換することの重要性についてお話しいただきました。

「災害過保護」とは、「危険が迫ったら行政が避難指示を出してくれるはず」、「いざとなったら行政が守ってくれるはず」といった意識から、住民が自ら危険を察知したり、安全な場所へ避難したりしない状態を指します。つまり、自分の命を行政にゆだねてしまっている状態です。それにも関わらず、行政が避難指示を出しても、「自分は大丈夫だろう」、「前回も問題なかったから今回も…」、「近所の人がまだ動いていない」といった理由で避難しない人が多いのが現実です。これが、人間の本質的な行動傾向の一つだと橋本氏は指摘されました。

一方、「中動態的防災」とは、「避難する・しない」といった行動を、「自ら積極的に動く（能動）」でも「命令されたから動く（受動）」でもなく、自分の気持ちや周囲との関係の中で自然に生まれる行動として捉えるという考え方です。

たとえば、行政からの避難指示には反応しない人でも、近所の子どもから「一緒に避難しようよ」と声をかけられると“ついつい行動してしまう”。これも人間の本質であり、「中動態的防災」とは、こうした“ついつい行動してしまう”を引き出す仕組みづくりが大切だと橋本氏は強調されました。

災害が迫ったとき、行政が一人ひとりを助けることはできません。だからこそ、中動態的防災の視点を取り入れ、住民の主体性を尊重し、地域のつながりを活かした防災のあり方が求められます。今回の講演を通じて、より多くの人が納得して行動できる、安心できる地域づくりの重要性を改めて感じました。

3. 情報交換会

講演会に引き続き、参加者による情報交換会を行いました。情報交換会は、小林（新）委員長のご挨拶と乾杯の音頭で開会し、講演内容を振り返る話題や、参加者同士の近況報告など、世代を問わず活発な意見交換が行われました。

最後は、安達（新）副委員長のご挨拶をもって、盛会のうちに閉会となりました。

4. おわりに

コロナ禍の影響でオンラインでも参加できる講演会が多く企画されておりますが、やはり「生で聞く」ことには特別な価値があります。オンラインでは、ついつい電話に出たり、メールをチェックしたりと“ながら参加”になりがちですが、会場で直接話を聞くと、目から耳から脳に刺激が与えられ、理解が深まり、記憶にも残りやすくなります。

また、講演後の情報交換会では、自然と「あの話、どう思った？」といった会話が生まれ、参加者同士の意見交換を通じて、さらに理解が深まります。初対面の方と話すのは緊張するものですが、共通の話題があることで、無理なく、自然にコミュニケーションが取れるのも対面ならではの魅力です。

防災委員会では秋に防災セミナーとして講演会＋情報交換会を企画しています。まだ参加されたことのない方は、ぜひ一度ご参加ください。きっと、新しい視点や気づきが得られるはずです。



写真-4　情報交換会の様子

活動レポート

日本技術士会北海道本部
青年技術士交流委員会

文責：青年技術士交流委員会 幹事　**笹森　健太**

青年技術士交流委員会　ワークショップ
「交流を通じてキャリアのヒントや技術士仲間を見つけよう」

青年技術士交流委員会では、例年実施していた新規合格者向け WS をリニューアルして、「交流を通じてキャリアのヒントや技術士仲間を見つけよう」をテーマに、新規合格者や技術士を目指す技術士補・修習技術者との交流を目的としたイベントを開催しました。

◆開催日時：令和 7 年 5 月 11 日(日)
　　14：00 ～ 16：00
◆開催内容：技術士のキャリアや資格の活用例などを聞いて、交流を通して技術士仲間を見つけるワークショップ
◆開催場所：北豆印商店 Café & Restrant
◆対象：修習技術者、新規合格者等
◆講演者：川本技術士、丸山技術士、横澤技術士

1. はじめに

青年技術士交流委員会では、合格祝賀会を終えた 5 月頃に新規合格者向けの WS イベントを行っています。これまでのイベントは比較的二次試験合格者向けの内容であったことから、修習技術者や技術士補にも役立つイベントとして、今回改めて企画し開催しました。

当日は、修習技術者 3 名、技術士補 2 名、新規合格者 1 名と青年技術士交流委員会メンバーを含む、計 14 名が参加しました。



写真-1　講演する川本技術士

2. 技術士からの講演

今回のイベントでは、最近技術士を取得した川本技術士(建設)、丸山技術士(建設)の 2 名と、横澤技術士(総監)の計 3 名の方に講演いただきました。



写真-2　講演する丸山技術士

講演では、技術士取得までの経緯や資格取得後の変化、取得して良かった事などを紹介いただきました。

3 名の講演では、資格取得によって発注者や周囲の方からの信頼や安心感が高まったという共通点があり、それが技術者としての自信につながっている様子が伺えました。本人の自己評価になる「自信」と他者の評価である「信頼感・安心感」が相互に影響し合い、高めあっている点が印象的でした。

また、「技術士に合格すること」がゴールではなく、「技術士になってから何を目指すのか、どのようなことをしていきたいのか？」という部分を改めて考えるきっかけとなる場面もあり、技術士という資格の意義を再認識する良い機会になりました。

3. グループに分かれての情報交換や交流

続いて、参加者は３つのグループに分かれて情報交換をしました。「いつから技術士を目指したのか？」、「試験会場の雰囲気はどんな感じ？」など、様々な質問や話題で大いに盛り上がりました。

技術士を目指すきっかけや取り組む姿勢は、人それぞれで、予想以上に多様であることを実感しました。しかしその多様さこそが、今回のイベントの価値になっており、参加者の皆さんにとっては、多様な情報に触れることで、自分に合った考え方を見つける良い機会になったのではないかと思います。



写真-3　講演する横澤技術士

4. 実施後の感想

イベント実施後の感想では、修習技術者の方から「これから技術士を目指すにあたり、取組み姿勢や時間の使い方など、さまざまな技術士のお話しを聞けて参考になった」との声が寄せられました。また、「これまでは、二次試験の受験資格を得るまで経験を積むことが大切だと思っていたが、今回のお話しを聞いて、今のうちから試験に向けた心構えを持つことの重要性に気づいた。」といった意見もありました。

筆者自身も、何度か試験に落ちた経験があるため、受験前に今回のように魅力的な技術士の方と気軽に意見交換や交流ができていれば、もう少し早く合格できたのではないかと思ってしまいます。

新規合格者からは、「技術士取得に向けての取り組み方は人それぞれであり、異なるアプローチがあることがわかって面白かった。」といった感想があり、技術士同士でも新たな発見があり、交流がより深まった様子が伺えました。

さらにある参加者からは、「講演者の方々の話し方やコミュニケーションの能力は、このような場で磨かれているのだと感じた。」との意見もあり、講演者にとっても、本イベントが自己成長の良い機会となったことが感じられました。



写真-4　ワークショップで交流する様子

5. おわりに

今回のイベントは、修習技術者と二次試験合格者をつなぐ場をつくってみたいという思い立ちからのスタートでしたが、本イベントに参加してくださった多くの方が、その後も当委員会の活動に継続して参加してくれていることから、実りのある良いイベントになったと感じています。

来年も新たに合格された技術士の方々を講師に招いて、内容をさらにブラッシュアップした形で開催したいと考えています。



写真-5　最後に全員で撮影した集合写真

活動レポート

日本技術士会北海道本部
青年技術士交流委員会

文責：青年技術士交流委員会　副委員長　**中村　和隆**

青年技術士支援委員会 拡大委員会

下記の内容にて、青年技術士支援委員会 拡大委員会に北海道本部青年技術士交流委員会から 7 名（参加者：藤井（web）、髙橋、笹森、中村、津田、鎌足、河本（web））で参加してきました。

◆開催日時：令和 7 年 6 月 21 日（土）
13：00 ～ 17：00（拡大委員会、交流会）
令和 7 年 6 月 22 日（日）
9：00 ～ 15：45（テクノツアー、懇親会）
◆開催形式：会議、交流会及びテクノツアー
◆開催場所：川崎教育文化会館及び
チバニアン
◆開催方法：対面形式
web 形式（拡大委員会、交流会）

以下にその内容をご報告します。

1. 拡大委員会議事（6 月 21 日）

拡大委員会では、青年技術士支援委員会 統括本部委員及び各地域本部 委員長が出席し、2024 年度の活動報告及び 2025 年度予算の審議がなされ、賛成多数により可決されました。議事に関する確認事項に関して質問及び意見が出され、活発な議論がなされました。

2. 各地域本部交流会（6 月 21 日）

拡大委員会後の交流会では、各地域本部から活動報告がありました。各本部の報告では、地域活性化のための活動など、各本部の地域に根差した活動が報告されました。北海道本部からは、昨年 10 月に開催された全国大会（札幌・北海道）を中心に、毎年実施している小学校への出前授業などについての報告を中村が行いました。

特に全国大会の青年イベントに関しては、テクニカルツアーやワークショップ内容などについて、当日の写真を交えながら詳細に報告しました。



写真-1　中村副委員長からの活動報告

次に各地域本部の遺産紹介プレゼン対決が行われ、北海道は笹森副委員長が発表しました。自然遺産として「知床」、産業遺産として「日本最古のコンクリート電柱」（函館市）、歴史遺産として「鮫様」（石狩市）を紹介しました。プレゼン対決ということで参加者からの投票がありました。残念ながら、1 位を取ることはできませんでしたが、ユーモアあふれる発表で会場の笑いをとる発表となりました。



写真-2　笹森副委員長からの遺産紹介プレゼン

交流会の最後に恒例行事として、拡大委員会に初めて参加するメンバーからの自己紹介がありました。拡大委員会に初めて参加される方の大半は、昨年の全国大会に参加されていましたが自己紹介を通じて、改めて全国の仲間に加わることになった貴重な機会となりました。

交流会後は、立食形式の大懇親会が開催され、各地域本部の仲間たちと色々な対話をしました。後半ではくじ引きによりグループ分けを行い、各地域本部から一問ずつご当地ネタのマニアックな三択クイズが出題され、グループごとに話し合いながら解答しました。そのマニアックなクイズに関する簡単な解説を各地域本部（北海道は津田幹事）からしてもらうことで新たな知見を得るなど、全国の参加者と交流を深めることができました。



写真-3　交流会後の懇親会の様子

3. テクノツアー（6 月 22 日）

テクノツアーでは、千葉県市原市にあるチバニアン（地磁気逆転地層）を見学しました。この地層は、約 77 万年前に起きた最後の地磁気逆転現象前後の連続的な海底堆積層が、地上で観察可能であり、白尾火山灰層によって視覚的に見やすく、かつ年代が特定されており、当時の環境変動を復元できる微化石や花粉化石も良好に保存されている、地球上で稀有な地層です。

そのため、令和 2 年 1 月 17 日に国際地質科学連合の理事会において、市原市田淵の地磁気逆転層を含む地層「千葉セクション」を、地質年代に示す更新世前期と中期の国際境界模式地とすることが承認されました。

地質年代を区分する地層が見られることは世界中でも稀有なことであり、地層の成り立ちなどを学ぶ機会となりました。



写真-4　地磁気逆転地層

4. おわりに

昨年の全国大会に続き、全国の技術士と二日間にわたり交流会、テクノツアーを通じて深い交流をすることができました。

このような全国の技術士と交流できるイベントに参加することで、異業種、世代を超えた技術士との対話により、高いモチベーションを持った技術士から知識、考え方や対話力など多くの刺激を受けることができました。

技術士として継続研鑽を続けていくためには、普段と違う刺激を受けることが重要であり、それは自ら進んで受けるべきと考えます。

特に若い技術士は、技術士としての資質向上やモチベーションを高めるためにも、全国の技術士と交流できる場面へ積極的に参加してみてください。あわせて、我々青年技術士交流委員会の活動にも参加してもらえると嬉しいです。



写真-5　テクノツアー後の懇親会の様子

活動レポート

日本技術士会北海道本部
倫理委員会

文責：倫理委員会　幹事　小川　直仁

令和 7 年度第 2 回研究 WG（全体）活動報告

1. はじめに

倫理委員会では、以下の内容で令和 7 年度第 2 回倫理委員会研究 WG（全体）を開催しましたので報告いたします。

○　令和 7 年度第 2 回倫理委員会研究 WG（全体）
開催日　2025 年 6 月 11 日（水）
場　所　かでる 2・7 610 会議室
参加者　19 名（対面：16 名、Web：3 名）

2. 令和 7 年度第 2 回倫理委員会全体 WG

(1) 冨澤委員長挨拶

冨澤委員長が欠席のため、冒頭挨拶を兼ねたコメントについて佐々木技術士より代読がありました。

内容は、各種倫理研修での対応、技術者倫理フォーラム、今後の委員会活動等に触れられたほか、新体制として委員長となる佐々木技術士を中心に現状で取り組む技術者倫理の研究・啓発の積極的な活動展開に関する一層の期待と激励がありました。

(2) 技術者倫理フォーラム

7 月 2 日に開催が迫る「第 15 回技術者倫理フォーラム」について、開催直前の各種調整および WG 活動報告に関する議論を行いました。議論の主な内容は以下の通りです。

○　フォーラム当日の役割分担
○　司会の進行内容
○　WG 活動報告 1「技術者倫理動向」の内容確認
○　WG 活動報告 2「辞書が定義づける倫理と、エンジニアに必要な倫理」の内容確認

今回の技術者倫理フォーラムから、昨年度より始めた旭川サテライト会場に加えて、苫小牧サテライト会場、函館サテライト会場の計 3 会場でのサテライト開催を行うことしました。各サテライト会場においても CPD 行事受講証を発行できるため、各地域で活躍する技術士や技術者の皆さんに広く継続教育による研鑽の機会となれば幸いです。

(3) WG 活動報告 1

WG 活動報告 1 は「技術者倫理動向」と題して、冨澤技術士よりフォーラムにて報告することになりました。

主な内容は、日本技術士会統括本部倫理委員会の位置づけを出発点に、日本技術士会倫理綱領の改訂状況、統括本部倫理委員会の活動動向および、それらを踏まえた今後の北海道本部倫理委員会での活動の方向性についての報告となります。

(4) WG 活動報告 2

WG 活動報告 2 は「辞書が定義づける倫理と、エンジニアに必要な倫理」と題して、高橋技術士によりフォーラムにて報告することになりました。

根源に立ち返って「倫理という単語」の意味付けからの探求を行うとともに、他の異業種における倫理綱領と技術士倫理綱領との比較を行いました。



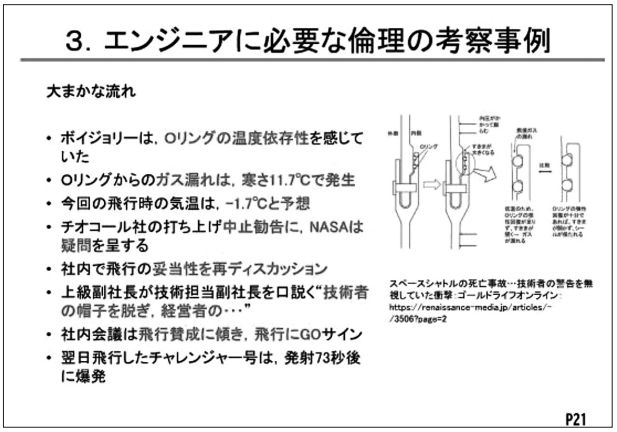
高橋技術士発表資料（異業種の倫理綱領）

また、エンジニアに必要な倫理の考察事例としてチャレンジャー号爆発事故を題材として、技術者倫理における組織的問題点と個人的問題点の側面からの考察を行い、この事故に関わりのある人物別にそれぞれの経営者としての立場、技術者としての立場での問題点と課題について整理を行いました。

加えて、異なるアプローチ・視点からのチャレンジャー号爆発事故の捉え方を把握するため、Wikipedia（ウィキペディア）と ChatGPT ではこの事故の何をどう語っているのかについて調査しました。

ここで、Wikipedia（ウィキペディア）とは、世界中のボランティアによって共同で執筆・編集されているインターネット上の百科事典のことです。誰でも自由に閲覧・編集できる環境下に置いて、この事故をどのようにとらえているか興味深く調査を行いました。結果として、Wikipedia ではロジャース委員会報告を中心とした解説となっていました。

次に、ChatGPT とは、OpenAI 社が開発した、人間のように自然な文書で対話できる AI チャットボットのことです。説明するまでもなく、現在では世界中で多くのユーザーに利用されています。結果として、ChatGPT では、バージニア大学オンライン倫理センターにおける資料等を中心とした解説となっていました。



高橋技術士発表資料（事故の大まかな流れ）

WG 活動報告 2 の主なねらいは、当倫理委員会において、各委員が自由闊達に議論し、「判断のよりどころ」を自分なりに習得できるようにする活動の一端について、活動事例を交えてフォーラムに参加していただいた方々にご紹介することを意図しています。少しでも技術者倫理に興味を持っていただき、技術者倫理の啓蒙・普及を図っていければと考えています。

(5) 今後の体制について

前回、令和 7 年度第 1 回研究 WG（全体）で審議・了承となった 7 月からの新体制について改めて情報共有しました。

令和 7 年度 倫理委員会体制

	令和 6 年度	令和 7 年度
委員長	冨澤技術士	佐々木技術士
副委員長	池田技術士 中埜渡技術士	中埜渡技術士 —
幹事長	佐々木技術士	佐藤技術士
副幹事長	佐藤技術士	—
幹事	山本技術士 長谷川技術士 小川技術士 本橋技術士	山本技術士 長谷川技術士 小川技術士 本橋技術士 庭田技術士 高橋技術士
相談役	日下部技術士	冨澤技術士 池田技術士



第 2 回研究 WG（全体）の様子

3. おわりに

倫理委員会ではメンバーを募集しております。倫理委員会のメンバーとの意見交換や交流を通じて、技術者倫理についてさらに深く考えてみませんか？

活動レポート

日本技術士会北海道本部
技術士試験委員会

文責：技術士試験委員会　幹事長　**澤口　雄介**

令和 7 年度技術士第二次試験　筆記試験の実施報告等

1. 申込者数と受験者数の推移

令和 7 年 7 月 20 日(日)～ 21 日(月・祝)に実施された令和 7 年度 技術士第二次試験 筆記試験について､申込者数と受験者数の推移を以下に示します。

(1) 1 ～ 20 技術部門(総監以外の技術部門)

全国的には申込者数・受験者数ともに昨年度より増加しています。北海道についても申込者数・受験者数ともに昨年度よりやや増加となっています。

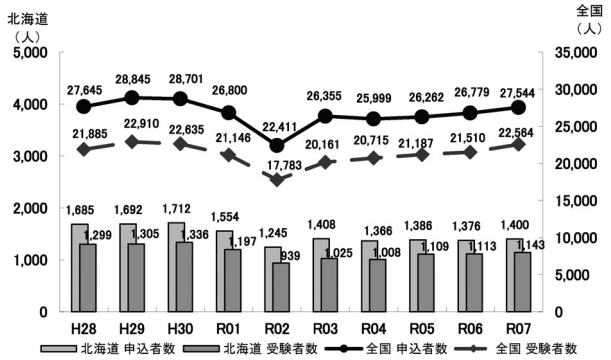


図-1　申込者・受験者数の推移(1 ～ 20 部門)

(2) 総合技術監理部門

昨年度と比較して、全国的には申込者数・受験者数は増加しています。北海道については、申込者数は微増、受験者数は微減となっています。

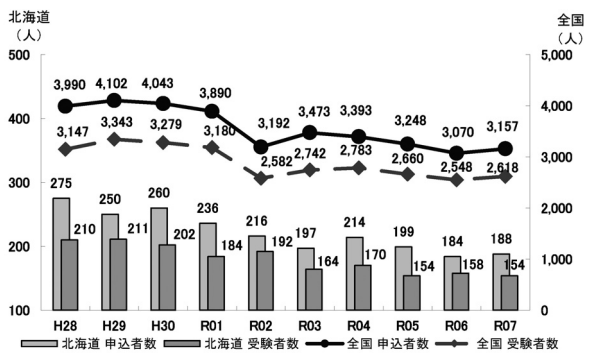


図-2　申込者・受験者数の推移(総合技術監理部門)

2. 試験の実施状況と今後の予定

(1) 試験実施状況

試験会場は、昨年度と同じく「北海学園大学豊平キャンパス」でした。7 月 20 日、21 日ともに最高気温は 30℃を超え、厳しい暑さの中での試験となりました。試験室内は冷房が効いていましたが、会場への往来や試験室外では暑さを感じる受験生も多かったと思います。

今年 6 月から改正労働安全衛生規則が施行され、「職場における熱中症対策の強化」が必要となりました。試験会場においても同様であり、受験者、試験関係者ともに、こまめな水分補給や休憩等、熱中症対策に留意しての試験となりました。

支援者の皆様には、受験者に対して、受験指導とともに、熱中症対策にも留意して試験に臨むよう、今後ともご指導いただくことをお願いいたします。

(2) 今後の予定

第二次試験の今後の予定は、以下の通りです。

- 筆記試験合格発表：令和 7 年 11 月上旬
- 口頭試験：令和 7 年 12 月上旬～令和 8 年 1 月中旬のうちあらかじめ受験者に通知する日
- 口頭試験合格発表：令和 8 年 3 月中旬

3. 技術士第一次試験の概要

技術士第一次試験の概要は、以下の通りです。

- 期日：令和 7 年 11 月 23 日(日)
- 会場：10 月下旬に公表の予定
- 合格発表：令和 8 年 2 月下旬

第一次試験は、第二次試験に反して厳しい寒さの中での試験と予想されます。体調には十分留意し、試験に臨んでいただきたく思います。

活動レポート

日本技術士会北海道本部　地方委員会
道央技術士委員会

文責：道央技術士委員会　**伊勢谷　智映**

令和７年度総会及び意見交換会

1. はじめに

去る５月９日(金)に行われました「第 34 回道央技術士委員会総会及び意見交換会」について報告します。

開催日：令和７年５月９日(金)
場　所：ホテルウィングインターナショナル苫小牧
時　間：17：00 ～ 20：00

総会は例年室蘭と苫小牧で開催しており、今年度は苫小牧にて総勢 18 名で行われました。今年は４月に比較的雨が多く肌寒い日が続いていましたが、当日は好天に恵まれ、北海道にもようやく暖かく過ごしやすい時期が訪れたことを実感する陽気のなかで行われました。

2. 総会

(1)　議案

昨年度の活動報告として、防災委員会 WEB 講演会(能登半島地震～災害対応関連)、施設見学会(五洋建設株式会社 札幌支店 室蘭製作所～工場見学、株式会社苫東～苫東地域視察)の報告がありました。また今年度の活動予定として、例年実施している施設見学会(2 回)、講演会・技術研修会に加え、数年前から検討を進めてきた「防災まち歩き」を苫小牧で実施予定とする旨の報告がありました。

その他、今年度は７月に①第 15 回 技術者倫理フォーラム(札幌)の苫小牧サテライト会場での開催、②第 46 回 技術者交流フォーラム事業 in 室蘭の開催、そして９月中旬～ 10 月中旬には胆振・日高を含む地域で事業委員会宿泊研修が行われる予定との説明がありました。

以上の通り、今年度は当委員会において多種多様なイベントの開催が予定されております。



写真-1　総会の様子

(2)　北海道本部事務局次長の挨拶

北海道本部事務局次長　小澤達也氏より「技術士を巡る最近の動向」を話題としたご挨拶がありました。話題は試験結果、統括本部からの話題及び北海道本部の主な動向についての報告がありました。

統括本部からの特筆すべき話題としては、本年１月に開催された第 12 期技術士分科会での検討内容に関するもので、主に技術士育成・若手技術者支援のための IPD 制度(IPD：Initial Professional Development/初期専門能力開発)の整備・充実、また技術士資格取得後の継続研鑽(CPD)の充実・強化等、技術士制度改革における継続的検討事項について説明いただきました。



写真-2　小澤氏のご挨拶

3. 意見交換会

本年度の意見交換会は、懇親会を兼ねる形で開催しました。田中代表幹事の乾杯の音頭で開会され、総会の内容についての話題や参加者の近況報告など、技術部門や世代を問わず技術情報の交換が活発に行われました。



写真-3　意見交換会・懇親会の様子

懇親会では、近況報告の一環として昨年度の技術士第二次試験に見事合格した 2 名による報告がありました。

株式会社タナカコンサルタントの中河技術士は、建設部門で合格されました。筆記試験時は身につけていたスマートウォッチが試験会場で使用できず、時間の確認ができない状態で受験したことなど、合格した今だから言える、的なエピソードをいくつか披露していただきました。

30 歳の若さでの合格とのことで、今後は技術士として益々のご活躍を期待しております。

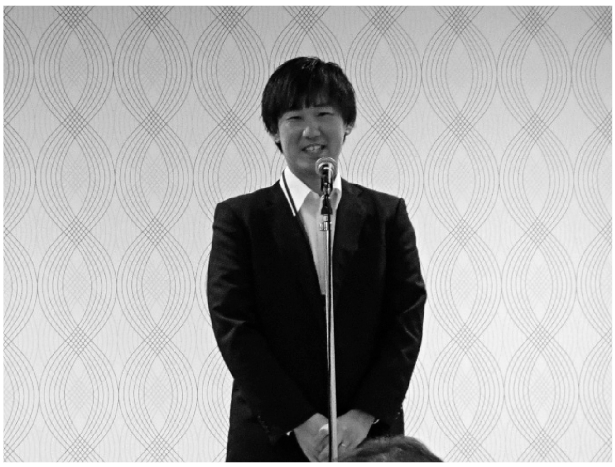


写真-4　合格報告①：中河技術士（建設部門）

株式会社胆振の矢野技術士は、令和 4 年度の建設部門に続き、今回は総合技術監理部門で合格されました。短期間での総監合格、素晴らしいですね！

矢野技術士は以前、建設部門受験時の口頭試験前に知恵熱が出た話を披露していただいた記憶がありましたが、今回は口頭試験直前まで模擬面接を繰り返すなかで涙が出てきたというエピソードを披露いただき、前回と同様、再び会場が笑いに包まれました。総監合格に至った努力･経験を糧に､今後も益々のご活躍を期待しております。

最後に盛山幹事の挨拶と締めのご発声をもって、盛会の内に閉会致しました。



写真-5　合格報告②：矢野技術士（総合技術監理部門）

4. おわりに

能登半島では昨年 1 月の能登半島地震と同年 9 月の記録的豪雨による二重被災に見舞われ、地域に甚大な被害をもたらしました。また胆振管内には有珠山、倶多楽、樽前山の常時観測火山があり、特に前回噴火から 25 年が経過した有珠山は、次の噴火がいつ始まってもおかしくないとも言われています。

このように、我々の生活は様々な災害リスクを抱えています。防災意識向上の重要性が増しているなか、当委員会で実施予定の防災まち歩きでは、災害時の被害軽減の観点等から技術士として提案できることを検討していきたいと考えております。

さて、当委員会では今年度も前述した各イベント開催を予定しており、より技術の研鑽に励むとともに、技術を以て持続的に地域への貢献を図っていきたいと考えております。

活動レポート

日本技術士会北海道本部　地方委員会
道央技術士委員会
文責：道央技術士委員会　**長谷川　哲也**

第 46 回 技術者交流フォーラム事業 in 室蘭

火山防災　― 火山と共生していくために ―　開催報告

1. はじめに

道央技術士委員会は、令和 7 年 7 月 23 日(水)に国土交通省 北海道開発局 室蘭開発建設部、国立研究開発法人 土木研究所 寒地土木研究所と共同で、「第 46 回 技術者交流フォーラム事業 in 室蘭」を開催しました。

本フォーラムでは、火山防災の課題や取組事例の紹介、情報交換を通じて、産学官の技術者交流及び連携を図り、災害対策充実の一助とすることを目的に開催されました。



写真-1　会場の様子(参加者 142 名)

2. 開催概要

◇開催日時：令和 7 年 7 月 23 日(水)13：30 ～ 17：00
◇開催地　：室蘭プリンスホテル(室蘭市中央町)
◇開会挨拶：室蘭開発建設部長　佐藤　徹
◆基調講演：
胆振地方の活火山と噴火による災害について
　　室蘭地方気象台 火山防災官 宇内 克成 氏
◆技術者の交流(パネル展示)：
◆一般講演：
1. 樽前山における火山砂防の取り組み
　室蘭開発建設部 苫小牧砂防海岸事務所長
　　松井 博幸
2. 有珠山 2000 年噴火後の対策と火山噴火緊急減災対策
　公益社団法人 日本技術士会北海道本部
　防災委員会防災・減災支援ワーキンググループ
　　阿部島 啓人
3. 1977 年の有珠山噴火後の火山砂防の発展と泥流研究の取組み
　土木研究所 土砂管理研究グループ
　　火山・土石流チーム 主任研究員 清水 武志
◇閉会挨拶：寒地土木研究所長　井上勝伸

3. 基調講演

胆振地域には、有珠山、倶多楽、樽前山の 3 つの常時観測火山があり、温泉や風光明媚な景観なども観光資源として地域にもたらし、多くの観光客が訪れる場所になっています。その一方で噴火活動により人々の生活や物流に大きな影響を与え続けている危険な一面を併せ持っています。

火山災害に備えるためには、火山に関心を持ち、その特徴の把握、噴火の事例からどんな災害が起こるか知っておくことが必要です。噴石、火砕流、火山泥流、降灰における事象から、3 火山の防災情報の噴火域レベルをご説明いただきました。



写真-2　宇内 克成 氏の基調講演

4. 技術者の交流（パネル展示）

フォーラムでは、各機関からの火山防災や減災に関するパネル展示が休憩所も兼ねて、会場横に設けられており、盛んな技術者交流が随所で行われました。



写真-3　パネル展示場での技術者交流

5. 一般講演

(1) 樽前山における火山砂防の取り組み

樽前山の噴火の歴史、周辺の状況、砂防設備を配置する課題を示され、実際に施工されている砂防堰堤の概要、施工手順、DX の取組（ICT 施工）についてご講演いただきました。



写真-4　松井 博幸 氏の講演

(2) 有珠山 2000 年噴火後の対策と火山噴火緊急減災対策

道央技術士委員会では、火山防災のエキスパートが在籍していないため、日本技術士会北海道本部防災委員会から 阿部島啓人 氏に講演を依頼しました。

直近の噴火である、2000 年噴火の被害状況から観測機器設置等のソフト対策、砂防堰堤施工等のハード対策を示しいただき、その経験からの緊急減災対策として、「有珠山火山噴火緊急減災対策砂防計画」における関係機関との連携・協力体制（ワーキンググループ）で北海道、開発局、国有林、気象庁、周辺自治体などが協力して実施していくものであるとご講演いただきました。



写真-5　阿部島 啓人氏の講演

(3) 1977 年の有珠山噴火後の火山砂防の発展と泥流研究の取組

過去の火山災害を事例やデータから、死傷者数が多い泥流は降灰後の弱い雨によって頻発する。有珠山の噴火によって、火山防災が始まったこと、新しいハード対策が実践された。最後に有珠山噴火のデータを電子化についてご講演いただきました。



写真-6　清水 武志氏の講演

6. まとめ

私たちの活動拠点である胆振地域の活火山。過去の火山災害から様々なハート・ソフト対策が実践されており、全国的に災害が多いと感じる昨今ですが、大変心強く感じました。

しかし、災害はいつ起こるか予想できない事象で、胆振東部地震の発生から私たちも学んでいます。特に 2000 年以降の有珠山についてはこの地域の人々が気になるところで、フォーラムが盛況だった理由のような気がします。

道央技術士委員会としてもこのフォーラムを契機に活動の場を広げて、地域防災、減災への貢献に目を向けて行こうと考えています。

活動レポート

日本技術士会北海道本部　地方委員会
道北技術士委員会

文責：道北技術士委員会　幹事　**山口　忠幸**

令和７年度　定期総会および研修会　開催報告

はじめに

道北技術士委員会では定期総会および研修会を開催しました。当日は会員、会友など総勢 35 名の参加者が会場に集まり、高桑代表幹事は WEB での参加となりました。以下にその概要を紹介します。

日時：2025 年(令和 7 年)6 月 28 日(土)
　　14：00 ～ 17：30
場所：道北経済センター 6 階研修室

1．研修会

高桑代表幹事による開会の挨拶(WEB)の後に研修会が開催されました。



写真-1　道北技術士委員会　高桑氏

演題 1：技術士を巡る最近の動向 2025

講師：道北技術士委員会　幹事　佐藤　勉氏
概要：以下の 5 点について解説を頂きました。
(1) 令和 6 年度 技術士一次試験結果
(2) 令和 6 年度 技術士二次試験結果
(3) 日本技術士会北海道本部の会員数
(4) 令和 6 年度総括本部(理事会等)からの話題
(5) 日本技術士会北海道本部の主な動向

演題 2：北海道におけるエアモビリティの活用提案と現在の状況

講師：株式会社トクラボラトリ
　　代表取締役 徳永　誠氏
概要：以下について講演を頂きました。
(1) 会社概要

急速な人口減少によって維持が困難になるインフラ問題に対応するため、長寿命化と効率的な点検を柱に事業展開を行う新会社です。また、ドローンタクシーによる人･物の移動や観光にも注力しており、特に中国製 eVTOL の活用により、既存インフラに依存しない交通手段として地域活性化を目指します。

(2) エアモビリティで地域を支える
目的：道路インフラに頼らない新たな移動手段として、地域活性化・観光振興に貢献
使用機体：中国製「EH216-S」2 人乗り自動運転ドローン(eVTOL)航続距離 35km、巡航速度 100km/h、飛行時間約 21 ～ 40 分固体電池での飛行(航続時間 60 ～ 90%向上)
地域活用例(北海道)：滝川を拠点に観光地(赤平炭鉱、芦別ホテル、富田ファーム)を短距離で結ぶ地域資源を“空から”つなぐことで観光価値を向上
今後の展望：自治体や企業と連携し、「空飛ぶクルマ」の社会実装を目指す。



写真-2　講演するトクラボラトリ　徳永氏

ドローンの特許は、その 85％を中国が取得しているため、国産のドローン開発が進まない原因となっているようです。空飛ぶ車が実用化される未来に向け様々な取り組みや活動が行われていることを知ることができました。

演題 3：技術士会活動がつくるミライ

講師：技術士会北海道本部幹事
株式会社エムリンク札幌　代表取締役
まちづくり推進室長/保育部門長
株式会社 LinG　代表取締役　永井登茂美氏

概要：以下のテーマで講演を頂きました。

(1) 技術士会活動と私のかかわり

技術士資格取得をきっかけに、技術士会へ入会（2005 年）青年技術士交流委員会（2013 ～ 2014 委員長）北海道本部幹事、青年技術士交流委員会卒業後は社会活動委員会（幹事長、委員長）、技術者のミライ研究委員会、エンジョイサイエンス研究委員会、倫理委員会と様々な委員会で活動しています。

(2) 技術士会活動から得たもの

全国の同世代や異なる分野の技術者とつながることで、多様な視点や知識を吸収し、自己研鑽を深めることができました。様々な委員会での企画・運営経験を通じて、リーダーシップも養われました。学生や地域との交流を通じて社会貢献の意義を実感し、技術者としての責任や倫理観も強く意識するようになりました。また、家族の理解や支えが得られる活動環境により、継続的かつ楽しく関われることも大きな成果であり、これらの経験は、技術者として、人間としての幅を広げる機会となりました。

(3) 技術士会活動の可能性

技術士会活動には、世代や分野を超えた交流を通じて視野を広げ、自己成長とキャリア形成を支える力があります。地域活動や学生支援、異業種との連携を通じて社会に貢献でき、技術者の存在意義を高める場でもあります。活動を通じて得られるつながりや経験は、個人の未来だけでなく、地域社会や業界全体の発展にも寄与する可能性を持っています。



写真-3　講演する技術士会北海道本部幹事　永井氏

2. 総会

小椋幹事の挨拶後に、議長に選出された長谷川幹事の進行により 2 項目の報告が行われました。

第 1 号報告：令和 6 年度事業報告および決算報告
第 2 号報告：令和 7 年度事業計画案および予算案

令和 6 年度の事業等の活動紹介を行い、決算報告を行いました。令和 7 年度の事業計画としては、令和 6 年度に諸事情により実施できなかった現地研修会について、本年度は実施する計画であることを報告しました。

本年度は、役員改選期に当たり高桑氏から小椋氏へ代表幹事が交代し、また、新任幹事として菊田氏、金子氏が就任しました。退任された高桑氏、長谷川氏には、長年にわたり道北技術士委員会の運営に多大なるご尽力を賜り、心より感謝申し上げます。



写真-4　定期総会および研修会参加者の集合写真

おわりに

普段なかなか顔を合わせる機会のない方もいる中、会員相互の交流を深めるとともに、最新のエアモビリティに関する情報や技術士会活動の広がりに触れることができ、大変有意義な時間となりました。ご講演いただいた講師の皆様、そしてご参加いただいた皆様に深く感謝申し上げます。

活動レポート

日本技術士会北海道本部　地方委員会
オホーツク技術士委員会
文責：オホーツク技術士委員会　幹事　**舟久保　光基**

令和７年度
第１回技術講演会

1. はじめに

オホーツク技術士委員会では、社会貢献活動の一環として年２回、技術講演会を開催しています。

令和７年度第１回目の技術講演会を令和７年５月30日に開催しましたので、報告いたします。

技術講演会は官公庁、建設業、コンサルタント業など、総勢49名という多数の参加者を迎え、開催することができました。



写真-1　技術講演会の様子１



写真-2　技術講演会の様子２



写真-3　司会の高木幹事



写真-4　橘代表の開会挨拶

2. 技術講演会

○日　　時：令和７年５月30日(金)
　　午後３時30分
○場　　所：北見プラザホテル(北見市)
○講演内容：インフラ整備の変遷とあるべき姿
　講　　師：オホーツク技術士委員会
　　技術士(建設部門)　大澤　公浩 氏

当委員会幹事であり遠軽町経済部建設課職員である大澤技術士より、インフラ整備の変遷とあるべき姿についてご講演いただきました。



写真-5　大澤技術士

(1) はじめに

大澤技術士が勤務している遠軽町についての紹介がありました。人口 17,646 人（令和 6 年 12 月 31 日現在）の町で、近年の話題としては道の駅開業、芸術文化交流プラザ開業、白滝遺跡群出土品の国宝指定、更には今年度中に新庁舎が完成予定と、遠軽町においてもインフラ整備を軸に賑わいのあるまちづくりが進んでおります。

このようにインフラ整備がまちに賑わいをもたらす反面、公共施設の崩壊が昨今顕在化しており、市民生活へ甚大な影響を与えていることが今回の講演テーマの決め手になったとのことです。



写真-6　完成イメージ「遠軽町新庁舎」

(2) インフラ整備の歴史的変遷

人類史の初期には「水を制する者が国を制する」という格言に象徴されるように、水資源の管理が社会形成の基盤となったそうです。

古代エジプトではピラミッド建設を通じて港湾・道路・運河など都市インフラが発展し、権力の象徴とともに生産性向上に寄与したとのこと。

我が国でも、石器を使用していた縄文時代や一部で青銅器が使われた弥生時代、平城京や平安京時代があった奈良時代など、豪族が活躍した時代には荘園内のインフラ整備が活発に行われていたことが遺跡や古文書から読み解くことができるとのこと。

その後の戦国時代を経て 260 年続いた江戸幕府時代にも、幕府や地方大名は防衛のために築城を行い、生産性向上を目的としてかんがい施設、ため池、運河の開削などインフラ整備が推進されたそうです。

(3) 江戸時代のインフラ整備

江戸時代には、幕府は地方大名の勢力の抑制、内乱防止、地方経済及び文化の情報収集、幕府への忖度などの目的で「参勤交代制度」が制定され、この時代には、東海道、甲州街道、中山道、日光街道、奥州街道といった街道が整備されたとのこと。

それらの街道筋には、人が一日に歩ける距離 8 里～ 10 里（約 32 ～ 40km）ごとに宿場町が作られたそうです。宿場町では武家社会のみならず町民文化も発展し、宿泊施設をはじめ、住民が快適な生活を送るために必要な上下水道、道路、歌舞伎や落語小屋、遊郭施設、コミュニケーション施設など、多くのインフラ施設が整備されたそうです。

幕末には黒船来襲の防御のために砲台や港湾などが整備されたとのこと。

(4) 明治維新後のインフラ整備

明治には「富国強兵」のもと鉄道・通信・ダムなど近代インフラが急速に整備され、台湾の八田ダムや満州鉄道など海外にも展開したそうです。

昭和初期の小河内ダム（奥多摩湖）建設は大都市用水源を確保する一方、住民の犠牲を伴った典型例であり、大規模インフラ建設には常に社会的トレードオフが存在することを示しているとのこと。

戦後は「所得倍増計画」「列島改造論」を背景に東京オリンピックの開催、高速道路、新幹線、下水道などが一斉に整備されたそうです。

しかし、環境を無視した産業優先による公害の発生や耐久性不足も生じ、その多くが更新期を迎え、

経年劣化が原因の事故も顕在化しているとのこと。

(5)北海道の開拓とインフラ整備

北海道は明治以降「未開のフロンティア」として開発が推進され、鉄道や道路が資源輸送や定住を支えてきたとのこと。

1952 年(昭和 27 年)には、札幌千歳間道路(国道 36 号)が 1 年で約 35km の改良工事を経て完成したとのことで、この工事では大量の建設重機の投入、アスファルト舗装の全面採用、高速走行に適した道路設計等の先駆的技術が試行されたそうです。

この工事での凍上対策工(凍上抑制層)が、その後の寒冷地対策のスタンダードとなったそうです。

(6)維持管理とストックマネジメント

少子高齢化、税収伸び悩み、資材高騰、人材不足など厳しい環境下で、既存施設を一斉更新することは困難であるため、近年はストックマネジメント方式が導入されてきているそうです。

ストックマネジメント方式は、ライフサイクルコストを最適化しつつ、補修・補強を繰り返して機能を延命する手法とのこと。

完全な回復は不可能であるが、進める中で習得した計画、設計及び工事の新技術、経済効果、住民の満足度などを評価して、次の更新に活かすことで「進化し続けること」が重要とのこと。

現状の調査診断技術では、時間と費用がかかるといった問題が多いため、AI・ドローンなどの新技術の確立が必要不可欠になっているとのこと。

また、施設更新は技術的検討だけでなく、防災・医療・教育・経済・観光などとの関わりを踏まえ、人口動態や住民意向を考慮する必要があるとのこと。

大澤技術士は「最終判断は政治家が下すが、会場には沢山の行政マンや建設コンサルタントを生業としている方々が大勢いらっしゃると思いますのでインフラ整備計画の際には積極的にパブリックコメントを出して頂きたい」と述べました。

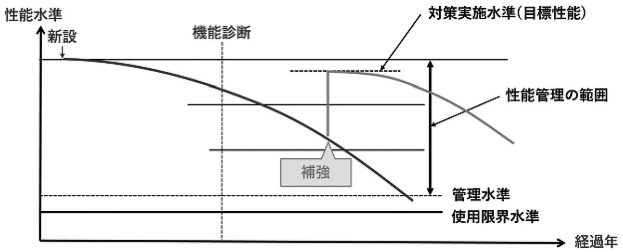


写真-7　ストックマネジメントの概要

(7)国際比較と日本の課題

日本の公共投資水準は G20 の中で下位にあり、英国と比較しても 5 分の 1 に過ぎないとのこと。

世界競争力ランキングでも順位を落としており、特に暫定 2 車線の高速道路は重大事故や災害対応の面で脆弱であり、早急な改善が求められるとのこと。

財政面では、2024 年度の税収は約 69.6 兆円だが、歳出面においては、社会保障関係費がその半分以上を占め、インフラ投資の余地は限定的であり、少子化対策や子育て支援が優先されるなか、インフラ整備費の増額は難しい状況となっているとのこと。

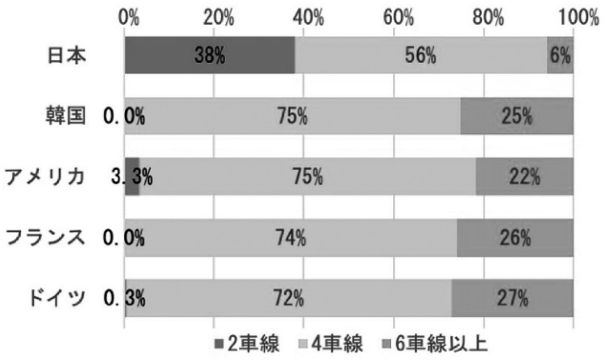


写真-8　高速道路の車線別延長比
出典　国土交通省

(8)生産性向上の取り組み

建設技能労働者は 20 年前の 400 万人から 300 万人に減少し、今後も高齢化等で更なる減少が見込まれるそうです。

この様な状況下、生産性向上の取り組みとして、2020 年令和 2 年に完成した群馬県の八ッ場ダムの取り組みを挙げられました。

堤高 116m、堤頂長 291m、堤体積約 100 万 m3、総貯水量 1 億 750 万 m3 の重力式ダムで、計

画から 70 年で竣工したものだそうです。

重力式ダムの基礎掘削は通常の掘削工事と異なるそうで、掘削予定線よりも早く基礎となる岩盤が現れた場合にはそこで掘削を終了し、予期しない弱層が出現した場合には、基礎となる岩盤が現れるまで掘削を行うなど、岩盤の状況に応じて随時、掘削予定線が変更されるとのこと。

在庫の利かないダム堤体の建設に必要なコンクリート数量は、掘削作業を進めながら、コンクリート打設直前に横断測量を行い、断面図を作成して形状を把握していたが、現場の岩盤面には凹凸があり、精度と迅速性確保が難しいものであったとのこと。

このため、3D スキャナーで測定したデータを基に 3 次元モデルを構築したところ、このモデルの誤差は 1cm 程度となったそうです。

結果として、十分な精度を確保し、従来の方法と比較して労力を 1/10 に減らせたそうです。

このような例からも、やはり新技術の活用は人材不足解消と生産性向上に不可欠とのことです。

(9) まとめ

大澤技術士は「インフラが壊滅すれば自然災害、敗戦後の日本、戦時下にある国、デフォルトに陥っている国々の現状を見ても悲惨なことになることは一目瞭然。特に災害時に一番犠牲を受けるのは子供達や災害弱者です。政府は国民にインフラ整備が一朝一夕に行かないことを理解して頂き、平時からコツコツとインフラ施設の維持管理及び更新の実施計画を立案しておくことが最も重要」とまとめました。

最後に、講演にあたって協力いただいたサン技術コンサルタント（株）島田会長を始めとした社員の皆様への感謝の意を表し、講演を締めくくりました。

3. 定期総会

○日　　時：令和 7 年 5 月 30 日（金）
　　午後 2 時 30 分～
○場　　所：北見プラザホテル（北見市）
○議事内容：
(1) 2024 年度　事業報告
(2) 2024 年度　会計決算及び監査報告
(3) 2025 年度　事業計画案
(4) 2025 年度　会計予算案
(5) 定款変更
(6) 役員改選

定期総会は技術講演会の前に開催されました。橘代表の挨拶から始まり、滞りなく進められました。

また、今年度は役員改選の年でもあり、新規体制については、出席会員の拍手により承認されました。



写真-9　総会の様子

4. 情報交換会

技術講演後、恒例である情報交換会を技術講演会場のホテルにて開催しました。情報交換会では終始、和やかな雰囲気で会員相互の一層の親交を深めることができました。



写真-10　情報交換会の様子

5. おわりに

当会は今後も幅広い方に講演会などを通じ、活動することで技術士への理解促進と社会貢献活動に取り組んでいきたいと考えています。

活動レポート

日本技術士会北海道本部　社会活動委員会
エンジョイ・サイエンス研究委員会
文責：エンジョイ・サイエンス研究委員会　幹事長　**堂領　弘昌**

令和７年度　「科学実験出前授業」活動報告

「新規！科学実験教室 札幌市 子ども食堂ゆいカフェ」

1. はじめに

エンジョイ・サイエンス研究委員会（以下「ES 研」）は、子どもの理科離れが危惧される中、子どもたちが体験を通じて、科学がもつ価値を理解し、科学への興味を持つきっかけをつくり、科学技術者を目指す人材育成につなげることを目的に活動しております。今回の活動報告は、新規で実施しました札幌市中央区子ども食堂ゆいカフェでの科学実験教室の活動を報告します。

2. 新規の実験教室開催までの経過説明

令和７年２月３日（月）に社会活動委員会が異業種交流会を開催しました。弊会からは小山田技術士、成田技術士および千葉技術士が参加し、子ども食堂を運営している松塚さんと木村さんと交流しました。すると技術士会と何かできないかと話が盛り上がり月イチで開催している子ども食堂にご招待いただき、３月 12 日（水）、千葉技術士、成田技術士と筆者の３名で子ども食堂の規模等を視察してきました。

子ども食堂ゆいカフェでは、15：00 ～ 19：00 まで食事を提供しており、近所の小学生中高学年が 50 人ほど、入れ替わりで集まっておいしそうに食事をとっていました（子どもの密度がすごかったです）。子ども達の帰宅後 20：00 くらいから打ち合せを行い、子ども食堂とは別の日にカフェでイベントを開催しているとのことで、技術士会も何かやらないかいとご提案をいただき、おもしろ実験教室をやることになりました。



写真-1　子ども食堂ゆいカフェ

3. 活動概要

イベント名：おもしろ実験教室
開催日時：令和７年５月 31 日（土）　14：00 ～ 16：00
開催場所：ぴあのぴあのカフェ
対 象 者：小学生７人＋大人５人
内　　容：「投影万華鏡」「光るスライム」
講　　師：堂領技術士、永洞技術士、永井技術士、西山技術士、千葉技術士、小山田技術士（左から写真並び）



写真-2　講師一同と子ども達

4. 科学実験出前授業

弊会の定例会において開催までの経緯説明とネタの提案を話し合いました。初めて開催する場所でのネタは、やはり子ども達がひとりひとり体験出来て、家に持って帰っても話題となることを想定して、我が会鉄板のネタ「投影万華鏡」と「光るスライム」で決定しました！募集人数は、全員着席して作業することを前提とした場合、カフェでの最大人数を 20 人としました。材料の準備は手慣れたもので、ほぼ 100 均で人数分を揃えます。講師は、始まる直前に指名し、永井技術士を投影万華鏡に西山技術士を光るスライムのメイン講師をお願いして総勢６名で挑みました。

当日は、カフェのテーブルをそのまま使用させていただき 4 人～ 6 人で座るテーブルを 2 台と 4 人で座るテーブルを 2 台使用しました。暗室は、カフェの事務所を借りて、カーテンを閉めて暗室を確保しました。これで準備 OK です！



写真-3　投影万華鏡　作成状況　その 1

最初は投影万華鏡です。市販の万華鏡の作り方を説明、初めて万華鏡を作る子もいて、万華鏡をのぞいたら感動していた子がいました！万華鏡で楽しんだ後は、分解して筒とメッキシートをカッターやハサミで切ります。次に投影用のレンズを配った際には、レンズで手の指紋を観察して、レンズの大きくなる仕組みを説明したところ、更に感動していました。そして、懐中電灯とレンズを装着して投影万華



写真-4　投影万華鏡　作成状況　その 2



写真-5　投影万華鏡　作成状況　その 3



写真-6　投影万華鏡　暗室において投影状況

鏡の出来上がり、暗室は、席ごとに移動し壁やシーツに投影しました。すると子ども達は大喜び！

次に光るスライムづくり、2 種類のポンプ式の容器にホウ砂水溶液と洗濯糊を入れおき設定した回数を紙コップにプッシュしてもらい､割り箸でまぜる。洗濯糊のサラサラの水が水溶液を入れた瞬間にネバネバの水に変化すると、歓声や驚きの声が聞こえます。ある程度ネバネバ状態になったら、コップから手に取ってコネコネしてもらい手で練っていると気持ちいいとの声が上がり、夜光材の粉をふりかけて更にコネコネしてもらうと光るスライムの完成です。



写真-7　光るスライム　作成状況

暗室に行き、投影万華鏡でスライムを照らしてみんなで一斉にスイッチオフ！するとスライムが光り輝き､子ども達の歓声が一斉に上がり大喜び！！(この瞬間が気持ちいい一)蓄光するスライムに感動していました。全員が終わった後に用意していたスライムシール 2 枚を選んでもらい容器に貼り、完成！

最後には一緒に集合写真にも写ってくれました。



写真-8　暗室で投影万華鏡と光るスライムのコラボ

5. おわりに

後日、子ども食堂のお手伝いに伺った技術士に、次回はいつやりますか？とやる気満々の質問！その場での回答は避けて回答を持ち帰り、後日私が予算の都合上、次回は来年ですと回答したところとても残念がっていました。毎年恒例の行事になりそうです。新しい所でも子どもの反応はみんなキラキラしていて開催の達成感が満載です。子どもたちと一緒に考え・楽しみ触れ合うと自然と笑顔になり癒されます。ES 研では、会員を募集しています。活動に興味のある方は、参加してみませんか。

活動レポート

日本技術士会北海道本部　社会活動委員会
技術者のミライ研究委員会
文責：技術者のミライ研究委員会　幹事長　**千葉　裕**

令和７年度　第１弾の講演会です。

「技術士を知ろう！ in 北海道科学大学」

1. はじめに

「技術者のミライ研究委員会」（ミライ研）にて運営等を担当している「技術士を知ろう！」ですが、2025 年度の活動第 1 弾は、2016 年度から講演を行っている北海道科学大学（北科大）にて実施しました。今回も青年技術士交流委員会（青技交）の連携・協力を得て実施しています。

2. 実施概要

開催日時：2025.5.29（木）13：00 ～ 14：30
講義内容：技術士について
　　技術士の仕事内容と役割（講演 2 編）
　　土木全般の仕事紹介
対 象 者：都市環境学科　1 年生　計 38 名
参加幹事：小澤、木本、寺西、密山、千葉（記）（ミライ研 5 名）。笹森（青技交 1 名）。

北科大での講演は、都市環境学科の細川先生・松田先生の力強いバックアップがあって、これまで実施できています。今回の開催にあたっては、当方から北科大（旧道工大）OB を中心とした講演者で構成したいと要望したところ、快諾して頂きました。

3. 技術士について

北科大でのこのパートは、小澤代表の専売特許！？だったのですが、今回は同校 OB かつミライ研の重鎮でもある寺西の兄貴にお願いしました。

事前のプレゼン mtg では、無理に小澤色を引き継ごうとしたせいか、らしさが出なかったのですが、そこは重鎮です。本番では兄貴らしさ全開で、技術士の役割、資格取得方法、持つことのメリット、社会人になってから仕事をする上での資格取得の重要性等について説明を行ってくれました。



写真-1　マイクの扱いに重鎮感が出てしまう寺西技術士

4. 技術士の仕事内容と役割

(1) 技術士の仕事（笹森技術士）

続いても OB で、（株）エコテックに勤務する笹森技術士から、「河川の仕事」と題して講演を行いました。「チュウヒの保全と草刈り」というトレードオフの課題について、ミティゲーションの 3 段階の特徴を踏まえ、4 番目の選択肢として『馴化』に取り組んだ課題解決方法を紹介。難しい専門用語も学生に理解しやすいように、写真や図を基にした丁寧な説明を行いました。

笹森技術士の芯は、「大自然の北海道で、川に学び、自然に学び、明日の世代に自信を持ってつないでいける川づくり」であると語り、最後に OB として「おもしろいと思ったことをどんどんやってみて」とメッセージを送っていました。



写真-2　“河川×環境”を語る笹森技術士（青技交 幹事）

(2) 技術士の仕事(密山技術士)

続いても北科大(旧道工大卒)OB で、ダイシン設計(株)に勤務する密山技術士から、コンサル(橋のメンテナンス)の仕事の講演を行いました。

橋の補修設計に関し、マニュアルに無い、自身が経験した課題解決方法を紹介、専門用語も事例写真や図・表を基にした丁寧な説明を行いました。

学生たちからの質問では、密山さんが少し困るほど講演内容に関して突っ込んだ質問が寄せられていました。ひょっとすると学生たちの今後の選択肢として、橋梁関係の仕事を選ぶ人が多く誕生するかもしれません。



写真-3　橋♡を熱く語る密山技術士(ミライ研 幹事)

5. 土木の仕事全般の紹介

講演最後は、(株)ドーコンに勤務する木本技術士から土木や建築の業界全般を対象に 2 人の講演で紹介しきれなかった様々な仕事を写真で紹介。

入学間もない学生達向けに、北海道内の施設事例等を用いて様々な仕事があることを知ってもらおうと用意してくれました。

実は木本技術士は、昨年に引き続き後期の授業から北科大 1 年生の非常勤講師を担当(「土木と環境」)することになっております。最後に学生達との再会を約束していました。



写真-4　今年も非常勤講師を兼ねる木本技術士

6. 質疑応答

筆者の進行で参加メンバーが学生からの質問に回答する質疑応答では、笹森さんに向けて「河川計画設計で最も難しかった課題とその対策を教えてください」、「楽しいと思える仕事になっていますか」。密山さんに向けては「橋梁技術において、日本ならではの課題や強みは何だと思いますか」、「なぜ橋梁の仕事に就こうと思ったのでしょうか」といった、今後の就職活動に直結するような質問や、実際の仕事内容に関する質問も多く寄せられました。



写真-5　学生達からの質問に答える先輩達

7. まとめ

学生達からの感想には「みなさんの話を聞いて、やっぱり土木ってすごいなと、すごい感じました。それを学んでいると思うと、なんか、自信持てます。がんばれます」、「土木というのはとても奥が深い。色々な楽しみが増えました」といった意見がありました。また、「キャリアの幅を広げること以外にも、沢山のメリットがあって将来自分のために取得を検討するのもありだと考えが変わった」、「今回の講演を聞いて、技術士資格をとることが難しいことがわかった。だが、その分の見返りも多いことがわかった。なので資格を取りたいと思える良い機会になりました」等の技術士取得の動機となるようなキーワードが多くありました。

アンケートでは、有効回答数 35 人中 28 人が「技術士を今回初めて知った」「名前だけは知っていた」等だったのに対し、37 人中 34 人が「将来技術士を取得したい」と回答してくれていました。同アンケートの 5 段階評価では、今回講演の「わかりやすさ」が 4.5、「満足度」が 4.6 と高評価をいただきました。次の講演もご期待下さい。笑

活動レポート

日本技術士会北海道本部　社会活動委員会
技術者のミライ研究委員会

文責：技術者のミライ研究委員会　幹事長　**千葉　裕**

今年度第 2 弾の講演会は、私の母校での開催です！
「技術士を知ろう！ in 苫小牧高専」

1. はじめに

「技術者のミライ研究委員会」（ミライ研）にて運営等を担当している「技術士を知ろう！」ですが、2025 年度の活動第 2 弾は、2017 年から講演を行っている苫小牧工業高等専門学校（苫高専）にて実施しました。今回も青年技術士交流委員会（青技交）の連携・協力を得て、実施しています。

苫高専での講演ですが、例年同様技術士第 1 次試験願書提出前の開催となりました。先生の話によると、この講演を聞いた直後が最も受験動機に繋がるとのことでした。そこで今回は、更なる学生たちのモチベーションアップを期待して、新たな取り組みにチャレンジしました。

2. 実施概要

開催日時：2025.6.17（火）13：00 ～ 15：00
講義内容：技術士資格の説明
　　技術士の仕事内容と役割（講演 2 編）
　　土木全般の仕事紹介
対 象 者：創造工学科　都市・環境系
　　都市・環境コース　4 年生　計 37 名
参加幹事：小澤、木本、千葉（記）（ミライ研 3 名）
　　巻口、塚田（青技交 2 名）。

苫高専での講演は、創造工学科の都市・環境系の渡辺先生（技術士）の力強いバックアップがあって実現させてもらっています。

新たな試みですが、渡辺先生からのちょっとしたリクエストがきっかけでした。いつもは講演の最後に質疑応答の時間を 10 分設けているのですが、時間が短いためコンパクトな回答にならざるを得ず、「もう少し質疑の時間を増やせないか」との要望を頂き 90＋30＝120 分の講演会が実現しました。

3. 技術士について

小澤代表より、技術士資格の説明として、技術士の役割、資格取得方法、持つことのメリット等を説明したほか、社会人になってから仕事をする上での資格取得の重要性等について説明を行いました。

時間が延長されたのを良いことに、台本に無い余計なネタをチョイチョイ混ぜてきます。笑。

最前列で聞いていた学生が「私のお父さん小澤さんと同じ会社で働いています」と、まさかの一言。一気に場が和み、とても柔らかい風が吹きました。



写真-1　同僚のお子さんを前にプレゼンする小澤代表

4. 技術士の仕事内容と役割

(1) 農業土木の技術士の仕事（塚田技術士）

具体的な仕事内容の紹介として、まずは（株）ドーコンに勤務する塚田技術士（苫高専 OB）から、「農業土木分野の仕事紹介と技術士一次試験に向けて」と題して発表を行いました。学生達にはあまり馴染みの無い“農業土木”という分野ですが、先輩のプレゼンを聞いて、多くの学生たちが興味を持ってくれた他、学生時代の過ごし方エピソードはとても参考になったようです。普段からとても落ち着いている塚田技術士ですが、後輩たちを前に珍しく力が入っていたようです。予定時間を 5 分も超過する熱盛プレゼンで、学生に想いを届けていました。



写真-2　身近な先輩、塚田技術士（青技交 幹事）

(2) 河川分野の技術士の仕事（巻口技術士）

続いて、（株）福田水文センターに勤務する巻口技術士（苫高専 OB）から、河川分野のコンサルタントの仕事と題してプレゼン発表を行いました。

河川分野のコンサルタントとして、クライアントが困っている問題に対し、自身を川のお医者さんに例えて、どのような処方箋（解決策）を提案してきたかを、具体例を交えて説明してくれていました。

巻口技術士には、2018 年から連続で講演を行ってもらっています。今手掛けている仕事は、ゲームエンジンを使い、仮想空間で流量観測を体験できるシミュレータの開発というものでした。まさに最先端の技術を目の当たりにして、学生たちも興味津々でした。



写真-3　大学生も兼務する巻口技術士（青技交 幹事）

5. 土木の仕事全般の紹介

講演最後は、（株）ドーコンに勤務する木本技術士から土木や建築の業界全般を対象に、2 人の講演で紹介しきれなかった様々な仕事を写真で紹介。

先生からリクエスト頂いたコンサルタントにも様々な仕事があることを知ることで、自分の将来を考える機会になればと考えて用意しました。

木本技術士が担当してくれているこの枠は、前段の部分で時間が押してしまうことが多く、いつも調整して講演してくれています。今日は後半の時間にゆとりがあったので、いつも以上に丁寧に話をしてくれていて、学生達も理解が深まったようでした。



写真-4　皆のミライを語る木本技術士（ミライ研 幹事）

6. 質疑応答

参加メンバーが学生からの質問に回答する質疑応答ですが、30 分の時間をフルに使い渡辺技術士（先生）も回答者に混ざってもらいました。

「農業農村工学は学校で学ぶこと以外にどのような知識が必要か」、「内業と外業の割合は何対何くらいか」、「河川に関わる仕事の楽しさ、やりがいは何ですか」といった、今後の就職活動や実際の仕事内容に関する質問も多く寄せられました。

7. まとめ

学生からの感想には「名前のみ知っていた技術士という資格が取得を目指したいと思えるようになった」、「技術士補を受けようか迷っていたが、今回の講演を聞いて受ける決心がついた」等の技術士取得の動機の他、「街全体、社会基盤そのものをつくるという話を聞いて、自分の学んでいる土木のスケールの大きさを感じました」等のコメントも頂けました。アンケートでは、34 人中 34 人が「名前だけは知っていた」「以前から、名前も内容も知っていた」等だったのに対し、37 人中 37 人が「将来技術士を取得したい」と回答してくれました。同アンケートでの今回講演の「わかりやすさ」「満足度」は 5 段階評価で 4.6、4.7 と学生に高評価であったことも一因だったのではと考えています。

活動レポート

日本技術士会北海道本部　社会活動委員会

技術者のミライ研究委員会

文責：技術者のミライ研究委員会　幹事　**木本　光則**

コロナ禍の影響もあって、実に５年越しの企画実現となりました！

「北海道土木技術会建マネ委員会との意見交換を実施」

1. はじめに

外部組織である北海道土木技術会建設マネジメント研究委員会（建マネ）さんとの意見交換を実施しました。建マネさんは、北海道の土木事業ならびに土木技術の進展を図ることを目的に民間・学界・官界が建設マネジメントの研究活動を進める団体です。その建マネさんより、私たち「技術者のミライ研究委員会」（ミライ研）や、「青年技術士交流委員会」（青技交）で実施している、若手技術者の確保・育成等に繋がる様々な企画イベント等に興味を持っていただく形で、今回の意見交換は実現しました。

なお、実はかれこれ５年以上前からオファーを頂いていたものの、コロナ禍にて延期していた企画で、建マネさんの「地域建設産業活性化に関する意見交換会」という形で、このたび実現しました。

2. 実施概要

日　時：2025.7.16（水）15：00 ～ 17：00

場　所：（一社）北海道開発技術センター４階会議室

次　第：・挨拶（建マネ、ミライ研）

・報告：建マネ、ミライ研、青技交の活動について（それぞれ報告）

・意見交換

参加者：建マネ 10 名（高野委員長、天野幹事長、倉内常任委員、荒木幹事長代理、細川幹事、岸本委員、福津氏、草野氏、五十嵐事務局長、小田嶋事務局次長）

ミライ研６名（小澤代表、仁田副代表、千葉幹事長、木本幹事、永井幹事、松田幹事）

青技交４名（藤井委員長、中村副委員長、長内副委員長、髙橋幹事長）

3. それぞれの各会代表よりお礼と挨拶

５年越しに実現した企画は、建マネの高野委員長とミライ研の小澤代表より、それぞれ本日企画参加・実現のお礼を含む挨拶よりスタートしました。



写真-1　建マネ：高野委員長よりご挨拶を頂きました



写真-2　ミライ研：小澤代表よりお礼とご挨拶を実施

4. 相互の組織活動内容を報告、情報共有

意見交換に先立ち、それぞれの組織でのこれまでの活動内容等を相互に報告し、情報共有を図りました。くしくも３組織とも幹事長を立てるという類似した体制で、建マネは天野幹事長から委員会とし

ての活動経緯や直近のセミナー資料、活動記録等の冊子の紹介をいただきました。ミライ研の千葉幹事長、青技交の髙橋幹事長からは、それぞれの組織の活動目的や活動状況、特にオファー頂いていた「若手技術者の確保・育成等」に繋がる企画等を紹介しました。



写真-3　建マネ：天野幹事長より活動報告を頂きました



写真-4　ミライ研：千葉幹事長より活動報告を実施



写真-5　青技交：髙橋幹事長より活動報告を実施



写真-6　建マネ：荒木幹事長代理による意見交換の進行

5. 今後につながる示唆を頂いた意見交換

ミライ研・青技交の活動状況等をベースとした意見交換は、建マネの荒木幹事長代理がコーディネーターを務める形で、「若手技術者をどう確保し、育てていくか」というテーマにて実施されました。意見交換の冒頭には荒木幹事長代理より若手技術者に関する全国・道内の現状や展望をデータ等にて情報提供いただき、参加者それぞれの意見や展望などを出し合いました。

荒木幹事長代理は、ミライ研メンバーが青技交時代からの交流があったため、最初から非常に話しやすい空気で始まり、建マネの参加者にはほかにも、ミライ研の「技術士を知ろう！」でお世話になっている先生がいたり、青技交で今後予定している活動で協力頂いている方がいたりで、時間が足りないくらいの意見交換をすることができました。（その足りない分は、終了後の懇親会で引き続き意見交換を実施しました。）頂いた意見の中では、私たちの今後の活動発展に繋がりそうな示唆をいくつか頂くことができたと考えています。

6. おわりに

この度は建マネさんにお声がけいただく形で実現したものですが、今後もこのような外部団体との交流や意見交換を進めていければと考えています。

末筆ながら今回の実現にご尽力頂き、ご参加いただきました建マネの皆様、かつての事務局の皆様等にお礼申し上げます。

活動レポート

日本技術士会北海道本部　社会活動委員会
北海道インフラ技術政策研究委員会
文責：北海道インフラ技術政策研究委員会　幹事長　**伊藤　徳彦**

第 10 回研究会報告
北海道の高速道路サービス向上について

1. はじめに

北海道インフラ技術政策研究委員会では、2025 年（令和 7 年）5 月 19 日（月）に第 10 回研究会を開催しました。東日本高速道路株式会社（NEXCO 東日本）北海道支社の丸山正副支社長を講師に招き、「北海道の高速道路サービス向上について～高速道路技術者の視点から観る高速道路の多様な側面～」をテーマにご講演をいただきました。



会場風景

2. 第 10 回研究会

第 10 回研究会の内容は次のとおりです。

2-1　丸山副支社長の講演

■北海道支社の概要は次のとおりである。供用済延長 720Km のうち、441Km（61%）が暫定 2 車線道路である。これを 5 つの管理事務所で管理している。2025 年 4 月現在の供用後経過年数は、50 年以上経過が 6.6%、40 ～ 50 年経過が 11.4%、30 ～ 40 年経過が 25.2%、20 ～ 30 年経過が 32.9%となっており、財務省の経済的耐用年数は約 50 年という指標もあるが、北海道は冬期間の塩の散布のため、30 年程度の構造物でも損傷の進行が早い傾向にある。現在の主な事業は、優先整備区間としての暫定 2 車線区間の 4 車線化と、リニューアル工事である。

■ 2025 年 4 月の日経新聞で、3 回にわたり「岐路の道路政策」の特集が組まれ「人口減でも延びる道路」、「4 車線化のコストは重い」などの指摘があった。記事の正誤はともかく、事業費と事業評価についてどのように考えるべきか。その素材としては例えば、ニューヨーク市の渋滞税がある。同市では 2025 年 1 月 5 日から、交通問題の改善と公共交通網整備のための資金調達を目的に、アメリカで初となる車の「渋滞税（Congestion Pricing）」制度を開始した。対象となるセントラル・パークの南側一帯の区域に乗用車を乗り入れる人は、ピーク時間帯で 1 日につき 9 ドル（約 1400 円）、それ以外の時間帯は 2.25 ドル（約 355 円）を支払う。ニューヨーク・タイムズの記事によると、制度導入前は 32%の人が反対したが、同市の担当部局は導入に踏み切った。現在は 42%の人が制度を続けてよいという意見に変わっている。

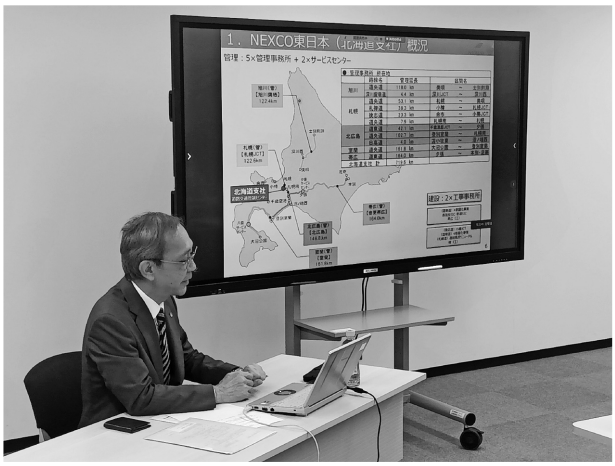
■日本道路公団が分割民営化されたのは 2005 年である。民営化後、NEXCO はサービス向上技術の高度化やインフラ輸出にも力を注いできた。日本の技術移転・輸出について、自らがパラグアイやインドで行った経験がある。そこでは、相手国の価値観、社会・経済状況、交通環境などに合わせた「技術の改変・進化」が求められる。

■日本の技術の一つとしてアクティブ方式の双方向無線通信技術（DSRC[2)]）を採用した ETC[1)] がある。海外の途上国などが購入しやすいよう低廉化した ETC が開発されたことにあわせ、技術輸出として NEXCO でも日本式高速道路の維持管理技術とと

もに、“セキュリティが高いグローバル ETC”として各国で紹介してきた。しかし、国々の地域性・価値観の違いから、日本が採用しているアクティブ方式の DSRC は採用を得るには至らなかった。

■これまで ETC に関する課金の技術方式には、DSRC 方式[2] や RFID 方式[3] があるが、途上国の多くでは導入コストで有利な RFID 方式が多く採用されている。近年は、GNSS 方式[4] や ANPR 方式[5] などの課金の技術方式が普及してきた。

■我が国の高速道路は対距離制課金であり、ETC では入口出口に設置されてある路側装置と車載器が無線通信を行って通過情報に基づき走行距離を算出して料金を決定する。ETC の活用において現在では様々な料金割引制度等も採用されるに至っている。例えば、変動料金制度（ダイナミックプライシング）を導入する動きとして、混雑対策のために 2023 年 7 月～ 2025 年 3 月の土日・祝日に東京湾アクアライン（上り線）において、「ETC 時間帯別料金」の社会実験が実施されている。



丸山正副支社長

■世界的には、距離制課金の他に、ある区間を通過するときに課金する断面課金等もある。例えば最近訪問したチェコの高速道路では、都市間は有料で、都市域を通過する区間は無料になっている。有料の区間では、IC 間に設置されたフリーフローと ANPR 方式による断面課金となっている。インターチェンジ部には料金所設備等を設置する必要がないため、シンプルな形状のダイヤモンド構造等を採用することが可能となる。

2-2　講演に対する質疑

【質問 1】NEXCO は料金収入をどのように維持管理費と償還費に分けているのか

【回答 1】北海道の高速道路では、料金収入の約半分が維持管理費に充てられ、残りの半分が建設費の償還に使われている。高速道路では全国でプール制、均一の対距離料金を採用しているので、当然採算の良い路線、悪い路線が存在することになる。この点だけで言うならば、北海道の高速道路では現在の約 3 倍の交通量がないと、全国平均レベルの採算性にはならないことになる。



会場風景

【質問 2】緩衝機能を有するワイヤーロープ式防護柵を 2 車線道路の中央分離施設として設置することについての経緯などお聞かせいただきたい。

【回答 2】北海道ではいち早く、寒地土木研究所に相談しながら、道南の高速道路でワイヤーロープ式防護柵を暫定 2 車線の対面箇所で採用してきた。この区間では一部道路構造の変更も行い、防護柵基準に則った防護柵であるため時速 80km で通行可能となっている。正面衝突事故防止等に効果を発揮することが確認されてきており、その後は全国でワイヤーロープ設置が進められてきている。ただし、このワイヤーロープは、ラバーポールに代えての設置のため、速度制限は時速 70km となっている。

【質問 3】スウェーデン等の北欧で普及している 2 ＋ 1 車線道路（中央の車線を交互に追越車線として

利用）についてお聞かせいただきたい。

【回答 3】日本道路公団の当時から暫定 2 車線の安全対策の調査・研究を行っていた。スウェーデン等の北欧では交通量が中程度の道路において、低コストで安全性を確保できる形式として 2 ＋ 1 車線を採用している区間がある。片側が 2 車線、反対側が 1 車線の計 3 車線道路で、追い越し可能な 2 車線部分が交互に入れ替わり、中央分離帯にワイヤーロープ式防護柵を設置している。

【質問 4】道東自動車道の占冠トマム間は、濃霧や吹雪による視程障害の影響を受けることが多い。今後の対策などお聞かせいただきたい。また、安全安心のために 4 車線化が求められる。

【回答 4】濃霧対策としては、これまで足元照明など様々な対策を試みたが、十分な効果は得られていない。今後は自動運転技術に大きな期待を寄せている。視程障害と言うと、岩見沢市周辺のホワイトアウトは特に深刻であり、寒地土木研究所に相談を行い、新型の防雪柵を部分的に導入している。また、北海道の高速道路では暫定 2 車線区間が 61％を占めている。暫定 2 車線区間では、片側で事故が発生すると両方向が通行止めとなる問題があるため、防災・減災・強靭化の観点から 4 車線化を進めることは望ましい。4 車線化のための優先整備区間が定められているが、道東自動車道はその中でもさらに先行して部分的に工事に着手している。



会場風景

3. 終わりに

講師自らの海外経験（パラグアイ、インド等）を踏まえた、グローバルな視点からの講演でした。島国である北海道においては、とかく内向きとなり、視野が狭くなるため、意識して海外情報を収集して行く必要があることを痛感させられた講演でした。

本委員会の目的は、インフラに係る政策、学術および技術等に係る情報収集や議論等を通して、人材育成ならびに発信等を行う場を設け、流動する政策の中で諸課題の解決に充分対応できる能力を高めることです。令和 3 年度に設立されて昨年度第Ⅰ期（4 年間）を終え、本年度第Ⅱ期がスタートしました。引き続き本誌で活動報告させていただきます。

＝謝辞＝

講師の丸山様には貴重な講演をいただくとともに、原稿の作成に際して確認と校正をいただきました。深く感謝を申し上げます。

＝注釈＝

1）ETC：Electronic Toll Collection、自動料金収受システム。車両を停止させずに通行料金を自動的に徴収するシステムの総称。

2）DSRC 方式：Dedicated Short-Range Com-munications、専用短距離通信。車載器と路側装置との間で行う短距離・高速の無線通信技術を用いて課金する方式。ETC など車両関連の通信に特化して設計されている。

3）RFID 方式：Radio Frequency Identification、無線周波数識別。無線通信を利用して物や人を識別する技術。タグと呼ばれる小型の IC チップに情報が記録されており、それをリーダー（読み取り機）が無線で読み取ることで課金する方式。非接触で識別が可能。車載器は安価だが、セキュリティが劣る。

4）GNSS 方式：Global Navigation Satellite System、全地球航法衛星システム。衛星測位を使った課金方式。車載器（OBU：On-Board Unit）が GNSS（GPS 等）の信号を受信して走行経路を自己判断し、課金対象の道路利用を検出したうえで、通信機能を用いて料金情報をセンターに送信して課金する方式。

5）ANPR 方式：Automatic Number Plate Re-cognition、自動ナンバープレート認識。高精度カメラで撮影した車両の画像からナンバープレートの文字を読み取って自動的に車両を識別して車両へ課金をする方式。

第 60 回

公益社団法人日本技術士会北海道本部

年次大会資料

2025 年 7 月 15 日

公益社団法人日本技術士会　北海道本部

第 60 回 年次大会資料

日　時　：　2025 年 7 月 15 日（火）
場　所　：　札幌パークホテル
　　札幌市中央区南 10 条西 3 丁目 1 番 1 号　　TEL 011-511-3131

次　第　：

１．日本技術士会北海道本部年次大会　15：30～16：30（B2 パークプラザ A）

１）開　会
２）本部長挨拶
３）報告事項
　第１号報告　2024 年度事業報告及び決算報告
　第２号報告　2025 年度事業計画及び予算
　第３号報告　役員の選任について
　第４号報告　2025 年度日本技術士会会長表彰者(北海道本部)
　　会長表彰(2 号)　青木　信成　氏（機械部門）
　　〃　　荒木　雅紀　氏（建設部門）
　　〃　　飯野　良枝　氏（農業部門）
４）資料　賛助会員（協賛団体）一覧

２．講 演 会　16：30～17：30（B2 パークプラザ A）

演　題　：「未利用石炭等によるブルー水素製造と地域利用～三笠モデル～」

講　師　：国立大学法人室蘭工業大学 大学院工学研究科
　　しくみ解明系領域 寄附講座「未利用資源エネルギー工学講座」
　　特任教授・名誉教授　　板倉 賢一　氏

３．懇 親 会（会費　8,000 円）　　17：45～19：30（B2 パークプラザ D）

第１号報告

2024 年度　北海道本部事業報告　その１

■北海道本部における主な行事等

- 会誌「コンサルタンツ北海道」[163 号(2024.5.31),164 号(2024.9.30),165 号(2025.1.31)]の発刊

- 令和 6 年度技術士第一次試験（2024.11.24：TKP ガーデンシティ札幌駅前、TKP 札幌駅カンファレンスセンターにて実施）
  - ◇ 受験申込者 1,105 名（22,579），受験者 843 名（16,666），合格者 266 名（6,233）
    注）：（　）内は全国。
- 令和 6 年度技術士第二次試験

【　1　～　20 部門　】（2024.7.15：北海学園大学　豊平キャンパスにて実施）
  - ◇ 受験申込者 1,373 名（26,776），受験者 1,029 名（20,522），合格者 105 名（2,013）

【21：総合技術監理部門】（2024.7.14：北海学園大学　豊平キャンパスにて実施）
  - ◇ 受験申込者 185 名（3,070），受験者 158 名（2,521），合格者 16 名（382）
    注）：（　）内は全国。

- 公益社団法人日本技術士会北海道本部　第 59 回年次大会・講演会
  - ◇ 開　催　日　：　2024 年 7 月 10 日（水）
  - ◇ 場　　所　：　ホテル札幌ガーデンパレス（札幌市中央区）
  - ◇ 出　席　者　：　65 名
  - ◇ 講　演　会
    演　題　：「プラチナ触媒によるフードロス削減」
    講　師　：北海道大学 触媒科学研究所 特任教授 北海道大学名誉教授　福岡 淳 氏

- 令和 5 年度技術士第一次・第二次試験合格者 合同祝賀会（主催：北海道本部）
  - ◇ 開　催　日　：　2024 年 4 月 9 日（火）
  - ◇ 場　　所　：　ホテル札幌ガーデンパレス（札幌市中央区）
  - ◇ 出　席　者　：　66 名[うち合格者 28 名]

- 第 50 回技術士全国大会（札幌・北海道）
  - ◇ 開　催　日　：　2024 年 10 月 4 日（金）～7 日（月）
  - ◇ 場　　所　：　札幌パークホテル（札幌市中央区）ほか
  - ◇ 出　席　者　：　664 名
  - ◇ 行　　事　：　10 月 5 日（土）

〈分科会〉第 1 分科会(技術者倫理)　参加者数 135 名
「技術者よ、大志を抱け～過去から現在そして未来へ～」
第 2 分科会(防災)　〃　118 名
「北海道から発信する大規模災害の備え」
第 3 分科会(脱炭素)　〃　95 名
「ゼロカーボンの実現に貢献する北海道の取組み」
第 4 分科会(ミライの技術者)　〃　127 名
「～キラキラ☆彡技術士まし×２大作戦！～」
〈大会式典・記念講演〉　参加者数 374 名
記念講演：地域に貢献する経営～地域産業エコシステム
講　師：株式会社セコマ 代表取締役会長 丸谷 智保 氏
〈交流パーティー〉　参加者数 330 名

  - ◇ 関 連 行 事　：　10 月 4 日（金）

・専門会議、連絡会議等　参加者数 500 名程度
（機械、船舶・海洋／航空・宇宙、電気電子、金属、繊維、
化学、資源工学、建設、上下水道、衛生工学、森林、経営
工学、応用理学の各部会、倫理委員会、防災支援委員会）

◇ ｵﾌﾟｼｮﾅﾙ行事： 10 月 4 日（金）
・ウェルカムパーティー（サッポロビール園） 参加者数 277 名
10 月 5 日（土）
・パートナーズツアー（日帰り） 参加者数 32 名
（エスコンフィールド北海道、クボタアグリフロント、
北海道開拓の村・北海道博物館）
・企業等パネル展示（札幌パークホテル） 出展者数 21 者
10 月 6 日（日）
・テクニカルツアー（日帰り） 参加者数 37 名
（雪冷熱エネルギー供給システム、北海道開拓の村、
ウポポイ[民族共生象徴空間]）
10 月 6 日(日)～7 日(月)
・テクニカルツアー（一泊二日） 参加者数 21 名
（雪冷熱エネルギー供給システム、北海道開拓の村、
ウポポイ[民族共生象徴空間]、【洞爺湖温泉にて宿
泊】、ユーラス伊達、日本製鋼所 M&E、苫小牧 CCS 実
証試験センター）

- 第 25 回北東 3 地域本部技術士交流研修会（主催：東北本部）
◇ 開 催 日 ： 2024 年 11 月 1 日（金）
◇ 場 所 ： ホテルモントレ仙台（仙台市）
◇ パネルディスカッション
1. 令和６年能登半島地震災害における北陸本部の対応について
（北陸本部）防災委員会委員長 市村 幸晴 氏
2. 北海道から発信する大規模災害の備え
（北海道本部）防災委員会委員長 谷村 昌史 氏
3. 東日本大震災の振り返り・防災(BOSAI)への取り組み
（東北本部）防災委員会委員長 糸井 秀実 氏
コーディネーター：東北本部参与（前・防災委員会委員長）
齋藤 明 氏
パネリスト ：各発表者
◇ 特 別 講 演 ： 最近の自然災害の実態と今後の対応－複合災害に備える－
東北大学 副理事（復興新生担当）
東北大学災害科学国際研究所 教授
グリーン未来創造機構 副機構 今村 文彦 氏
◇ 出 席 者 ： 85 名（うち北海道本部参加者 14 名）

■北海道本部各委員会における主な講演会等

- 令和 6 年度第 1 回研修会（主催：リージョナルステート研究委員会）
◇ 開 催 日 ： 2024 年 5 月 10 日（金）
◇ 場 所 ： 札幌エルプラザ（札幌市北区）
◇ 講 演 ： 「ブルーカーボンに関する取り組みの推進方向」
北海道水産林務部 主幹 石本 竜大 氏
◇ 出 席 者 ： 21 名

- 2024 年度総会（主催：防災委員会）
◇ 開 催 日 ： 2024 年 5 月 21 日（火）
◇ 場 所 ： TKP ガーデンシティ札幌駅前（札幌市中央区）＆オンラインライブ配信
◇ 講 演 ： 「令和 6 年能登半島地震における
金沢河川国道事務所での災害対応について」
北海道開発局事業振興部 調整官 桑島 正樹 氏
◇ 出 席 者 ： 189 名（会場：48 名、WEB：111 名、道央サテライト会場：30 名）

- 第 1 回技術講演会（主催：オホーツク技術士委員会）
  - ◇ 開　催　日 ： 2024 年 5 月 24 日（金）
  - ◇ 場　　所 ： 北見市民会館（北見市）
  - ◇ 講　　演 ： 1.「能登半島地震における応急給水支援活動等の報告」
    北見市役所　高木 伸彰　氏
    2.「第 9 期北海道総合開発計画について」
    北海道開発局網走開発建設部 部長　半谷 敬幸　氏
  - ◇ 出 席 者 ： 50 名

- 令和 6 年度特別講演会（主催：北方海域技術研究委員会）
  - ◇ 開　催　日 ： 2024 年 5 月 31 日（金）
  - ◇ 場　　所 ： かでる 2・7（札幌市中央区）
  - ◇ 講　　演 ： 「河口沿岸域の土砂動態と諸課題（港内堆砂と浅海生物影響）」
    北海道大学名誉教授　山下 俊彦　氏
  - ◇ 出 席 者 ： 52 名

- CPD 研修会（主催：道南技術士委員会）
  - ◇ 開　催　日 ： 2024 年 5 月 31 日（金）
  - ◇ 場　　所 ： シエスタハコダテ（函館市）
  - ◇ 講　　演 ： 1.「技術士二次試験体験記」
    (株)東鵬開発　押切 貴光　氏
    2.「技術士合格に向けて」
    渡辺建設(株)　吉野 正勝　氏
  - ◇ 出 席 者 ： 36 名

- 第 1 回定例会（見学会）（主催：リージョナルステート研究委員会）
  - ◇ 開　催　日 ： 2024 年 5 月 31 日（金）
  - ◇ 場　　所 ： 泊村臼別海岸・照岸海岸のコンブの森づくり現場
  - ◇ 出 席 者 ： 8 名

- CPD 研修会（見学会）（主催：道南技術士委員会）
  - ◇ 開　催　日 ： 2024 年 6 月 7 日（金）
  - ◇ 場　　所 ： 開進橋解体現場（函館市）
  - ◇ 出 席 者 ： 26 名

- 2024 年度研修会（主催：道北技術士委員会）
  - ◇ 開　催　日 ： 2024 年 6 月 8 日（土）
  - ◇ 場　　所 ： 旭川建設労働者福祉センター（旭川市）
  - ◇ 講　　演 ： 1.「技術士を巡る最近の動向」
    道北技術士委員会代表　高桑 史郎　氏
    2.「道内全域における大規模自然災害に備えて
    ～令和 6 年能登半島地震を考える～」
    北海道本部防災委員会 防災・減災支援 WG リーダー　城戸 寛　氏
    3.「旭川市立大学新学部の設置構想について
    ～地域に貢献する大学を目指して～」
    旭川市立大学 新学部設置準備室長　須田 孝徳　氏
  - ◇ 出 席 者 ： 41 名

- テクニカルツアー（主催：青年技術士交流委員会）
  - ◇ 開　催　日 ： 2024 年 6 月 26 日（水）
  - ◇ 場　　所 ： 防衛装備庁 千歳試験場
  - ◇ 出 席 者 ： 7 名

- 防災減災研修会（主催：オホーツク技術士委員会）
  - ◇ 開　催　日 ： 2024年6月27日（木）
  - ◇ 場　　所 ： 北見市西地区公民館（北見市）
  - ◇ 講　　演 ： 1.「地域防災計画－北見市を例として－」
    北見市役所　玉村 甫　　氏
    2.「災害から身を守るために－WEBハザードマップの利用方法－」
    北見市役所　川村 昌之　氏
  - ◇ 出 席 者 ： 12名

- 第14回技術者倫理フォーラム（主催：倫理委員会）
  - ◇ 開　催　日 ： 2024年7月5日（金）
  - ◇ 場　　所 ： ホテルポールスター札幌（札幌市中央区）＆オンラインライブ配信
  - ◇ 講　　演 ： 1.「技術者と生活者、２つの人格の統合」
    小樽商科大学大学院商学研究科ｱﾝﾄﾚﾌﾟﾚﾅｰｼｯﾌﾟ専攻 准教授　泉 貴嗣　氏
    2.「信頼される技術者になるために～北の大地からの提案～」
    北海道本部倫理委員会　庭田 博　　氏
    〃　　長谷川直久 氏
    〃　　小川 直仁　氏
  - ◇ 出 席 者 ： 99名（会場：58名、WEB：24名、道北サテライト会場：17名）

- CPD研修会（主催：道南技術士委員会）
  - ◇ 開　催　日 ： 2024年7月12日（金）
  - ◇ 場　　所 ： 函館市亀田交流プラザ（函館市）
  - ◇ 講　　演 ： 1.「上床版を用いたハーフPCaカルバート工法（PTS工法）について」
    (株)ライテク　北島 幹士　氏
    2.「省人化、省力化を実現した安全性の高い地山補強土PAN WALL（パンウォール）工法について」
    3.「洗堀(支持力)モデルの解説、補強材長と崩壊の関係について(模型実演)」
    PAN WALL工法協会　村瀬 安彦　氏
  - ◇ 出 席 者 ： 29名

- 技術研修会（日帰り）（主催：事業委員会）
  - ◇ 開　催　日 ： 2024年7月24日（水）
  - ◇ 場　　所 ： 夕張シューパロダム・発電所、清水沢ダム・発電所、滝ノ上発電所・滝下発電所
  - ◇ 出 席 者 ： 24名

- 令和6年度第2回研修会（施設見学会）（主催：リージョナルステート研究委員会）
  - ◇ 開　催　日 ： 2024年7月26日（金）
  - ◇ 場　　所 ： 石狩市「水素を活用した石狩市厚田マイクログリッドシステム」、増毛町「北海道ブルーカーボン先進モデル～増毛モデル～」
  - ◇ 出 席 者 ： 23名

- 令和6年度講演会（主催：北方海域技術研究委員会）
  - ◇ 開　催　日 ： 2024年7月29日（月）
  - ◇ 場　　所 ： かでる2・7（札幌市中央区）
  - ◇ 講　　演 ： 1.「港湾における気候変動の影響評価について」
    国土交通省国土技術政策総合研究所
    港湾・沿岸海洋研究部港湾・沿岸防災研究室 室長　　本多 和彦　氏
    2.「北方海域におけるブルーカーボンの盛り上がりと課題」
    国立研究開発法人水産研究・教育機構 水産資源研究所
    社会・生態系ｼｽﾃﾑ部沿岸生態系寒流域ｸﾞﾙｰﾌﾟ長　　長谷川 夏樹　氏
  - ◇ 出 席 者 ： 90名

- 令和 6 年度第 3 回研修会（主催：リージョナルステート研究委員会）
  - ◇ 開　催　日 ： 2024 年 8 月 23 日（金）
  - ◇ 場　　所 ： 札幌エルプラザ（札幌市北区）
  - ◇ 講　　演 ： 「再生可能エネルギーを活かした地域づくり」
    (株)NERC(自然ｴﾈﾙｷﾞｰ研究ｾﾝﾀｰ)代表取締役
    (株)NETC(自然ｴﾈﾙｷﾞｰ技術センター)代表取締役
    (株)BES(ﾊﾞｲｵｴﾅｼﾞｰ・ｿﾘｭｰｼｮﾝｽﾞ)代表取締役　　大友 詔雄　氏
  - ◇ 出　席　者 ： 11 名

- 研究会（主催：北海道インフラ技術政策研究委員会）
  - ◇ 開　催　日 ： 2024 年 9 月 12 日（木）
  - ◇ 場　　所 ： (一社)北海道開発技術センター（札幌市北区）＆オンラインライブ配信
  - ◇ 講　　演 ： 「広域道路ネットワーク計画をどう育てるか？」
    専修大学商学部 教授　太田 和博　氏
  - ◇ 出　席　者 ： 32 名

- 施設見学会（主催：道央技術士委員会）
  - ◇ 開　催　日 ： 2024 年 9 月 25 日（水）
  - ◇ 場　　所 ： 五洋建設株式会社 室蘭製作所（室蘭市）
  - ◇ 出　席　者 ： 16 名

- テクニカルツアー（主催：青年技術士交流委員会）
  - ◇ 開　催　日 ： 2024 年 10 月 4 日（金）
  - ◇ 場　　所 ： くるるの杜（北広島市）
  - ◇ 出　席　者 ： 30 名

- テクニカルツアー（主催：青年技術士交流委員会）
  - ◇ 開　催　日 ： 2024 年 10 月 6 日（日）
  - ◇ 場　　所 ： エスコンフィールド北海道（北広島市）
  - ◇ 出　席　者 ： 39 名

- 第 28 回勉強会（主催：北海道スタンダード研究委員会）
  - ◇ 開　催　日 ： 2024 年 10 月 11 日（金）
  - ◇ 場　　所 ： TKP ガーデンシティ札幌駅前（札幌市中央区）
  - ◇ 講　　演 ： 「もうけを生み出す知財戦略～北海道の魅力を知的財産に～」
    アクシス国際弁理士法人 代表弁理士　中島 拓　氏
  - ◇ 出　席　者 ： 24 名

- 定例会（見学会・講演会）（主催：北方海域技術研究委員会）
  - ◇ 開　催　日 ： 2024 年 10 月 16 日（水）
  - ◇ 場　　所 ： 見学会　小樽港第 3 号ふ頭、小樽港クルーズターミナル、小樽国際インフォメーションセンター
    講演会　ホテルノルド小樽（小樽市）
  - ◇ 講　　演 ： 1.「小樽港におけるクルーズ船岸壁の整備について」
    北海道開発局小樽開発建設部 小樽港湾事務所長　久保 純一　氏
    2.「音響機器を用いた海底面・海底下構造の可視化」
    地方独立行政法人北海道立総合研究機構
    産業技術環境研究本部 エネルギー・環境・地質研究所
    地域地質部 沿岸・水資源グループ研究職員　丸山 純也　氏
  - ◇ 出　席　者 ： 見学会 35 名、講演会 35 名

- 施設見学会（主催：道央技術士委員会）
  - ◇ 開　催　日 ： 2024 年 11 月 13 日（水）
  - ◇ 場　　所 ： 株式会社苫東（苫小牧東部地域）（苫小牧市）
  - ◇ 出　席　者 ： 13 名

- 社会交流セミナー（主催：社会活動委員会）
  - ◇ 開　催　日 ： 2024 年 11 月 19 日（火）
  - ◇ 場　　所 ： ホテル札幌ガーデンパレス（札幌市中央区）
  - ◇ 講　　演 ： 「あなたの知らない「温泉」の世界」～どうして湧くの?
    本当に効くの? どの湯が最高? あなたの疑問にお答えします～」
    札幌国際大学観光学部非常勤教授、旅行ｼﾞｬｰﾅﾘｽﾄ　小野寺 淳子　氏
  - ◇ 出 席 者 ： 58 名

- 第 29 回勉強会（主催：北海道スタンダード研究委員会）
  - ◇ 開　催　日 ： 2024 年 11 月 29 日（金）
  - ◇ 場　　所 ： TKP ガーデンシティ札幌駅前（札幌市中央区）
  - ◇ 講　　演 ： 「北海道を守った男の生涯 ～陸軍中将 樋口季一郎の決断と行動～」
    明治学院大学 名誉教授　樋口 隆一　氏
  - ◇ 出 席 者 ： 44 名

- CPD 研修会（主催：道南技術士委員会）
  - ◇ 開　催　日 ： 2024 年 12 月 6 日（金）
  - ◇ 場　　所 ： 函館市中央図書館（函館市）
  - ◇ 講　　演 ： 1.「港での複合的な構造物設置に関わる設計計画（施工）」
    (株)東鵬開発　三谷 岳　氏
    2.「実際の施工を考慮した詳細設計について」
    (株)リージャスト　浦　一男　氏
    3.「近年における業務の稀有な対応事例」
    (株)ノース技研　大坂 健嗣　氏
    4.「災害査定の手続きの効率化～設計図書の簡素化とアプローチ～」
    (株)エジソンブレイン　渡邊 達仁　氏
  - ◇ 出 席 者 ： 42 名

- 令和 6 年度技術研究発表会（主催：北方海域技術研究委員会）
  - ◇ 開　催　日 ： 2025 年 1 月 10 日（金）
  - ◇ 場　　所 ： 国立研究開発法人土木研究所寒地土木研究所講堂
  - ◇ 講　　演 ： 1.「消波ブロック被覆堤における消波工天端拡幅のみの改良断面の特性について」
    国立研究開発法人土木研究所 寒地土木研究所
    寒地水圏研究グループ寒冷沿岸域チーム研究員　酒井 和彦　氏
    2.「寒冷海域漁港における水産生物の保護育成機能について」
    国立研究開発法人土木研究所 寒地土木研究所
    寒地水圏研究グループ水産土木チーム主任研究員　菅原 吉浩　氏
    3.「音響計測手法と水中カメラ画像を用いた大型海藻の群落判別モデルの開発」
    地方独立行政法人北海道立総合研究機構
    釧路水産試験場調査研究部 管理増殖ｸﾞﾙｰﾌﾟ主査　園木 詩織　氏
    4.「気候振動による寒冷地の海象変化に関する調査研究」
    (一社)寒地港湾空港技術研究センター審議役　平澤 充成　氏
  - ◇ 出 席 者 ： 88 名

- 研究会（主催：北海道インフラ技術政策研究委員会）
  - ◇ 開　催　日 ： 2025 年 1 月 15 日（水）
  - ◇ 場　　所 ： (一社)北海道開発技術センター（札幌市北区）＆オンラインライブ配信
  - ◇ 講　　演 ： 「北海道大学によるデジタル技術の活用とデジタル人材の育成」
    北海道大学 創成研究機構
    データ駆動型融合研究創発拠点 特任教授　近藤 勝俊　氏
  - ◇ 出 席 者 ： 53 名

- 公開講演会（主催：青年技術士交流委員会）
  - ◇ 開　催　日 ： 2025 年 1 月 19 日（日）
  - ◇ 場　　所 ： 紀伊國屋書店札幌本店 1 階インナーガーデン（札幌市）
  - ◇ 講　　演 ： 「技術士・技術士補による知的書評合戦 ビブリオバトル」
    杉本技術士事務所　杉本 光祐　氏
    ダイシン設計(株)　佐々木 翼　氏
    北電総合設計(株)　小澤 正志　氏
    (株)ドーコン　丸山　緑　氏
    北海道富士電機(株)　横澤 亮輔　氏
    (株)エコテック　笹森 健太　氏
  - ◇ 出 席 者 ： 50 名（うち一般聴講 42 名）

- 令和 6 年度第 4 回研修会（主催：リージョナルステート研究委員会）
  - ◇ 開　催　日 ： 2025 年 1 月 31 日（金）
  - ◇ 場　　所 ： 札幌エルプラザ（札幌市北区）
  - ◇ 講　　演 ： 「～世界中から GX に関する資金・人材・情報が集積するアジア・世界の『金融センター』を目指して～『GX 金融・資産運用特区について』」
    札幌市まちづくり政策局 GX 推進室　七田　恒　氏
  - ◇ 出 席 者 ： 12 名

- 第 2 回技術講演会（主催：オホーツク技術士委員会）
  - ◇ 開　催　日 ： 2025 年 1 月 31 日（金）
  - ◇ 場　　所 ： 北見芸術文化ホール（北見市）
  - ◇ 講　　演 ： 1.「北海道かわ旅のすすめ」
    北見市役所 留辺蘂総合支所 産業課 課長　山川 克一　氏
    2.「北海道（特にオホーツク）における近年の冬季災害」
    北見工業大学 工学部 社会環境系 准教授　白川 龍生　氏
  - ◇ 出 席 者 ： 46 名

- 異業種交流会（主催：社会活動委員会）
  - ◇ 開　催　日 ： 2025 年 2 月 3 日（月）
  - ◇ 場　　所 ： ホテル札幌ガーデンパレス（札幌市中央区）
  - ◇ 講　　演 ： 1.「人口減少下の北海道における今後の福祉のミライ」
    (株)エムリンクホールディングス　本見 研介　氏
    2.「共働き家庭における『子どもたちの食』について新たな形を考える」
    カフェ＆キッチンスタジオ ぴあのぴあの　松塚 典子　氏
    3.「心を豊かにする人口減少社会における『学び』について」
    結維。　木村 ゆかり　氏
  - ◇ 出 席 者 ： 22 名

- CPD 研修会（主催：道南技術士委員会）
  - ◇ 開　催　日 ： 2025 年 2 月 7 日（金）
  - ◇ 場　　所 ： サン・リフレ函館（函館市）
  - ◇ 講　　演 ： 1.「技術士のコンピテンシーについて」
    (株)リージャスト　金谷 英俊　氏
    2.「私は若い頃これで技術士をいただきました-ﾚｲﾝﾎﾞｰﾌﾞﾘｯｼﾞのお話-」
    (株)山丁林業　澤村 秀治　氏
    3.「海藻資源を活用した地域振興の取組事例」
    北海道立工業技術センター　木下 康宣　氏
    4.「新たな海藻の役割ブルーカーボン」
    (株)ノース技研　布村 重樹　氏
  - ◇ 出 席 者 ： 40 名

- 第 19 回技術フォーラム（主催：事業委員会）
  - ◇ 開　催　日 ： 2025 年 2 月 28 日（金）
  - ◇ 場　　所 ： ホテル札幌ガーデンパレス（札幌市中央区）
  - ◇ 講　　演 ： 1.「北海道の気候変化とアンサンブル予報の活用」
    (一財)日本気象協会 北海道支社 事業サービス課
    MC・リスクコンサル G 兼社会・防災 G　佐藤 貴子　氏
    2.「気候変動が北海道農業に及ぼす影響と今後の可能性」
    地方独立行政法人北海道立総合研究機構
    農業研究本部 中央農業試験場 農業環境部 部長　後藤 英次　氏
    3.「気候変動による北海道の森林・林業への影響と対応策」
    地方独立行政法人北海道立総合研究機構
    森林研究本部 林業試験場 森林経営部 経営グループ
    主査　津田 高明　氏
    4.「札幌市のヒグマ対策について」
    札幌市 環境局 環境都市推進部
    環境対策課 環境共生担当課 課長　坂田 一人　氏
  - ◇ 出 席 者 ： 73 名

- 第 2 回防災・減災支援研修会（主催：防災委員会）
  - ◇ 開　催　日 ： 2025 年 3 月 5 日（水）
  - ◇ 場　　所 ： 札幌エルプラザ（札幌市北区）＆オンラインライブ配信
  - ◇ 講　　演 ： 1.「液状化の基礎知識　-能登半島地震を踏まえて-」
    北海道本部防災委員会防災・減災支援 WG メンバー　横田　寛　氏
    北海道本部防災委員会防災・減災支援 WG メンバー　大浦 宏照　氏
    2.「平成 30 年北海道胆振東部地震を振り返る
    －札幌市清田区里塚地区の被災概要－」
    北海道本部防災委員会防災・減災支援 WG リーダー　城戸　寛　氏
  - ◇ 出 席 者 ： 43 名（会場：19 名、WEB：24 名）

2024 年度　北海道本部事業報告　その２（会議等）

会　　議　　名	開催日	出席者数	主　た　る　議　題
第 66 回　定時総会　（統括本部）	2024. 6.13	7,169	2023 事業・収支決算報告、2024 事業計画・予算
統括本部理事会　（第１回）	2024. 5. 9	34	2023 事業・収支報告、新名誉会員・会長表彰者 ほか
〃　（第２回）	2024. 7. 9	35	委員会運営に関する規則の変更、審議員の再任 ほか
〃　（第３回）	2024. 9.10	33	役員候補者選出選挙管理委員会委員の委嘱 ほか
〃　（第４回）	2024.11.11	36	名誉会員推薦規則の改定、委員会委員等の異動 ほか
〃　（第５回）	2025. 1.20	35	製品評価技術基盤機構との覚書の改定、懲戒規則の制定 ほか
〃　（第６回）	2025. 3.14	32	DEI 推進宣言(案) 2025 年度事業計画・収支予算 ほか
地域本部長会議　（第１回）	2024. 6. 3	16	試験事務実施上の問題点、技術士の知名度向上 ほか
〃　（第２回）	2024. 9.19	17	全国大会の準備・手続き、地域本部における部会の設置 ほか
〃　（第３回）	2024.12.10	18	役員、委員の任期（再任制限）、年齢制限 ほか
〃　（第４回）	2025. 3.21	17	地域組織幹事選出選挙、統括本部からの補助金 ほか
【北海道本部】			
第 59 回　年次大会	2024. 7.10	62	2023 決算報告、2024 事業計画・予算 ほか
役員会　（第１回）	2024. 4. 9	30	2023 事業報告・決算報告、2024 事業計画・予算 ほか
〃　（第２回）	2024. 5.29	28	年次大会資料、事務局の夏期休業 ほか
〃　（第３回）	2024.12.11	21	2024 中間報告、2025 事業計画・予算 ほか
〃　（第４回）	2025. 2.18	27	研究委員会の活動継続、会長表彰推薦者 ほか
技術士全国大会実行委員会（第３回）	2024. 4.22	12	全体及び各委員会の進捗状況 ほか
〃　（第４回）	2024. 5.29	13	進捗状況（来賓招請、広告協賛、新聞特集 ほか）
〃　（第５回）	2024. 6.27	12	進捗状況（来賓招請、ｳｪﾙｶﾑﾊﾟｰﾃｨｰ、記念誌 ほか）
〃　（第６回）	2024. 8. 8	12	進捗状況（来賓、式次第、パネル展示 ほか）
〃　（第７回）	2024. 9.26	13	申込状況・名簿、式次第、来賓・議員対応 ほか
【地域委員会】			
技術士試験委員会　（第１回）	2024. 6. 7	8	2023 年度事業報告、2024 年度事業計画 ほか
〃　（第２回）	2024. 7. 5	13	技術士第二次試験監督の実施体制 ほか
〃　（第３回）	2024.7.14～15	延 76	技術士第二次試験監督
〃　（第４回）	2024.11.15	15	技術士第一次試験監督の実施体制 ほか
〃　（第５回）	2024.11.24	延 83	技術士第一次試験監督
〃　（第６回）	2025. 2.19	9	2024 事業報告・決算報告、2025 事業計画 ほか
総務委員会　（第１回）	2025. 1.24	10	2025 年度会長表彰の推薦
事業委員会　（第１回）	2024. 5. 7	10	2023 年度活動報告及び 2024 事業計画･活動方針
〃　（第２回）	2024. 7. 1	9	技術研修会、全国大会、技術フォーラム
〃　（臨　時）	2024. 8.28	6	技術士全国大会ツアー
〃　（第３回）	2024. 9. 2	7	技術研修会、全国大会、技術フォーラム
〃　（臨　時）	2024. 9.19	5	技術士全国大会ツアー
〃　（第４回）	2024.11. 5	9	全国大会総括、研修会報告、技術フォーラム進捗
〃　（第５回）	2025. 1.14	9	技術フォーラム進捗
〃　（第６回）	2025. 3.10	6	技術フォーラム総括、次年度の活動について

会　　議　　名	開催日	出席者数	主　た　る　議　題
広報委員会　（第１回）	2024. 4. 4	11	会誌 163 号編集会議 ほか
〃　（第２回）	2024. 5. 9	10	会誌 163 号原稿取り纏め ほか
〃　（第３回）	2024. 7.17	11	会誌 164 号編集会議 ほか
〃　（第４回）	2024. 8.22	11	会誌 164 号原稿取り纏め ほか
〃　（第５回）	2024.11.21	9	会誌 165 号（全国大会報告合併号）編集会議 ほか
〃　（第６回）	2025. 1. 9	9	会誌 165 号（全国大会報告合併号）原稿取り纏め ほか
社会活動委員会　（第１回）	2024. 5.27	11	活動計画と予算、全国大会、社会交流セミナーについて
〃　（第２回）	2024. 9. 2	11	全国大会、社会交流セミナー、異業種交流会企画
〃　（第３回）	2024.12.16	9	異業種交流会企画、次年度の活動について
〃　（第４回）	2024.12.17	2	研究委員会の継続についてのヒアリング
防災委員会　（第１回）	2024. 4.22	11	総合幹事会 2024 年度の活動方針、総会開催方法
〃　（第２回）	2024. 7. 3	5	交通部会現地視察会の検討
〃　（第３回）	2024. 8.27	12	総合幹事会 全国大会について
〃　（第４回）	2024.10.11	8	交通部会現地視察会の勉強会
〃　（第５回）	2024.11.22	11	総合幹事会 2024 中間事業報告及び決算見込み ほか
〃　（第６回）	2025. 2. 5	11	総合幹事会 2024 年度活動報告及び 2025 年度事業計画
青年技術士交流委員会　（第１回）	2024. 4.18	25	幹事会　2024 年度の活動方針、研修会計画
〃　（第２回）	2024. 6.15	4	全国各地域本部の青年委員による活動の情報交換
〃　（第３回）	2024. 6.18	13	幹事会　研修会振り返り、研修会計画
〃　（第４回）	2024. 7.16	5	全国大会企画内容について
〃　（第５回）	2024. 7.25	14	幹事会　研修会振り返り、研修会計画
〃　（第６回）	2024. 9. 4	6	全国大会企画内容について
〃　（第７回）	2024. 9. 4	1	「技術士」×「青年」交流会　企画ミーティング
〃　（第８回）	2024. 9.25	14	幹事会　研修会振り返り、研修会計画
〃　（第９回）	2024.11.14	19	幹事会　研修会振り返り、研修会計画・技術士を知ろう準備
〃　（第 10 回）	2024.12.11	18	幹事会　研修会振り返り、研修会計画
〃　（第 11 回）	2025. 2. 4	14	幹事会　研修会振り返り、次年度活動計画
倫理委員会　（第１回）	2024. 4. 3	9	幹事会　委員会体制、全国大会、倫理フォーラム ほか
〃　（第２回）	2024. 4.17	20	研究 WG　委員会体制、全国大会、倫理フォーラム ほか
〃　（第３回）	2024. 5. 8	8	幹事会　分科会及び技術者倫理フォーラムの内容 ほか
〃　（第４回）	2024. 5.16	8	A 班(過去班)WG　分科会及びフォーラムの発表内容ほか
〃　（第５回）	2024. 5.28	6	B 班(現在班)WG　分科会及びフォーラムの発表内容ほか
〃　（第６回）	2024. 6. 5	9	幹事会　分科会及びフォーラムの発表内容 ほか
〃　（第７回）	2024. 6.19	21	研究 WG　全国大会、技術者倫理フォーラム ほか
〃　（第８回）	2024. 7.17	7	幹事会　フォーラム総括、全国大会内容 ほか
〃　（第９回）	2024. 8.21	9	幹事会　全国大会分科会の内容 ほか
〃　（第 10 回）	2024. 9.13	7	幹事会　全国大会分科会の内容 ほか
〃　（第 11 回）	2024. 9.19	22	研究 WG　全国大会運営全般 ほか
〃　（第 12 回）	2024.10.29	10	幹事会　全国大会振り返り、今後の運営 ほか
〃　（第 13 回）	2024.11.27	15	研究 WG　全国大会振り返り、今後の運営 ほか
〃　（第 14 回）	2024.12.13	15	幹事会　今後の運営、次年度フォーラム ほか

会　　議　　名	開催日	出席者数	主　た　る　議　題
〃　（第 15 回）	2025. 2. 5	24	研究 WG　今後の運営、次年度フォーラム ほか
〃　（第 16 回）	2025. 3.18	9	幹事会　今後の運営、次年度フォーラム ほか
【社会活動委員会　研究委員会】			
北方海域技術研究委員会（第１回）	2024. 5. 8	12	幹事会　役員交代、令和 6 年度総会議案・講演会
〃　（第２回）	2024. 5.31	11	幹事会　令和 6 年度講演会の詳細
〃　（第３回）	2024. 7.29	12	幹事会　令和 6 年度定例会の概要
〃　（第４回）	2024. 9.19	9	幹事会　令和 6 年度定例会・技術研究発表会
〃　（第５回）	2024.11.19	9	幹事会　令和 6 年度技術研究発表会、次年度事業計画
〃　（第６回）	2025. 2.13	10	幹事会　次年度役員変更、次年度事業計画 ほか
ﾘｰｼﾞｮﾅﾙｽﾃｰﾄ研究委員会（第１回）	2024. 3.14	6	幹事会　R6 年度の活動方針、R6 総会・第 1 回研修会
〃　（第２回）	2024. 4.25	6	幹事会　第 1 回研修会準備、第 2 回研修会計画
〃　（第３回）	2024. 6. 5	9	幹事会　第 2 回研修会、施設見学会の準備
〃　（第４回）	2024. 6.12	6	定例会　地域主権分科会の今後のあり方の検討
〃　（第５回）	2024. 7. 4	14	定例会　北海道の広域行政について
〃　（第６回）	2024. 7. 9	6	幹事会　令和 6 年度臨時総会の計画、全国大会
〃　（第７回）	2024. 8.30	9	定例会　北海道における人口減少と市町村の対応について
〃　（第８回）	2024. 9.19	4	定例会　全国大会準備、展示パネル確認
〃　（第９回）	2024.11. 1	10	定例会　地域活性化のあり方を考える
〃　（第 10 回）	2024.11.15	5	幹事会　中間報告とりまとめ、第 4 回研修会
〃　（第 11 回）	2024.12.13	12	定例会　北海道の集落の現状と課題、今後の集落対策のあり方
北海道ｽﾀﾝﾀﾞｰﾄﾞ研究委員会（第１回）	2024. 4.24	7	幹事会　令和 6 年度の体制、活動方針、次回勉強会
〃　（第２回）	2024. 6.13	5	幹事会　令和 6 年度の活動計画について
〃　（第３回）	2025. 2. 3	8	幹事会　次回勉強会、報告書とりまとめ
ｴﾝｼﾞｮｲ･ｻｲｴﾝｽ研究委員会（第１回）	2024. 4.17	3	寿都町サポート事前協議
〃　（第２回）	2024. 4.19	13	定例会　2024 活動確認 ほか
〃　（第３回）	2024. 4.27	4	北広島輪厚児童センターサポート事前協議
〃　（第４回）	2024. 7.12	13	定例会　サポート報告、今後の活動確認 ほか
〃　（第５回）	2024. 8.17	2	千歳ひので児童センターサポート事前協議
〃　（第６回）	2024. 8.31	2	北広島団地児童センターサポート事前協議
〃　（第７回）	2024. 9. 6	9	定例会　サポート報告、今後の活動確認 ほか
〃　（第８回）	2024. 9.26	7	全国大会準備会合
〃　（第９回）	2024.10. 7	8	寿都町（秋）準備会合
〃　（第 10 回）	2024.10.25	10	定例会　サポート報告、今後の活動確認 ほか
〃　（第 11 回）	2024.11.29	12	定例会　サポート報告、今後の活動確認 ほか
〃　（第 12 回）	2025. 2.28	13	定例会　サポート報告、次年度活動確認 ほか
〃　（第 13 回）	2025. 3. 1	7	科学技術振興支援委員会 WEB 発表
〃　（その他）	―	―	教育サポートを 11 回開催(寿都町 4 回、北広島児童センター3 回、千歳児童センター、占冠村、月寒川にぎわい川まつり、おもしろ科学教室)

会　　議　　名	開催日	出席者数	主　た　る　議　題
技術者のﾐﾗｲ研究委員会（第１回）	2024. 4.24	5	企画調整、2023 年度の活動総括、2024 活動計画（案）
〃　（第２回）	2024. 5. 2	3	「理工学系教育現場における支援事業」
〃　（第３回）	2024. 5.15	8	企画調整、2023 年度の活動総括、2024 活動計画（案）
〃　（第４回）	2024. 5.27	8	「技術士を知ろう！」プレゼンミーティング
〃　（第５回）	2024. 5.30	3	「理工学系教育現場における支援事業」
〃　（第６回）	2024. 6. 4	8	「技術士を知ろう！」プレゼンミーティング
〃　（第７回）	2024. 6. 6	2	「理工学系教育現場における支援事業」
〃　（第８回）	2024. 6.13	5	「技術士を知ろう！」北海道科学大学
〃　（第９回）	2024. 6.21	5	「技術士を知ろう！」苫小牧工業高等専門学校
〃　（第 10 回）	2024. 6.27	3	「理工学系教育現場における支援事業」
〃　（第 11 回）	2024. 6.27	7	全国大会第 4 分科会合同会議に向けた事前調整
〃　（第 12 回）	2024. 8. 8	7	ミライカフェＷＧ　実施内容確認
〃　（第 13 回）	2024. 8.31	11	ミライカフェ　ミライの技術者の環境づくりワークショップ
〃　（第 14 回）	2024. 9.17	4	「技術士を知ろう！」プレゼンミーティング
〃　（第 15 回）	2024.10. 8	6	「技術士を知ろう！」プレゼンミーティング
〃　（第 16 回）	2024.10.15	7	「技術士を知ろう！」プレゼンミーティング
〃　（第 17 回）	2024.10.16	4	「技術士を知ろう！」室蘭栄高等学校
〃　（第 18 回）	2024.10.16	5	「技術士を知ろう！」札幌工業高等学校
〃　（第 19 回）	2024.10.17	2	「理工学系教育現場における支援事業」
〃　（第 20 回）	2024.10.18	2	「理工学系教育現場における支援事業」
〃　（第 21 回）	2024.10.22	5	「技術士を知ろう！」北海学園大学
〃　（第 22 回）	2024.10.23	6	「技術士を知ろう！」プレゼンミーティング
〃　（第 23 回）	2024.11. 7	3	「理工学系教育現場における支援事業」
〃　（第 24 回）	2024.11.11	6	「技術士を知ろう！」プレゼンミーティング
〃　（第 25 回）	2024.11.15	6	中の島中学校職業体験
〃　（第 26 回）	2024.11.18	5	「技術士を知ろう！」プレゼンミーティング
〃　（第 27 回）	2024.11.21	5	「技術士を知ろう！」プレゼンミーティング
〃　（第 28 回）	2024.11.22	7	「技術士を知ろう！」函館工業高等専門学校
〃　（第 29 回）	2024.12.19	6	「技術士を知ろう！」北見工業大学
〃　（第 30 回）	2024.12.19	2	「理工学系教育現場における支援事業」
〃　（第 31 回）	2024.12.20	2	「理工学系教育現場における支援事業」
〃　（第 32 回）	2025. 1.29	10	ミライカフェＷＧ　実施内容確認
〃　（第 33 回）	2025. 3. 8	25	ミライカフェ　ミライの技術者の環境づくりワークショップ
北海道ｲﾝﾌﾗ技術政策研究委員会（第１回）	2024. 4.11	4	幹事会　2023 事業報告、2024 事業計画・予算 ほか
〃　（第２回）	2024. 5. －	25	メール総会　2023 年度事業報告、2024 事業計画・予算
〃　（第３回）	2024. 6. 6	4	幹事会　次期継続について
〃　（第４回）	2024. 9.19	3	幹事会　次期継続について
〃　（第５回）	2024.11.22	4	幹事会　2024 中間報告、2025 事業計画・予算 ほか
〃　（第６回）	2025. 3.19	5	幹事会　2024 事業報告、2025 事業計画・予算 ほか

会　議　名	開催日	出席者数	主 た る 議 題
【地方委員会】			
道央技術士委員会　（第１回）	2024. 4. 8	4	幹事会：総会準備と講演会開催について
〃　（第２回）	2024. 4.26	17	総会：道央技術士委員会における地域防災活動についての検討
〃　（第３回）	2024. 7.31	6	第 1 回現地見学会について
〃　（第４回）	2024.10.29	4	2025 防災まち歩きのコンセプト確認
〃　（第５回）	2024.11.22	5	幹事会：技術研修会と講演会について ほか
〃　（第６回）	2025. 1.17	7	幹事会：技術研修会と講演会について ほか
道南技術士委員会　（第１回）	2024. 5.31	36	総会　2023 年度活動・決算、2024 年度計画・予算 ほか
道東技術士委員会　（第１回）	2024. 7.19	47	総会　2023 年度活動・決算、2024 年度計画・予算 ほか
〃　（第２回）	2025. 3.27	34	「技術伝承」をテーマとした情報交換会
道北技術士委員会　（第１回）	2024. 6. 8	41	総会　令和 5 年度活動・決算、令和 6 年度計画・予算 ほか
ｵﾎｰﾂｸ技術士委員会　（第１回）	2024. 4.15	10	幹事会　技術講演会及び定期総会の開催
〃　（第２回）	2024. 5.24	27	総会　2023 年度活動・決算、2024 年度計画・予算 ほか
〃　（第３回）	2024. 7. 7	12	「水辺で乾杯」参加
〃　（第４回）	2024.11. 6	10	幹事会　第 2 回技術講演会の開催
〃　（第５回）	2025. 2.26	4	幹事会　2025 年度役員体制について

第１号報告

北海道本部の 2024 年度決算について

新型コロナウイルス感染症の 5 類移行後である、2023 年度の北海道本部活動予算規模は 1,700 万円程度であったが、2024 年度は、10 月に技術士全国大会が北海道本部の担当で開催されたことから、活動予算規模が 3,000 万円程度となった。

技術士全国大会が地域本部担当で開催される場合は、統括本部から全国大会補助金が支給されるものの、この補助金及び大会参加者の参加費収入のみで賄うことは難しく、各地域本部が全国大会に向けて毎年積み立てしてきた繰越金を運営費に投入している。北海道本部では、2024 年度予算で約 350 万円の支出を計画していた。

しかし、第 50 回技術士全国大会（札幌・北海道）では、実行委員会委員、賛助会員（協賛団体）及び企業･団体の関係者各位の協力により、広告料収入の増収、各種経費の圧縮を行うことができ、繰越金からの投入額を約 170 万円圧縮することができた。

以下、2024 年度の決算の概要について示す。

■2024 年度決算について

【一般会計】

①第 50 回技術士全国大会の収支

※後掲の第 50 回技術士全国大会（札幌・北海道）収支報告書を参照のこと

全体……予算（計画値：1,769 万円）より約 118 万円減の約 1,650 万円

①-1. 収入の部

北海道本部からの補助金を除いた全国大会収入は、予算額 1,415 万円に対し、約 60 万円増の 1,475 万円となった。大会参加費収入が見込みより少なかったが、広告協賛費が 88 万円増となった結果による。

①-2. 支出の部

JR 札幌駅もしくは地下歩行空間での展示の取りやめ、分科会テキスト印刷費の削減や会議における旅費交通費の削減などから、予算より約 118 万円の減となり、支出合計が約 1,650 万円となった。

②全国大会を含む一般会計の収支

②-1. 収入の部

全体収入……予算（計画値：3,247 万円）より約 195 万円減の約 3,051 万円。全国大会を除いた収入では約 114 万円の減額。

1．参加費収入（研修、セミナー、講演会、見学会等）および各種資料等頒布収入（会友の会誌購読費）がいずれも収入減となり、あわせて予算より約 117 万円の収入減となった。

2．地域組織活動費収入（統括本部から地域本部に会員数に応じて支給される配分）が予算より約 4 万円増となった。

3．統括本部からの講演会・見学会補助金収入は上限の 84 万円となった。

②-2. 支出の部

全体支出……予算（計画値：約 3,771 万円）より約 429 万円減の約 3,342 万円。全国大会を除いた支出では約 169 万円の減額。

１．普及啓発費の減額（約 260 万円）は全国大会開催費の減額分。予算計画時にパートナズツアー、テクニカルツアーＡ及びＢの収入と支出を同額で計上していたが、ツアー直接費は旅行代理店の収支となることから、決算時に除外し約 141 万円の減額となり、これに全体の削減額約 118 万円を加えたものである。
２．CPD 関連事業の研鑽費が約 171 万円の支出減となった。これは、当初予算に事業委員会の技術研修会（宿泊コース）や防災委員会の防災セミナーを見込んでいたが、全国大会開催により中止とした影響が大きい。
３．会議費が約 65 万円の支出減となった。前２項の行事の中止及び全国大会の会議と各行事の会議を同時開催することによりコスト削減が図られた。
４．地域委員会活動費の減額と各種会合費の増額については、統括本部からの指導により、行事後の意見交換会等を各種会合費へ科目変更したことによる。

＜事業活動収支差額＞

単年度収支は、予算時約 524 万円の赤字に対し、約 291 万円の赤字となり赤字幅が縮小した。全国大会の持ち出し分約 175 万円を除くと約 115 万円の赤字であった。

＜次期繰越額＞

・前期繰越額＋（2024 年度収支差額）
→　13,934,926 円＋（-2,910,854 円）＝11,024,072 円

【特別会計】

特別会計は実費清算方式であり、技術士試験委員会の試験備品購入費や技術者のミライ研究委員会が行う啓発活動における旅費交通費・会議費の支出減により、計画予算から約 27 万円の支出減となった。

［以上］

第１号報告

【一般会計】2024(R06)年度　決算

一　般　会　計

科　　目	①2024年度予算	②2024年度決算	増減　②-①	備　考
Ⅰ　事業活動収支の部				
Ⅰ－１　事業活動収入				
１ 事業収入	**18,422,000**	**16,418,406**	**▲ 2,003,594**	
広告料収入	1,168,000	1,159,000	▲ 9,000	
参加費収入	1,453,000	798,700	▲ 654,300	イベントの中止
各種資料等頒布収入	2,733,000	2,211,100	▲ 521,900	会誌購読料（会友減）
技術士全国大会収入	11,650,000	12,249,606	599,606	
	1,418,000	0	▲ 1,418,000	ツアー直接費（決算時除外）
２ 雑収入	**935,000**	**936,986**	**1,986**	
受取利息収入等	0	4,486	4,486	
雑収入	0	7,500	7,500	
協賛金収入	935,000	925,000	▲ 10,000	協賛団体会費：1社減
３ 地域組織活動費収入	**6,776,000**	**6,818,538**	**42,538**	統括本部分配金(会費減免あり)
４ 地域組織活動補助費収入	**6,340,000**	**6,340,000**	**0**	統括本部補助金
講演会･見学会開催補助金収入	840,000	840,000	0	
全国大会補助金収入	2,500,000	2,500,000	0	
合同ｾﾐﾅｰ開催補助金収入	0	0	0	
地域交流促進補助金収入	0	0	0	
その他補助金収入	3,000,000	3,000,000	0	（家賃＋賃金）
事業活動収入計　　(A)	**32,473,000**	**30,513,930**	**▲ 1,959,070**	②除く全国大会（15,764,324）
Ⅰ－２　事業活動支出			増減　②-①	
１ 事　業　費	**37,718,834**	**33,424,784**	**▲ 4,294,050**	
①事業促進費	**0**	**0**	**0**	
（対外活動促進費）	0	0	0	その他の広報活動費に計上変更
②事業広報費	**4,990,000**	**4,860,827**	**▲ 129,173**	
（会誌印刷費）	3,440,000	3,351,900	▲ 88,100	年３回発行
（会誌郵送費）	850,000	883,326	33,326	
（ｲﾝﾀｰﾈｯﾄ運用費）	500,000	457,851	▲ 42,149	ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ更新，維持管理
（その他の広報活動費）	200,000	167,750	▲ 32,250	広告宣伝費(新聞等)
③普及啓発費	**19,110,000**	**16,508,830**	**▲ 2,601,170**	
（全国大会開催費）	19,110,000	16,508,830	▲ 2,601,170	
	(17,692,000)	(16,508,830)	▲ 1,183,170	うち北海道本部補助3,542千円→1,759千円
	(1,418,000)	(0)	▲ 1,418,000	ツアー直接費（決算時除外）
（合同セミナー開催費）	0	0	0	
④相互交流費	**0**	**0**	**0**	
（地域交流促進費）	0	0	0	
⑤研鑽費	**4,543,000**	**2,831,536**	**▲ 1,711,464**	
（講演会・見学会開催費）	4,543,000	2,831,536	▲ 1,711,464	CPD関連事業を含む
⑥各種資料等作成費	**10,000**	**0**	**▲ 10,000**	販売書籍購入原価
⑦業務推進費	**9,065,834**	**9,223,591**	**157,757**	
（賃　金）	2,458,772	2,791,183	332,411	事務員給与(特別会計と調整)
（会議費）	1,098,100	439,506	▲ 658,594	役員会,委員会,研究委員会等
（旅費交通費）	1,485,010	1,678,937	193,927	各委員会，事務局交通費
（通信運搬費）	150,000	270,965	120,965	
（消耗品費）	200,000	51,774	▲ 148,226	ﾌﾟﾘﾝﾀｰﾄﾅｰなど
（印刷製本費）	350,000	568,887	218,887	北海道本部パンフなど
（各種会合費）	600,000	1,333,688	733,688	年次大会、合格者祝賀会、各意見交換会
（事務所賃借料）	1,338,496	1,338,494	▲ 2	
（地域委員会活動費）	1,078,056	457,602	▲ 620,454	委員会,研究委員会等活動費
（雑費その他）	307,400	292,555	▲ 14,845	慶弔費,謝礼,書籍代ほか
事業活動支出計　　(B)	**37,718,834**	**33,424,784**	**▲ 4,294,050**	②除く全国大会（16,915,954）
事業活動収支差額(A)-(B)	▲ 5,245,834	▲ 2,910,854	2,334,980	②除く全国大会（▲1,151,630）
Ⅱ　予備費支出				
１予備費支出（C）	0	0	0	
当期収支差額(A)-｛(B)+(C)｝	▲ 5,245,834	▲ 2,910,854	2,334,980	②除く全国大会（▲1,151,630）
前期繰越収支差額	13,934,926	13,934,926		
次期繰越収支差額	8,689,092	11,024,072	2,334,980	

第１号報告

【特別会計】2024(R06)年度　決算

特　別　会　計

科　　目	①2024年度予算	②2024年度決算	増減　②-①	備　考
Ⅰ 事業活動収支の部				
Ⅰ－１事業活動収入				
１ 地域組織試験事務費収入	**2,620,000**	**2,343,946**	**▲ 276,054**	
試験事務費収入	620,000	343,946	▲ 276,054	
事務人件費収入	2,000,000	2,000,000	0	事務所賃借料含む
設営準備費収入	0	0	0	
２ 雑収入	**0**	**989**	**989**	
受取利息	0	989	989	
雑収入	0	0	0	
事業活動収入計　(A)	2,620,000	2,344,935	▲ 275,065	
Ⅰ－２　事業活動支出			②-①	
１ 試験事業費	**450,000**	**267,593**	**▲ 182,407**	
①第一次試験	**80,000**	**35,094**	**▲ 44,906**	
旅費交通費	40,000	7,380	▲ 32,620	試験業務打合せ,啓発活動等
印刷製本費	10,000	18,634	8,634	ガイダンス資料作成等
通信運搬費	10,000	5,680	▲ 4,320	試験備品運搬等
会　議　費	20,000	3,400	▲ 16,600	試験業務打合せ,啓発活動等
②第二次試験	**370,000**	**232,499**	**▲ 137,501**	
旅費交通費	240,000	175,049	▲ 64,951	試験業務打合せ,啓発活動等
印刷製本費	10,000	0	▲ 10,000	会議資料作成等
通信運搬費	10,000	1,900	▲ 8,100	試験備品運搬等
会　議　費	110,000	55,550	▲ 54,450	試験業務打合せ,啓発活動等
２ 人件費	**1,107,670**	**1,108,659**	**989**	
試　　験	1,107,670	1,108,659	989	事務局事務員
３ 事務費（試験）	**1,062,330**	**968,683**	**▲ 93,647**	
事務所賃借料	892,330	892,330	0	
雑費その他	170,000	76,353	▲ 93,647	試験備品補充
事業活動支出計　(B)	2,620,000	2,344,935	▲ 275,065	
事業活動収支差額　(A)-(B)	0	0	0	
Ⅱ 予備費支出				
予備費支出　(C)	0	0	0	
当期収支差額　(A)-｛(b)+(C)｝	0	0	0	
前期繰越収支差額	0	0	0	
次期繰越収支差額	0	0	0	

第１号報告

第50回技術士全国大会(札幌･北海道) 収支報告書

【収入の部】　（金額単位:円）

費　　目	予算額	決算額	増減	備　　考
(1)大会参加費	2,500,000	2,070,000	−430,000	5,000円×414人
(2)分科会参加費	400,000	495,000	95,000	1,000円×468人＋3,000円×9人
(3)交流パーティー参加費	3,500,000	3,578,000	78,000	10,000×337人＋8,000円×26人
(4)統括本部補助金	2,500,000	2,500,000	0	
(5)北海道本部補助金	3,542,000	1,759,224	−1,782,776	2024予算より支出
(6)広告料収入	3,000,000	3,880,000	880,000	
(7)ウェルカムパーティー参加費	1,650,000	1,728,000	78,000	6,000円×288人
(8)その他雑収入	600,000	498,606	−101,394	大会弁当ほか
Ａ：収入合計	**17,692,000**	**16,508,830**	**−1,183,170**	

【支出の部】　（金額単位:円）

費　　目	予算額	決算額	増減	備　　考
(1)式典・分科会会場費一式	4,256,250	4,600,222	343,972	会場使用料、機材、設営費ほか
(2)交流パーティー費用一式	4,496,300	4,367,186	−129,114	330人（来賓含む）
(3)大会記念誌等配布資料関連	1,600,000	1,825,010	225,010	印刷製本、写真撮影ほか
(4)謝金一式	600,000	468,058	−131,942	記念講演、分科会講師、司会者、看護師
(5)会議費	1,260,000	1,202,359	−57,641	実行委員会・運営委員会等(旅費交通費含む)
(6)旅行代理店費用	1,537,800	1,287,650	−250,150	業務委託費、クレジットカード決済手数料ほか
(7)ツアー関連	320,000	224,231	−95,769	添乗スタッフ経費ほか
(8)ウェルカムパーティー費用一式	1,750,000	1,638,900	−111,100	6,000円×287人、看板ほか
(9)事務費	140,050	126,274	−13,776	事務用品ほか
(10)諸経費、雑費	1,731,600	768,940	−962,660	大会ポスター、大会弁当ほか
Ｂ：支出合計	**17,692,000**	**16,508,830**	**−1,183,170**	

収支　Ａ－Ｂ	**0**	**0**	**0**	

監　査　報　告　書

2024 年度収支決算（2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日）について会計監査を行った結果、帳簿，書類，預金通帳等整然と整理されており、適正に執行されているものと認めます。

2025 年 4 月 7 日

公益社団法人日本技術士会北海道本部

会計幹事　成田　登

会計幹事　寺島貴志

2025 年度　事　業　計　画

１．事　　務　　局　～ ●統括本部対応，●本部事務連絡窓口，●技術士試験事務窓口，
●書籍等の販売，●ホームページ，●技術士データベース

２．地 域 委 員 会

（１）技術士試験委員会　～ ●技術士試験札幌会場における技術士試験の準備・実施

（２）総　務　委　員　会　～ ●北海道本部検討事項対応，●各種褒賞について会員の推挙，
●実行委員会を所管

（３）事　業　委　員　会　～ ●統括本部技術検討事項窓口，●講習会･見学会等の計画･実施，
●技術士継続研鑽（CPD）窓口及び事業支援，●研究業績発表，
●統括本部・他地域本部との共同事業

（４）広　報　委　員　会　～ ●会誌「コンサルタンツ北海道」年間３巻発刊

（５）社 会 活 動 委 員 会　～ ●調査研究、新規業務等の開拓，●技術士業務の斡旋，
●マスコミ・行政・企業へのＰＲ，●研究委員会を所管

１）北方海域技術研究委員会　～●北方海域を取り巻く諸問題の調査研究と提言

２）ﾘｰｼﾞｮﾅﾙｽﾃｰﾄ研究委員会　～●21 世紀の北海道自律を目指した提言と技術士の役割の研究

３）北海道ｽﾀﾝﾀﾞｰﾄﾞ研究委員会　～●既存の規則や規制にとらわれない北海道らしい新たなルールや考え方の研究と提案

４）ｴﾝｼﾞｮｲ･ｻｲｴﾝｽ研究委員会　～●理科授業を通じ技術者となる人材を育成

５）技術者のミライ研究委員会　～●技術士資格(制度)の理解促進、技術士の知名度向上、技術士(者)を目指す学生の増強、若手技術者が生き生きと働くための環境づくりの研究と実施

６）北海道インフラ技術政策研究委員会　～●インフラに係る政策、学術および技術等に係る情報収集や議論等を通し、人材育成ならびに発信等を行う場を設け、流動する政策の中で諸課題の解決に対応できる技術士(者)の能力を高める

（６）防　災　委　員　会　～ ●多様な災害による被害を、最小限に食い止めるための防災・減災対策を調査研究し、広く社会に対して情報を発信

（７）青年技術士交流委員会　～ ●会員の相互の交流，●青年技術士の資質向上のための講習会，見学会開催

（８）倫　理　委　員　会　～ ●技術者倫理の啓発、普及

（９）地　方　委　員　会　～ ●道央・道南・道東・道北・オホーツク技術士委員会，●技術士継続研鑽（CPD）

３．主　な　事　業　～ ●第 60 回北海道本部年次大会
●第 45 回地域産学官と技術士との合同セミナー

第２号報告

北海道本部の 2025 年度予算について

■2025 年度予算

2025 年度は、「地域産学官と技術士との合同セミナー」を予定しているものの、技術士全国大会が終わったことから、ほぼ通常期の事業活動となる。全国大会前の 2023 年度当初予算規模（収入と支出の合計の平均）約 1,850 万円と比較し、当初予算規模が約 20 万円減の約 1,830 万円となった。

【一般会計】

【収入】：前年度予算から約 1,535 万円の収入減。全国大会分を除くと約 21 万円の増額を予定。約 21 万円の増額は、合同セミナーの補助金 40 万円増、行事参加費収入の約 20 万円減による。

【支出】：前年度予算から約 1,813 万円の支出減。全国大会分を除くと約 97 万円の増額を予定。約 97 万円の増額は、合同セミナー開催費（45 万円）、事務員賃金（約 34 万円増）、各種会合費（約 65 万円増）の増額が主な要因である。

【事業活動収支差額】：単年度赤字額が、前年度計画約 524 万円に対し、今年度約 247 万円となり、赤字が減額。

【次期繰越額】＝約 855 万円（前年度計画約 868 万円）

事業活動支出額は、各委員会・研究委員会からの予算要求と、事務局運営の固定費・変動費等を合計し、全国大会を除いた 2024 年度予算の約 1,860 万円から 1,958 万円に増額が見込まれ、単年度収支は 247 万円の赤字決算となる。

これは、通常の予算計画では容認し難い状況ではあるが、コロナの影響により増加した繰越額ならびに全国大会の決算余裕から得られる繰越 1,102 万円により、予算執行上はまだ十分な余裕を持ち（2026 年度への繰越予定が 855 万円）、次年度（2026 年度）も安定的な財務体質での運営が可能と予想されることからマイナス収支の予算計画を許容した。

ただし、2024 年度の決算を踏まえ、2026 年度の予算策定までに、北海道本部資産状況を把握した上で、健全かつ持続可能な収支での活動予算の運営に移行できるよう、各委員会・研究委員会と予算調整を十分に行う。

【特別会計】

特別会計は実費清算方式であり、前年度実績を踏まえ 2024 年度予算より約 10 万円減の 250 万円規模の予算とした。

［以上］

第２号報告

【一般会計】2025(R07)年度　予算

一　般　会　計

科　　目	①2024年度予算	②2025年度予算	増減　②-①	備　考
Ⅰ　事業活動収支の部				
Ⅰ－１　事業活動収入				
１ 事業収入	**18,422,000**	**5,145,000**	**▲ 13,277,000**	
広告料収入	1,168,000	1,168,000	0	
参加費収入	1,453,000	1,244,000	▲ 209,000	
各種資料等頒布収入	2,733,000	2,733,000	0	会誌購読料など（会友）
技術士全国大会収入	13,068,000	0	▲ 13,068,000	
２ 雑収入	**935,000**	**935,000**	**0**	
受取利息収入等	0	0	0	
雑収入	0	0	0	
協賛金収入	935,000	935,000	0	協賛団体会費
３ 地域組織活動費収入	**6,776,000**	**6,796,000**	**20,000**	**統括本部配分**
４ 地域組織活動補助費収入	**6,340,000**	**4,240,000**	**▲ 2,100,000**	**統括本部補助金**
講演会･見学会開催補助金収入	840,000	840,000	0	
全国大会補助金収入	2,500,000	0	▲ 2,500,000	
合同ｾﾐﾅｰ開催補助金収入	0	400,000	400,000	
地域交流促進補助金収入	0	0	0	
その他補助金収入	3,000,000	3,000,000	0	（家賃＋賃金）
事業活動収入計　　(A)	**32,473,000**	**17,116,000**	**▲ 15,357,000**	①除く全国大会（16,905,000）
Ⅰ－２　事業活動支出			**増減　②-①**	
１事　業　費	**37,718,834**	**19,588,542**	**▲ 18,130,292**	
①事業広報費	**4,990,000**	**5,060,000**	**70,000**	
（会誌印刷費）	3,440,000	3,510,000	70,000	年３回発行
（会誌郵送費）	850,000	850,000	0	
（ｲﾝﾀｰﾈｯﾄ運用費）	500,000	500,000	0	ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ更新，維持管理
（その他の広報活動費）	200,000	200,000	0	新聞広告料等
②普及啓発費	**19,110,000**	**450,000**	**▲ 18,660,000**	
（全国大会開催費）	19,110,000	0	▲ 19,110,000	
（合同セミナー開催費）	0	450,000	450,000	
③相互交流費	**0**	**0**	**0**	
（地域交流促進費）	0	0	0	
④研鑽費	**4,543,000**	**4,206,000**	**▲ 337,000**	
（講演会・見学会開催費）	4,543,000	4,206,000	▲ 337,000	CPD関連事業を含む
⑤各種資料等作成費	**10,000**	**10,000**	**0**	販売書籍購入原価
⑥業務推進費	**9,065,834**	**9,862,542**	**796,708**	
（賃　金）	2,458,772	2,805,990	347,218	事務員
（会議費）	1,098,100	1,050,500	▲ 47,600	総会，役員会，委員会等
（旅費交通費）	1,485,010	1,388,000	▲ 97,010	同上
（通信運搬費）	150,000	150,000	0	
（消耗品費）	200,000	100,000	▲ 100,000	
（印刷製本費）	350,000	350,000	0	各種案内チラシ等
（各種会合費）	600,000	1,257,000	657,000	年次大会、合格者祝賀会、各意見交換会
（事務所賃借料）	1,338,496	1,338,496	0	
（地域委員会活動費）	1,078,056	1,140,556	62,500	委員会，研究委員会等活動費
（雑費その他）	307,400	282,000	▲ 25,400	慶弔費，謝礼，書籍代ほか
事業活動支出計　　(B)	**37,718,834**	**19,588,542**	**▲ 18,130,292**	①除く全国大会（18,608,834）
事業活動収支差額(A)－(B)	**▲ 5,245,834**	**▲ 2,472,542**	**2,773,292**	①除く全国大会（▲1,703,834）
Ⅱ　予備費支出				
１予備費支出（C）	0	0	0	
当期収支差額(A)－｛(B)＋(C)｝	▲ 5,245,834	▲ 2,472,542	2,773,292	①除く全国大会（▲1,703,834）
前期繰越収支差額	13,934,926	11,024,072		
次期繰越収支差額	8,689,092	8,551,530	▲ 137,562	

第２号報告

【特別会計】2025(R07)年度　予算

特　別　会　計

科　　目	①2024年度予算	②2025年度予算	増 減 ②-①	備　考
Ⅰ 事業活動収支の部				
Ⅰ－１事業活動収入				
１ 地域組織試験事務費収入	**2,620,000**	**2,517,000**	**▲ 103,000**	
試験事務費収入	620,000	517,000	▲ 103,000	
事務人件費収入	2,000,000	2,000,000	0	事務所賃借料含む
設営準備費収入	0	0	0	
２ 雑収入	**0**	**0**	**0**	
受取利息	0	0	0	
雑収入	0	0	0	
事業活動収入計　　(A)	**2,620,000**	**2,517,000**	**▲ 103,000**	
Ⅰ－２　事業活動支出			②-①	
１ 試験事業費	**450,000**	**330,000**	**▲ 120,000**	
①第一次試験	**80,000**	**60,000**	**▲ 20,000**	
旅費交通費	40,000	30,000	▲ 10,000	試験業務打合せ,啓発活動等
印刷製本費	10,000	10,000	0	ガイダンス資料作成等
通信運搬費	10,000	10,000	0	試験備品運搬等
会　議　費	20,000	10,000	▲ 10,000	試験業務打合せ,啓発活動等
②第二次試験	**370,000**	**270,000**	**▲ 100,000**	
旅費交通費	240,000	240,000	0	試験業務打合せ,啓発活動等
印刷製本費	10,000	10,000	0	会議資料作成等
通信運搬費	10,000	10,000	0	試験備品運搬等
会　議　費	110,000	10,000	▲ 100,000	試験業務打合せ,啓発活動等
２ 人件費	**1,107,670**	**1,107,670**	**0**	
試　　験	1,107,670	1,107,670	0	事務局事務員
３ 事務費（試験）	**1,062,330**	**1,079,330**	**17,000**	
事務所賃借料	892,330	892,330	0	
雑費その他	170,000	187,000	17,000	試験備品補充、トナー等
事業活動支出計　　(B)	**2,620,000**	**2,517,000**	**▲ 103,000**	
事業活動収支差額　(A)-(B)	0	0	0	
Ⅱ 予備費支出				
予備費支出　(C)	0	0	0	
当期収支差額　(A)-｛(b)+(C)｝	0	0	0	
前期繰越収支差額	0	0	0	
次期繰越収支差額	0	0	0	

第３号報告

役員の選任について

2025 年度の幹事選挙の結果、立候補された方はすべて信任された。
北海道本部役員会で次期役員の選任を行い、以下の方々が選任された。（敬称略）

公益社団法人 日本技術士会北海道本部　役員名簿

（2025・2026 年度）

３０名（特別顧問、事務局次長１名を除く）

	氏　　名	部　　門	備　　考
特別顧問	大　島　　紀　房	応理・総合	
特別顧問	斉　藤　　有　司	建設・総合	
特別顧問	能　登　　繁　幸	建設・総合	
特別顧問	森　　隆　広	建設・総合	
特別顧問	大　熊　　正　信	建設・総合	
代表幹事/本部長	金　　秀　俊	応理・総合	統括本部理事、日本技術士会副会長
副代表幹事/副本部長	谷　村　昌　史	建設・総合	
副代表幹事/副本部長	羽二生　　望	建設・総合	総務委員長
副代表幹事/副本部長	※紅　葉　克　也	建設・総合	地方委員長
幹事/事務局長	長　井　智　典	建設・総合	総務委員会幹事長
幹　　事	青　木　信　成	機　　械	統括本部機械部会地域本部連携グループ長
幹　　事	浅　野　基　樹	建設・総合	北海道ｲﾝﾌﾗ技術政策研究委員会副代表
幹　　事	荒　木　雅　紀	建　　設	広報委員会副委員長
幹　　事	市　橋　加　代	上下水道	
幹　　事	岩　倉　敦　雄	建設・総合	技術士試験委員長
幹　　事	岩　田　徳　夫	建設・総合	社会活動委員会副委員長
幹事/事務局次長	※小　澤　達　也	建　　設	
幹　　事	小　澤　正　志	建設・総合	技術者のﾐﾗｲ研究委員会代表
幹　　事	小　林　正　明	建　　設	防災委員長
幹　　事	※齋　藤　克　矢	建設・総合	事業委員長
幹　　事	櫻　井　　泉	水産・総合	北方海域技術研究委員会代表
幹　　事	※佐々木　裕　之	建設・総合	倫理委員長
幹　　事	佐　藤　厚　子	建設・総合	
幹　　事	滝　澤　嘉　史	建設・総合	ﾘｰｼﾞｮﾅﾙｽﾃｰﾄ研究委員会代表
幹　　事	※千　葉　　裕	建　　設	技術者のﾐﾗｲ研究委員会幹事長
幹　　事	中　前　千　佳	建　　設	
幹　　事	永　井　登茂美	建設・総合	社会活動委員長
幹　　事	永　洞　真一郎	環　　境	ｴﾝｼﾞｮｲ・ｻｲｴﾝｽ研究委員会代表
幹　　事	樋　詰　　透	建設・総合	北海道ｽﾀﾝﾀﾞｰﾄﾞ研究委員会副代表
幹　　事	平　岡　城　栄	建設・総合	
幹　　事	藤　井　貴　弥	建設・総合	青年技術士交流委員長、統括本部青年技術士支援委員
幹　　事	※前　田　研　治	建設・総合	防災委員会幹事長、統括本部防災支援委員
幹　　事	※向　井　直　樹	建設・情報・総合	統括本部総務委員
幹事/会計幹事	寺　島　貴　志	建設・水産・総合	
幹事/会計幹事	中　村　和　正	農　　業	
事務局次長	赤　根　　慶　一	建設・環境	

（注）※の方が新任です。

2025 年度北海道本部委員会等役員

１．事　務　局

事務局	長井事務局長	小澤(達)事務局次長
		赤根事務局次長

２．地域委員会

技術士試験委員会	岩倉委員長	澤口幹事長
総務委員会	羽二生委員長	長井幹事長
事業委員会	齋藤委員長	鈴木幹事長
広報委員会	見上委員長	田守幹事長
社会活動委員会	永井委員長	川島幹事長
・北方海域技術研究委員会	櫻井代表	石川幹事長
・ﾘｰｼﾞｮﾅﾙｽﾃｰﾄ研究委員会	滝澤代表	市川幹事長
・北海道ｽﾀﾝﾀﾞｰﾄﾞ研究委員会	大槻代表	奈良(照)幹事長
・ｴﾝｼﾞｮｲ・ｻｲｴﾝｽ研究委員会	永洞代表	堂領幹事長
・技術者のミライ研究委員会	小澤(正)代表	千葉幹事長
・北海道ｲﾝﾌﾗ技術政策研究委員会	田村代表	伊藤幹事長
防災委員会	小林委員長	前田幹事長
青年技術士交流委員会	藤井委員長	高橋幹事長
倫理委員会	佐々木委員長	佐藤(勉)幹事長
地方委員会	紅葉委員長	
・道央技術士委員会	田中代表	長谷川幹事長
・道南技術士委員会	布村代表	奈良(哲)幹事長
・道東技術士委員会	紅葉代表	丹羽幹事長
・道北技術士委員会	小椋代表	金子幹事長
・ｵﾎｰﾂｸ技術士委員会	橘　代表	荒木(真)幹事長

（注）□ 囲みの方が新任です。

第４号報告

2025 年度日本技術士会会長表彰者（北海道本部）

公益社団法人日本技術士会会長表彰規則第２条に基づき、北海道本部より下記３名の方が受賞された。

表彰規則第２条	氏　名	入会年月日	受　賞　理　由
２号 （入会歴 10 年以上）	青木　信成	2010.1.19 正会員資格取得日 2014.3.18	長年にわたり北海道本部幹事、北海道本部事業委員会委員を務めると共に、統括本部機械部会幹事を務めるなど、北海道本部並びに本会の発展に貢献した。
	荒木　雅紀	2011.4.14	長年にわたり北海道本部幹事、北海道本部広報委員会委員・委員長を務めるなど、北海道本部並びに本会の発展に貢献した。
	飯野　良枝	2010.4.12	長年にわたり北海道本部事務局次長、北海道本部広報委員会委員を務めるなど、本部の運営に尽力し、北海道本部並びに本会の発展に貢献した。

資　料

賛助会員（協賛団体）一覧

2025 年 7 月 15 日現在：63 社

(株)アルファ技研
(株)イーエス総合研究所
伊藤組土建(株)
岩田地崎建設(株)
上山試錐工業(株)
ＨＲＳ(株)
(株)ＮＪＳ　東部支社　札幌事務所
(株)開発工営社
(株)開発調査研究所
鹿島建設(株)　北海道支店
環境コンサルタント(株)
(株)環境保全サイエンス
北日本港湾コンサルタント(株)
(株)クマシロシステム設計
(株)建設技術研究所　北海道支社
(株)構研エンジニアリング
(株)ジオテック
(株)シビテック
(株)シン技術コンサル
新太平洋建設(株)
(株)ズコーシャ
大成建設(株)　札幌支店
大日本ダイヤコンサルタント(株)
拓北地下開発(株)
(株)タナカコンサルタント
(株)地域計画センター
(株)地圏総合コンサルタント　札幌支店
東邦コンサルタント(株)
東和工研(株)
(株)ドーコン
内外エンジニアリング北海道(株)
西松建設(株)　札幌支店
(株)日水コン　北海道支所
(株)日本海洋生物研究所　札幌支店
日本工営(株)　札幌支店
日本データーサービス(株)
(株)農土コンサル
(株)ノース技研
パシフィックコンサルタンツ(株)　北海道支社
パブリックコンサルタント(株)
平田技術コンサルタント(株)
(株)ファルコン
(株)福田水文センター
(株)プラテック
北王コンサルタント(株)
北成コンサルタント(株)
北電総合設計(株)
北武コンサルタント(株)
北開工営(株)
(株)北海道朝日航洋
(一財)北海道河川財団
(株)北海道水工コンサルタンツ
北海道造園設計(株)
北海道道路エンジニアリング(株)
(一財)北海道道路管理技術センター
北海道土質コンサルタント(株)
北海道土木設計(株)
明治コンサルタント(株)
(株)メイセイ・エンジニアリング
メルテックコンサルタント(株)
(株)野生生物総合研究所
(株)ユニオン・コンサルタント
(株)リブテック

公益社団法人日本技術士会北海道本部　委員会・研究委員会等委員名簿

（2025年度）

【Ａグループ】

B-1 技術士試験委員会

委員長	岩倉　敦雄	（建設・総合）
委　員	小川　直仁	（建設）
〃	佐藤　慶太	（建設・総合）
〃	島口　　聡	（上下水道）
〃	長井　智典	（建設・総合）
〃	永田　充利	（農業）
〃	羽賀　　豊	（建設）
〃	堀　　義文	（建設）
〃	丸池　可記	（機械）
〃	宮部　真一	（電気電子）
〃	渡辺　洋一	（建設・総合）
幹事長	澤口　雄介	（建設・総合）

C-1 総務委員会

委員長	羽二生　　望	（建設・総合）
委　員	齋藤　克矢	（建設・総合）
〃	荒木　雅紀	（建設）
〃	永井　登茂美	（建設・総合）
〃	小林　正明	（建設）
〃	藤井　貴弥	（建設・総合）
〃	佐々木　裕之	（建設・総合）
〃	小澤　達也	（建設）
〃	赤根　慶一	（建設・環境）
幹事長	長井　智典	（建設・総合）

C-2 事業委員会

委員長	齋藤　克矢	（建設・総合）
委　員	青木　信成	（機械）
〃	秋田　雄大	（水産）
〃	飯野　将徳	（上下水道・総合）
〃	奥山　修平	（建設・総合）
〃	川口　大介	（建設・総合）
〃	鎌田　昌行	（建設）
〃	佐野　嘉宣	（建設）
〃	澤田　浩一	（建設・水産・環境・総合）
〃	須志田　　健	（建設・総合）
〃	奈良　照一	（建設・総合）
〃	原田　哲郎	（上下水道・総合）
〃	吉田　　透	（建設・総合）
幹事長	鈴木　智之	（建設・総合）

C-3 広報委員会

委員長	見上　敏文	（水産・総合）
副委員長	荒木　雅紀	（建設）
委　員	石黒　　聡	（建設）
〃	加藤　美穂子	（生物・農業）
〃	鎌仲　修志	（建設）
〃	熊谷　幹也	（建設・総合）
〃	酒向　明子	（建設）
〃	佐々木　裕子	（建設）
〃	佐藤　厚子	（建設・総合）
〃	十鳥　恭一	（応理）
〃	安元　和己	（応理）
幹事長	田守　隆浩	（農業）

C-4 社会活動委員会

委員長	永井　登茂美	（建設・総合）
副委員長	岩田　徳夫	（建設・総合）
委　員	河村　　巧	（建設・総合）
〃	佐藤　規之	（建設・総合）
〃	滝澤　嘉史	（建設・総合）
〃	成田　　登	（衛生・総合）
〃	仁田　　智	（建設・総合）
〃	平岡城　栄	（建設・総合）
〃	宮本　真一	（機械）
幹事長	川島　由載	（建設・応理・総合）

【Ｂグループ】

D-1 防災委員会

委員長	小林　正明	（建設）
副委員長	安達　幸弥	（建設・総合）
委　員	石井　真治	（建設・総合）
〃	大津　　直	（応理）
〃	渋谷　義仁	（建設・総合）
〃	西村　右敏	（建設）
〃	藤澤　寿志	（建設・総合）
〃	星野　利幸	（建設・総合）
〃	三木田　正則	（建設・総合）
〃	皆川　佳之	（建設）
〃	宮田　善郁	（建設）
幹事長	前田　研治	（建設・総合）

D-2 青年技術士交流委員会

委員長	藤井　貴弥	（建設・総合）
副委員長	阿部　和弘	（建設）
〃	長内　克真	（農業・総合）
〃	笹森　健太	（建設）
〃	中村　和隆	（建設）
〃	原田　雄一	（建設）
〃	丸山　　緑	（建設）
幹事長	高橋　歩夢	（建設）

D-3 倫理委員会

委員長	佐々木　裕之	（建設・総合）
副委員長	中埜渡　丈嘉	（建設・上下水道・総合）
委　員	池田　憲二	（建設）
〃	小川　直仁	（建設）
〃	高橋　亮一	（建設・総合）
〃	冨澤　幸一	（建設・総合）
〃	庭田　　博	（建設）
〃	長谷川　直久	（建設）
〃	本橋　慎也	（上下水道）
〃	山本　　肇	（建設）
幹事長	佐藤　　勉	（建設）

※Ａグループ：委員全て正会員

Ｂグループ：主要幹部が正会員

【研究委員会】

E-2　北方海域技術研究委員会

代　表	櫻　井　　泉	（水産・総合）
幹事長	石　川　浩　希	（建設・総合）

E-3　リージョナルステート研究委員会

代　表	滝　澤　嘉　史	（建設・総合）
幹事長	市　川　浩　樹	（上下水道・衛生・総合）

E-6　北海道スタンダード研究委員会

代　表	大　槻　政　哉	（建設・総合）
幹事長	奈　良　照　一	（建設・総合）

E-9　エンジョイ・サイエンス研究委員会

代　表	永　洞　真一郎	（環境）
幹事長	堂　領　弘　昌	（建設）

E-10　技術者のミライ研究委員会

代　表	小　澤　正　志	（建設・総合）
幹事長	千　葉　　裕	（建設）

E-11　北海道インフラ技術政策研究委員会

代　表	田　村　　亨	（建設・総合）
幹事長	伊　藤　徳　彦	（建設・総合）

【地方委員会】

F-1　道央技術士委員会

代　表	田　中　雄　太	（建設・総合）
幹事長	長谷川　哲　也	（建設）

F-2　道南技術士委員会

代表	布　村　重　樹	（建設・上下水道・森林・総合）
幹事長	奈　良　哲　男	（建設）

F-3　道東技術士委員会

代　表	紅　葉　克　也	（建設・総合）
幹事長	丹　羽　勝　久	（農業）

F-4　道北技術士委員会

代　表	小　椋　政　和	（建設）
幹事長	金　子　昇　平	（建設）

F-5　オホーツク技術士委員会

代　表	橘　　邦　彦	（建設・総合）
幹事長	荒　木　　真	（上下水道）

統括本部報告

地域本部長会議報告（金本部長）

2025 年度　第 1 回地域本部長会議

日　時：2025 年 6 月 9 日(月)14：00 ～ 17：10
場　所：機械振興会館 6 階 65 会議室　対面形式
出席者：黒﨑会長、黒川副会長、小林副会長、田沼副会長、眞先専務理事、田附常務理事・総務部長､月岡常務理事･技術士試験センター長､薄井総務委員会副委員長､(地域本部長)金(北海道)、平野(北陸)、平田(中部)、田岡(近畿)、福田(中国)、天羽(四国)、佐竹(九州)
議　長：遠藤東北本部長
書　記：有馬東北本部事務局次長

【会長挨拶】

・このメンバーでの会議は今回が最後となります。皆様のおかげで議事は速やかに進められたと感じており 2 年間ありがとうございました。
・定時総会のウェブ委任投票率について、地域本部では 6 ～ 7 割と高い実施率が得られていますが、まだまだ足りない状況です。16 日の締め切りまであと 1 週間よろしくお願いします。

【議事】

Ⅰ．統括本部報告(主要議題)

1. 当面の主要行事予定について
・定時総会(6/16)、地域産学官セミナー(四国・10/3)、全国大会(九州・10/25 ～ 28)、北東 3 地域本部技術士交流会(11/7)、西日本技術士研究・業績発表年次大会(広島・11/14 ～ 15)、地域産学官セミナー(中部・12/13)　他
2. 技術士 CPD 実績管理登録状況について
・2025 年 4 月 30 日時点の CPD 実績記載申請者数総計は、正会員 3,054 名、非会員 938 名、合計 3,992 名。技術士(CPD 認定)認定者数は、正会員 1,189 名、非会員 535 名、合計 1,724 名。
3. 技術士法及び技術士法施行規則の一部改正について
・発信元が技術士試験センターとなっているが、法令改正は文科省所管のため、表記の検討を行う。
4. 科学技術・学術審議会 第 49 回技術士分科会について
・受験および登録手数料改定予定額について金額を検討中。今後の改定頻度を抑える水準で設定予定。
・技術者の育成に関する現状・課題・今後の方向性(案)について、分科会では、文部科学省から他省庁への具体的な働きかけについての議論は行われていない。技術士制度の普及・活用促進は重要なテーマであり、今後の検討課題である。また、与党議連への情報提供や、各界への発信に向けた機運が高まりつつある。
・技術士制度改革の中の継続研鑽について、目指すターゲットの明確化が求められている。理想は維持しつつ、現実的な課題を踏まえたターゲット設定が必要。今後は制度全体の「グランドデザイン」を視野に入れ、議論の場の設置も検討する。
5. 令和 7 年度子ども霞が関デーについて
・平成 12 年(2000 年)から開始されている標記イベントについて、今年度も 8 月 6 日(水)・7 日(木)に開催される。
6. 第 67 回定時総会 委任状実施率について
・定款変更に必要な票数まで約 1,200 ～ 1,300 票不足。メール・電話で依頼継続中。専門部会からも協力要請し、緊迫感の共有を図る。
7. 与党技術士議員連盟について
・与党議員連盟の支援を受けているが、党派を超えた国会全体での支援が望ましいとの意見もある。今後は野党の動きにも柔軟に対応していく必要がある。

Ⅱ．地域本部関係[審議事項]

・なし

Ⅲ．地域本部関係[意見・要望等]

(1) 地域産学官と技術士との合同セミナーに関する要望(中部本部)
・①統括本部からの来賓者の選定、②パンフレット

への執筆、③後援の相談について、後日調整後、連絡する。

(2) 実行委員会参加の交通費補填について（中部本部）

・実行委員への交通費支給規定はなく、地域本部推薦の裏付けもないため、統括本部による支給は原則不可。ただし過去に例外あり。規定との乖離を踏まえ、総務委員会で見直しを検討中。改めて回答予定。

(3) 技術士 CPD 行事申込一覧（CPDWEB 登録の非会員）の活用状況について（中国本部）

・非会員の CPDWEB 登録が少なく、周知不足。会員拡大のため、広報方法の見直しが必要。→担当に確認する。

(4) 技術士 CPD 実績管理登録者と技術士（CPD 認定）者の増加に向けて（中国本部）

・技術士 CPD 実績管理登録者は、所定の 2 年間の実績の登録が済んでいる技術士の人数でしょうか。2 年に至らなくとも現在実績管理登録中もカウントされているのでしょうか。

→ 2 年間の CPD 実績登録は、初回申請時の特例。CPD 認定は 5 年間で 250 時間（年間 50 時間）。

・他の審査機関による CPD 登録実績を技術士会の実績管理として移行する場合、手間がかからない方法になっているか。

→当該機関の PDF 実績証明の添付で簡単にできる。登録方法は技術士会 HP の動画を参照。

(5) 九州本部事務局のテナント貸室の賃料値上げについて（九州本部）

・統括本部は赤字が続いており支援困難。各地域本部で参加費設定や安価物件の検討をする。

・CPD 行事収入は年間約 500 万円増加。収入の優先活用を促す文書を準備中。

(6) 会員情報の自宅住所、自宅電話番号の初期設定を非公開にして欲しい（東北本部）

・住所・電話番号は非公開に変更可能だが、初回ログインまで公開状態。総務委員会で検討予定。

(7) 会員呼称の統一について（中部本部）

・非会員あるいは未会員という呼称が混在しているが、未会員に統一してはどうか。→今後の議論課題とする。

(8) 会員拡大や技術士 CPD 実績管理登録者・技術士（CPD 認定）者の増加策について取り組み事例を教えて欲しい（中国本部）

・九州本部：協賛団体会員の社員 1 名（正会員以外の技術士または士補）は CPD 参加費無料に本年 4 月から変更し、2 名を超える社員は正会員と同額で参加可能とした。県支部の場合は、協賛団体会員の社員に対して一部の CPD を会員価格で参加できるように変更した。これから効果を検証予定。

・四国本部：昨年一年間で 13 人の新規入会者があった。さらに入会者を増やせるよう、昨年より青年技術士交流会主催でも合格祝賀会を開催している。

・北海道本部：合格祝賀会で委員会等の活動紹介。青技交が合格者を二次会無料招待で入会促進に繋がっている。CPD 行事は有料開催で、協賛団体に無料券発行や、会員非会員にかかわらず CPD 行事のメルマガの登録を案内するなどしている。

・近畿本部：合格者祝賀会で部会・登録グループ等の活動についてポスターセッションで紹介している。

・東北本部：協賛団体・会員を増やすために企業や官公庁等の訪問活動を実施。訪問活動を通じ、会員にはどんな支援があるかなど情報交換をしている。

(9)「緩やかな連携」についての情報提供のお願い（東北本部）

・取り組み事例などある場合、後日東北本部に情報提供をお願いする。

Ⅳ．地域本部関係［報告］

各地域本部から、行事開催及び開催予定などについて報告があった。（以下、北海道本部の報告掲載）

・第 26 回北東 3 地域本部技術士交流研修会（北陸本部開催）：2025 年 11 月 7 日（金）。

・第 45 回地域産学官と技術士との合同セミナー：2026 年 2 月、日時未定。

・第 60 回年次大会：2025 年 7 月 15 日（火）。

理事会報告（羽二生理事）

2025 年度　第 1 回理事会

日時：2025 年 5 月 9 日（金）14：00 ～ 18：00

場所：機械振興会館 6 階 67 会議室＋ WEB 会議（Teams）

議題（主なもの）

【審議事項】 以下の 10 件が審議・承認された。

1. 2024 年度事業報告及び収支決算について

2024 年度の事業報告として、1. 技術士制度における IPD・CPD、2. 技術士資格の活用促進・普及拡大に向けた取り組み、3. ガバナンス強化に向けた取り組み、4. 個別の主な事業実施（技術士及び技術者の倫理の啓発、技術士の資質向上、会員の社会的活動への支援、技術系人材の育成、国際交流、国際協力活動及び国際資格への対応、情報発信・連携の強化、組織運営力の強化、大規模自然災害に対する防災・復興支援活動への貢献）、5. 会員数、6. 技術士試験結果、7. 技術士・技術士補登録者数、8. 技術士 CPD 実績管理事業、についての概況が報告された。引き続き、一般事業、指定事業（技術士試験センター、技術士 CPD センター）の概要報告、各会計の収支報告、財務諸表の説明が行われたのち、公認会計士による会計外部監査、監事による内部監査の結果、問題のないことが報告された。

2. 第 67 回定時総会の開催日時・議題等について

今年度の定時総会（第 67 回）の開催と議案等が承認された。

- 日時：2025 年 6 月 16 日（月）15 時 00 分から 16 時 45 分まで
- 場所：大手町サンケイプラザ（東京都千代田区大手町 1-7-2）
- 議案：第 1 号議案 役員の選任について、第 2 号議案 定款の変更について
- 報告事項：2024 年度事業報告及び同収支決算報告、並びに監査報告、2025 年度事業計画及び収支予算

総会終了後、以下の会議、行事が開催されます。

16：50 ～ 17：10 新役員による臨時理事会

17:15 ～ 17:45 名誉会員推挙状授与、フェロー認定証授与及び会長表彰式

17：45 ～ 懇親会受付

18：00 ～ 19：30 懇親会

- 本年の総会運営について

当日の議事進行の様子はウェブ掲載用に収録し、後日ホームページの会員コーナーに掲載し、会員への広報を行う。

総会後の懇親会について、参加希望の会員は事前に申込を行うこととする。（参加費 5,000 円）

3. 第 67 回定時総会における役員の選任について

原案どおり承認された。

- 理事の選任：8 地域本部＋ 22 部会＝ 30 名（北海道本部理事：金秀俊氏～北海道本部長兼務予定）
- 監事の選任：2 名（電気電子部会・建設部会）
- 常任理事の選任：専務理事 1 名（眞崎正人氏・継続）、常務理事 2 名（田附武志氏・継続、月岡靖氏・継続）

4. 公益社団法人日本技術士会定款の変更について

「公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律の一部を改正する法律」（令和 6 年 5 月成立・公布）が、令和 7 年 4 月 1 日より施行されること等に伴い公益社団法人日本技術士会（以下、「本会」という）の定款の変更が必要となった。

今回の法律改正において、公益法人が適正に運営されるためには、理事会（理事）による職務執行の監督、監事による職務執行の監査等を通じたけん制機能が発揮されることが不可欠であり、理事会や監事がその機能を発揮する上で、法人外部からの視点を取り入れることが重要であることから、理事及び監事の各一人以上は、法人外部の人材を選任することが公益認定の基準とされた。

本会の定款には、『外部理事』、『外部監事』の記載がないことから、条文の変更が必要となる。また、今回の法律改正に伴い、公益法人会計基準も見直され、従来の『正味財産増減計算書』が『活動計算書』に名称・記載内容が変更されたことから、定款の条文を変更する必要がある。

5. 2025 年度新名誉会員について

推薦された 18 名について承認された。北海道本部の該当者なし。

- 規則第 2 条第 1 号：理事又は監事の在任期間が 1 期 2 年以上、10 名。
- 規則第 2 条第 2 号：地域本部長又は部会長の在任期間が 4 年以上、1 名。
- 規則第 2 条第 5 号：諸役職歴の評価点が 100 点以上、7 名。

6. 2025 年度フェロー認定について

フェロー認定の申請があった更新 16 名について、フェロー制度の運営に関する規則第 3 条第 1 項に基づき審査の結果、認定要件を満足することが確認され、理事会に付議の上承認された。なお、新規申請は無し。

7. 2025 年度会長表彰者について

会長表彰規則第 2 条第 1 号、2 号に基づき推薦があった候補者（85 名）について選考した結果が、同規則第 6 条 1 号により理事会に付議の上承認された。→第 2 条 1 号（入会歴 35 年以上で本会発展に貢献があった会員）26 名、第 2 条 2 号（入会歴 10 年以上で地域本部、部会、委員会からの推薦）59 名

※北海道本部関係者：青木信成氏、荒木雅紀氏、飯野良枝氏

8. 役職員倫理規則（コンプライアンス規則）について

2023.5.10 理事会制定承認、2024.9.19 改訂の倫理規則について、以下の改訂が承認された。

（反社会的勢力との関係）

《現行》

第 10 条 役職員は、社会の秩序や健全な発展に脅威を与える反社会的勢力に対して、経済的な利益を供与しない。

《改訂》

第 10 条 役職員は、社会の秩序や健全な発展に脅威を与える反社会的勢力とは、取引関係を含めて一切関係をもたない。

9. 研修委員会所管の規則・手引きの整備について

現状、CPD 行事の講師から「行事参加、e ラーニング利用」について許諾を得る手続きに関する規則・手引き（および許諾依頼等の様式）が 2 種類あり、依頼手続きが煩雑になっている。加えて、非会員対象者の記載が分かり難い～ことを踏まえ、規則・手引きの整備（改廃）を行う。

《改訂》

・技術士 CPD 行事の講演内容等のウェブ配信、収録及びウェブ掲載に関する規則
・技術士 CPD 行事の講演内容等のウェブ配信、収録及びウェブ掲載に関する手引き

《廃止》

・技術士 CPD 行事の講演内容等の e ラーニングに関する規則
・技術士 CPD 行事の講演内容等の e ラーニングに関する手引き

10. 会員の入会等について

3 月末時点の正会員は 16,313 名（前月比－315 名）、準会員は 3,078 名（前月比＋ 11 名）、賛助会員は 153 社（前月比変動 0）となった。

【報告事項】

1. 令和 6 年度技術士第二次試験結果について

2,395 名が合格した等の報告があった。

2. 技術士法及び技術士法施行規則の一部改正について

刑法等の一部改正（用語の変更：禁固刑（改正前）→拘禁刑（改正後））に伴い、刑法規定の該当部分を引用している技術士法（ex. 欠格条項）及び同法施行規則（ex. 登録申請書式の該当部分）の一部が改正された報告があった。

3. 2025 年度役員候補者選出選挙等結果について

4 月 22 日に開票された結果について報告があった。

・理事（30 名）・監事（2 名）：選挙権を有する正会員 16,619 名からの有効投票は、8,443 票。（有効投票率 50.8%）
北海道本部選出の金秀俊氏は得票数 596 票。
・地域組織幹事：開票の結果 94.9 ～ 100%の高い信任率にて、立候補された全員が信任された。8 地域本部全体での有効投票は 4,548 票（49.4%）、31 県支部全体での有効投票は 4,142 票（45.8%）。北海道本部の投票率は 57.1%であり 8 地域本部で最も高い。
・部会長：機械部会のみ立候補者が 2 名だったため、投票となり濁川義和氏が当選した。その他の部会では立候補者が 1 名だったため、無投票での当選となった。

4. 技術者倫理事例集の Pe ラーニングシステム登録について

倫理委員会委員長から Pe ラーニング掲載について報告があった。

5. 技術士 CPD 実績管理登録状況（2025.1.31 時点）

（1）2021.9 月以降の年度別新規記載申請者実人数　；（　）内は、技術士（CPD 認定）

・2021 年度：正会員　899（219）＋非会員 42（ 19）＝　941（238）人
・2022 年度：正会員　959（300）＋非会員 355（136）＝ 1,314（436）人
・2023 年度：正会員　656（339）＋非会員 418（342）＝1,074（681）人
・2024 年度：正会員　375（280）＋非会員 74（37）＝ 449（317）人
・総登録者数：正会員 2,889（1,138）＋非会員 889（534）＝3,778（1,672）人

（2）2024 年度技術士 CPD 実施法人証明書をもっての記載申請者数内訳（順不同）

建設コンサルタンツ協会 118、土木学会 20、日本建築士会連合会 5、日本造園学会 3、農業農村工学会 111、森林・自然環境技術教育研究センター（JAFEE）2、全国地質調査業協会連合会（土質・地質技術者生涯学習協議会）9、全日本建設技術協会 1、合計 269

（3）部門別の正会員総数に対する割合（上位 4 部門）

① 金 属 105 （ 29.7% ）、② 農 業 249（28.6%）、③総監 1,103（24.9%）、④応用理学 209（24.4%）

※建設 1,321（18.8%）

（4）地域本部別の正会員総数に対する割合（上位 4 地域～ 15%以上）

①関東 8 支部 1,748（24.0%）、②東北 260（21.6%）、③北海道 209（19.3%）、④中部 239（17.9%）

※平均 17.7%

6. 技術士 CPD 行事における講演内容等のウェブ配信収録及びウェブ掲載に関する手引きについて

審議事項 9. 研修委員会所管の規則・手引きの整備 の具体的な内容について報告された。

7. こども霞が関見学デーの実施について

霞ヶ関に所在する文部科学省をはじめ、各府省庁等が連携し、所管の業務説明や関連業務の展示等を行うことにより、夏休み期間中に子供たちに広く社会を知ってもらうこと、政府の施策に対する理解を深めること、活動参加を通じて親子の触れ合いを深めてもらうことを目的とした取り組みで、平成 12 年（2000 年）から開始され、今年は 30 の府省庁等が参加予定で、「こども霞ヶ関見学デー」としてさまざまなプログラムを実施される予定。

・実施日：2025 年 8 月 6 日（水）・8 月 7 日（木）（参加自由）
・プログラム：「こども霞ヶ関見学デーガイドブック」や文部科学省・各府省庁のプログラム等（6 月下旬頃に公表される予定）
・日本技術士会の参加：社会委員会科学技術振興支援委員会、社会委員会防災支援委員会、男女共同参画推進委員会が出展参加を予定。

8. 外部委員会委員等の委嘱について

以下の 7 つの外部委員会等への委員委嘱が報告された。

・東京都監査専門委員（技術分野）：社会委員会/6 名（任期：2025.4.1 ～ 2026.3.31）
・JABEE 理事：統括本部（専務理事）/1 名（任期：委嘱日～ 2027.6）
・JABEE 専門職大学院認証評価委員会（情報）：情報工学部会/1 名（任期：委嘱日～ 2027.6）
・JABEE 国際協定および国際事業委員会：国際委員会/1 名（任期：委嘱日～ 2027.6）
・JABEE 認定事業委員会：研修委員会/1 名（任期：委嘱日～ 2027.6）
・JABEE 認定・審査調整委員会：研修委員会/1 名（任期：委嘱日～ 2026.3）
・JABEE 基準総合調整委員会：研修委員会/1 名（任期：委嘱日～ 2027.6）

9. 常設委員会等報告について

常設 7 委員会（倫理、総務、企画、研修、広報、社会、国際）、個別規定 3 委員会（男女共同参画、技術士制度検討、技術士資格活用）より活動状況と今後の予定が報告された。

理事会報告（金理事）

2025 年度　第 2 回理事会

日時：2025 年 7 月 9 日（水）14：00 ～ 17：00
場所：機械振興会館地下 3 階研修室 1 ＋ WEB 会議（Teams）
議題（主なもの）

【審議事項】 以下の 16 件が審議・承認された。

1. 審議員の選任について

理事又は監事経験者から審議員 16 名の選任が承認された。北海道本部から羽二生望氏が選任された。

2. 理事の委員会所属について細かいですが

会長発議による、今期選出理事の委員会（7 つの常設委員会、3 つの個別規則に基づく委員会）配置案が承認された。北海道本部選出理事（金秀俊氏）は研修委員会に配置。

3. 地域本部長の選任について

北海道本部長（金秀俊氏・継続）ほか、7 地域の本部長（うち新任 1 名）が承認された。

4. 関東甲信地域県支部長の選任について

関東甲信地域 8 県支部（神奈川、埼玉、長野、山梨、千葉、茨城、栃木、群馬）の支部長の選任が承認された（うち新任 4 名）。

5. 部会長の委嘱について

19 部会の部会長の委嘱が承認された（うち新任 7 名）。

6. 実行委員会委員の継続再任について

CPD 支援委員会 3 名、修習技術者支援委員会 1 名、青年技術士支援委員会 2 名、防災支援委員会 1 名、海外活動支援委員会 5 名、日韓技術士交流委員会 4 名に対し、任期制限を超えて 1 期 2 年延長を認める審議の結果が承認された。

7. 常設委員会及び実行委員会委員の委嘱について

倫理委員会 23 名、総務委員会 29 名、企画委員会 23 名、研修委員会 26 名、広報委員会 26 名、社会委員会 24 名、国際委員会 21 名、CPD 支援委員会 17 名、修習技術者支援委員会 21 名、青年技術士支援委員会 27 名、技術士活性化委員会 16 名、防災支援委員会 26 名、科学技術振興支援委員会 12 名、日韓技術士交流委員会 11 名、海外活動支援委員会 23 名の委嘱が承認された。

8. 実行委員会委員長の選任について

研修委員会所管の 3 委員会（CPD 支援、修習技術者支援、青年技術士支援）、社会委員会所管の 3 委員会（防災支援、科学技術振興支援、技術士活性化）、国際委員会所管の 2 委員会（日韓技術士交流、海外活動支援）の委員長 8 名の選任が承認された（うち新任 7 名）。

9. 男女共同参画推進委員会の名称・目的等の変更及び委員の委嘱について

日本技術士会 DEI 推進宣言の策定を機に、男女共同参画推進委員会の活動内容を DEI 推進に関わる事項に拡充するため、委員会名称（DEI 委員）と目的等の変更ならびに設置・運営の規則変更が承認された。また、DEI 委員会 25 名の委嘱が承認された。

10. 技術士制度検討委員会の設置及び委員の委嘱について

技術士制度検討委員会について、引き続き検討を行う必要がある課題に対応するため、第 6 期の設置が承認された。また、当該委員会の委員 9 名の委嘱が承認された。

11. 技術士資格活用委員会の設置及び委員の委嘱について

技術士資格活用委員会について、引き続き検討を行う必要がある課題に対応するため、第 4 期の設置が承認された。また、当該委員会の委員 14 名の委嘱が承認された。

12. 技術士 CPD 実績管理委員会設置運営規則の変更及び委員の委嘱について

技術士 CPD 実績管理委員会の設置・運営規則において、設置期間が規定されていなかったことから規則を変更することが承認された。また、当該委員会の委員 18 名及び委員長（高木茂和氏）の委嘱が承認された。

13. 技術士 CPD 審査ワーキンググループ委員の委嘱について

技術士 CPD 実績管理委員会技術士 CPD 審査ワーキンググループ委員 10 名の委嘱が承認された。

14. 日韓協定書履行推進ワーキンググループの設置及びワーキンググループ員の委嘱について

日韓両国の協定書内容の履行推進に向け、国際委員会、日韓技術士交流委員会はもちろんのこと、日韓関係に知見を有する会員の協力が望ましいことから標記ワーキンググループの設置が承認された。また、当該ワーキンググループ員 13 名の委嘱が承認された。

15. 第 53 回技術士全国大会運営委員会の設置について

統括本部にて企画運営する 2027 年第 53 回技

術士全国大会について、「第 53 回技術士全国大会運営委員会」の設置及び設置・運営規則が承認された。

16. 会員の入会等について

5 月末時点の正会員は 16,552 名（前月比＋185 名）、準会員は 2,981 名（前月比－ 7 名）、賛助会員は 153 社（前月比変動 0）となった。

【報告事項】

1. 第 67 回定時総会（2025.6.16）開催結果報告について

黒﨑靖介会長を議長として、正会員総数 16,113 名、出席正会員数 12,344 名（うち議決権代理行使 12,242 名）で、定款第 21 条 1 項の規定に基づき第 1 号議案、定款 21 条 2 項の規定に基づき第 2 号議案の決議が可能となり、いずれも賛成多数で承認された。

・日時：2025 年 6 月 16 日（月）15 時～ 16 時 29 分
・場所：大手町サンケイプラザ 301 号室～ 304 号室
・議事：
第 1 号議案：役員の選任について
第 2 号議案：定款の変更について
（報告事項）
1）2024 年度事業報告及び同収支決算報告並びに監査報告
2）2025 年度事業計画及び収支予算について

2. 令和 7 年度技術士第二次試験受験申込状況について

第二次試験受験申込概況：　（　）は前年度

・全体 30,700（29,846）、20 部門 27,543（26,776）、総監 3,157（3,070）
・女性：全体 2,319（2,161）、20 部門 2,157（2,005）、総監 162（156）
・北海道受験地：全体 1,588（1,558）、20 部門 1,400（1,373）、総監 188（185）
・申請方法の割合：WEB 申請者数 18,131 名（59.1%）、郵送申請者数 12,569 名（40.9%）

3. 日本機械学会との行事の共催について

2025 年 10 月 18 日（土）に日本大学理工学部で開催する日本機械学会と日本技術士会機械部会の共催イベントについて報告があった。

「成功する技術者のスキルアップ術（案）」をテーマに、技術開発を通じて課題克服、スキル、働き方、資格など、講演者の経験を踏まえて話をしてもらうイベントであり機械学会と共催するもので、毎年継続していく計画の 4 回目。

4. 技術士 CPD 実績管理登録状況について

（1）新規記載申請者人数、技術士 CPD 認定数（カッコ内数）

年度	正会員	非会員	合計
2021	899（219）	42（19）	941（238）
2022	959（300）	355（136）	1,314（436）
2023	656（339）	414（342）	1,074（681）
2024	375（280）	74（37）	449（317）
2025（4、5 月）	199（95）	53（7）	252（102）
総計	3,088（1,233）	942（541）	4,030（1,774）

（2）2025 年度 他の CPD 認証機関による記載申請数

総数 119（①建コン協 65、②農業農村工学会 36、③土木学会 13、④全国地質調査業連合会ほか 5）

（4）部門別 TOP5　※（　）CPD 認定

・実数：①建設 1,401（511）、②総監 1,164（517）、③機械 317（121）、④電気電子 312（121）、⑤農業 254（133）
・比率：①金属 30.0 ②農業 28.6%、③総監 26.8%、④応用理学 25.9%、⑤森林 25.0%

（5）地域本部別 TOP5　※（　）CPD 認定

・実数：①関東 8 支部 1,870（748）、②東北 278（79）、③中部 251（88）、④北海道 222（90）、⑤九州 185（72）
・比率：全国平均 18.7%、①関東 8 支部 25.4%、②東北 22.7%、③北海道 20.2%、④中部 18.6%、⑤九州 13.1%

5. 技術士 CPD 行事講演に関する手引きの改定について

研修委員会所管の規則・手引きの整備について、「行事参加、e ラーニング利用」について許諾を得る手続きに関する規則・手引き（および許諾依頼等の様式）が 2 種類あり、依頼手続きが煩雑になっている。加えて、非会員対象者の記載が分かり難いことを踏まえ、規則・手引きの整備（改廃）

を行う。

この変更内容について、2025 年 5 月 9 日の理事会で規則の改訂が承認された。

手引きの改訂は報告事項であるが、5 月理事会での報告資料に対し修正意見が挙がったため、これを踏まえて改訂内容を再度見直し、7 月理事会にて報告された。

6. 令和 7 年度こども霞ヶ関見学デーの実施について

こども霞ヶ関見学デー（実施日：2025 年 8 月 6 日（水）・8 月 7 日（木））について、日本技術士会から科学技術振興支援委員会、防災支援委員会、男女共同参画推進委員会が出展する。

・科学技術振興支援委員会：理科クイズに挑戦！これで君も理科はかせ（理科に関する○×クイズに挑戦。いい点とったら「理科はかせ」に認定！。実演コーナーあり）
・防災支援委員会：技術士に挑戦―実験で再現して学ぶ災害の危険性―（まちの危ない場所を探せ。危険な土はどれだ。水の中で何を履いて逃げるか ほか。）
・男女共同参画推進委員会：アルテミス計画シミュレーター～宇宙飛行士になって月面着陸！～（シミュレーションゲームで地球から月までいってみよう！宇宙船の操縦士になってエンジンスイッチを操作し月面着陸にトライ！。技術士クイズ。）

7.『魔改造の夜 THE MUSEUM』の紹介について

NHK テレビ「魔改造の夜」のイベントが 8 月 25 日（月）～ 9 月 2 日（火）にベルサール秋葉原にて開催される。日本技術士会も後援。

8. 外部委員会委員等の推薦について

以下の外部委員会等への委員推薦が報告された。

・葛飾区情報公開・個人情報保護審議会：男女共同参画推進委員会 /1 名（任期：委嘱日～2027.3）

9. 会員による活動グループの変更・登録取消について

以下の会員による活動グループの変更、登録取消が報告された。

（変更）

・名称変更：IPD 研究会（初期技術者教育を研究する会）→ IPD 研究会（初期専門能力開発を研究する会）
・会長交代：ISO・経営支援センター

（取消）

・実装技術研究会／情報化研究会／成功・失敗体験教育研究会

10. 常設委員会等報告について

常設 7 委員会（倫理、総務、企画、研修、広報、社会、国際）、個別規定 3 委員会（男女共同参画、技術士制度検討、技術士資格活用）から活動報告があった（詳細省略）。

11. 2025 年度業務状況報告について

（1）一般会計

・事業活動収入／①正会員入会金：370 万円計上され予算（800 万円）に対し約 46％の状況である。②会費：正会員については対予算で約 101％の状況で準会員は約 93％の状況である。年度途中からの入会者分が今後計上される。③事業収入：受託事業を含め未計上のものもあり約 9％の進捗である。
・事業活動支出／①事業費支出：受託事業を含め未計上のものも多くあり現時点では約 14％の進捗である。②管理費支出：固定的経費が多く、年度経過に応じた計上がなされている。

（2）特別会計

・事業活動収入／①試験事業 1）．一次試験受験手数料は、受験申込受付期間（6/11 ～ 6/26）が終了していないため、6 月以降の計上となる。2）．二次試験受験手数料は、約 419 百万円計上され、予算（約 420 百万円）に対し、約 99.8％の状況である。②登録事業：登録手数料収入は、2024 年度の合格に伴う登録申請を中心に計上され、予算比約 36％の状況である。
・事業活動支出／①試験登録事業：試験実施前のため、予算比 8％の進捗である。②試験・登録人件費等：固定的経費については年度経過に応じた計上がなされている。

日本技術士会北海道本部

CPD 対象行事等予定

（2025 年 10 月～ 2026 年 3 月）

月	日	行　事　名	場　所	時　間	問い合わせ先
10 月	30 日(木)	「技術士の社会認知向上・理工学系教育現場における支援事業の試行」in 上野幌中学校	札幌市立上野幌中学校	8 時 45 分 ～ 10 時 35 分	問合せ：技術者のミライ研究委員会 幹事長：千葉 y.chiba@dosuicon.co.jp
1 月	16 日(金)	北方海域技術研究委員会 令和 7 年度 技術研究発表会	(国研)土木研究所 寒地土木研究所	14 時～ 17 時	問合せ：北方海域技術研究委員会 幹事長：石川浩希 ishikawa@njpc.co.jp

■ ■ ■　編　集　後　記　■ ■ ■

最高気温や真夏日の日数など記録的な猛暑となった道内も少しずつ朝晩の過ごしやすさが戻ってきたように感じます。日中はまだまだ残暑が続くとの予報ですが、札幌大通公園のオータムフェスタをはじめとする食のイベントや、道内各地でのスポーツイベント開催を見聞きすると確実に秋は近づいているのだなと認識させられます。体を動かして爽やかな汗を流したり、旬の味覚を味わったりすることで、この季節・地域ならではの楽しみや日々の中に新しい活力が湧いてきます。◆技術士会の活動は、会員一人ひとりの参加によって支えられており、今号では各委員会から地域貢献や次世代育成を目的とした多様な委員会活動報告をお届けしています。また、各記事のなかで委員会への入会募集や主催行事への参加呼びかけも寄せられております。各活動報告は詳細かつ臨場感に溢れるものではありますが、記事を読むだけでは伝わらない達成感や裏話などは、実際に体験してこそ得られるものです。まさに、スポーツや食のように“味わってこそ”のおもしろさがあります。この秋を機に、気になる委員会へぜひ一歩踏み出してみませんか。知識の筋肉が鍛えられ、交流という栄養もチャージできるはずです！皆さまの積極的な参加を心よりお待ちしております。

第 167 号編集担当　熊　谷　幹　也

広　告　目　次

㈱ドーコン……（１）
㈱アイワード……（２）
伊藤組土建㈱……（２）
岩田地崎建設㈱……（３）
㈱NJS……（３）
㈱開発工営社……（４）
㈱開発調査研究所……（４）
㈱構研エンジニアリング……（５）
㈱シビテック……（５）
大日本ダイヤコンサルタント㈱　北海道支社（６）
㈱日水コン　北海道支所……（６）
日本データーサービス㈱……（７）
㈱福田水文センター……（７）
㈱プラテック……（８）
北海道土質コンサルタント㈱……（８）
北海道土木設計㈱……（９）
北電総合設計㈱……（９）
㈱アルファ技研……（10）
㈱イーエス総合研究所……（10）
上山試錐工業㈱……（10）
HRS㈱……（10）
㈱エーティック……（11）
㈱環境保全サイエンス……（11）
環境コンサルタント㈱……（11）
㈱クマシロシステム設計……（11）
㈱建設技術研究所……（12）
㈱サッポロ・エンジニヤーズ……（12）
㈱シー・イー・サービス……（12）
㈱シン技術コンサル……（12）
㈱ジオテック……（13）
㈱水工技研……（13）
㈱ズコーシャ……（13）
㈱タナカコンサルタント……（13）
ダイシン設計㈱……（14）
㈱地圏総合コンサルタント　札幌支店……（14）
㈱東洋コンサルタント　北海道支社……（14）
東邦コンサルタント㈱……（14）
㈱日本海洋生物研究所　札幌支店……（15）
日本工営㈱　札幌支店……（15）
㈱ノース技研……（15）
㈱農土コンサル……（15）
パシフィックコンサルタンツ㈱　北海道支社（16）
パブリックコンサルタント㈱……（16）
平田技術コンサルタント㈱……（16）
㈱ホクエイ……（16）
㈱北海道水工コンサルタンツ……（17）
北王コンサルタント㈱……（17）
北海道キング設計㈱……（17）
北海道道路エンジニアリング㈱……（17）
北開工営㈱……（18）
北武コンサルタント㈱……（18）
㈱メイセイ・エンジニアリング……（18）
メルテックコンサルタント㈱……（18）
明治コンサルタント㈱……（19）
野外科学㈱……（19）
㈱ユニオン・コンサルタント……（19）
㈱リブテック……（19）
和光技研㈱……（20）

R7.9.30 現在



株式会社ドーコン

本　社
〒004-8585 札幌市厚別区厚別中央1条5丁目4番1号
TEL(011)801-1500　FAX(011)801-1600

東京支店
〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町4番9号小伝馬町新日本橋ビルディング
TEL(03)5644-0411　FAX(03)5644-0415

東北支店
〒980-0811 仙台市青葉区一番町4丁目1番25号 JRE東二番丁スクエア
TEL(022)225-2860　FAX(022)264-9331

函館事務所
〒040-0063 函館市若松町15番7号 函館北洋ビル
TEL(0138)27-2613　FAX(0138)26-8269

旭川事務所
〒070-0034 旭川市4条通9丁目1703番地 旭川北洋ビル
TEL(0166)24-5744　FAX(0166)24-7970

釧路事務所
〒085-0015 釧路市北大通10丁目2番地1 新釧路道銀ビル
TEL(0154)22-1891　FAX(0154)22-1491

岩手事務所
〒020-0021 盛岡市中央通3丁目17番7号 北星ビル
TEL(019)656-1206　FAX(019)656-1207

福島事務所
〒960-8034 福島市置賜町1番29号
TEL(024)563-1431　FAX(024)563-1432

横浜事務所
〒244-0801 横浜市戸塚区品濃町535番3号-3001号
TEL(045)308-6930　FAX(045)308-6981

静岡事務所
〒420-0852 静岡県静岡市葵区紺屋町17番地の1
TEL(054)686-5515　FAX(054)273-5578

名古屋事務所
〒460-0003 名古屋市中区錦3丁目1番30号 錦マルエムビル
TEL(052)265-7951　FAX(052)265-7953

設　　立　昭和35年６月１日

資 本 金　60,000千円

役　　員

代表取締役社長執行役員	今　　日出人	
取締役専務執行役員	早　野　　亮	（技術士）
取締役専務執行役員	星　野　利　幸	（技術士）
取締役常務執行役員	阿　部　公　一	（技術士）
取締役常務執行役員	澤　　充　隆	（技術士）
取締役常務執行役員	荒　木　雅　紀	（技術士）
取締役執行役員	山　崎　公　仁	
取締役執行役員	向　井　直　樹	（技術士）
取締役執行役員	山　根　正　裕	（技術士）
取締役執行役員	服　部　唯　之	（技術士）

技術職員　548名（理学博士１、工学博士11、農学博士１、技術士385）　令和7年4月1日現在

専門業務　道路・橋梁・トンネル・河川・ダム・農業施設・建築・公園・景観・上下水道・廃棄物処理施設の計画・設計・施工管理、交通システム・エネルギー・リサイクル・農業基盤整備・防災対策・雪氷対策・自然再生・市街地再開発・都市計画・地域計画の調査・計画・設計、生活環境・自然環境・地質・地盤・土壌汚染・耐震診断の調査・解析、各種維持管理マネジメント

個別相談会をアイワード本社にて開催します！

いつか本を出してみたい方のための

無料相談会



毎週 水曜 木曜 金曜 10:00～15:00
（この時間帯のいずれか1時間）

事前予約制 | お電話または下記のQRコードからご予約ください

TEL：011-241-9341 ご予約フォーム▶



作品集・写真集・エッセイ・句集・歌集・記念誌など
自費出版・記念誌などをお考えのみなさんの
実現したい想いを私たちに聞かせていただけませんか？

会場はサッポロファクトリー
北側北3条通向かいです

株式会社アイワード
札幌市中央区北３条東５丁目５番地91
TEL 011-241-9341 FAX 011-207-6178
https://iword.co.jp

つくるのは、未来の歴史

伊藤組土建株式会社

ITOGUMI

https://www.itogumi.co.jp/

代表取締役社長　大谷　正則

代表取締役副社長	柳屋　勝彦	総監・建設	技術部担当部長	橋本　一	建設
取締役副社長	阪　豊彦	総監・建設	建築部工事課所長	古川　和洋	総監・建設
常務執行役員土木本部長	新沼　寛明	建設	土木部次長	煤田　昌也	建設
顧問	名取　哲哉	建設	土木部次長	今井　一晶	建設
技術部長	北見　実敏	総監・建設	土木部工事課所長	岩間　寛	建設
土木本部部長(技術担当)	五十嵐光徳	建設	土木部工事課所長	阿部　健一	建設
技術部担当部長	川端　良幸	建設	技術部技術管理課担当課長	佐々木裕子	建設

本社　札幌市中央区北4条西4丁目1番地 TEL(011)241-8477 FAX(011)222-5398
東京支店　東京都中央区日本橋富沢町10－16 TEL(03)5695-3611 FAX(03)5695-3616
東北支店　仙台市青葉区二日町2番15号 TEL(022)264-1521 FAX(022)262-0177
営業所　函館・苫小牧・道東・道北・埼玉・石巻

岩田地崎建設株式会社

IWATA CHIZAKI

代表取締役社長　岩　田　圭　剛

本　社　札幌市中央区北２条東17丁目２番地　TEL（011）221−2221
支　店　東北・東京・名古屋・大阪・広島・四国・九州・海外
営業所　旭川・函館・帯広・釧路・岩手・横浜・新潟・埼玉・神戸・台湾
ＵＲＬ https://www.iwatachizaki.jp

取締役専務執行役員	岩田　徳夫	（建設・総監）
顧問	鎌田　貢次	（農業）
専務執行役員	佐々木康之	（上下水道）
技術顧問	菱川　龍	（建設・総監）
技術管理部部長	杉本　克美	（上下水道）
技術管理部部長	種田　昇	（建設・総監）
技術管理部	須藤　敦史	（建設）
地域事業推進部	伊藤　俊裕	（建設・総監）
営業企画部次長	石本　孝広	（建設）
土木企画部長	大坂　和義	（建設）
土木企画部担当部長	柳沼　義博	（建設）
技術顧問	河村　巧	（建設・総監）
技術部部長	遠田　康英	（建設）
技術部担当部長	井上　昌幸	（建設）
技術部次長	松本　剛	（建設）
技術部技術課課長	中村　和隆	（建設）
北海道土木本店土木部工事課工事長	田邉　孝行	（建設）
北海道土木本店土木部工事課工事長	鈴木　祥史	（建設）
北海道土木本店土木部工事課工事長	金子　泰久	（建設）
北海道土木本店土木部工事課工事長	嘉屋　健司	（建設）
北海道土木本店土木部工事課工事長	西岡　愛樹	（建設）
北海道土木本店土木部企画課課長	中田　暁之	（建設）
北海道土木本店土木部企画課	小野　尚文	（建設・総監）
安全品質環境部安全品質環境課課長	安井　伸好	（建設・総監）
東京支店土木部担当部長	碓井　裕介	（建設）
東京支店土木部工事課工事長	鈴木　智之	（建設）
東京支店土木部積算課担当課長	平澤　英俊	（建設）
名古屋支店長	鶴田　博久	（建設・総監）



NJS

公益社団法人 全国上下水道コンサルタント協会会員
株式会社NJS
代表取締役社長　村上 雅亮
執行役員札幌事務所長　遠藤 博光

本　社　〒105-0023 東京都港区芝浦一丁目1番1号　☎03-6324-4355
札幌事務所　〒060-0003 札幌市中央区北三条西3丁目1番地　☎011-231-0948
函館出張所　〒041-0806 函館市美原4丁目29番1号　☎0138-32-7332
帯広出張所　〒080-0037 帯広市西7条北4丁目5番地1　☎0155-66-6329
釧路出張所　〒085-0806 釧路市武佐3丁目43番10号　☎0154-65-9687

人・技術・信頼を第一に、北の大地の豊かな社会づくりに挑戦する

KAIHATSUKOEI

株式会社 開発工営社

〒060-0004 札幌市中央区北4条西5丁目1番地　アスティ45ビル13F
TEL(011)207－3666番　FAX(011)218－5777番

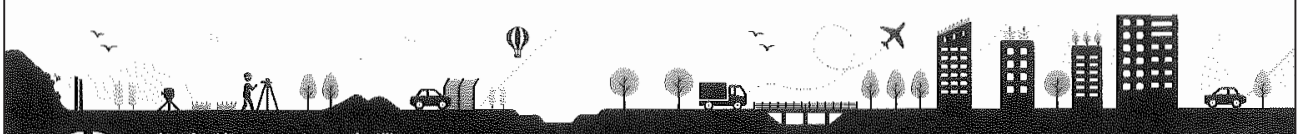
代表取締役社長	髙橋　公浩	建設部門（河川、砂防及び海岸・海洋）
専務取締役	関　新次	建設部門（河川、砂防及び海岸・海洋、建設環境）
専務取締役	渡邊　政義	建設部門（道路、総監）
専務取締役	加藤　治	建設部門（道路、総監、施工計画、施工設備及び積算）
常務取締役	鈴木　智之	建設部門（土質及び基礎、総監）
取締役	青地　知也	建設部門（鋼構造及びコンクリート、総監）
取締役	鈴木　正良	建設部門（鋼構造及びコンクリート、総監）
取締役	石川　由憲	建設部門（道路、都市及び地方計画）
取締役	塩原　龍法	建設部門（鋼構造及びコンクリート）
取締役	小林　憲治	情報工学部門（ソフトウェア工学、総監）

（技術士取得者数51名　延77名　令和7年8月1日現在）

私たちの技術が、北海道のまちと未来を創造する。

代表取締役社長	佐藤　彰紀		河川・環境部次長	平井　充大	（建設）
専務取締役	磯貝　晃一	（応用理学／総監）	地質部次長	北川　雅浩	（建設）
取締役営業部長	吉田　俊彦	（建設）	道路・防災部上席技師長	久保　裕一	（建設）
取締役情報技術管理部長	松岡　雄一	（建設／総監）	情報技術管理部技師長	奥野　智	（建設／総監）
取締役総務部長	渕戸　賢司	（建設）	情報技術管理部技師長	中野　秀治	（建設／総監）
理事	西﨑　隆博	（建設）	地質部技師長	銭谷　竜一	（応用理学／建設）
理事	佐藤　敏雄	（建設／総監）	道路・防災部主幹	村上　学	（建設）
道路・防災部長	錠者　啓行	（建設）	構造部主幹	橋本　松市	（建設）
構造部長	豊蔵　宏貴	（建設）	地質部主幹	伊藤　和伯	（応用理学）
河川・環境部長	本田　康隆	（建設／総監）	河川・環境部主任技師	井田　卓朗	（建設）
地質部長	原田　卓弘	（応用理学）			

（技術士取得者数20名　延数27名　令和7年9月1日現在）



社会善をつくる企業へ
調研 株式会社 開発調査研究所

〒062-0054 札幌市豊平区月寒東4条10丁目7番1号
TEL 011-852-5053　FAX 011-855-1298
E-Mail soumubu@kaichoken.co.jp

北の大地から、安全安心で豊かな社会づくりに貢献する

道路・橋梁・防災・河川・環境・地質調査のコンサルタント

株式会社 構研エンジニアリング

https://www.koken-e.co.jp

本　　社	〒060-0034	札幌市中央区北4条東4丁目1番地1	TEL (011)-522-5010(代)	FAX (011)-522-5915
函館事務所	〒041-0853	函館市中道1丁目19-4-101	TEL (0138)-32-7200	FAX (0138)-32-7255
網走事務所	〒090-0001	北見市小泉438番地11	TEL (0157)-23-5315	FAX (0157)-23-5325
帯広事務所	〒080-0807	帯広市東7条南14丁目1-13-C-5	TEL (0155)-22-8701	FAX (0155)-22-8702
室蘭事務所	〒059-1305	苫小牧市沼ノ端中央3丁目2番地-7	TEL (0144)-84-8460	FAX (0144)-84-8461
東北営業所	〒981-0933	仙台市青葉区柏木1丁目1-53-203	TEL (022)-344-6231	FAX (022)-344-6175

代表取締役社長	池田　憲二（建設）	執行役員	桶作　雅史（建設）
専務取締役	五十嵐隆浩（建設）	執行役員	伊藤　雄二（建設）
常務取締役執行役員	森脇　雅彦（建設）	執行役員	長沼　芳樹（情報）
取締役執行役員	牛渡　裕二（建設）	理事　橋梁部技師長	坂村　和俊（建設）
取締役執行役員	安達　幸弥（建設/総監）	理事　技術管理部長	髙橋　浩司（建設）
取締役執行役員	竹原　智久（建設/総監）		
執行役員	髙田　敦（建設）		
執行役員	佐々木清勝（建設）		
執行役員	佐光　正和（建設/総監）		

技術士　資格取得者数　58名　延べ数81名（令和7年9月）

優れた技術で地域に貢献する

業務内容　道路、橋梁、トンネル、都市計画、公園、河川、砂防、上下水道
の調査・計画・設計・工事監理並びに測量調査、地質調査・解析

株式会社 シビテック

代表取締役社長　渡辺　亮（建設）

特別技術顧問	浅野　基樹	（建設・総合）	構造部次長	木下　浩二	（建設）
常務取締役	中里　浩治	（建設）	道路計画部次長	小島　番	（建設）
常務取締役	鈴木　雅之	（建設）	環境デザイン室長	杉本　一幸	（建設）
取締役	吉川　明徳	（上下水道）	社会調査室長	村上　正恵	（建設・総合）
取締役防災地質部長	沖崎　裕	（建設）	構造診断部技術担当次長	佐々木正和	（建設）
取締役構造診断部長	伊藤　公彦	（建設）	防災地質部技術担当次長	内田　秀明	（建設）
取締役道路計画部長	古瀬　昌洋	（建設）	防災地質部主幹技師	竹内　尚宏	（建設）
取締役構造部長	秋野　薫	（建設）	道路計画部主幹技師	黒坂　憲司	（建設）
技術サポート部長	伊藤　秀司	（建設）	道路計画部主幹技師	木村　匡人	（上下水道）
道路計画部技術担当部長	嶋崎　大	（建設）	道路計画部主幹技師	境沢　徳人	（建設・総合）
構造診断部技術担当部長	千葉　伸一	（建設）	構造部主任技師	竹田　昂平	（建設）
営業部長	上原　浩志	（建設）	防災地質部主任技師	能登　健太	（応用）
防災地質部次長	柴田　純	（建設・応用・総合）			

技術士(延べ) 32名　　工学博士　2名　　技術士補 47名　　ＲＣＣＭ 32名

本社　〒003-0002 札幌市白石区東札幌2条5丁目8番1号　　TEL (011)816-3001
E-mail somu@civitec.co.jp　　URL http://www.civitec.co.jp

大日本ダイヤコンサルタント株式会社

（旧社名：大日本コンサルタント株式会社、株式会社ダイヤコンサルタント）

代表取締役社長　原田　政彦（総合技術監理・建設）
北海道支社長　佐藤　春夫（建設）

小野　貴之（総合技術監理・建設）
渡辺　一樹（応用理学）
佐々木　雅史（総合技術監理・建設）
立川　浩祥（建設）
中藪　強（建設）
杉浦　高広（総合技術監理・建設）
近藤　桂二（総合技術監理・建設）
川元　正規（総合技術監理・建設）
吉田　力（建設）

【業務内容】1. 構造保全分野（橋梁、道路構造物、都市施設の計画・設計）
2. 社会創造分野（道路、交通、都市まちづくり、環境の調査・設計・監理）
3. 国土保全分野（河川・砂防、港湾、トンネルの調査・設計・維持管理・計測）
4. 地盤分野（地盤調査、解析、地質リスク、地下水解析、物理探査、地盤防災）
5. エネルギー施設分野（エネルギー備蓄、発電施設の保全）

本　　社　〒101-0022　東京都千代田区神田練塀町300 住友不動産秋葉原駅前ビル4F
TEL 03(5207)7955（代表）　FAX 03(5207)7957

北海道支社　〒001-0010　札幌市北区北10条西2丁目13番地2 大日本ダイヤコンサルタントビル
TEL 011(729)2701（代表）　FAX 011(729)2687（代表）

潤いある未来へ
株式会社 日水コン

代表取締役社長　中西　新二　技術士（総合技術監理・上下水道部門）
北海道支所長　原田　哲郎　技術士（総合技術監理・上下水道部門）
北海道水道部長　原　栄一　技術士（総合技術監理・上下水道・建設部門）
北海道下水道部長　上田　浩伸　技術士（総合技術監理・上下水道部門）

本　　社／〒163-1122　東京都新宿区西新宿6丁目22-1新宿スクエアタワー
TEL 03-5323-6200　FAX 03-5323-6480

北海道支所／〒060-0003　札幌市中央区北3条西1丁目1　サンメモリア
TEL 011-281-2408　FAX 011-281-2410

総合建設コンサルタント

NDS 日本データーサービス株式会社

代表取締役社長	石原　知樹	
執行役員副社長	紺野　寛	（技術士／建設部門／都市及び地方計画）
取締役副社長	三船　修司	（技術士／建設部門／港湾及び空港、水産部門／水産土木）
執行役員副社長	川合　紀章	（技術士／総合技術監理部門）
執行役員技術部長	渥美　洋一	（技術士／建設部門／港湾及び空港、水産部門／水産土木、総合技術監理部門）
常務取締役統括部長	清水　敏明	（技術士／建設部門／港湾及び空港）
取締役防災・環境技術部長	中島　康子	（技術士／建設部門／建設環境、環境部門／自然環境保全）
取締役統括部長	東本　靖史	（技術士／建設部門／道路）
水工部統括執行役員	田畑　真一	（技術士／建設部門／港湾及び空港、水産部門／水産土木、総合技術監理部門）
執行役員設計診断部長	木村　博史	（技術士／建設部門／鋼構造及びコンクリート）
水工第Ⅰ部長	若森　宣人	（技術士／建設部門／港湾及び空港）
水工第Ⅱ部長	松本　英明	（技術士／建設部門／港湾及び空港、水産部門／水産土木）
企画部部長代理	藤島　俊哉	（技術士／建設部門／都市及び地方計画）
計画調査部部長代理	源野　雄輔	（技術士／建設部門／道路）
環境保全室室長代理	石橋　伸康	（技術士／環境部門／環境測定）　（技術士 延べ 49 名）

本　　社／〒065-0016　札幌市東区北 16 条東 19 丁目 1 番 14 号
TEL (011)780-1111　FAX (011)780-1123
東京支店／〒103-0011　東京都中央区日本橋大伝馬町 13 番 7 号 日本橋大富ビル
TEL (03)5643-6870　FAX (03)5643-6875

水文・水資源・水環境の総合コンサルタント

株式会社 福田水文センター

http://www.f-suimon.co.jp

●建設コンサルタント業　●環境計量証明事業　●測　量　業　●地質調査業

代表取締役社長	福田　浩一	
取締役	澤田　浩一	（技術士/建設部門、環境部門、水産部門、総合技術監理部門）
研究顧問	黒木　幹男	（工学博士）
顧問	大熊　正信	（技術士/建設部門、総合技術監理部門）
技術顧問	長岡　大輔	（技術士/応用理学部門、建設部門）
執行役員東北支店長	中本　篤嗣	（技術士/建設部門）
旭川支店長	鎌仲　修志	（技術士/建設部門）
環境水工部長	土岐　行厳	（技術士/建設部門）
環境水工部次長	藤井　和也	（技術士/建設部門、総合技術監理部門）
環境水工部次長	吉田　伸一	（技術士/建設部門）
環境水工部次長	巻口　義博	（技術士/建設部門、総合技術監理部門）
流域保全部技師長	亀岡　雅史	（技術士/建設部門）

技術士(延べ)　21名　　技術士補　3名　　ＲＣＣＭ　6名

本　　社	札幌市北区北24条西15丁目2番5号	TEL　011-736-2371	FAX　011-736-2393
旭川支店	旭川市末広東3条3丁目	TEL　0166-53-8520	FAX　0166-53-8561
東北支店	仙台市青葉区本町3-6-17　勾当台本町ビル601	TEL　022-281-8525	FAX　022-281-8868
事　業　所	幌延事業所(天塩郡幌延町)、 今金事業所(瀬棚郡今金町)		

水・空気・大地を大切に

建設コンサルタント

株式会社 プラテック

http://www.plateck.jp

代表取締役　阿部　操

技術顧問　能登　繁幸
（建設部門：土質及び基礎、総監）

執行役員札幌支店長　冨澤　幸一
（建設部門：土質及び基礎、総監）

品質管理室技師長　平野　裕一
（建設部門：道路）

◆建設コンサルタント業：建06第8141号
◆測量業：第(5)28300号
◆地質調査業：質07第1563号
◆補償コンサルタント業：補03第4492号

【本　社】〒085-0008　釧路市入江町9番2号　TEL 0154-32-3081　FAX 0154-24-7838

【札幌支店】〒060-0005　札幌市中央区北5条西6丁目1-23　道通ビル5階　502
TEL 011-213-1670　FAX 011-213-1680

【根室支店】〒087-0025　根室市西浜町8丁目121番1　TEL 0153-24-5998　FAX 0153-29-2201

北海道の地盤を熟知している技術者がお応えします。

URL　https://h-doshitsu.co.jp
E-mail　doshitsu@h-doshitsu.co.jp

工藤　康雅（技術士：総監、建設、地盤品質判定士）　遠藤　秀博（技術士：建設、土壌汚染調査技術管理者）

松本　和正（技術士：総監、建設、応用理学、
地質リスク・エンジニア）

北海道土質コンサルタント株式会社
〒062-0931 札幌市豊平区平岸1条2丁目5番16号
TEL(011)841-1466　FAX(011)841-5490

NJCS
ISO9001
NJQ-284

北海道土木設計株式会社

建設コンサルタント業　（建06）第2578号
測　　量　　業　（13）　第4955号
地　質　調　査　業　（質06）第2157号

本　　社　札幌市中央区北２条西１丁目１番地　マルイト札幌ビル８Ｆ
TEL　(011)231-6321　　FAX　(011)231-5223

代表取締役	若山　浩		橋梁部長	黒田一仁	（技術士）
専務取締役	入山博志	（技術士）	地質防災部部長	中鶴真也	（技術士）
常務取締役	吉田直樹	（技術士）	企画調査部次長	吉村俊哉	（技術士）
取締役 橋梁保全部長	和田隆宏	（技術士）	地質防災部主任技師	今井勝利	（技術士）
監査役	廣川貴宣	（技術士）	地質防災部主任技師	小澤琢磨	（技術士）
技師長	佐々木智彦	（技術士）	企画調査部主任技師	藤田真仁	（技術士）
道路部長	山田邦博	（技術士）	橋梁保全部主任技師	長坂秀一	（技術士）
企画調査部長	丸田英憲	（技術士）	橋梁保全部主任技師	江崎　宏	（技術士）

技術要員 58 名（技術士 15　技術士補 33　RCCM14）

高度なテクノロジーを基盤にした総合コンサルタント

建設コンサルタント登録　測量業　ISO9001･ISO14001認証登録　一級建築士事務所　地質調査業　計量証明事業登録

北電総合設計株式会社

代表取締役　　藪　正樹

〒060-0031 札幌市中央区北１条東３丁目１番地１北電興業ビル
TEL(011)-222-4420(代表)　FAX(011)-222-4426

常務取締役	能登谷勇人	（建設）	電源開発技術室長	佐藤亮介	（建設）
技術顧問	長井康浩	（建設、総合技術監理）	電源開発技術室技師長	伊藤英浩	（建設）
技術顧問	髙屋敷将也	（上下水道）	施設保全部次長	林　透	（建設）
営業部長	樋詰　透	（建設、総合技術監理）	診断技術室長	山下陽平	（建設）
営業部部長	佐見　誠	（建設）	原子力部長	天野英樹	（建設）
土木部長	吉田考一	（建設）	原子力部次長	宇佐美宣拓	（建設、総合技術監理）
土木部次長	小澤正志	（建設、総合技術監理）	泊事業所主任技師	吉村康信	（応用理学）
土木部部長	伊東佳彦	（応用理学）	環境部副部長	髙橋　智	（環境）
土木部技師長	長谷川修	（建設）	環境技術室長	赤根慶一	（建設、環境）
土木部技師長	髙橋　浩	（建設）	環境技術室主任	川本広樹	（建設）
建設技術室長代理	滝澤嘉史	（建設、総合技術監理）	環境調査室長代理	内山伸二	（建設）
建設技術室副長	益子直樹	（応用理学）	エネルギー部長	篠原伸和	（建設、総合技術監理）
公共関連技術室長	沖　岳大	（建設）	エネルギー部部長	東　秀樹	（電気電子）
公共関連技術室長代理	髙田賢一	（建設）	エネルギー部技師長	小山田応一	（電気電子、情報工学）
公共関連技術室技師長	藤田光則	（建設、総合技術監理）	カーボンソリューション室長	隅江純也	（建設、総合技術監理）
公共関連技術室主任技師	武部　努	（建設）	技術研究所長	齋藤敏樹	（建設）
公共関連技術室技師	吉田ちあき	（建設）			

農業農村の総合コンサルタント

株式会社 アルファ技研

代表取締役社長　土谷貴宏（技術士：農業農村工学）
取締役副社長　日置綾人（技術士：農業土木、総合技術監理－農業土木）
取締役　植屋賢祐（技術士：農業土木、環境影響評価、総合技術監理－農業土木、建設－河川、砂防及び海岸・海洋）
取締役　髙井和彦（技術士：農業土木、農村地域計画、総合技術監理－農業土木、建設－河川、砂防及び海岸・海洋）
事業部長　柿下　大（技術士：農業土木、総合技術監理－農業土木）
事業部長(代理)　澤代直哉（技術士：農業農村工学）
上席グループ長　及川雄生（技術士：農村地域計画）
調査計画グループ長　北條洋史（技術士：農業土木）
資源計画グループ長　阿部良平（技術士：農業土木）
調査計画グループ課長　工藤康彦（技術士：農村地域計画）
水利システムグループ課長　伊東啓人（技術士：農業土木）
設計グループ課長　髙橋　洋（技術士：農業農村工学）

国際品質保証規格
ISO 9001、JIS Q27001、ISO 14001

〒063-0062
札幌市西区西町南21丁目2番11号
Tel. 011-662-1201　Fax. 011-662-1301
http://www.alpha-giken.co.jp/

総合建設コンサルタント

株式会社 イーエス総合研究所

代表取締役会長 農学博士　常松　哲
代表取締役社長　伊藤　幸一

特別顧問　中村　和正（農業部門）
顧問　田村　浩一（農業部門）
専務取締役　下原　英一（農業部門）
常務執行役員　伊藤　朋喜（農業部門）
業務企画部長　木川えり子（建設部門）
補償調査部長　鈴木　清史（建設部門）
地質調査部長　藤原　知行（応用理学部門）
地質調査部主幹技師　掛村　拓史（建設部門）
設計部長　辻　輝樹（農業部門）
補償調査部部長補佐　佐々木正人（農業部門）
環境情報部技術課長　石倉　雅紀（建設部門）

本社：〒007-0894
札幌市東区中沼西4条1丁目4番13号
TEL：(011)791-1651　FAX：(011)791-5241
支店：函館・帯広・北見・道北・釧路・苫小牧・後志

土と水にかかわり、地域の未来を創造

土質・地質調査と地下水・温泉のコンサルタント

上山試錐工業株式会社

代表取締役社長	渡邉 孝文	(建設)
常務取締役	川本 康宏	(農業)
取締役	髙木 博道	(建設)
取締役	波間 俊二	(建設)
技術顧問	原山 巧	(上下水道)
技術部次長	神山 裕幸	(応用理学)
技術部次長	山上 友也	(建設)
土質試験研究所 技術専門員	高橋 亮一	(建設／総監)
技術専門員	楊 軒柱	(応用理学)

本　社
〒 060-0032
札幌市中央区北２条東１３丁目１番地の7
ＴＥＬ：０１１-２４１－６５１６
ＦＡＸ：０１１-２４１－０３３６

土 質 試 験 研 究 所
〒 007-0806
札幌市東区東苗穂６条１丁目５番４０号
ＴＥＬ：０１１-７８３－４８６５
ＦＡＸ：０１１-７８２－５０２５

地域デザインコンサルタント

HRS株式会社

エイチ・アール・エス

本　社　小樽市勝納町8番39号 TEL0134-22-7710
札幌事務所　札幌市西区発寒9条13丁目1番3号駅前プラザ発寒2F TEL011-667-0385

URL　https://h-r-s.co.jp/
創　立　昭和46年(1971年)2月

代表取締役	鈴木貴文		
取締役技術本部長	佐々木裕之		(建設/総監)
執行役員	大浦宏照		(応用理学/総監)
技術顧問	東泰宏		(建設)
・技術士	総合技術監理部門	2名	
	建設部門	5名	
	応用理学部門	2名	
・理学博士		1名	
・工学博士		1名	

業務内容 ■調 査（地質・土質・水質・環境・交通・雪・他）
■設 計（道路・構造物・地すべり・農業土木・他）
■管 理（計測・ＧＩＳ・情報処理：他）
■測 量（一般・用地・他）■補償調査
登録資格 ■建設コンサルタント ■補償コンサルタント ■測量業 ■地質調査業
■計量証明事業登録（音圧レベル・振動加速度レベル）

科学技術を通し、希望に満ちた国土作りに貢献する

株式会社 エーティック

https://www.a-tic.co.jp　　Since 1973

代表取締役社長　舟田　幸太郎

専務執行役員	岡田	正之（建設／総監）
常務執行役員	熊木	功治（建設）
設計部　部長	熊谷	幹也（建設／総監）
設計部　技師長	瀬藤	潮二（建設／総監）
設計部　技師長	中田	泰広（建設）
設計部　技師長	井形	淳　（建設／上下水道）
設計部　次長	櫻井	信作（建設）
設計部　課長	山本	岳　（建設）
設計部　課長	鈴木	浩司（建設）
設計部　課長補佐	畑村	美希（建設）
設計部　主幹	和島	基生（建設）
調査部　技師長	納谷	宏（応用理学／建設／総監）
調査部　次長	池田	範和（建設／総監）
調査部　次長	工藤	忠　（建設）
調査部　課長	中村	篤史（建設）
調査部　主幹	鈴木	竜次（建設）
調査部　主幹	佐藤	健造（建設）
計測部　部長	霜出	睦　（建設）

（技術士：延べ 26 名　　工学博士：２名　　RCCM：28 名）

■本　社／〒063-0801 北海道札幌市西区二十四軒１条５丁目６番１号
■事務所／東京支店・函館支店・道央営業所・旭川営業所
■登　録／建設コンサルタント・地質調査業・測量業・補償コンサルタント
一級建築士事務所・環境計量証明事業・一般建設業・一般労働者派遣業

建設コンサルタント
【ISO 9001　認証登録】
【ISO 27001　認証登録】

株式会社 環境保全サイエンス

代表取締役社長	黒田一也（くろだかずや）	技術士　農業部門：農業土木・地域農業開発計画
執行役員	園生光義（そのうみつよし）	農業土木技術管理士
技術顧問	菅生由紀夫（すごうゆきお）	農業土木技術管理士
農村地域振興室主任技師	倉田亜以土（くらたあいど）	技術士　建設部門：建設環境 農業部門：農村地域・資源計画 環境部門：自然環境保全
農村地域振興室主任技師	長内克真（おさないかつまさ）	技術士　農業部門：農業土木・農村地域計画 建設部門：建設環境 総合技術監理部門：農業農村工学
農村地域振興室技師	野原菜穂（のはらなほ）	技術士　農業部門：農業農村工学 測量士

営業種目
- 地域経済調査　営農計画　事業効果算定　農業振興計画　地域活性化計画
- 環境保全調査　土壌調査　水質調査　動植物調査
- 調査支援活動　事業誌　アンケート　イメージパース　GIS システム

〒060-0004　札幌市中央区北4条西6丁目1番地　毎日札幌会館7階
TEL　011-281-3131　FAX　011-281-3134
http://www.kankyohozen.co.jp

いまが大切、十年先の将来、百年先の未来。

環境コンサルタント株式会社

本　　店　釧路市錦町５丁目３番地　　Tel. 0154-31-0311
本社事業部　釧路郡釧路町中央６丁目１５番地２　Tel. 0154-40-2331

北網支店・函館営業所・中標津営業所
札幌営業所・帯広営業所

代表取締役社長	濱口憲太	技術士補（環境）
取締役統括技師長	鈴木正裕	技術士（総監：環境・建設／環境・建設）
地質部長	星山尚	技術士（建設）
設計部長	坂野俊介	技術士（建設）
分析部次長	久保下誠	技術士（農業）
設計部次長	金井勝幸	技術士（建設）
自然環境部次長	田村由紀	技術士（環境）
自然環境部課長	秋元明美	技術士（環境）
測量情報部課長代理	早坂翼	技術士（建設）

－ 営 業 種 目 －

■**自然環境調査**　：野生動植物調査、自然現況調査、環境保全調査
■**社会環境調査**　：アスベスト調査、シックハウス調査、騒音・振動調査
■**総合環境分析**　：水道法20条検査、排水・下水分析、ダイオキシン類分析
■**地質・土質調査**：地上・海上ボーリング調査、軟弱地盤調査、液状化調査
■**測量・補償調査**：基準点・水準・路線・用地・河川測量、補償調査（土地）
■**土木設計**　　：道路設計、構造物設計、道路附属物・構造物点検

KSF 株式会社 クマシロシステム設計

本　　社　〒060-0061　札幌市中央区南1条西18丁目1-9 KSフロンティアビル
TEL(011)632-1010　FAX(011)632-1011

小樽営業所　〒047-0007　小樽市港町5番3号　柴田ビル2F
TEL(0134)64-5370　FAX(0134)64-5371

代表取締役	神代順平	
専務取締役	寺島貴志	（総監/建設/水産）
取締役	河合孝治	（総監/建設/水産）
取締役	阿部島直哉	（総監/建設/水産）
執行役員 企画営業部長	飯田誠	（建設/水産）
企画営業部長 小樽営業所長	中内勲	（水産）
解析設計部　技術顧問	緒方修	（建設）
計画調査部　技術部長	佐藤規之	（総監/建設）
解析設計部　技術部長	鈴木英裕	（水産）
計画調査部次長	岩成正勝	（水産）
計画調査部　計画課長	小田玲司	（水産）
解析設計部　解析課長	小竹元己	（水産）
計画調査部　計画課長	加嶋慎也	（水産）

営 業 種 目

■計画関連業務
・港湾計画、物流調査・物流システム構築、港湾利用・振興計画等
・漁港計画、水産物流通調査、漁港利用・振興計画等
■解析関連業務
・波浪変形解析、港内静穏度解析、流況解析、漂砂解析
・津波・避難・操船・水質汚濁・大気汚染・景観等に関する各種シミュレーション
・構造物地震応答解析、地盤液状化解析等
■設計業務
・港湾、漁港に関する防波堤・護岸・係留施設・その他附帯施設の設計等
■調査関連業務
・沿岸域における波浪・流況・風況・船体動揺・水質その他自然環境等に関する観測・調査、港湾計画等に係る環境アセスメント等

未来につづく
安全・安心を

株式会社 建設技術研究所

北海道支社長	伊藤　豊	（総合技術監理・建設）
技術部長	川村　育男	（総合技術監理・建設）
技術部河川室長	佐藤　誠	（建設・水産・環境）
技術部水工室長	益弘　茂樹	（建設）
技術部道路・交通室長	小澤　俊博	（総合技術監理・建設）
技術部環境室長	紀國　聡	（建設・環境）

技術職員26名(技術士延べ33名)令和7年8月現在

設立　昭和38年4月

北海道支社

〒060-0003　札幌市中央区北3条西3丁目1-6(札幌小暮ビル)
TEL（011）281-3747　FAX（011）261-4108
https://www.ctie.co.jp　ISO9001・14001・27001 認証登録

インフラ整備に我々の技術力を提供し、
より良い社会環境づくりの担い手となります。

建設コンサルタント

株式会社
サッポロ・エンジニヤーズ

代表取締役　鈴木桐花

事業一部長	塚本　哲也	（建設）
事業一部専門部長	野﨑　邦彦	（建設）
事業二部建設環境課長	櫻下　史宜	（建設）
事業二部技術一課主任	寺島　優	（建設）

〒060-0042
北海道札幌市中央区大通西8丁目1番地1
大通あおばビル5F
TEL　011-206-1071
FAX　011-206-0607

会社HP

Civil Engineering Services

株式会社 シー・イー・サービス

代表取締役社長	清水　文彦	
取締役専務執行役員	正岡　久明	（建設・総監）
取締役常務執行役員	加藤　博之	（建設・総監）
執行役員	北條　倫史	（建設）
執行役員	北本　幸徳	（建設）
企画設計部　部長	星野　洋	（建設・総監）
企画設計部　次長	木浪　圭伸	（建設）
企画設計部　副技師長	地代所　宜史	（建設）
保全構造部　副技師長	高橋　正明	（建設・総監）
保全構造部　主幹	亀海　貴寛	（建設）
品質管理室　室長	吉田　幸治	（建設・総監）

〒062-0032　札幌市豊平区西岡2条8丁目5-27
TEL(011)855-4440　FAX(011)854-3231

人と自然の調和を考え
Considering the human and nature of harmony
未来の地球環境を創造します
Creation of the future global environment

総合建設コンサルタント

株式会社 シン技術コンサル

SHIN ENGINEERING CONSULTANTS CO., LTD

代表取締役社長	重清　祐之	
代表取締役副社長	山廣　孝之	
専務取締役	高田　一德	技術士（総合技術監理/建設部門：河川砂防）
常務取締役	佐々木　公明	技術士（建設部門：都市計画）
取締役	櫻井　理道	技術士（建設部門：河川砂防）
技術第2部		
副技師長	紙本　和尚	技術士（総合技術監理/建設部門：土質基礎、応用理学部門：地質）
主幹	上野　順也	技術士（建設部門：河川砂防）
主幹	三原　要	技術士（応用理学部門：地質）
主幹	斉藤　哲也	技術士（建設部門：河川砂防）
主幹	小島　洋介	技術士（建設部門：河川砂防）
主任技師	和田　陽子	技術士（建設部門：河川砂防）
主任技師	坂木　亮太	技術士（建設部門：河川砂防）
参与	小林　茂夫	技術士（総合技術監理/建設部門：河川砂防）
技術第3部		
副技師長	加藤　芳樹	技術士（建設部門：都市計画）
副技師長	野村　弘志	技術士（建設部門：道路）
参与	浜辺　孝一	技術士（建設部門：道路）
技術第1部		
副技師長	石若　勝俊	技術士（農業部門：農村計画）

登録資格
- ■測量業者登録
- ■建設コンサルタント登録
- ■地質調査業者登録
- ■補償コンサルタント登録

業務内容
- ■計画・設計／河川、砂防、都市、道路、橋梁
- ■調査・解析／空中写真測量、基本測量、公共測量、地質、土質、環境、水質
- ■防災／河川、道路、ハザードマップ
- ■計測／数値地図
- ■情報／情報処理システム
- ■文化財調査／空中写真計測
- ■補償

〒003-0021　札幌市白石区栄通2丁目8番30号
TEL　011-859-2600　FAX　011-859-2613
URL　http://www.shin-eng.co.jp/

建設コンサルタント業・地質調査業

株式会社 ジオテック

ISO9001　登録番号　NJQ-159

代表取締役社長　富岡　敬
(技術士:応用理学部門)

顧問　山崎　淳
(技術士:応用理学部門)

技術部技師長　久米　一明
(技術士:建設部門)

技術部次長　野本　真吾
(技術士:応用理学部門)

技術部副技師長　松浦　綾乃
(技術士:建設部門)

〒004-0005　札幌市厚別区厚別東5条1丁目4番6号
TEL　(011) 809-1055
FAX　(011) 809-1060
https://geo-tech.co.jp/

◀営業種目▶

●調査・解析部門　：　地質調査、地質・地盤解析
●物理計測部門　：　物理探査、物理検層
●室内試験部門　：　土質試験、岩石試験、コンクリート試験

建設コンサルタント

株式会社 水工技研

ISO 9001:2015　登録番号　NJQ-224

〒004-0051
札幌市厚別区厚別中央１条６丁目３番１号
TEL:(011)895-1550 FAX:(011)895-1560
e-mail：soumu@suikou-giken.co.jp

代表取締役社長	渋谷　義仁	会員（技術士/建設/総監）
理事	藤原　祐司	会員（技術士/建設）
取締役技術部長	山崎　睦史	会員（技術士/建設/総監）
技術部 上席技師長	小杉　卓哉	会員（技術士/建設）
技術部 技師長	杉林　光明	会員（技術士/建設）
技術部 技師長	佐藤英一郎	会員（技術士/建設）
技術部 次長	魚波　勝彦	会員（技術士/建設）
技術部 課長	對馬　史彦	会員（技術士/建設）
主任技師	鈴木　裕哉	会員（技術士/建設）

■登録資格
- 建設コンサルタント登録 (建04) 第7519号
- 測量業者登録 第(5) 28141号
- 地質調査業者登録 (質04) 第2399号

■業務内容
- 河川構造物設計
- 河川計画設計
- ダム施設設計
- 施工管理
- 情報処理

www.s-tec-jp.com

「農業・環境・まちづくり×IT」

総合コンサルタント
株式会社 ズコーシャ

代表取締役社長　高橋　宣之（技術士）

■**建設部門**
道路：1名
土質及び基礎:2名/建設環境:5名
河川砂防及び海岸・海洋：2名/鋼構造及びコンクリート：3名

■**農業部門**
農業土木：9名/地域農業開発計画：1名
農村環境：3名/農村地域計画:3名/農業農村工学：1名

■**応用理学部門**
地質:2名

■**環境部門**
環境測定:2名

■**森林部門**
森林土木:1名

■**総合技術監理部門**
地質:1名/道路:1名/農業土木1名

■**博士**:3名

■**本社/帯広市西18条北1丁目17番地**
TEL(代)0155-33-4400　FAX 0155-33-7100
http://www.zukosha.co.jp

■支社/札幌　■支店/網走　■出張所/稚内・釧路・函館・紋別
■総合科学研究所/帯広・札幌　■データセンター/帯広

高い技術と誠実な仕事で社会に貢献します

株式会社 タナカコンサルタント

代表取締役社長　田中雄太
（技術士　建設／総合技術監理）

【技術士　延べ10名】

本　社　〒053-0052
北海道苫小牧市新開町2丁目1番3号
TEL (0144)51-2551　FAX (0144)51-2550

札幌支店　〒004-0053
北海道札幌市厚別区厚別中央3条2丁目1番41号タイヨウビル5F
TEL (011)398-3666　FAX (011)398-3667

東北営業所・関東営業所・福岡営業所

業務内容

●三次元計測　三次元計測移動体及び地上型レーザスキャニングシステム
【NETIS登録技術】登録番号:HK-090001-A
航空レーザ計測

●調査・解析　測量 / 航空写真測量 / 地質・土質調査 / 環境調査
文化財調査 / GIS(地理情報システム) / 各種解析

●補償業務　土地調査・評価 / 物件調査 / 事業損失 / 補償関連
立木調査 / 保安林解除

●土木設計　道路・河川・橋梁等の計画・設計・維持管理

ダイシン設計株式会社

北の大地に安心を

代表取締役会長　**大久保篤**
代表取締役社長　**本多弘幸**　（建設）
専務取締役　**田村智樹**　（建設/博士（工学））
執行役員　**江端貢**　（建設）
執行役員　**赤坂浩**　（農業）
顧問　**水尻定美**　（建設/総監）
業務部 部長　**阿部裕**　（建設）
道路部 部長　**及川有恒**　（建設）
防災部 部長　**河野一則**　（応用理学）
保全部 次長　**密山彰浩**　（建設）
環境部 担当課長　**根田郁子**　（建設）

技術士 10 名　博士（工学）1 名　技術士補 34 名　RCCM 32 名

本社　〒060-0005　札幌市中央区北 5 条西 6 丁目 1 番地 23　TEL 011-222-2325

深川支店　〒074-0014　深川市開西町 2 丁目 7 番 15　TEL 0164-22-4158



―― これからも
北海道のフィールドと共に歩んで参ります ――

株式会社　地圏総合コンサルタント

札幌支店長　**諏訪喬祐**
技術部調査室長　**十鳥恭一**（応用理学）
技術部調査室　**高橋拓也**（応用理学）

札幌支店　〒064-0823
札幌市中央区北 3 条西 26 丁目 1 番 20 号
電話（011）615-1520（代）　FAX（011）615-1527

本　社　〒116-0013
東京都荒川区西日暮里 2 丁目 26 番 2 号（日暮里 UC ビル）
電話（03）6311-5135（代）　FAX（03）3801－9210
http://www.chiso-con.co.jp

建設コンサルタント　**建 02 第 9594 号**
地質調査業　**質 02 第 2544 号**
測量業　**第（3）-32847 号**

営業種目
- ●地質調査　地質及び土質調査、地下水調査・解析、物理探査、計測
- ●環境　水文、環境計測、土壌・地下水汚染
- ●計画・設計　道路、橋梁、トンネル、河川、地下構造物
- ●防災対策　斜面防災、地すべり調査・解析、砂防調査・計画、火山

TOYO CONSULTANTS

株式会社東洋コンサルタント

コンサルタントサービスの拡大と技術の向上を目指し、
プロフェッショナルとして新技術を創出します。

●建設コンサルタント登録　●地質調査業登録　●測量業登録

代表取締役社長	髙橋　浩二	（技術士:上下水道）
取締役技術本部長	瓶田　修	（技術士:上下水道）
取締役技術部長	高城　裕二	（技術士:上下水道）
執行役員技術副部長	井上　享	（技術士:上下水道）
技術部グループリーダー	中村　裕介	（技術士:上下水道）
技術部グループリーダー	青山　博樹	（技術士:上下水道）
上席技師長	小林　幸男	（技術士:上下水道/総監）
技師長	勝島　尚美	（技術士:応用理学/総監）
技師長	西野　文博	（技術士:建設）

北海道支社：札幌市中央区宮の森2条1丁目1番18号
TEL 011-640-5811　FAX 011-622-3355

道東営業所：釧路市美原3丁目2番5号
TEL 0154-65-5981　FAX 0154-65-5982

本　　社：東京都豊島区高田3丁目18番11号
TEL 03-5992-1161　FAX 03-5992-2955
URL:https://toyocon.co.jp

ISO9001 認証取得　ASR Q1507

東邦コンサルタント株式会社

代表取締役　橋　俊之
専務取締役　小松　雄次
設計部長　村上　雅彦
（農業部門：農業土木）

本　社
釧路市鳥取大通4丁目16番23号　TEL 0154-51-6161
FAX 0154-53-0665

札幌支社
札幌市豊平区中の島1条4丁目 9-2（北海道測量会館1階）　TEL 011-598-6353
FAX 011-598-6355

株式会社
日本海洋生物研究所

壊すことはできても、
創りだすことはできない自然環境。
私たちはしっかり見つめて守ります。

札幌支店：〒007-0862
札幌市東区伏古２条５丁目５番15号
ＴＥＬ(011)786-3361
ＦＡＸ(011)786-3365
本　　社：東京都品川区豊町４丁目3－16
支　　店：札幌・名古屋・大阪

登録／建設コンサルタント業・計量証明事業
業務／環境・生態系に係わる調査・研究
（海洋・干潟・汽水・河川・湖沼）
水中生物に関する調査・研究
各種分析・数値解析・コンサルタント

ID&E
A member of Tokio Marine Group
NIPPON KOEI

誠意をもってことにあたり、
技術を軸に社会に貢献する。

日本工営株式会社

札幌支店長	岩佐 卓実	（建設・応用理学・総合技術監理）
技師長	浜本　聡	（建設・総合技術監理）
技師長	小谷内 史義	（建設）
技術第一部部長	桑邊 和幸	（建設・総合技術監理）
技術第二部部長	岩間 倫秀	（建設・応用理学・総合技術監理）
営業企画部次長	木下　将	（建設・総合技術監理）
技術第一部次長	古賀　勤	（建設）
技術第二部次長	斎藤 静彦	（建設・環境）

札幌支店　技術士 実人数 30 名、延人数 49 名

《 札幌支店 》〒060-0005
札幌市中央区北５条西６丁目２番地（札幌センタービル 22F）
営業企画部　TEL（011）205-5531 FAX(011)252-0345
技術第一部　TEL（011）205-5521 FAX(011)252-0343
技術第二部　TEL（011）205-5290 FAX(011)208-2314

総合建設コンサルタント
株式会社 ノース技研

代表取締役社長　**布　村　重　樹**
技術士(総合技術監理部門)
技術士(上下水道部門・下水道)
(建設部門・土質及び基礎)
(森林部門・森林土木)

取締役札幌支店長　**沼　田　　寛**
(建設部門・河川砂防、森林部門・森林土木)

技術部技師長　**清　水　亮　輔**
(建設部門・河川砂防、建設環境)

札幌支店設計調査係長　**岩　井　恵　吾**
(建設部門・土質及び基礎)

本　　社　〒041-0812　函館市昭和３丁目23番１号
TEL(0138)43-6500・FAX(0138)43-2475
札幌支店　〒065-0017　札幌市東区北17条東15丁目4-20
リベル元町207
TEL(011)748-3032・FAX(011)748-3033

★営業種目★

・測　　量　　業	3674号
・補償コンサルタント業	第516号
・建設コンサルタント業	第5208号
・地　質　調　査　業	2632号

農業土木の建設コンサルタント

「水・土・人」「都市と農村」の接合点として活動する
「農業農村万能型技術集団」を目指します

株式会社　農土コンサル

代表取締役会長	堀井　健次	（技術士：農業土木）
代表取締役社長	舘石　和秋	（技術士：農業土木）
取締役副社長	秀島　好昭	（技術士：農業土木）
専務取締役	吉田　英人	（技術士：農業土木）
専務取締役	高橋　雅一	（技術士：農業土木）
常務取締役	伊東　耕	（技術士：農業土木）
技師長	藤田　修	（技術士：農土／環境／総監）
執行役員上席部長	立石　喜裕	（技術士：農業土木）
執行役員上席部長	菊地　修	（技術士：農業土木）
執行役員上席部長	林　英雄	（技術士：農土／環境）
地域環境整備部長	山本　暁史	（技術士：農業土木）
地域環境整備部長	白木　剛	（技術士：農業土木）
地域環境整備部長	松本　哲也	（技術士：農土／計画）
地域環境整備部専門部長	野倉　士敬	（技術士：農業土木）

〒060-0807　札幌市北区北7条西6丁目2番地5 NDビル
TEL（011）747-7321　FAX（011）758-5491
URL http://www.hndc.co.jp



Producing The Future

北海道支社　支社長	篠崎　毅	（技術士：建設）
交通基盤事業部長	河合　宏之	（技術士：建設・総合技術管理）
社会イノベーション事業部長	神尾　敬	（技術士：建設・総合技術管理）
国土基盤事業部長	飛岡　啓之	（技術士：建設・総合技術管理）
営業部長	加藤　誠司	

パシフィックコンサルタンツ株式会社 北海道支社

北海道支社　〒060-0807　札幌市北区北７条西１丁目２番地６NCO 札幌
TEL（011）700-5222
道東事務所　〒085-0013　釧路市栄町９丁目９番１号　グラン釧路
TEL（0154）25-6781

www.pacific.co.jp

総合建設コンサルタント

パブリックコンサルタント株式会社

豊かな大地や社会インフラを未来へ！
地域の将来を見据えて広く社会に貢献する企業

代表取締役社長　**長　榮　作**

荒田　崇（建設）	植田　和俊（建設・総合技術監理）
大森　孝行（建設）	川浪　幸人（建設）
木戸　結菜（建設）	久保　正機（建設・総合技術監理）
下山　裕也（建設）	高宮　英樹（建設）
波多野雅浩（建設）	保科　賢司（建設）
村上　直史（建設）	山岸　広佳（農業）
北川　紀洋（水産）	島倉　知広（水産）
山下　卓也（水産）	岡本　貢（情報工学）
野口　昌宏（応用理学）	

【本　社】
〒060−0005
札幌市中央区北５条西6丁目1番地23（第2道通ビル）
TEL（011）222−3338　FAX（011）251−3176

【支店・事務所・営業所】
東京・稚内・帯広・釧路・函館・枝幸

測量業	（11）第6750号
建設コンサルタント業	建01第1218号
補償コンサルタント業	補30第1480号
計量証明事業	第724号，第824号

北の大地をDesignする

平田技術コンサルタント株式会社

代表取締役社長	髙瀬裕之
代表取締役専務	上野博司（技術士）
専務取締役	熊野勝美
設計部門長	藤川和男（技術士）
設計部門次長	佐藤智成（技術士）

本　　社　〒080-0011 帯広市西1条南22丁目3番地2
TEL(0155)24-6233・FAX(0155)24-2124
URL：htc-k.co.jp/wphtc/

網走支店　〒093-0046 網走市新町1丁目2番1号
TEL(0152)44-2010・FAX(0152)45-0431

札幌支店　〒001-0010 札幌市北区北10条西1丁目
ＭＣビル8F
TEL(011)788-9178・FAX(011)788-9346

2023年4月1日より（株）ノースプランは（株）ホクエイになりました。



■ 営業内容　各種防雪対策製品の調査・設計・施工・販売
・建設コンサルタント登録　・建設業許可

エア・ウォーターグループ
株式会社ホクエイ

代表取締役社長　小笠原　　司

第二営業部　防雪対策課
顧　　問　平　田　勝二郎
顧　　問　田　中　輝　幸（技術士：建設/総監）

・本　　社　〒001-0040　札幌市北区北40条西4丁目1-1
ASABULAND 1階
防雪対策課　TEL 011-792-8896　FAX 011-792-6987

DOSUICON

川と海辺を
リクリエートする

株式会社
北海道水工コンサルタンツ

代表取締役社長	田中 洋海	
常務取締役	塚田 環	(技術士)
取締役	佐々木 真	(技術士)
執行役員	寺崎 峰雄	(技術士)
営業部次長	北林 義隆	(技術士)
技術部執行役員	堀江 秀亮	(技術士)
技術部長	椿 直樹	(技術士)
技術部担当部長	千葉 裕	(技術士)
技術部次長	吉崎 昌彦	(技術士)
技術部次長	大坂 哲也	(技術士)
技術部上席技師長	石川 準	(技術士)
技術部技師長	小倉 満雄	(技術士)
技術部技師長	相内 啓二	(技術士)
技術部副技師長	藤田 和成	(技術士)
技術部副技師長	真杉 和也	(技術士)
技術部副主幹	新田 久輝	(技術士)

TEL　011-790-8838
FAX　011-790-8841
〒060-0807 札幌市北区北 7 条西 4 丁目 3 番地 1
新北海道ビル 9 階

快適で豊かな北国を創造する
北王コンサルタント株式会社

代表取締役会長	熊頭 勇造	(技術士：農業)
代表取締役社長	石川 健司	(技術士：上下水道)
常務取締役 統括本部長	国澤 敦	(技術士：建設)
取締役 執行役員統括部長	矢野 健一朗	(技術士：農業・総監)
取締役 執行役員統括部長	安藤 和弘	
執行役員 常務	山本 正人	(技術士：農業)
執行役員 常務	髙崎 悟	(技術士：農業)

曽我部 浩二	(技術士：農業・建設)	井上 誠司	(技術士：農業・建設)
賀陽 弥生子	(技術士：建設・総監)	大野 充雅	(技術士：農業)
佐藤 寛	(技術士：農業)	高橋 政純	(技術士：建設)
柳川 健一	(技術士：建設)	関根 絵理	(技術士：建設)
横山 利成	(技術士：上下水道)	菊地 康宏	(技術士：水産)

本　社　〒080-0037 帯広市西7条北1丁目11番地
TEL (0155)26-3775 FAX (0155)22-5961
URL:https://hokuo.co.jp

幕別事業本部　〒089-0602 中川郡幕別町旭町72番地
TEL (0155)54-2341 FAX (0155)54-2263

札幌支社　〒060-0010 札幌市中央区北10条西20丁目2-1
TEL (011)613-3033 FAX (011)613-2722

～豊かな未来に貢献する～

北海道キング設計株式会社

HOKKAIDO KING SEKKEI CO,LTD

◇	代表取締役	木島 昇悦	
◇	専務取締役	長野 伸樹	
◇	常務取締役	松田 透	
◇	常務取締役	於本 嘉	(建設)
◇	常務執行役員	神崎 亨	
◇	常務執行役員	金子 幸正	(建設/総監)
◇	常務執行役員	前田 和久	
◇	技師長	細川 順治	(建設/総監)
		技術士補	13名

業務内容
◇計画・設計　；道路計画・設計／構造物設計／河川計画・設計／砂防施設調査・設計
◇調査・分析　；測量調査／地質調査／地すべり調査／軟弱地盤解析調査／構造物点検・調査・診断

住　所
〒005-0002　札幌市南区澄川2条1丁目4番11号
TEL(011)824-3096　FAX(011)832-7086
http://www.hori-group.com/

RE

北海道道路エンジニアリング株式会社

建設コンサルタント登録　建 03 第 3294 号
地質調査業登録　質 06 第 1312 号
測量業登録　(13) －5504 号

本社　札幌市白石区中央３条２丁目１番 40 号
TEL　011-824-2511
FAX　011-824-2593
URL；http://www.hdeng.co.jp

代表取締役会長	赤代 恵司	博士(工学)
代表取締役社長	生出 信二	技術士(建設／総監)
構造部 部長	清水 満善	技術士(建設)
道路部 部長	六ツ崎 直樹	技術士(建設)
道路部 担当部長	谷内 正信	技術士(建設)
道路部 部長代理	佐藤 崇	技術士(建設)
調査技術部 部長	谷内田 拓磨	技術士(建設)
技術顧問	米道 博	技術士(応用理学)

営業種目
●設計業務(道路及び橋梁などの設計、計画)
●測量・調査(一般測量、交差点及び橋梁などの現況調査)
●管理調査(交通量、交通安全対策、路面性状、雪害対策調査)
●地質調査(土質、岩盤、地すべり)

快適な社会環境づくりに貢献する

建設コンサルタント・一級建築士事務所

北開工営株式会社

ISO 9001：2015 登録番号：NJQ-003
https://www.hokkaikouei.co.jp/

代表取締役 坂井 勲
取締役専務執行役員 庭田 博（建設部門）
技術顧問 小笠原 章（建設部門）
技術顧問 能登 繁幸（建設部門・総合技術監理部門）
技術顧問 中前 茂之（建設部門・総合技術監理部門）
技術顧問 武藤 征一（上下水道部門）
技師長 田崎 進（電気電子部門）

【登録資格】
■建設コンサルタント登録 建 03 第4266号
■測量業登録 第（7）-19418号
■一級建築士事務所登録 知事（石）第3719号

【事業内容】
□ 道路部門 □ 電気電子部門 □ 上下水道部門
□ 機械部門 □ 土質及び基礎部門 □ 建築設計部門

〒003-0024 札幌市白石区本郷通13丁目南4番1号
ムトウ西ビル3F
TEL（011）862-0975 FAX（011）862-0980
E-mail soumu@hokkaikouei.co.jp

北武コンサルタント株式会社

建設コンサルタント業 （05） 第 4036 号
測量業 （15） 第 1563 号

本社
札幌市豊平区月寒中央通7丁目4番7号 北武第2ビル
TEL.(011)851-3012 FAX(011)851-3433

東京事務所
東京都千代田区神田錦町2丁目5-4 第二亀谷ビル

仙台事務所
仙台市青葉区大町2丁目4-10-501

代表取締役社長 髙屋光行

技術士 建設部門 9名
鋼構造及びコンクリート 2名
道路 4名
河川、砂防及び海岸・海洋 3名

工学博士 1名

営業案内
河川 ■河川整備計画 ■河道構造物設計 ■長寿命化計画
道路 ■橋梁新設 ■耐震診断補強 ■橋梁等維持管理
■道路計画 ■道路実測実施設計
調査 ■構造物調査 ■軟弱地盤解析 ■空間情報(GIS)

MEC

私たちは、英知と技術の集積で
未来を創造します

株式会社 メイセイ・エンジニアリング

建設コンサルタント業・測量業・地質調査業

名誉会長 小針 憲司（建設 / 工学博士）
代表取締役社長 西潟 勝

取締役 技術部長 盛山 拓也（建設 / 総監）
技術顧問 篠田 孝志（建設）
技術顧問 別所 俊彦（建設 / 総監）
技術部次長 伊勢谷智映（建設）
調査課 末廣 文也（応用理学）

本社 〒050-0074
室蘭市中島町3丁目11番2号
TEL：(0143)43-8113
札幌支店 〒065-0011
札幌市東区北11条東3丁目3番12号
クボタビル3F TEL：(011)711-8300

MELTEC

メルテックコンサルタント株式会社

建設コンサルタント・測量業・地質調査業

代表取締役 工藤髙宏
専務取締役 九十三 守（技術士/建設）
取締役 技術部長 菊地貴志（技術士/建設）
技術長 山本英伸（技術士/建設）

◀営業種目▶
道路・橋梁・河川・砂防・上水道工業用水道・農業土木・環境・地域開発の調査・計画・設計及びコンクリート診断・点検等のコンサルタント業務

〒063-0801
札幌市西区二十四軒1条4丁目1番10号
TEL(011)616-8678
FAX(011)616-7668

地理空間情報技術を基盤とした
防災・減災事業により
安全で安心な社会づくりに貢献します
地質調査業・建設コンサルタント・測量業

66th Anniversary MEICON

明治コンサルタント

代表取締役社長	原口　勝則	（技術士）
専務取締役	井上　淳平	
執行役員副社長	矢野　明夫	（技術士）
相談役	林　雅一	（技術士）
北海道技術部長	井上　涼子	（技術士）
事業企画担当部長	米川　康	（技術士）
調査担当部長	鶴見　昌法	（技術士）
設計担当部長	瓜田　聡司	（技術士）
審査室長	伊藤　慶司	（技術士）
地質課長	重野　聖之	（技術士）
防災課長	岡崎　修	（技術士）
グループ長	有賀　誠	（技術士）
	藤原　直	（技術士）
	横田　彰宏	（技術士）

（本社）〒064-0807
札幌市中央区南７条西１丁目 21-1　第３弘安ビル
TEL 011-562-3066（代）
（東京支店）〒101-0054
東京都千代田区神田錦町１丁目１番地
TEL 03-4586-2501（代）

自然環境と社会環境の総合コンサルタント

YK

野外科学株式会社

ISO9001／ISO14001　認証取得

代表取締役社長	高岡　伸一	（技術士）
取締役会長	榊　保二	（技術士）
取締役環境調査部部長（自然環境担当）	田中　努	（技術士）
環境調査部部長（生活環境担当）	宮坂　啓樹	（技術士）
環境調査部調査三課課長	中野　利彦	（技術士）
環境調査部技術管理課課長	佐藤　麻子	（技術士 R7取得）
環境調査部調査五課	井上　剛	（技術士）
環境調査部調査三課主任	吉元　達哉	（技術士）

本　社　〒065-0043　札幌市東区苗穂町12丁目2番39号
TEL 011-751-5151　FAX 011-741-4797
帯広支店　〒080-0810　帯広市東10条南12丁目1番地17
TEL 0155-22-5620　FAX 0155-22-1034
鵡川出張所　〒054-0061　勇払郡むかわ町洋光14番4号
TEL・FAX　0145-42-3981

営業品目
建設コンサルタント業
地質調査業
測量業
補償コンサルタント業
環境計量証明事業
（濃度/特定濃度/音圧レベル/振動加速度レベル）

UNICON

よりよい調査で住みよい国土を目指す
調査設計からアセスメントまで
地質・土質・水・地熱温泉の調査と
地辷り対策調査、土木設計
環境アセスメント
さく井工事の請負

登録／建設コンサルタント・地質調査業・測量業
許可／さく井業

株式会社 ユニオン・コンサルタント

会長	関根　幸博	（技術士/応用理学･総監）
代表取締役社長	渡辺　均	（技術士/応用理学）
代表取締役専務	新井　計雄	（技術士/応用理学･建設）
取締役技術部部長	髙橋　敦史	（技術士/建設）
顧問	西畑　健一	（技術士/建設）
技術部部長	田中　俊彦	（技術士/応用理学）

技術要員　12名（技術士6名・RCCM5名）

〒001-0045 札幌市北区麻生町７丁目３番12号
(U.C.BLD)
TEL (011)746-8281
FAX (011)746-8284

人に優しい水環境の
未来を創造する

RIVER TOTAL ENGINEERING CONSULTANT

株式会社リブテック

代表取締役・社長	吉田　晃啓	（技術士・建設部門）
専務取締役	笹島　勝	
常務取締役	柴田　春幸	（技術士・建設部門）
企画部長	川原　友和	（技術士・建設部門）
事業部長	吉田　陵	（技術士・建設部門）
計画部長	片山　直樹	（技術士・建設部門）
事業部次長	鈴木　利是	（技術士・建設部門）
事業部課長	大泉　卓也	（技術士・建設部門）
事業部課長	佐藤　博郁	（技術士・建設部門）
事業部課長	土田　健介	（技術士・建設部門）

〒065-0018
札幌市東区北18条東1丁目3番3号 ともえビル
TEL：011-722-0483（代）
FAX：011-722-0487

建設コンサルタント

WAKO 和光技研株式会社

ISO 9001 認証取得

代表取締役社長　坂井敦行（建設・総監／土質及び基礎）
代表取締役会長　細川康司（建設・総監／河川、砂防及び海岸・海洋）
取締役技術本部長　楠　馨（建設／河川、砂防及び海岸・海洋）
道路構造部執行役員部長　宿田浩司（建設／土質及び基礎、応用理学・総監／地質）
河川環境部執行役員部長　北村　明（建設・総監／河川、砂防及び海岸・海洋）
水工部部長　鳥井英雄（上下水道・総監／下水道、建設・総監／河川、砂防及び海岸・海洋）
空間情報部部長　香川　誠（建設・総監／河川、砂防及び海岸・海洋）
技術管理部部長　本間英敏（建設／建設環境）
河川環境部次長　水落彰宏（建設／河川、砂防及び海岸・海洋）
河川環境部リーダー　太田真吾（建設／河川、砂防及び海岸・海洋）
水工部リーダー　住出　徹（建設／河川、砂防及び海岸・海洋）
道路構造部技師長　長谷川直久（建設／道路、鋼構造及びコンクリート）
道路構造部副技師長　鳴島　勤（応用理学／地質）
技術管理部副技師長　藤平雅之（建設／河川、砂防及び海岸・海洋）
河川環境部理事　柏倉秀二（建設／河川、砂防及び海岸・海洋）
技術管理部理事　熊谷研二（建設／河川、砂防及び海岸・海洋）
道路構造部理事　水口哲夫（建設／鋼構造及びコンクリート）

本　社　〒063-8507　札幌市西区琴似３条７丁目5-22
TEL:（代）011-611-0206　FAX：011-612-2092
函館営業所、釧路営業所

コンサルタンツ北海道　ご投稿のお願い

広報委員会では会誌「コンサルタンツ北海道」を通じて、会員相互の親睦を深めて参りたいと考えております。会員の皆様からの投稿は随時受け付けておりますので、お気軽に広報委員会までお問い合わせください。

問い合わせ先　〒004-8585　札幌市厚別区厚別中央１条５丁目４番１号
公益社団法人　日本技術士会北海道本部　事務局　広報委員会宛
TEL011-801-1617　FAX011-801-1618　広報委員会直通メール：kouhou@ipej-hokkaido.jp

投稿テーマ

【寄　　稿　　文】　会員・会友の研究成果、報告、所見・随想など自由な報文を募集しています
【Air Mail to Hokkaido】　海外業務・視察、または海外に関する情報・報告等を募集しております
【そ　　の　　他】　①会員・会友の皆様の近況
②技術トピックの紹介
③各種研究会、プロジェクトなどの紹介
その他ユニークな企画がありましたらご意見をお寄せください

投稿要領の概要

①原稿ファイル（CD、又は DVD）と紙面出力の両方、若しくは電子ファイル（原稿ファイルと、レイアウト確認のための PDF ファイル）をお送りください。（メディアの返却が必要な方はご連絡ください）
②顔写真は縦横 40mm×35mm の写真又は JPEG ファイルをお送りください。
（写真の返却が必要な方はご連絡ください）
③使用ソフトは、MS-Word を基本とします。
④詳細な投稿の手引き、原稿作成要領については北海道本部ホームページの「会員・会友のページ」に掲載しておりますのでご参照ください。（http://www.ipej-hokkaido.jp/kaiin/kikoonegai.htm）

共通事項

１．内容について
①日本技術士会北海道本部（以下、「本部」という。）の会誌としての性格や、道内の主要な国の機関、自治体、大学、マスコミ等に寄贈していることを考えて、記事は有益な情報、資料及び見識ある内容として、理解できるものでなければなりません。
②印刷物としては未発表のものでなければなりません。ただし、口頭発表の際、配布された講演要旨などの印刷物は未発表と見なします。
③投稿内容は、広報委員会（以下、「当委員会」という）内規に従い、当委員会が内容を確認し、場合によっては加除又は修正をお願いする場合があります。特に、以下の条項に該当するような場合は、原稿の掲載をお断りする場合があります。
・公序良俗に反すると当委員会が判断したもの
・極めて専門的な技術論文に相当し、広報誌に馴染まないもの
・学会等に投稿して査読を経なければ、内容の妥当性について責任を持てないもの
・引用の出典が明らかでないもの
④会誌に掲載された記事の出版権は、本部に帰属します。
２．著者（連名の場合は１名以上）は本部会員または会友であることを要します。なお、原稿とあわせて著者名（ふりがな）、部門名、E メールアドレス、電話番号等の連絡先を必ずご記入ください。
３．原稿の掲載時期は当委員会で決定致します。
４．文中に引用図表、写真等原著者の了解が必要なものは、投稿者の責任において転載許可を取得してください。その際に発生する経費は投稿者負担とします。

コンサルタンツ北海道　第 167 号　令和 7 年 9 月 30 日

発　行　所　〒 004-8585　札幌市厚別区厚別中央 1 条 5 丁目 4 番 1 号
公益社団法人 日本技術士会北海道本部
TEL(011)801-1617　FAX(011)801-1618　E メール：hkd-eng@ipej-hokkaido.jp
発　行　人　長井　智典
広報委員長　見上　敏文（水産／総合）
幹　事　長　田守　隆浩（農業）
広 報 委 員　荒木　雅紀（建設）　石黒　　聡（建設）　加藤美穂子（生物工学／農業）　鎌仲　修志（建設）
熊谷　幹也（建設／総合）　酒向　明子（建設）　佐々木裕子（建設）　佐藤　厚子（建設／総合）
十鳥　恭一(応理)　安元　和己（応理）
編 集 W G　阿部　正明（建設／総合）
印　　刷　(株)アイワード

＊この冊子は、誰もが読みやすいユニバーサルデザインフォントを使用しています。

＊この冊子は、環境にやさしい再生紙と植物油インキを使用しています。